(財)大阪府文化財センター調査報告書　第118集

八尾市

久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅵ

―大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査―

財団法人　大阪府文化財センター

序　　文

今回の発掘調査区は、久宝寺遺跡の中でも南寄りに位置する旧国鉄竜華操車場跡地内（久宝寺遺跡・竜華地区）にある。この60,678坪の広範囲に及ぶ地域の過去の様子が、発掘調査によって明らかになりつつある。久宝寺遺跡における竜華地区の調査成果は、近畿自動車道建設に伴う調査を凌ぐものが期待できる。

今回の調査は、都市基盤整備公団の委託により実施されたもので、大阪竜華都市拠点地区整理事業に伴う発掘調査の一環であり、久宝寺駅の南に建設される竜華東西線建設予定地を対象とする。

当調査区では弥生前期から中世に至る各時代の遺構が検出された。なかでも中心的なものは、調査区のほぼ全面で確認された古墳時代初頭から前期に至る集落遺跡である。集落遺構群は竪穴住居、井戸、畠、大溝、方形周溝墓、河川などで構成されており、当時の集落景観を復元する上で重要な手がかりが得られた。また、これまで周辺地区を含めて奈良時代の遺構は稀薄であったが、調査区の西端付近で墨書のある櫃を井戸枠に転用した井戸が検出された。調査区周辺に、当該期に属する何らかの重要施設が存在したことを窺わせる発見である。

このように多大な成果を上げえたのも、大阪府教育委員会、都市基盤整備公団をはじめとする関係各位のご指導、ご協力の賜物と感謝している。これからも当センターへのご支援を賜りますよう切に希望します。

平成16年９月

財団法人　大阪府文化財センター
理事長　　水　野　正　好

例　言

1．本書は、平成10年度実施の大阪府八尾市字亀井地内所在「久宝寺遺跡（竜華東西線）」、および平成13年度実施の北亀井町三丁目地内所在「久宝寺遺跡（竜華東西線その２）」の発掘調査報告書である。なお、字亀井は平成16年２月23日をもって竜華町二丁目に変更された。

2．調査は都市計画道路竜華東西線の建設に伴い、久宝寺遺跡（竜華東西線）が「平成10年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－２工区埋蔵文化財発掘調査」として住宅・都市整備公団（現都市基盤整備公団）の委託を受け平成11年２月２日から平成12年２月29日まで、および東西線追加分を「平成11年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－２工区埋蔵文化財発掘調査」として住宅・都市整備公団の委託を受け平成11年９月１日から平成12年２月29日まで、久宝寺遺跡（竜華東西線その２）が「平成13年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－１工区外埋蔵文化財発掘調査」として都市基盤整備公団の委託を受け平成14年１月22日から同年８月31日まで、大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもと、財団法人大阪府文化財調査研究センター（現財団法人大阪府文化財センター）が実施した。

3．当センターは、平成14年４月１日をもって実施された組織の改編に伴い、財団法人大阪府文化財調査研究センターから財団法人大阪府文化財センターに改称した。それに伴い役職・担当者の一部が変更となり、また調査担当係名が第三係から第五係に変更、さらに平成15年４月１日より第五係から第二係へ変更となった。

4．久宝寺遺跡（竜華東西線）の現地調査は、当センター調査部長井藤　徹、参事（兼）調整課長中西靖人、調整係長福田英人、中部調査事務所長赤木克視、および同所調査第一係長小林義孝の指示のもと、同係技師西村　歩・酒井泰子（大阪府教育委員会文化財保護課から出向）、専門調査員長田芳子が担当した。また調査にあたっては同係技師本間元樹の協力を得た。

久宝寺遺跡（竜華東西線その２）の現地調査は、当センター調査部長井藤　徹（平成14年３月まで）・玉井　功（平成14年４月以降）、調整課長赤木克視、調整係長森屋直樹、中部調査事務所長藤田憲司、および第三係長秋山浩三（平成14年３月まで）、第五係長金光正裕（平成14年４月以降）の指示のもと、同係技師西村　歩・奥村茂輝、専門調査員南條直子が担当した。

また、いずれも遺物の写真撮影は中部調査事務所主査片山彰一、保存処理および木製品の樹種鑑定は同所主査山口誠治が行った。

5．久宝寺遺跡（竜華東西線）の現地調査は、２－２工区を東から西へ調査区名１～５区として分割し、それぞれについて実施した。また５区の西側に拡張部が追加され、西村・酒井が並行して調査にあたった。整理作業は「平成12年度大阪竜華都市拠点地区久宝寺線遺物整理業務」として平成12年７月３日から平成13年２月28日まで西村・酒井が担当した。また久宝寺遺跡（竜華東西線その２）の現地調査は１－６工区と２－１工区の計２工区について実施した。このうち１－６工区を奥村（平成14年３月まで）、２－１工区を西村・南條（平成14年４月以降）がそれぞれ担当した。なお、調査区名は前者を６区、後者を７区とする。整理業務は、「平成15年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－１工区外遺物整理業務」として平成15年６月２日から平成16年２月27日まで西村が担当し、平成16年９月30日の本書の刊行をもって全事業を終了した。

6．調査では次の各位より有益なご教示とご指導を賜った。記して感謝の意を表する。（敬称略・順不同）上原真人（京都大学大学院）、成瀬正和・西川明彦（宮内庁正倉院事務所）、寒川　旭（独立行政

法人産業技術総合研究所活断層研究センター)、河内一浩（羽曳野市教育委員会)、松田順一郎（財団法人東大阪市文化財協会)、米田敏幸・道　斎（八尾市教育委員会)、原田昌則・岡田清一・坪田真一・西村公助・森本めぐみ・樋口　薫（財団法人八尾市文化財研究調査会)、森岡秀人（芦屋市教育委員会)

7．整理作業においては中部第二係各技師の協力を得た。また現地調査・整理作業では下記の諸氏より協力を得た。記して感謝の意を表する。(敬称略・五十音順)

青山由美子・池田美香・石井里英・今田明子・岩坂幸恵・岩崎美紀子・内田 充・大島章子・大島施子・大西理恵・岡本友香・奥村福子・川崎朝子・川崎理恵・小村和央・斉藤理耶・清水香奈・白井美紀子・周藤光代・竹田博美・武智あゆみ・近澤 元・津田春子・徳田哲也・中川二美・中嶋由美子・那須三枝子・野口佳子・林 聡・平田淑子・藤井文子・藤澤 剛・堀口悟史・松尾 実・松下知代・宮本史子・宮本利恵子・水取康人・芳田秀貴・米子千智・李 聖子・渡辺亜紀子

8．本書は1～5・7区を西村、6区を奥村が執筆し、文責を目次に記した。編集は西村が行った。

9．調査にかかる出土遺物・実測図面類・写真・ネガフィルム・カラースライド等の全資料は、財団法人大阪府文化財センターで保管している。各方面での幅広い活用を希望する。

凡　例

1．調査にあたっては国土座標第Ⅵ系（旧座標）を基準に、(財）大阪文化財センターが「発掘調査マニュアル」(1988）に定めた地区割法に準拠し、その詳細を第1章第2節に記述した。遺構平面図には国土座標第Ⅵ系の座標値をX軸・Y軸についてmで表示し、単位は省略して数値のみ記載した。

2．遺構実測図その他の方位は、国土座標に基づく座標北を示す。なお座標北を基準とした場合、遺跡周辺の磁北はN－6°26′－Wに、真北はN－0°14′－Eに偏位する。

3．標高には全てT.P.(東京湾平均海面)＋値を使用したが、＋を省略表記している。

4．遺構番号は遺構の種類とは関係なく、調査時点での検出順に1からの連番号を付与した。同一番号が異なる遺構に付与されることはなく、その番号は基本的に本書でも踏襲している。ただし、竜華東西線および1－6工区・2－1工区はそれぞれ1からの連番が付与されており、番号が重複する場合がある。これと共に地区を区別するため、遺構番号を次のように4桁の数字で表記した。上1桁については地区を表すものとし、99－1～5トレンチを1～5、1－6工区を6、2－1工区を7とし、オリジナルの遺構番号を下2桁にあてる。すなわち1－6工区の遺構番号98は「698」と表記する。

5．遺構はその種類の前に番号を表記し、「531井戸」などとした。

6．遺物番号は種類ごとに連番号を与えた。土器は無記号とし、その他は種類を示す略号、W－木製品、S－石器・石製品の記号を冠し、またM－金属製品とした場合がある。

7．遺物実測図の縮尺は基本的に土器類を1/3とし、その他は遺物の寸法によって適宜縮尺を変更した。

8．遺構実測図の縮尺は特に定めず、適宜設定した。

9．調査・整理にあたって土色・土器の色調は、小川正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』20版(1997）を基準として記録を行った。土器の色調は、他の諸特徴と共に遺物観察表に記載した。

10．本文・挿図・写真図版の遺構・遺物番号は全て一致する。

本 文 目 次

序 文

第１章　経緯と方法 ……（西村）…… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査の方法 …… 1
第２章　位置と環境 ……（西村）…… 4
第３章　調査の成果・１～５区 ……（西村）…… 7
　第１節　層序 …… 7
　第２節　遺構と遺物 …… 12
　　第１項　古代 …… 12
　　第２項　古墳時代 …… 20
　　第３項　深掘部 ……103
第４章　調査の成果・６区 ……（奥村）……104
　第１節　層序 ……104
　第２節　遺構と遺物 ……105
　　第１項　古代 ……105
　　第２項　弥生～古墳時代 ……112
第５章　調査の成果・７区 ……（西村）……129
　第１節　層序 ……129
　第２節　遺構と遺物 ……131
　　第１項　古代～中世 ……131
　　第２項　古墳時代 ……137
　第３節　２次掘削 ……170
　　第１項　層序 ……170
　　第２項　遺構と遺物 ……171
第６章　久宝寺遺跡の自然科学分析 ……（辻本）……174
第７章　531井戸出土の古式土師器……（西村）……188

報告書抄録

挿 図 目 次

図1　地区割模式図 …… 2
図2　調査区位置図 …… 3
図3　周辺遺跡分布図 …… 5
図4　1～5区北壁土層断面図 …… 9・10
図5　1区1面遺構分布図 …… 13
図6　2区1面遺構分布図 …… 14
図7　103水路・101堤下層敷葉工法遺構平面図 …… 15
図8　103水路断面図 …… 16
図9　1区1面出土遺物 …… 17
図10　5区1・3面遺構分布図 …… 18
図11　2区2面遺構分布図 …… 19
図12　1区3面遺構分布図 …… 21
図13　3区3面遺構分布図 …… 22
図14　4区3面遺構分布図 …… 23
図15　1区5層出土遺物 …… 24
図16　2区5層遺物出土状況図 …… 24
図17　2区5層出土遺物 …… 25
図18　3区5層出土遺物 …… 26
図19　5区5層遺物出土状況図 …… 26
図20　5区5層出土遺物 …… 27
図21　1区3面105土器集積出土状況図 …… 27
図22　105土器集積出土遺物（1） …… 28
図23　105土器集積出土遺物（2） …… 29
図24　105土器集積出土遺物（3） …… 30
図25　105土器集積出土遺物（4） …… 31
図26　106堤断面図 …… 32
図27　1面103水路と3面106堤の位置的関係 …… 32
図28　久宝寺2号墓平・断面図 …… 33
図29　1区4面遺構分布図 …… 35
図30　2区4面遺構分布図 …… 36
図31　3区4面遺構分布図 …… 37
図32　4区4・5面遺構分布図 …… 38
図33　5区4・5面遺構分布図 …… 39・40
図34　畠耕作土層断面図 …… 41
図35　耕作具痕（6層上面） …… 41
図36　304大溝平・断面図 …… 42

図37　304大溝出土遺物 …… 43
図38　405大溝遺物出土状況図 …… 44
図39　405大溝断面図 …… 45
図40　405大溝出土遺物（1） …… 47
図41　405大溝出土遺物（2） …… 48
図42　405大溝出土遺物（3） …… 49
図43　405大溝出土遺物（4） …… 50
図44　405大溝出土遺物（5） …… 51
図45　405大溝出土遺物（6） …… 52
図46　405大溝出土遺物（7） …… 53
図47　405大溝出土遺物（8） …… 54
図48　405大溝出土遺物（9） …… 55
図49　477掘立柱建物・428竪穴住居平面図 …… 56
図50　477掘立柱建物・428竪穴住居内遺構断面図 …… 57
図51　582竪穴住居・555溝平面図 …… 58
図52　582竪穴住居内遺構平・断面図 …… 59
図53　582竪穴住居柱穴礎板 …… 60
図54　525・527竪穴住居平・断面図 …… 61
図55　528・534竪穴住居平・断面図 …… 62
図56　535竪穴住居平面図・住居内遺構断面図 …… 63
図57　536竪穴住居平面図・住居内遺構断面図 …… 64
図58　竪穴住居出土遺物 …… 65
図59　555溝出土遺物（1） …… 66
図60　555溝出土遺物（2） …… 67
図61　412土坑平・断面図 …… 68
図62　412土坑出土遺物 …… 69
図63　413土坑平・断面図 …… 70
図64　413土坑出土遺物 …… 71
図65　5面その他の土坑平・断面図 …… 72
図66　5面その他の土坑出土遺物 …… 73
図67　315井戸平・断面図・326溝遺物出土状況図 …… 74
図68　315井戸出土遺物 …… 75
図69　315井戸井筒 …… 76
図70　326溝・3区耕作溝出土遺物 …… 77
図71　440井戸平・断面図 …… 77
図72　440井戸出土遺物 …… 78
図73　531井戸平・断面図 …… 80
図74　531井戸遺物出土状況図 …… 81

図75　531井戸出土遺物（1）…… 82
図76　531井戸出土遺物（2）…… 83
図77　531井戸出土遺物（3）…… 84
図78　531井戸出土遺物（4）…… 85
図79　531井戸出土遺物（5）…… 86
図80　531井戸出土遺物（6）…… 87
図81　531井戸出土遺物（7）…… 88
図82　531井戸出土遺物（8）…… 89
図83　531井戸出土遺物（9）…… 90
図84　531井戸出土遺物（10）…… 91
図85　531井戸出土遺物（11）…… 92
図86　531井戸出土遺物（12）…… 93
図87　531井戸出土遺物（13）…… 94
図88　531井戸出土遺物（14）…… 95
図89　531井戸出土遺物（15）…… 96
図90　531井戸出土遺物（16）…… 97
図91　531井戸出土遺物（17）…… 98
図92　531井戸出土遺物（18）…… 99
図93　531井戸出土遺物（19）……100
図94　583井戸平・断面図 ……102
図95　583井戸出土遺物 ……102
図96　580河川断面図 ……103
図97　580河川出土遺物 ……103
図98　1区深掘部土層断面模式図 ……103
図99　6区全体基本層序断面図 ……104
図100　古代～中世面全体平面図 ……106
図101　601井戸平・断面・見通し図 ……107
図102　601井戸枠組立図 ……108
図103　601井戸出土遺物 ……108
図104　601井戸上段墨書枠板 ……109
図105　601井戸下段枠板転用櫃板材 ……110
図106　601井戸出土遺物 ……111
図107　602土坑平面図 ……111
図108　602土坑出土遺物 ……111
図109　第1層出土遺物 ……111
図110　古墳時代前期面全体平面図 ……113
図111　603溝平・断面図 ……114
図112　604土坑平・断面図 ……114

図113　604土坑出土遺物 ……114
図114　第１層除去面出土遺物 ……114
図115　古墳時代初頭面全体平面図 ……115
図116　605・606溝平・断面・遺物出土状況図 ……116
図117　605溝出土遺物（１） ……117
図118　605溝出土遺物（２） ……118
図119　605溝出土遺物（３） ……119
図120　606溝出土遺物 ……119
図121　607土坑平・断面図 ……119
図122　607土坑出土遺物 ……119
図123　608・609溝平・断面・遺物出土状況図 ……120
図124　608・609溝出土遺物 ……120
図125　第３面溝群出土遺物 ……120
図126　613竪穴住居平・断面図 ……121
図127　613竪穴住居出土遺物 ……122
図128　614土坑平・断面図 ……122
図129　614土坑出土遺物 ……123
図130　615竪穴住居平・断面図 ……123
図131　615竪穴住居出土遺物 ……123
図132　616土坑平・断面・遺物出土状況図 ……123
図133　616土坑出土遺物 ……124
図134　弥生時代末面全体平面図 ……125
図135　617・618溝平・断面・遺物出土状況図 ……126
図136　617・618溝出土遺物 ……127
図137　619竪穴住居平・断面・遺物出土状況図 ……127
図138　620溝平面図 ……128
図139　619竪穴住居出土遺物 ……128
図140　620溝出土遺物 ……128
図141　７区南壁土層断面図 ……129
図142　１面遺構分布図 ……132
図143　１面遺構平・断面図（１） ……133
図144　１面遺構平・断面図（２） ……134
図145　１面遺構出土遺物 ……135
図146　２・３面遺構分布図 ……136
図147　712・718溝出土遺物 ……138
図148　720・721竪穴住居平・断面図 ……138
図149　721竪穴住居出土遺物 ……139
図150　719溝遺物出土状況図 ……139

図151　719溝出土遺物（1）……140
図152　719溝出土遺物（2）……141
図153　719溝出土遺物（3）……142
図154　4面溝群平・断面図……143
図155　5面遺構分布図……145
図156　724堤直下遺物出土状況図……146
図157　724堤出土遺物（1）……147
図158　724堤出土遺物（2）……148
図159　724堤出土遺物（3）……149
図160　724堤出土遺物（4）……150
図161　724堤出土遺物（5）……151
図162　724堤出土遺物（6）……152
図163　724堤出土遺物（7）……153
図164　724堤出土遺物（8）……154
図165　724堤出土遺物（9）……155
図166　739河川出土遺物……156
図167　6・7面遺構分布図……158
図168　748・751竪穴住居炭化材検出状況図・749竪穴住居平・断面図……159
図169　748竪穴住居・住居内遺構平・断面図……160
図170　748・749竪穴住居出土遺物……161
図171　750竪穴住居・周辺遺構平・断面図……162
図172　751竪穴住居平・断面図……164
図173　751竪穴住居銅鏃出土状況図……164
図174　751竪穴住居内遺構平・断面図……165
図175　750・751竪穴住居出土遺物……166
図176　7面土坑平・断面図……167
図177　7面土坑出土遺物……168
図178　河川（6層）出土遺物……169
図179　7区2次掘削部位置図……170
図180　2次掘削部南壁土層断面図……170
図181　7層遺物出土状況図……171
図182　7層出土遺物……172
図183　9・10面遺構分布図……173
図184　783溝出土遺物……173
図185　主要珪藻化石群集の層位分布……179
図186　主要花粉化石群集の層位分布……182
図187　植物珪酸体群集と組織片の産状……184

表 目 次

表1　1～5区土層名 …… 11
表2　7区土層名 ……130
表3　7区2次掘削部土層名 ……171
表4　分析試料一覧 ……174
表5　珪藻分析結果（1～3）…… 176～178
表6　花粉分析結果 ……181
表7　植物珪酸体分析結果 ……184

土器観察表（1～19）…… 191～211
木製品観察表 ……212
石器・石製品観察表 ……212
金属製品観察表 ……212

図 版 目 次

図版1　1区1面全景（東から）
図版2　1区1面水田　上　東半（北から）
　　下　西半（北から）
図版3　1区1面水田　上　（西から）
　　下　（東から）
図版4　1区1面103水路　上　全景（北から）
　　下　堤断面（北西から）
図版5　1区1面101堤下層敷葉工法　上　（南から）
　　下　（東から）
図版6　1区3面105土器集積　上　（東から）
　　下　（南から）
図版7　1区4面全景（東から）
図版8　1区3・4面遺構　上　4面　畠耕作痕（北から）
　　下　3面　106堤断面（南から）
図版9　2区1面全景（西から）
図版10　2区1面水田　上　東半（北から）
　　下　西半（北から）
図版11　2区1面水田・足跡　上　（西から）
　　下左（南西から）
　　下右　偶蹄目の足跡
図版12　2区2面全景（西から）

図版13　2区2面水田　上　東半（北から）
　　下　西半（北から）
図版14　2区2面水田　上　（東から）
　　下　（南西から）
図版15　2区3面　上　全景（西から）
　　下　遺物出土状況（南西から）
図版16　2区4面全景（西から）
図版17　2区4面東半部畠耕作痕　上　検出状況（北から）
　　下　完掘状況（北から）
図版18　2区4面西半部畠耕作痕　上　検出状況（北から）
　　下　完掘状況（北から）
図版19　2区4面　上　畠耕作痕断面（北から）
　　下　5層内遺物出土状況
図版20　2区4面畠耕作痕　上　（東から）
　　下　（南東から）
図版21　3区3面　上　全景（西から）
　　下　畝間溝（北から）
図版22　3区3面304大溝　上　全景（北から）
　　下　断面（南から）
図版23　3・4区3面久宝寺2号墓　上　3区（南東から）
　　下　4区（南西から）
図版24　3区4面畠耕作痕　上　東半（北から）
　　下　西半（北から）
図版25　3区4面315井戸　上　全景（南西から）
　　下　井筒（東から）
図版26　3区4面遺構　上　326溝遺物出土状況（西から）
　　下左　農具痕　検出状況
　　下右　農具痕　完掘状況
図版27　4区3面　上　全景（西から）
　　下　405大溝（北から）
図版28　4区4・5面　上　全景（西から）
　　下　405大溝（北から）
図版29　4区4・5面　上　東半（北から）
　　下　西半（北から）
図版30　4区5面405大溝遺物出土状況　上　（南から）
　　下　（南から）
図版31　4区5面405大溝　上　断面（北から）
　　下　溝底（北から）

図版32　4区5面土坑　上　407土坑（北から）
下　408土坑（東から）
図版33　4区5面土坑　上　412・413土坑（北から）
中　412土坑（北西から）
下　413土坑（南から）
図版34　4区5面440井戸　上　遺物出土状況（東から）
下　完掘状況（北東から）
図版35　5区1・3面全景（西から）
図版36　5区4・5面全景（西から）
図版37　5区4面東半部畠耕作痕　上　検出状況（北から）
下　完掘状況（北から）
図版38　5区4面畠耕作痕　上　東半（東から）
下　西半（東から）
図版39　4・5区5面竪穴住居　上　4区　428竪穴住居（西から）
下　5区　582竪穴住居（北東から）
図版40　5区5面竪穴住居　上　525竪穴住居（北から）
下　527竪穴住居（東から）
図版41　5区5面竪穴住居　上　528竪穴住居（南東から）
下　534竪穴住居（北西から）
図版42　5区5面竪穴住居　上　535竪穴住居（北東から）
下　536竪穴住居（南東から）
図版43　5区5面582竪穴住居柱穴　上左　568ピット断面（北東から）
上右　569ピット断面（北東から）
下　569ピット礎板（北東から）
図版44　5区5面555溝　上　全景（北から）
下　遺物出土状況（東から）
図版45　5区5面531井戸　上　全景（東から）
下　遺物出土状況（北西から）
図版46　5区5面531井戸　上　断面（北から）
下　完掘状況（東から）
図版47　5区5面583井戸　上　検出状況（南から）
下　完掘状況（南から）
図版48　6区古代遺構群　上　古墳時代前期・古代～中世遺構検出面（西から・東から）
中・下　601井戸
図版49　6区古墳時代初頭遺構検出面　上　（北西から）
下　（北から）
図版50　6区古墳時代初頭遺構群　上　605・606溝（西から）
中左　606溝遺物出土状況（北から）

中右　605溝遺物出土状況（西から）
下左　613竪穴住居（南から）
下右　615竪穴住居（南から）

図版51　6区弥生時代末遺構検出面　上　弥生時代末遺構面（西から）
下左　616土坑断面（西から）
下右　619竪穴住居（北西から）

図版52　7区1面全景　上　（東から）
下　（西から）

図版53　7区1面古代～中世遺構群　上　（南から）
下　（東から）

図版54　7区1面土坑・溝　上　703土坑・709溝（西から）
下　704土坑（南から）

図版55　7区1面井戸　上　705井戸（南から）
下　708井戸（南東から）

図版56　7区2・3面全景（南東から）

図版57　7区2面水田　上　（南から）
下　（西から）

図版58　7区3面溝　上　712溝（南から）
下　718溝（南から）

図版59　7区3面竪穴住居　上　720・721竪穴住居（北から）
中　720竪穴住居（西から）
下　721竪穴住居（西から）

図版60　7区3面719溝　上　（南から）
下　遺物出土状況（北から）

図版61　7区4面溝群　上　（北から）
下　（南東から）

図版62　7区5面全景　上　（西から）
下　（西から）

図版63　7区5面739河川・724堤　上　（東から）
下　（西から）

図版64　7区5面724堤直下土器集積　上　（北から）
下　（北東から）

図版65　7区5面724堤直下土器集積　上　（南から）
下　（西から）

図版66　7区6・7面全景　上　（西から）
下　（東から）

図版67　7区7面竪穴住居群　上　（南から）
下　（南東から）

図版68　7区7面竪穴住居　上　748竪穴住居（南西から）
　　下　751竪穴住居（南から）
図版69　7区7面土坑　上　747土坑（北から）
　　下　755土坑（北東から）
図版70　7区7層遺物出土状況　上　（南から）
　　下　（東から）
図版71　7区9面　上　2次掘削部全景（西から）
　　下　783溝（北から）
図版72　7区10面溝群　上　（西から）
　　下　（東から）
図版73　7区10面溝断面　上　793溝（北から）
　　下　791溝（北から）
図版74　1・2区出土遺物
図版75　1・3・4区出土遺物
図版76　4区出土遺物
図版77　4区出土遺物
図版78　4区出土遺物
図版79　5区出土遺物
図版80　5区出土遺物
図版81　5区出土遺物
図版82　5区出土遺物
図版83　5区出土遺物
図版84　5区出土遺物
図版85　5区出土遺物
図版86　5区出土遺物
図版87　5区出土遺物
図版88　5区出土遺物
図版89　5区出土遺物
図版90　5区出土遺物
図版91　5区出土遺物
図版92　5区出土遺物
図版93　5区出土遺物
図版94　5区出土遺物
図版95　5区出土遺物
図版96　4区出土遺物
図版97　4区出土遺物
図版98　5区出土遺物
図版99　5区出土遺物

図版100　3区出土遺物
図版101　5区出土遺物
図版102　4・5区出土遺物
図版103　6区出土遺物
図版104　6区出土遺物
図版105　6区出土遺物
図版106　6区出土遺物
図版107　6区出土遺物
図版108　6区出土遺物
図版109　6区出土遺物
図版110　7区出土遺物
図版111　7区出土遺物
図版112　7区出土遺物
図版113　7区出土遺物
図版114　7区出土遺物
図版115　7区出土遺物
図版116　7区出土遺物
図版117　7区出土遺物
図版118　7区出土遺物
図版119　7区出土遺物
図版120　7区出土遺物
図版121　7区出土遺物

第１章　経緯と方法

第１節　調査に至る経過

今回の調査地は八尾市亀井にあり、久宝寺遺跡の南寄りにあたる竜華地区内に位置する。竜華地区は正式名称を「大阪竜華都市拠点地区」といい、八尾市亀井・渋川両地内にまたがって所在する地区である。当地は旧国鉄が関西本線（大和路線）久宝寺駅とその周辺において昭和13（1938）年に設置した「竜華操車場」の跡地である。操車場は総面積60,768坪、場内建物160棟の大規模な施設であったが、国鉄民営化に先立ち昭和61（1986）年に廃止された。広大な跡地利用に関し同年7月に地元の八尾市が「竜華操車場跡地の基本構想」を発表、大阪府・八尾市・都市基盤整備公団の三者が事業主体となり、再開発事業の実施が具体化した。敷地の南北に分離していた上下各線路、および久宝寺駅舎施設を北側に集約し、道路網や駅前整備、土地区画整理、下水処理場や市民病院など公共施設の建設を主たる目的とする。これに伴う調査は、昭和63年の八尾市教育委員会による駅舎新設に先立つ試掘調査を嚆矢とし、以後は事業主体等により八尾市教育委員会・(財)八尾市文化財調査研究会と当センターが分担している。

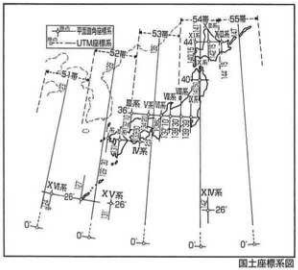
本書に報告する調査は、都市基盤整備公団関西支社（平成11年10月までは住宅・都市整備公団関西支社）の委託を受け、大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設予定地を対象に実施した。竜華東西線は竜華地区の南方、再開発区域を東西に横断する計画道路である。久宝寺遺跡（東西線）の調査はJR久宝寺駅舎の南西にあたる道路建設予定地を対象に、「平成10年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－２工区埋蔵文化財発掘調査」として平成11年２月２日～平成12年２月29日まで、さらにその西端を拡張する追加発注を「平成11年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－２工区埋蔵文化財発掘調査」として平成11年９月１日～平成12年２月29日まで実施した。この調査の途上、「平成11年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線　２－２工区埋蔵文化財発掘調査」として追加発注があり、平成11年９月１日～平成12年２月29日まで並行して調査を実施した。また久宝寺遺跡（竜華東西線その２）の調査は、これらの調査区の西側において、「平成13年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－１工区外埋蔵文化財発掘調査」として平成14年１月22日～同年８月31日まで実施した。

２－２工区の整理業務は「平成12年度大阪竜華都市拠点地区久宝寺線遺物整理業務」として平成12年７月３日から平成13年２月28日まで実施した。また１－６工区・２－１工区の整理業務は「平成15年度大阪竜華都市拠点地区竜華東西線２－１工区外遺物整理業務」として平成15年６月２日～平成16年２月27日まで実施し、平成16年９月30日の本書の刊行をもって全事業を終了した。

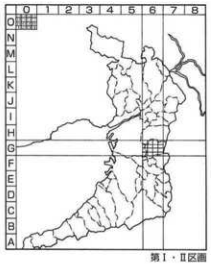
第２節　調査の方法

地区割については、当センターが「発掘調査マニュアル」に定めた地区割法を使用した（図１）。国土座標系第Ⅵ系を基準に100×100mの大区画の中を10×10mの小区画に分割し、それぞれアルファベットとアラビア数字の組み合わせで地区名を表した。遺物取り上げや遺構の位置の特定は基本的にこの地区割を用いた。なお、この地区割法については2003年８月、「遺跡調査基本マニュアル【暫定版】」によって新たな規則が設けられたが、調査時点では旧来の方法によったため、本書でもこれを踏襲した。

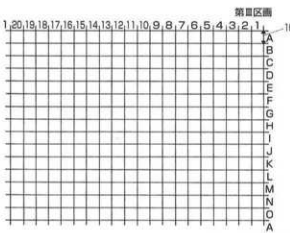
調査対象となった計画道路竜華東西線は、ＪＲ大和路線久宝寺駅の南に位置し、東西方向に長く延び



国土座標系図



第Ⅰ・Ⅱ区画



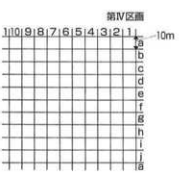


図１　地区割模式図

る形状を呈するが、水路などの存在によって調査区が断続的に分断された箇所もある（図２）。

２－２工区は延長200m以上の連続した調査区であるが、現地調査では工程の都合により、これを東西５区に分割して調査を実施した。これらの区画は、工事名とは別に東から西へ１～５区と称する。追加分の調査区は５区の西側に連続しているため、これも５区に含めた。工程の手順は２・４区を先行調査し、調査終了後に埋め戻しを完了させてから、残る１・３・５区の調査に着手した。したがって調査区を越えて遺構面の連続的な検出は行われていない。１－６工区・２－１工区は２－２工区から西へやや離れた位置にあり、またそれぞれが独立した調査区となっている。これらを分別するため、１－６工区を６区、２－１工区を７区と呼び分ける。なお本書では報告に際し、２－２工区（１～５区）、１－６工区（６区）、２－１工区（７区）をそれぞれ独立した３区画として扱い、層序も各区画に付した。

検出遺構には、それぞれ上層から下層へ検出順に通し番号を付したが、複数の区域において調査が並行して実施されたため、同一遺構番号を重複して与えることになった。したがって各調査区番号を頭に冠し、下二桁に各調査区の遺構番号を付して分別を行った。

調査にあたっては、公団側の事業として調査区周囲の土留め用鋼矢板を打設、さらに調査区内の現地表面から機械掘削を実施し、撹乱・盛土・近世以降の形成層を排除した。これ以下をセンターの事業とし、人力掘削の対象として調査を行った。

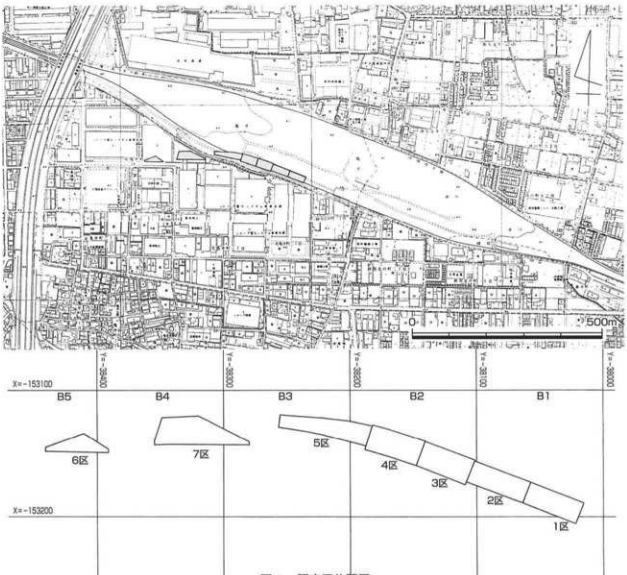


図２　調査区位置図

機械掘削終了後、人力掘削を開始する面を「１面」とし、上から順次調査面の番号を付与した。また層名は調査面から次の調査面までを一つの層として番号を付した。ここでいう層とは掘削と遺物取り上げの単位であり、調査面と次の調査面までの堆積層は、土層観察の結果によって細分されることもある。土層観察用断面は調査区の四周に設置し記録を行った。また各地区では、最終遺構面以下の層位においても断面および平面での確認調査を行った。

方位は座標北で表示した。なお座標北を基準とした場合、調査地点の磁北はＮ－６°26′－Ｗに、真北はＮ－０°14′－Ｅに偏位する。標高は東京湾平均海面（T.P.）をｍ単位で表示した。

遺構面全体は測量業者委託によりクレーン使用の空中写真測量を行い、1/50の図化作業を行った。また必要に応じて平板測量図を作成した。土層断面図は1/20で作成したが、個々の遺構や遺物出土状況などは適宜スケールを決定した。遺構面、個々の遺構、土層、土層断面、遺物出土状況などは、35㎜カメラによるモノクロ・リバーサル撮影、６×７カメラによるモノクロ（重要なものはリバーサルも使用）撮影を行った。またメモ代わりにネガカラーを適宜使用した。

出土遺物は調査区・層位ごとに分類の上、洗浄、注記、復元の各作業を経て、選別して実測を行った。また遺存状態の良好な遺物については写真撮影を行い、本報告書に掲載した。

第2章　位置と環境

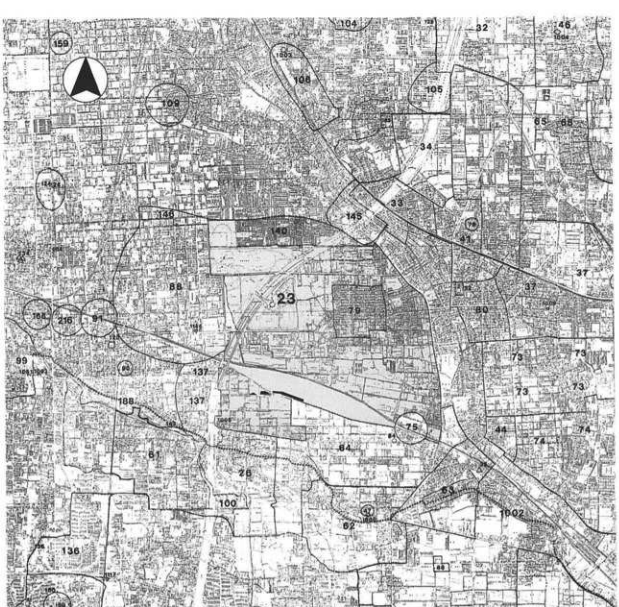
久宝寺遺跡は、八尾市の北西部を中心に、大阪市、東大阪市のそれぞれ一部にまたがる縄紋から近世にかけての複合遺跡で、その範囲は南北1.6km、東西1.7kmの広い範囲に及ぶ（図3）。南には亀井遺跡・太子堂遺跡、西には加美遺跡・亀井北遺跡、東には成法寺遺跡・矢作遺跡、北には佐堂遺跡・美園遺跡などがある。遺跡の立地する河内平野は、東を生駒山地、西を上町台地、南を河内台地に囲まれた低地性地形をなす。河内平野の低地は扇状地性・三角州性・湯湖性などの要因によって形成されている。いわゆる後背湿地である。久宝寺遺跡は、旧大和川の主流路で平野部を北西に流れる長瀬川と、南側を流れて上町台地の東斜面まで達する平野川とに挟まれた扇状地性低地上に立地する。

旧石器時代～縄紋時代草創期　河内平野一帯には古大阪平野と呼称される陸地が広がっていて、氷期には現在より海水準は低く、汀線も沖合にあった。河内平野周辺地域で人類の営みがみられるのは、旧石器時代後期以降である。縄紋時代草創期までの遺跡として、国府台地上に国府遺跡、河内台地上に長原遺跡・八尾南遺跡・瓜破遺跡、上町台地に山之内遺跡、桑津遺跡などが立地する。国府遺跡は、国府型ナイフ形石器の名祖遺跡として著名である。この時期の遺跡は洪積段丘・台地上で発見されているが、平野部では確認されていない。

縄紋時代　前期頃、海水準の上昇、いわゆる縄紋海進により、上町台地の北端は開口して汀線が河内平野まで侵入し、東は生駒山麓部に及ぶ広大な河内湾が形成された。前期末以降、河内湾は北からは淀川、南からは大和川、およびその支流群が形成した三角州・砂州の発達によって埋積が進行し、河内平野の発達に反比例するようにその規模を縮小させていく。さらに偏西風の影響下で上町台地北方に砂堆が発達して湾口が狭まり、晩期から弥生時代中期にかけて河内潟が形成されると共に、湾内の海水は汽水域を経て淡水化の途を辿った。この時代には、後期に生駒山地山麓の扇状地上に馬場川遺跡・縄手遺跡、上町台地上に森ノ宮遺跡が出現、晩期には目下貝塚など扇状地上で遺跡が展開する。また、河内平野南端の船橋遺跡・長原遺跡は、それぞれ晩期縄紋土器の標式遺跡となっている。河内平野に立地する美園遺跡・若江北遺跡などでは、縄紋晩期と弥生前期の土器との共伴例が知られている。

弥生時代　前期には台地上の国府遺跡のほか、河川が形成した平野低地部の微高地を生活基盤として、山賀遺跡・亀井遺跡・美園遺跡などの集落が形成された。中期に至ると瓜生堂遺跡・亀井遺跡などが拠点的な大規模集落として発達を遂げ、若江北遺跡・東郷遺跡・小阪合遺跡・加美遺跡・東弓削遺跡などでも新たに集落が形成される。低地部では水田経営も盛んとなり、微高地には方形周溝墓からなる墓域も形成されていった。中期から後期にかけて自然環境は不安定な状況下にあったようで、瓜生堂遺跡・若江北遺跡など、平野部の遺跡では中期の遺構面を埋没させる流水堆積層が各地でみられる。調査地の南西に位置する亀井遺跡は、後期に属する遺物として貨泉や銅鐸破片など注目すべき遺物が出土するなど、周辺地域でも中核的な地位を保つ集落である。

古墳時代　河内湾は弥生時代後期以降、さらに水域が縮小して淡水化し、古墳時代前期にかけて河内湖が形成される。前期には河川が形成した微高地上において、集落の拡大と拡散が顕著となる。当該期の遺跡としては、西岩田遺跡・瓜生堂遺跡・友井東遺跡・美園遺跡・亀井遺跡・加美遺跡・萱振遺跡・東郷遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡・東弓削遺跡・八尾南遺跡・瓜破遺跡などがある。久宝寺遺跡でも庄内式から布留式期に属する集落や方形周溝墓が検出されている。近畿自動車道大阪線の調査では準構造船の一部も検出されており、当時の水運に関して重要な資料を提供した。また古墳時代に入ると、旧大和



大阪市

83 花塚山古墳
84 ゴマ堂山遺跡
85 瓜破遺跡
86 瓜破廃寺
88 加美遺跡
90 鞍作廃寺
91 長楽廃寺
100 亀井遺跡
101 長原遺跡
124 加美北遺跡
136 喜連東遺跡
137 亀井北（加美南）遺跡
143 竹渕遺跡
166 平野寺前遺跡
180 成本廃寺
216 加美西1丁目所在遺跡
1117 長原古墳群
1134 長原高廻り古墳群

東大阪市

104 小若江遺跡
105 友井東遺跡
106 弥刀遺跡
109 衣籠遺跡
125 山賀遺跡
140 久宝寺遺跡
145 佐堂遺跡
146 加美遺跡
159 西郷遺跡
162 美園遺跡

八尾市

23 久宝寺遺跡
26 亀井遺跡
32 山賀遺跡
33 佐堂遺跡
34 美園遺跡
35 木の本遺跡
37 東郷遺跡
38 老原遺跡
41 宮町遺跡
44 龍華寺跡
46 西郡廃寺遺跡
47 勝軍寺跡
61 竹渕遺跡
62 太子堂遺跡
63 植松遺跡
64 跡部遺跡
65 菅振遺跡
67 八尾南遺跡
69 田井中遺跡
73 成法寺遺跡
74 矢作遺跡
75 渋川廃寺
76 志紀遺跡
78 穴太廃寺
82 萱振1号墳
84 跡部銅鐸出土地
88 植松南遺跡

図3　周辺遺跡分布図

川など大小の河川に対して積極的な治水事業が行われた。

前期古墳は生駒山地西麓の西ノ山古墳・花岡山古墳・向山古墳で構成された楽音寺・大竹古墳群、河内平野南東部の玉手山古墳群などがある。中期には河内平野南方の羽曳野台地上で、巨大古墳および中小の古墳で構成された古市古墳群が展開する。生駒山西麓では大規模な心合寺山古墳が造営されている。平野部には顕著な墳丘をもつ古墳は築造されず、加美遺跡・亀井遺跡・山賀遺跡・美園遺跡など、前代からの方形周溝墓に引き続いて、比較的小形の方墳を主体とする古墳群が造営されている。また羽曳野丘陵の北端では、多数の方墳で構成された長原古墳群が立地する。後期には萱振遺跡・矢作遺跡・竹渕遺跡などの集落遺跡が知られるが、総体として減少する傾向にある。平野部における古墳の造営活動はほぼ終焉に向かい、長原古墳群でも後期前半をもって造墓活動を終えるようである。後期から終末期にかけて造墓活動は立地を変え、生駒山西麓部に山畑古墳群・高安古墳群などの群集墳が展開するようになる。

飛鳥～奈良時代　調査地一帯は古代の行政区画で河内国渋川郡跡部郷に属する。飛鳥時代以降、古墳に代わる権力の表徴として有力氏族による寺院の建立が風潮となった。河内平野においても渋川廃寺・弓削廃寺・鞍作廃寺・西郡廃寺・高麗寺跡などが点在し、久宝寺遺跡の東方にも龍華寺跡の存在が知られている。集落遺跡では久宝寺遺跡・太子堂遺跡・萱振遺跡・成法寺遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡・弓削遺跡・長原遺跡などがある。

平安時代　周辺地域では小阪合遺跡・中田遺跡・頁弓削遺跡などで、生産域の拡大が行われており、農地の開発行為が活性化したようである。河内平野には近年まで広い範囲にわたり条里地割が遺存していたが、調査地周辺でも久宝寺駅周辺における戦後の区画整理以前には明瞭に残っていた。その施行時期は、考古学的証左から少なくとも平安時代前期まで遡るものと考えられている。

中世～近世　周辺では萱振遺跡・佐堂遺跡・中田遺跡・小阪合遺跡・矢作遺跡・長原遺跡などで中世以後の集落遺構が検出されている。また、調査地北東の旧久宝寺村地内では、中世末期から近世初頭にかけて、蓮如創建の西証寺（跡証寺）を中心に寺内町が形成されている。河内平野では宝永元（1704）年に大和川の付け替えが行われ、安定した農業生産が可能となった。なお今回の調査地は、近世には亀井村に属していた。亀井村では奈良街道に沿って東亀井・跡部・西亀井の三つの集落が発達したが、調査地はこれら集落の北方にあたる田園地帯に位置し、水田と綿作の島畠が広がる景観を呈していた。

竜華操車場　今回の調査地は旧国鉄関西本線上に建設された竜華操車場の跡地に位置する。大阪を拠点に路線網の展開を図っていた大阪鉄道は、明治22（1889）年5月、大阪湊町（現ＪＲ難波駅）から柏原を結ぶ路線の営業を開始し、同25（1892）年2月には湊町－奈良間が全通した。これが現在のＪＲ西日本関西本線（大和路線）の前身である。大阪鉄道は同33（1900）年には関西鉄道に合併され、さらに鉄道国有法により同40（1907）年10月、帝国鉄道庁に買収、国有化された。その後、同41（1908）年の路線複線化、同43（1910）年の久宝寺駅設置などを経て、輸送量増大に伴い昭和13（1938）年10月に久宝寺駅舎を含む周辺地域で竜華操車場の操業が開始された。この間、帝国鉄道庁は鉄道院官制公布により明治41（1908）年12月、逓信省鉄道局と共に廃止、鉄道院として発足する。大正９（1920）年5月、鉄道院は鉄道省に昇格し、さらに戦後、昭和23（1948）年12月公布の日本国有鉄道法によって同24（1949）年6月、日本国有鉄道が設置された。竜華操車場は総面積60,678坪、場内建物は160棟を数え、場内軌道の総延長は39kmに及んだが、同61（1986）年、国鉄民営化に先立って廃止され、全ての操車場関連施設が撤去されて現在に至っている。

第３章　調査の成果・１～５区

第１節　層序

弥生時代から中世まで大別７層に分層した（図４、表１）。

１層　近世耕土層と近代の竜華操車場設置に伴う盛土および攪乱層で、調査区の全面に認められる。本層位は基本的に機械掘削でT.P.6.8mまで除去したが、遺構面の状況等により掘削レベルを調整した。層厚は約２mに達する部分もある。５区拡張部（西端部）では特に激しい攪乱を受けていた。

１－１層　全区域に分布する近代の盛土層で、操車場設置時点のベースとなる。粘性のないオリーブ褐色細砂を基調とする。本層位上面（現地表面）のレベルは9.1m前後で、層厚は最大２mに及ぶ。

１－２層　1938年の竜華操車場造成以前の層位で、近世・近代作土層およびそのベース層である。層厚約30cmで、灰色シルトを主体とする。操車場造成の際に削平を受けており、遺存状況はあまりよくない。調査区の西端では近世に属する河川の端部、およびこれに伴う堤を確認したが、いずれも機械掘削で除去した。

２層　黄灰色系の細砂混シルトを主体とする。主として１区の全面と２～５区の一部で確認された近世の島畠状高まりの中に残された古代～中世の包含層である。層厚は約10～30cmである。１区以外では層厚が薄く、遺存状況はよくない。明確な遺構は確認できず、遺構面としては数えなかった。

３層　洪水砂と水田面、およびそのベース層である。洪水砂と水田面とは成因が異なるが、水田埋没時点で時間的な接点をもつ。遺物がほとんど出土せず、正確な埋没時期は明らかにできなかった。

３－１層　１・２区で検出した水田面を覆う洪水砂層で、層厚は最大約30cmである。灰色系細砂を基調とする。１・２区の３－２層、および４－１層上面では、この洪水砂の供給源と考えられる東西方向の小規模な104河川を検出している。

３－２層　灰色細砂混シルトを基調とし、１区西半から５区東半にかけて断続的にみられる層位である。層厚は最も厚い３区において約30cmである。１・２区ではその上面において水田面が検出され、田面のベースとなる。２区では部分的に３－１層に類似した砂層が介在し、下面に先行する田面が存在する。遺構面として上の田面を１面、下のものを２面とする。また１面は１区田面の他、２～５区まで断続的に分布するが遺構・遺物ともに希薄で、５区で僅かに溝跡などがみられるにとどまった。この層位の形成時期は、上下の層位的関係や遺構の状況から条里制施行以前の古代の所産と考えられる。また１区東半では存在せず、この部分では水田面は４－１層上面に形成されている。

４層　３区東半以東に分布する４－１～３層、３区西半以西の304・405大溝の埋土上層を中心に遺存する４－４層に大別する。この両者間に直接の接点はない。

４－１～３層　灰色シルトを基調とする４－１・３層と、灰色極細砂の４－２層に大別されるが、基本的には一連の堆積層と見なし得る。層厚は最も厚い１区で90cmである。４－２層は１区のみに分布する間層であり、４－１・３層が主体をなす。３区では下層である５層が西に向かって隆起しており、４－１～３層はこの地形変化に対してほぼ水平に堆積する。したがって１区から西側の３区中央にかけて徐々に層厚を減じ、304大溝の手前で消滅する。層中から遺物はほとんど出土しなかったが、周辺地区の調査成果から古墳時代前期～古代の堆積層とみなされる。なお１区東半では４層上面に３－２層が堆積せず、遺構面１面の一部を形成する。なお層中に遺構面は確認されなかった。

４－４層　304・405大溝内の堆積層として主体的に存在する他、一部は４区西半から５区東端にかけ

て薄く分布する。古墳時代前期の土器を僅かに出土している。溝内のものは遺構の性格上、4－1～3層の堆積が終了する以前に埋没していた可能性が高い。

5層　古墳時代初頭～前期の形成層である。1区西端から5区まで広範囲に分布する。上面の標高は3・4区の境界付近が6.6mで最も高く、東の1区にかけて6.0mまでレベルを下げて消滅する。また西の5区は6.5mで比較的安定している。5層は細砂～極細砂で構成された土壌層で、その上位層とは容易に区別できる。また土壌化の程度は上部が強く、下部が弱い。その度合いから5－1～3層に細分した。ただしその形成は6－1層を含めて連動し、層位の細分が時間差を表すわけではない。5層は本来、この下層に分布する6層を構成する河川堆積物の表層部である。これが耕作など人為的な攪拌を受けた結果として形成された層位で、基本的に畠耕作土層と考えられる。層中には庄内式土器が多く含まれるが、一部に布留式のものも認められる。5－1面上面を遺構面3面とした。畠耕土上面にあたり、304・405大溝、久宝寺2号墓等の遺構も存在する。また畠が消滅する1区西端付近には堤が構築されている。

5－1層　耕土層Ⅰ。オリーブ黒色細砂層で層厚は5～20cm。おおむね著しく土壌化しているが、5区西半では徐々にその度合いを弱める。

5－2層　耕土層Ⅱ。灰オリーブ極細砂層で層厚は10～20cm。土壌化が強い。

5－3層　耕土層Ⅲ。灰色極細砂層で層厚は10cm以上。土壌化はやや弱い。

6層　2区から5区まで広範囲に分布する河川堆積層で、灰色系砂層によって構成されている。層厚は1m以上である。4・5区では基底面が検出されなかった。層中からの出土遺物は皆無であるが、5層との関係から弥生時代後期～末頃の形成とみられる。4区東半には自然河川の流芯痕跡がみられるが、これが6層堆積物の供給源である。この河川は後に人為的な改変が加えられ、405大溝として機能する。基本的に5層は、6層堆積物の表層部が人為的な働きかけにより変化したものである。この両層上面は共に4区における標高が最も高いが、それは405大溝の前身河川の自然堤防が、4区を中心に形成されていることによる。6層上面の遺構面を4・5面とし、同一面で検出される。4面は3面畠耕土層と密接に対応する床土面である。従って3面より下面ではあるが、その形成時期はほぼ併行すると見なさねばならない。5層との層界は起伏に富んでおり、畠の耕作に関係した耕作溝群が多数検出されている。また耕作のためとみられる井戸なども検出されている。5面は4・5区だけで確認された遺構面で、5層の畠作土層形成以前の集落遺構群である。竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸、溝などで構成されるが、上部は耕作によって削平されている。これらの遺構群は耕作溝群の間隙や、耕作深度が及ばない6－1層ベース中に辛うじて遺存する。また405大溝は5面形成時点で存在していた可能性が高い。遺物は6層には含まれないが、遺構内や遺構面を直接覆う5－3層から多量に出土している。おおむね古墳時代初頭（庄内式古段階）にあたるが、一部の遺構は弥生時代末まで遡る可能性もある。なお、6層を構成する砂層の粒度の違いにより、6－1・2層に大別した。

6－1層　細砂を主体とする。

6－2層　粗砂を主体とする。

7層　6層が堆積する以前のベースを構成する。1～3区で検出された。暗灰色系の粘質なシルトを基調とする。標高は最も高い1区で5.9m、西の3区に向かってレベルを下げ、掘削限界を越える。遺構面は確認できなかった。遺物は全く出土しなかったが、層位の関係から弥生時代後期頃であろう。

7層以下　調査区を東西に貫く管路埋設部分について、7層より下層部分の調査を行った。結果は本章末に記述する。

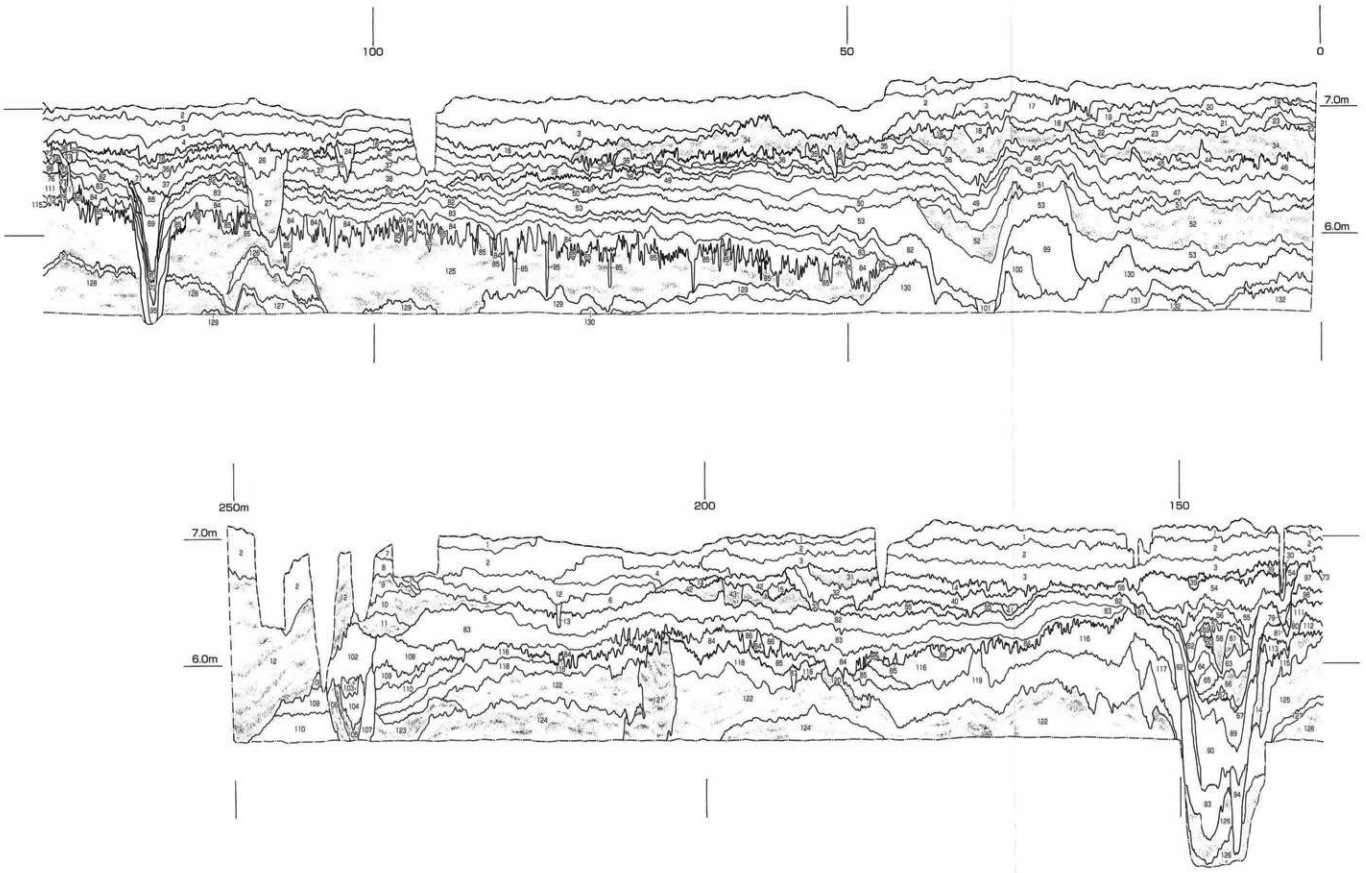


図４　第１～５区北壁土層断面図

表1　1～5区土層名

番号	土層	大別	細別	備考
1	オリーブ褐 (2.5Y4/3) シルト混細砂	1層	1－1	盛土（近代）
2	灰オリーブ (7.5Y6/2) 細砂混シルト		1－2	作土（近世～近代）
3	灰オリーブ (10Y6/2) 細砂混シルト			
4	灰オリーブ (5Y4/2) 細砂混シルト			
5	暗灰黄 (2.5Y4/2) 細砂			
6	灰 (5Y4/1) 細砂混シルト			河川堆（近世）
7	にぶい黄 (2.5Y6/3) 細砂			
8	灰オリーブ (5Y4/2) 細砂			
9	暗灰黄 (2.5Y5/2) 細砂			河川埋土（近世）
10	暗灰黄 (2.5Y4/2) 細砂混シルト			
11	灰オリーブ (5Y4/2) シルト混細砂			
12	青灰 (10BG5/1) シルト混細砂			
13	灰黄褐 (10YR6/2) 粗砂混細砂			遺構埋土
14	黄灰 (2.5Y5/1) シルト	2層		作土（中世）
15	黄灰 (2.5Y4/1) 細砂混シルト			
16	灰 (7.5Y6/1) 極細砂混シルト			
17	暗青灰 (10BG3/1) シルト			
18	灰 (10Y6/1) シルト混細砂			
19	にぶい黄橙 (10YR6/3) 粗砂混細砂			
20	にぶい黄橙 (10YR4/3) 細砂			
21	暗オリーブ灰 (2.5GY4/1) シルト混細砂			
22	オリーブ褐 (2.5Y4/3) シルト混極細砂			
23	オリーブ褐 (2.5Y4/3) 極細砂			
24	灰 (5Y5/1) シルト混細砂			遺構埋土
25	黄灰 (2.5Y5/1) 細砂			
26	灰 (5Y5/1) シルト混細砂			遺構埋土
27	黄灰 (2.5Y5/1) シルト混細砂			
28	黄灰 (2.5Y4/1) 細砂混シルト			遺構埋土
29	オリーブ褐 (2.5Y4/3) 極細砂			
30	明青灰 (5B7/1) 極細砂			遺構埋土
31	暗灰黄 (2.5Y4/2) シルト混細砂・暗灰黄 (2.5Y4/2) シルトの互層			遺構埋土
32	灰 (5Y4/1) 細砂混シルト			
33	オリーブ褐 (2.5Y4/3) シルト混細砂			
34	灰オリーブ (5Y5/2) シルト混細砂	3層	3－1	洪水砂
35	灰 (7.5Y5/1) 極細砂混シルト		3－2	水田作土・ベース
36	灰 (7.5Y6/1) 極細砂混シルト			
37	灰 (5Y5/1) 細砂混シルト			
38	灰 (10Y4/1) 極細砂混シルト			
39	灰 (5Y6/1) 細砂混シルト			
40	灰黄褐 (10YR4/2) シルト			
41	灰黄褐 (10YR5/2) シルト			
42	灰 (5Y4/1) 細砂混シルト			洪水砂
43	暗灰黄 (2.5Y4/2) 極細砂			
44	灰 (N4/0) シルト混極細砂	4層	4－1	
45	オリーブ黒 (7.5Y3/2) 細砂混シルト			
46	青灰 (2.5Y4/1) シルト			
47	灰 (5Y5/1) シルト	4層	4－1	
48	黄灰 (2.5Y4/1) 極細砂混シルト			
49	灰 (N5/0) シルト			
50	灰 (10Y4/1) 極細砂混シルト			
51	オリーブ黒 (7.5Y3/1) シルト混細砂			
52	灰 (10Y6/1) シルト混極細砂		4－2	
53	青灰 (5BG5/1) 極細砂混シルト		4－3	
54	黄灰 (2.5Y7/2) 細砂混シルト			405大溝埋土（古墳前期）
55	黄灰 (2.5Y6/1) 粘土混シルト			
56	灰 (10Y5/1) 細砂混シルト			
57	灰白 (7.5Y7/1) 細砂			
58	オリーブ灰 (5GY5/1) 極細砂			
59	浅黄 (5Y7/3) 粗砂			
60	黒褐 (2.5Y3/1) 極細砂混シルト			
61	灰 (7.5Y6/1) 粗砂			
62	青灰 (5B6/1) 細砂			
63	青灰 (5B5/1) 極細砂・オリーブ黒 (5Y3/1) 粘土の互層			
64	灰白 (7.5Y7/1) 粗砂			
65	青灰 (5BG5/1) 中砂・黒褐 (2.5Y3/1) 極細砂混シルトの互層			
66	灰 (5Y4/1) 極細砂混シルト			
67	青灰 (10BG5/1) 極細砂・オリーブ黒 (7.5Y3/1) 細砂混シルトの互層			
68	黄灰 (2.5Y5/1) 細砂混シルト			304大溝埋土（古墳前期）
69	オリーブ黒 (5Y3/2) 細砂混シルト			
70	青灰 (10BG5/1) 極細砂			
71	灰 (5Y4/1) 極細砂混粘土			
72	灰 (N4/0) 極細砂混シルト			
73	灰 (5Y4/1) シルト混細極細砂			2号墓周溝埋土
74	灰 (5Y4/1) シルト			
75	灰 (5Y4/1) シルト混極細砂			
76	灰 (7.5Y5/1) 粘土			
77	暗オリーブ灰 (5GY4/1) 極細砂			
78	暗緑灰 (7.5GY4/1) 極細砂			
79	灰 (7.5Y4/1) 粗砂混シルト			
80	青灰 (10BG5/1) シルト			
81	灰 (7.5Y5/1) 極細砂			
82	オリーブ黒 (7.5Y3/1) シルト混細砂	5層	5－1	耕土層Ⅰ
83	灰オリーブ (5Y6/2) 極細砂		5－2	耕土層Ⅱ
84	灰 (5Y4/1) シルト混極細砂		5－3	耕土層Ⅲ
85	灰 (7.5Y4/1) 極細砂			
86	オリーブ黒 (10Y3/1) 細砂混シルト			
87	黄灰 (2.5Y4/1) 極細砂			555溝埋土
88	灰 (5Y5/1) 極細砂			遺構埋土
89	灰 (7.5Y4/1) 粗砂混シルト			405大溝埋土
90	暗青灰 (5B4/1) 極細砂混シルト			
91	灰 (5Y4/1) シルト混細砂	5層		405大溝埋土
92	灰 (5Y5/1) シルト混極細砂			
93	暗青灰 (10BG4/1) 細砂混シルト			
94	オリーブ黒 (5Y3/1) シルト			304大溝埋土
95	オリーブ黒 (10Y3/1) 細砂混シルト			
96	灰 (N4/0) シルト混細砂			2号墓墳丘盛土
97	灰オリーブ (5Y6/2) 細砂			
98	灰 (10Y6/1) 極細砂			堤盛土
99	灰 (N5/0) 細砂混シルト			
100	オリーブ黒 (10Y3/1) 細砂混シルト			遺構埋土
101	オリーブ黒 (10Y3/1) シルト混極細砂			
102	暗緑灰 (7.5GY4/1) 極細砂混シルト			580河川埋土
103	オリーブ黒 (10Y3/1) シルト混極細砂			
104	暗オリーブ灰 (5GY4/1) 極細砂混シルト			
105	暗緑灰 (7.5GY4/1) 極細砂			
106	暗緑灰 (5G4/1) 極細砂混シルト			
107	灰 (10Y4/1) シルト混極細砂			
108	灰 (5Y4/1) シルト混極細砂	6層	6－1	洪水堆積（細砂主体）
109	暗オリーブ灰 (5GY3/1) 極細砂混シルト			
110	オリーブ灰 (5GY5/1) シルト			
111	緑灰 (10G6/1) シルト混極細砂			
112	灰 (N4/0) 細砂			
113	青灰 (10BG5/1) 極細砂			
114	灰 (7.5Y6/1) 極細砂			
115	オリーブ灰 (5GY5/1) 極細砂			
116	暗青灰 (10BG4/1) シルト混極細砂			
117	青灰 (5B6/1) シルト混極細砂			
118	灰 (7.5Y4/1) シルト混細砂			
119	暗緑灰 (10GY4/1) シルト混細砂・灰白 (7.5Y7/1) シルト混細砂の互層			
120	暗青灰 (10BG4/1) 極細砂混粗砂・(N6/0) 極細砂混粗砂の互層			
121	灰 (5Y4/1) 極細砂			
122	緑灰 (10G5/1) 極細砂		6－2	洪水堆積（粗砂主体）
123	暗オリーブ灰 (5GY4/1) 極細砂混シルト			
124	暗オリーブ灰 (2.5GY4/1) シルト混極細砂			
125	灰 (7.5Y6/1) 粗砂			
126	暗オリーブ灰 (2.5GY4/1) 極細砂混細砂			
127	黒褐 (2.5Y3/1) 粘土質シルト			
128	灰白 (5Y8/2) 粗砂			
129	暗緑灰 (7.5GY4/1) 細砂混極細砂・オリーブ黒 (10Y3/1) シルト混極細砂の互層	7層		6層のベース
130	暗青灰 (5BG3/1) シルト			
131	オリーブ黒 (10Y3/1) 細砂混シルト			
132	灰 (10Y5/1) 細砂			

第２節　遺構と遺物

第１項　古代

１面（古代面Ⅰ）

１・２区で連続して検出された水田面を中心とする。水田は２区の西端で途切れている。３区でも畦畔の検出に努めたが連続性は明らかにできなかった。また１面の存在自体についても３・４区ではおそらく削平を受けており、明確な遺構は一切検出されなかった。この不連続性から正確な対応関係は不明ではあるが、５区で検出された最初の遺構面についても１面とした。

１・２区の遺構面は103水路と畦畔によって区画された水田、洪水砂をもたらした104河川などで構成されている。１・２区の水田区画は条里制に乗らず、その施行以前の遺構と考えられる。田面から遺物はほとんど検出されなかった。したがって条里制施行以前ということで古代面としたが、正確な形成時期は抑えられなかった。水路堤における敷葉工法の採用、牛耕の可能性などから古墳時代中期まで遡る可能性もある。この水田面は河川の氾濫に伴う３－１層の堆積によって埋没し廃絶する。

水田（図５・６、図版１～３・９～11）

水田は３－１層によって、２区西端部を除いて１・２区のほぼ全域が覆われていた。３－１層は104河川によって運搬された洪水砂で、最大約30㎝の厚さで堆積する。このため畦畔は埋没後の削平を免れており、遺存状態は比較的良好であった。水田は基本的に３－２層、１区東半では４－１層がベースで、最小単位は畦畔で区画されている。畦畔の方向は地形に沿って設定されたらしく、蛇行している。その方向性は条里制とは全く無関係である。田面の標高は１区が6.4～6.6mでやや起伏がみられるが、２区はほぼ6.6mで水平に近い。畦畔は幅50㎝、高さ５～10㎝前後で、短辺４～６m、長辺６～10m前後の不整形な長方形区画をとるものが多い。田面には多数の足跡が残されていた。ほとんどがヒトの足跡であるが、稀に偶蹄目の動物足跡（図版11）や鳥類のものも確認された。前者の足跡が牛であれば、牛耕が行われた可能性もある。

103水路（図７・８、図版４・５）

１区中央部において検出された東西２条の堤の内部を103水路とした。堤は西を101堤、東を102堤とする。Ｂ１－ｈ５～ｊ５・ｊ４に位置する。１区の田面の標高は、水路以東が6.5～6.6m、以西が6.4～6.5mで、水路を介して最大20㎝の比高差がある。水路は堤を含めた全幅が3.0～4.5m、検出全長が22mである。また堤は幅70㎝前後、高さ40～50㎝で周囲の畦畔よりも一回り大きい。堤周囲の畦畔は堤と方向が沿っていて、北東からの畦畔は102堤、南西からの畦畔は101堤に接続する。また水路内部には畦畔が存在しない。水路内には灰色極細砂などが堆積していたが、大きな水流はなかったようである。二つの堤のうち、西側の101堤だけに敷葉工法が用いられていた。101堤の敷葉工法は、西側の水田寄りに杭を打設し、堤の芯になる部分のベース面に樹皮や植物質の繊維を帯状に敷き詰めたものである。水路底の標高は全域で6.5mを示し高低差が表れないが、周囲の状況からみて南から北方向への水利系統の一部をなす遺構であろう。なお敷葉工法については、現段階では亀井遺跡の堤防にみられる５世紀末～６世紀初頭のものが最古とされている。

104河川

洪水砂を運搬した104河川の流芯部が、１区から２区東半付近にかけて田面を貫いて残されている。流芯にあたる部分は、畦畔と田面をおよそ東から西へ10～15㎝の深さで抉り取りながら蛇行する。流芯

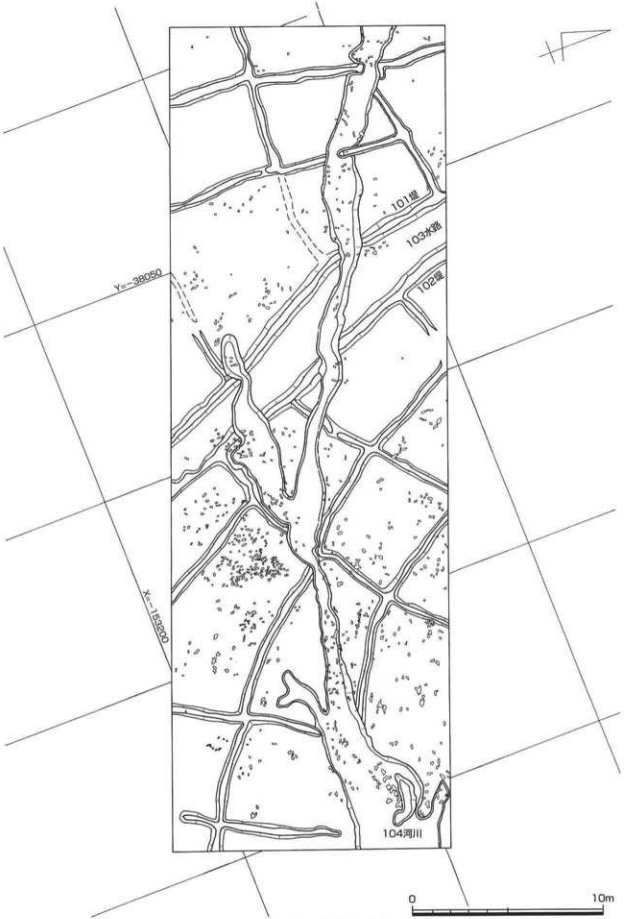


図5　1区1面遺構分布図

図６　２区１面遺構分布図

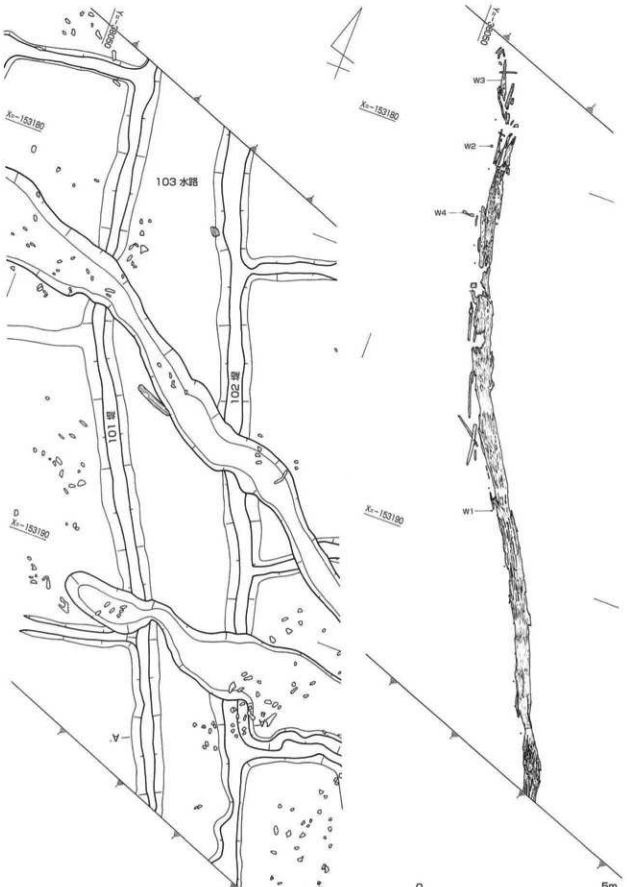


図7　103水路・101堤下層敷葉工法遺構平面図

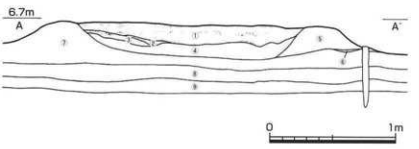


図８　103水路断面図

部の検出全長は約60m、最大幅は約４mである。１区においては流芯から派生した流れが、西あるいは北西に樹枝状に延び出した部分もある。この河川痕跡は２区Ｂ１－ｈ７・ｈ８で田面から消えるが、ラミナの状況からおそらく流路の方向を北側へと変えたものと推測される。このため、２区西端以西には洪水砂が運搬されず、分布域が及ばなかったのであろう。

出土遺物（図９）

土器は時期の特定ができない土師器細片が若干出土したのみであるが、101堤の敷葉工法に伴った杭や転用木製品が検出された。また田面から竪杵の断片が出土した。

Ｗ１・Ｗ２は縦方向に打設された杭である。遺存状態はよくないが、丸材で先端を削って加工してある。Ｗ３・Ｗ４は堤のベース面に水平方向に置かれた材で、他の樹皮などの敷葉と同じ目的に用いられたものである。Ｗ３は割り材、Ｗ４は木製品の部材を転用している。

Ｗ５は１区の田面上で検出された竪杵である。芯持ち材を加工しており、握部の手前で破損した搗部の片側である。かなり風化しており、遺存状態は不良である。

５区溝群（図10、図版35）

５区では１面が全面に分布せず、東端部ではほぼ同レベルで３面が露出する。遺構面の標高は6.4～6.5mで、西側が徐々に低くなっている。この面では数条の溝を検出した。切合いが認められる部分があるので、数期に細分される可能性もある。溝は最長のもので東西方向50mに達する。溝内はいずれもシルトや砂で埋没している。遺物は出土せず、時期の特定には至らず、１・２区１面との整合性も検証できなかった。

２面（古代面Ⅱ）

２区では古代面Ⅰの水田面直下に、それより先行する水田面が検出された。

水田（図11、図版12～14）

２区において１・２面水田の間には、薄い砂層が間層として介在する部分がある。田面の標高はほぼ6.5m前後で、１面と比較して約10cmレベルが低くなっている。これらの畦畔の形状は、一部に相違が認められるが基本的にはほぼ等しいといってよく、また１・２面が共有されて厳密には分離し難い箇所もある。したがって１・２面間の形成時期に、大きな時間差を想定することはできない。このような状況から、少なくとも２区においては２面が本来の形状であって、水田経営における田面の改修や、小規模な氾濫に伴う修復などの行為に伴って、１面が部分的に形成された可能性がある。なお２面田面には足跡がほとんどみられず、西端付近では畦畔が消失し、田面そのものが確認できなかった。

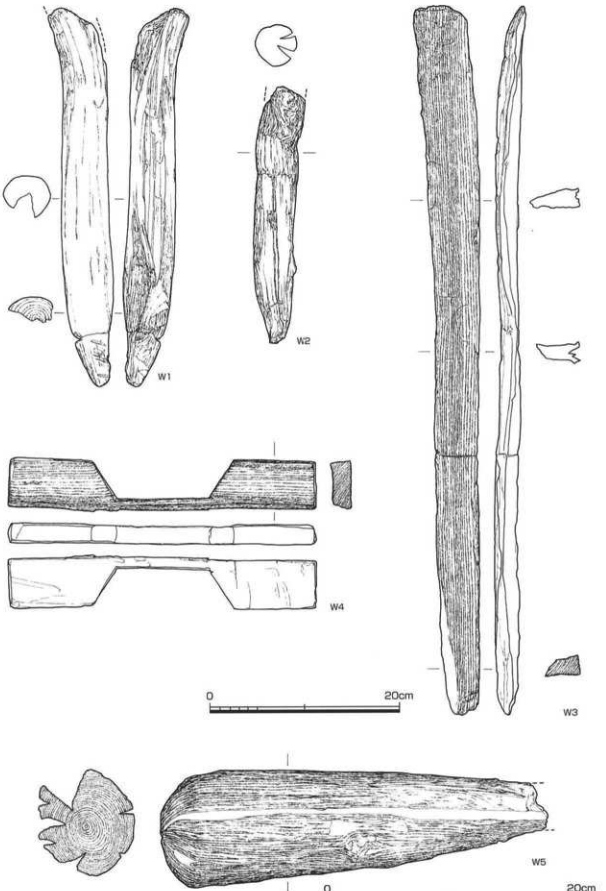


図9　1区1面出土遺物

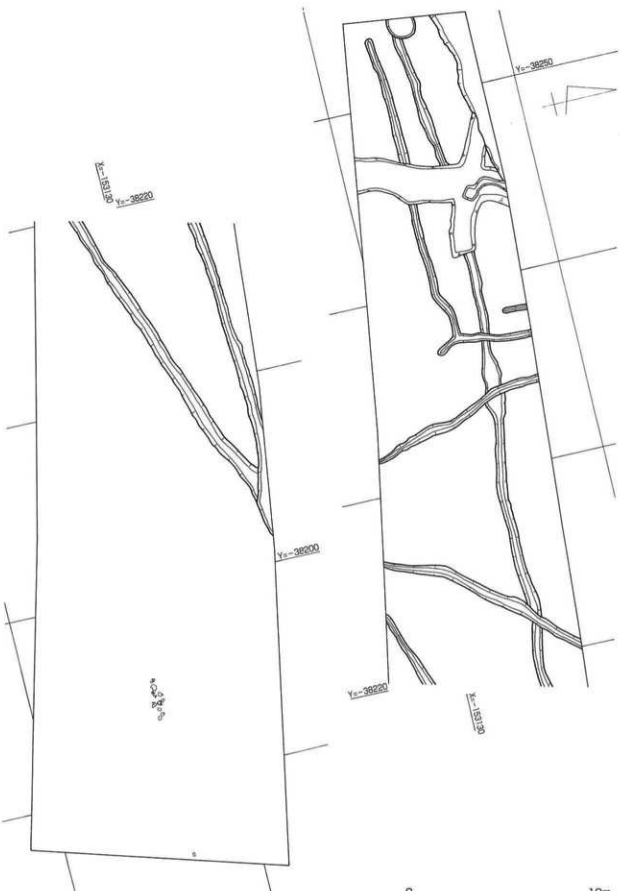


図10　５区１・３面遺構分布図

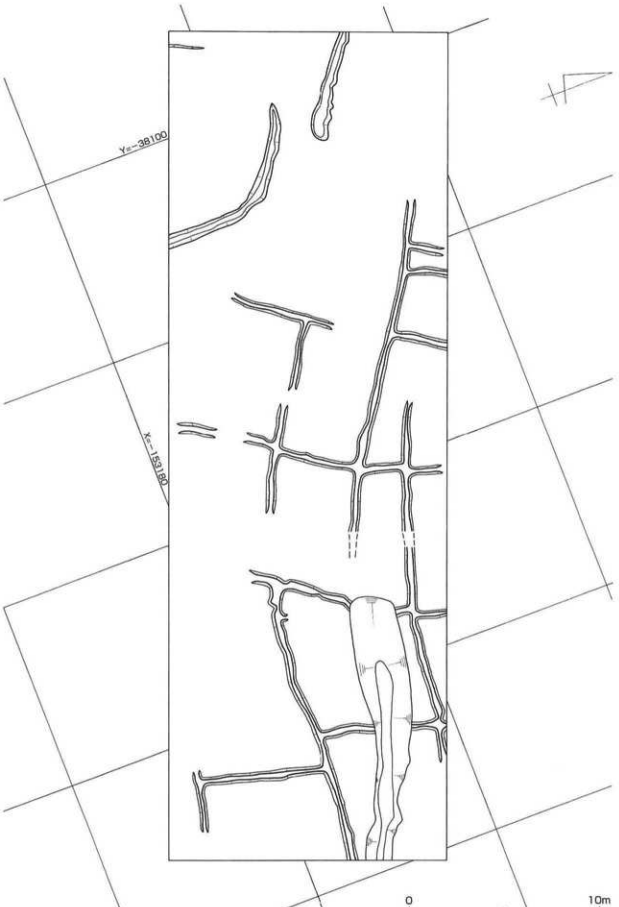


図11　２区２面遺構分布図

第２項　古墳時代

３面（古墳時代面Ⅰ）

畠耕土面（図12～14、図版15・21・27）

５層上面にあたる。古墳時代初頭～前期古段階（庄内式期～布留式期古段階）の畠の耕土層上面と考えられる。土壌化の度合いは表層ほど強く、５－１～３層に細分したが、よく攪拌されてラミナもみられず、構造上は一体をなすものである。また床土層と考えられる６－１層とも密接な関係をもつ。５層は基本的に著しく土壌化し、識別しやすい特徴的な層位で、１区西端～５区にかけての広範囲で認められる。このため、大半の区域においてその上層とは容易に分離できたが、５区西半では土壌化が東側の他区域と比べてあまり進んでおらず、やや困難を伴った。５層上面の状況はほぼ平坦であって顕著な起伏はみられないが、３区北寄りの区域で平行する数条の浅い溝群が検出されている。これが畠として機能していた段階の畝間溝の痕跡と考えられる。

全体を通して標高が最も高い所は6.6mで、３・４区の境界付近のほぼ平行する２条の304・405大溝に挟まれた地点である。ここでは方形周溝墓（久宝寺２号墓）が検出されているが、畠耕土は周溝墓を避けるようにその周囲に分布する。

５層上面は３区より以東では徐々にレベルを下げて１区西端、Ｂ１－ｈ６・ｉ６地区で消滅する。こうした畠の末端部にあたる地点の標高は5.8～5.9mである。この付近の５層上面から105土器集積が検出された。畠地より東側では5.6mまで一気にレベルが下がる。またそのさらに東側のｈ５～ｊ５では、調査の不備のため平面的な検出ができなかったが、南北方向に106堤が築かれていたことが判明した。１区ではこれより以東に５・６層は存在せず、７層が露出しており、他の遺構も全く検出されなかった。出土遺物量も激減する。

４区以西の５層上面の標高は約6.5mで、比較的平坦な面を形成する。前述のように５区の西側では５層の土壌化が弱い。

畠耕土上ではほとんど遺構はみられないが、３・４区において浅い土坑やピットを僅かに検出している。いずれも遺物は出土していない。これらの構築面は３面ではなく、４層以上の層位にのった遺構面に由来する可能性が高い。

５層出土遺物

全地区を通じて５層中には土器片などの遺物を含むが、完形、あるいはそれに近い状態の土器が集積状あるいは帯状に集合して、一括性がかなり高いと判断される状況も少なからず認められた。この土器の集合は、下層の６－１層上面にみられる耕作溝の位置と重なる場合があった。

１区（図15）

出土土器がそれぞれ単体で検出された。１は外面に緻密にミガキを加えた壺体部である。おそらく直口壺であろう。２は生駒西麓産の胎土をもつ直口壺である。３は庄内式甕である。４は弥生形甕であるが、庄内式甕に類似した形状をもつ。５は肩部に波状紋を施した山陰系の複合口縁甕である。

２区（図17、図版74）

位置的に比較的まとまって出土した土器が多い。６～13はＢ１－ｈ９で集合した状態で検出された。６は口縁部や肩部を鋸歯状の波状紋で飾った複合口縁壺で、体部に紐掛けの痕跡がある。７～９は庄内式甕で、口縁部の作りはシャープである。10は複合口縁を呈する小形の甕で、口縁部外面には直線紋を配する。生駒西麓産の胎土で作られているが異質な土器である。11は甕に類した形態をもつ小形の有孔

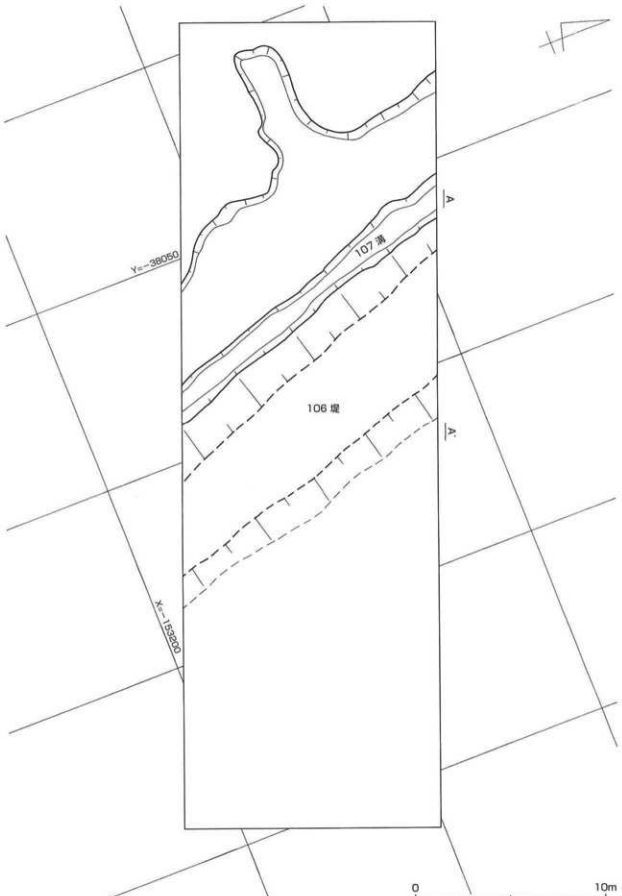


図12　1区3面遺構分布図

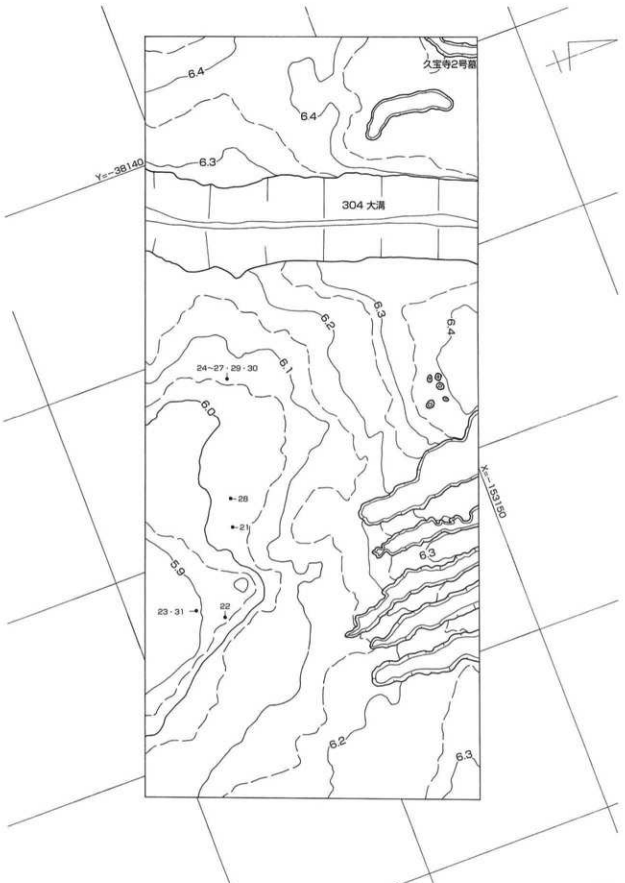


図13　3区3面遺構分布図

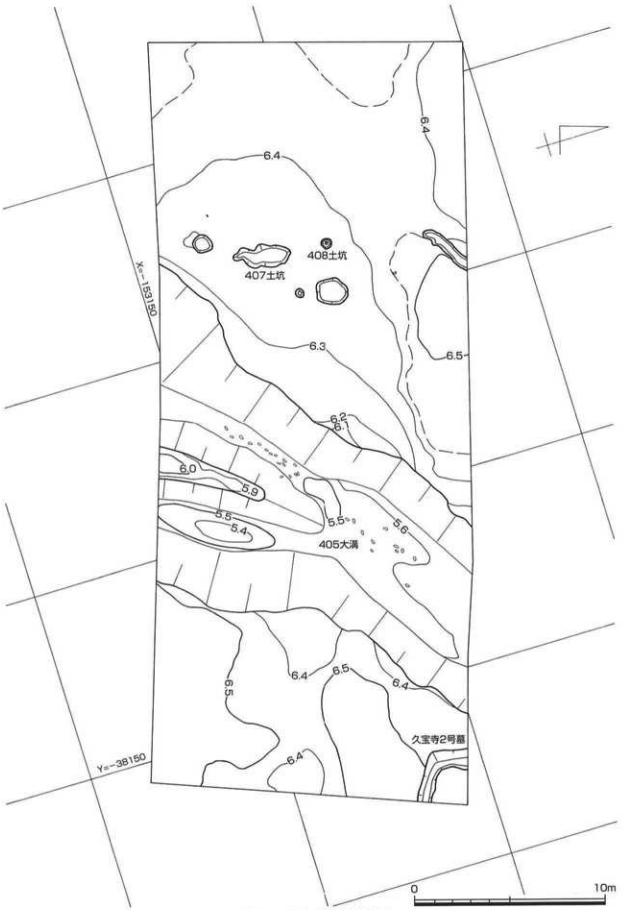


図14　4区3面遺構分布図

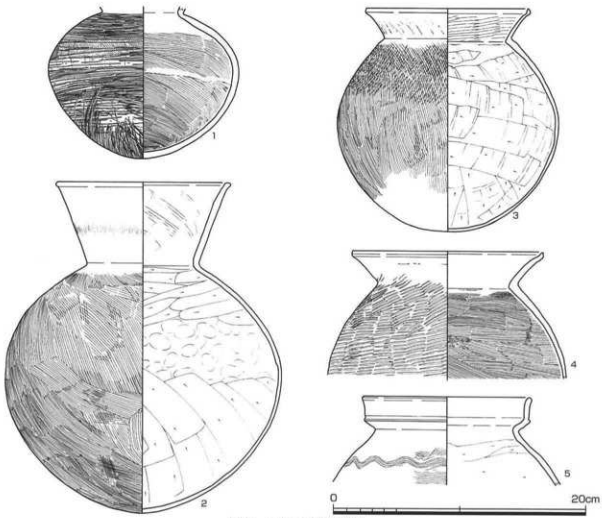


図15　１区５層出土遺物

鉢で、底部中央に小孔を穿つ。12・13は通有の小形器台である。

14はＢ１－ｈ９で６～13からやや離れた位置で検出された庄内式甕である。シャープな作りの口縁部に尖り気味の底部を備える。

15～20はＢ１－ｇ10からまとまって出土した。15は台付鉢で、口縁部・体部は小形丸底土器の形態に類似する。16は弥生形甕、17～20は庄内式甕である。

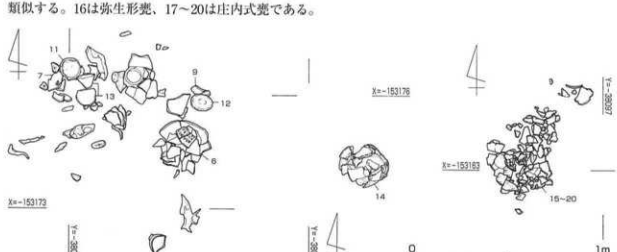


図16　２区５層遺物出土状況図

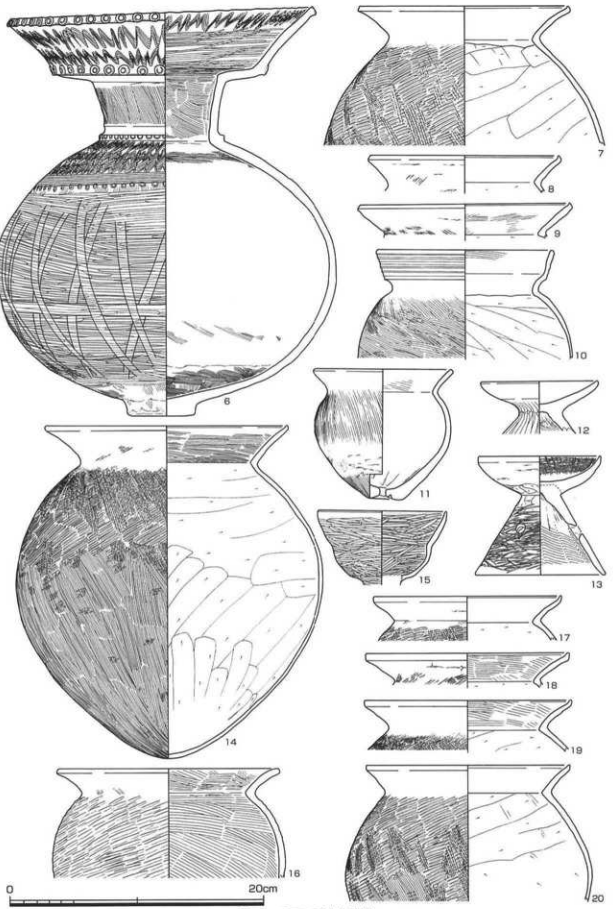


図17　2区5層出土遺物

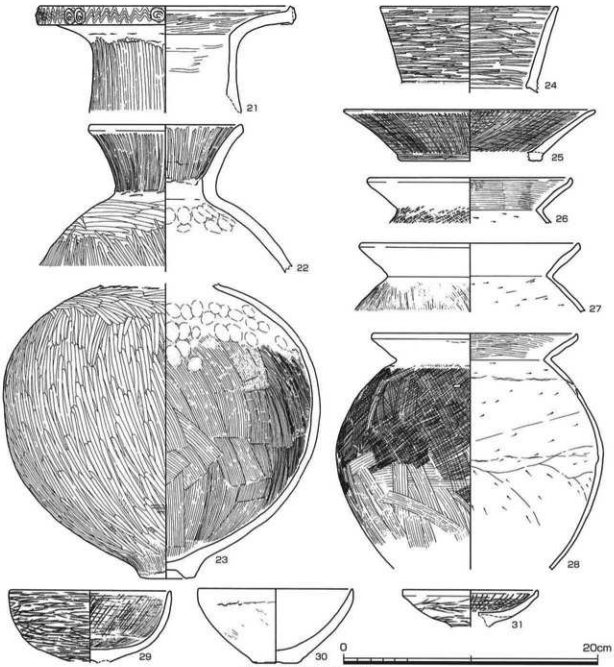


図18　3区5層出土遺物

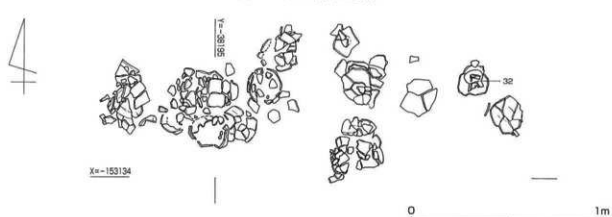


図19　5区5層遺物出土状況図

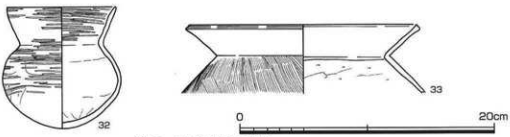


図20　5区5層出土遺物

3区（図18）

土器はそれぞれ全域から単体で出土し、集合状態はほとんどみられない。21は広口壺系の加飾壺で、口縁端面に円形浮紋と波状紋を飾る。22・24は直口壺である。23は口縁部を失った壺で、しっかりした平底を備える。25はシャープな口縁部をもつ複合口縁壺である。26～28は庄内式甕で、口縁部などの作りはやや鈍い。29は椀形高杯、30は弥生系の小形鉢、31は小形器台である。

5区（図19・20）

B3－d10で集合して出土した。出土点数は比較的まとまっていたが、いずれも遺存状態が不良で、図化できた個体は僅かである。32は小形壺、33は最終末期の庄内式甕である。他に布留式甕などが認められる。畠遺構の下限に近い時期を示す資料といえよう。

105土器集積（図21、図版6）

1区のB1－i6・i7の3面において検出された土器集積である。この地点は標高は5.8m前後で、

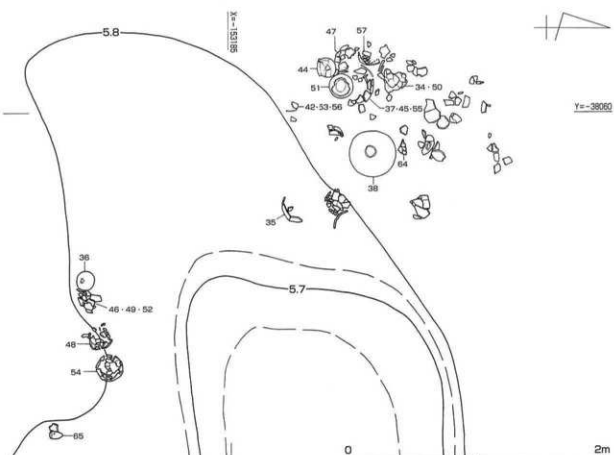


図21　1区3面105土器集積出土状況図

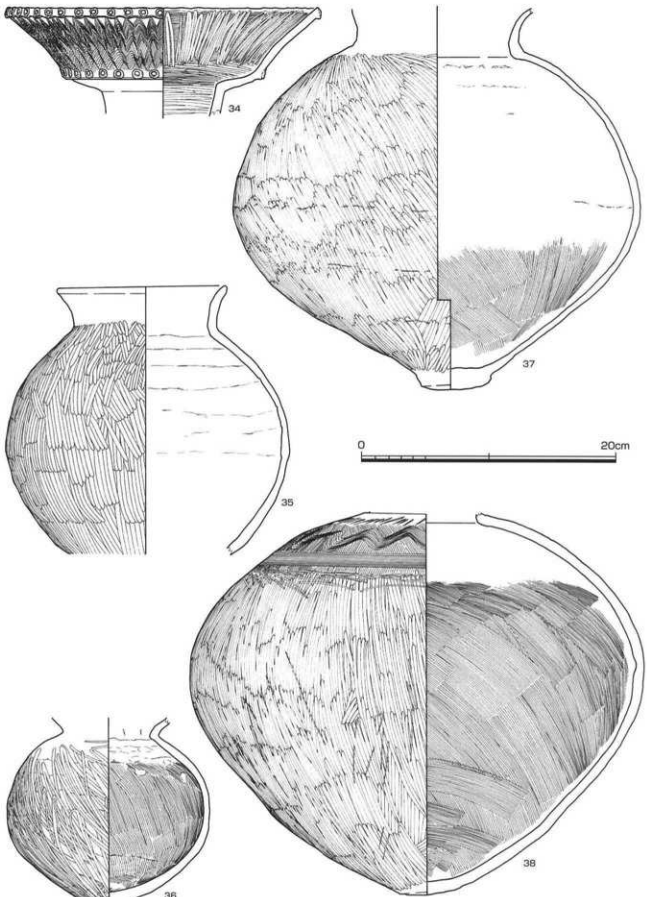


図22　105土器集積出土遺物（１）

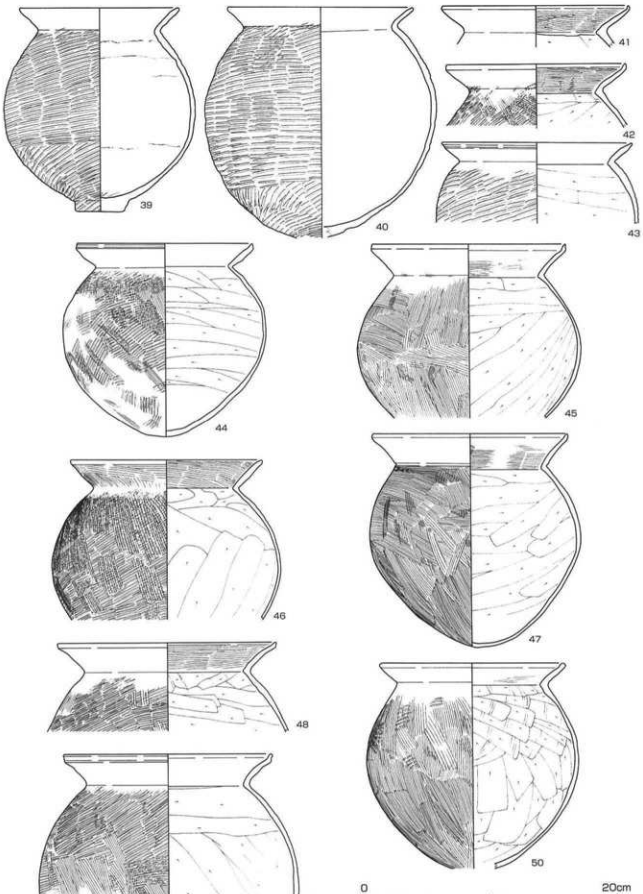


図23　105土器集積出土遺物（2）

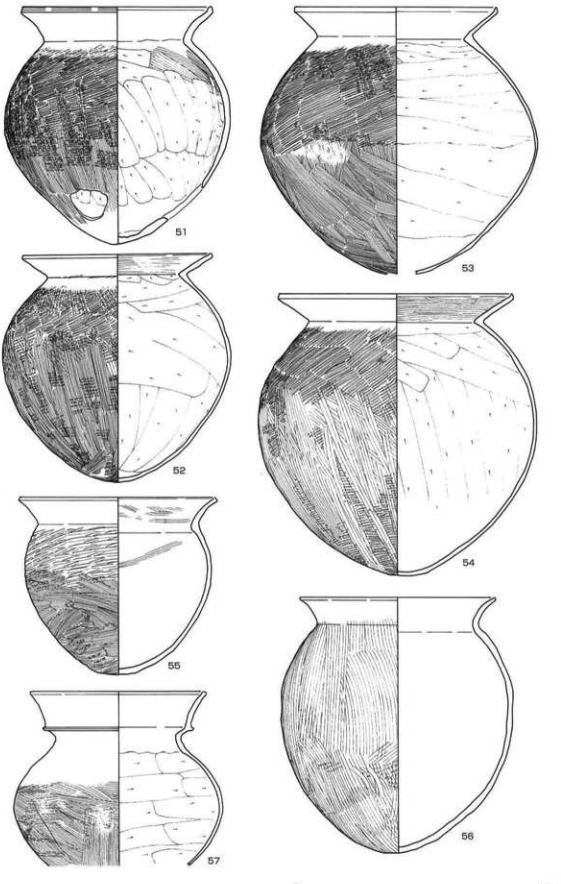


図24　105土器集積出土遺物（3）

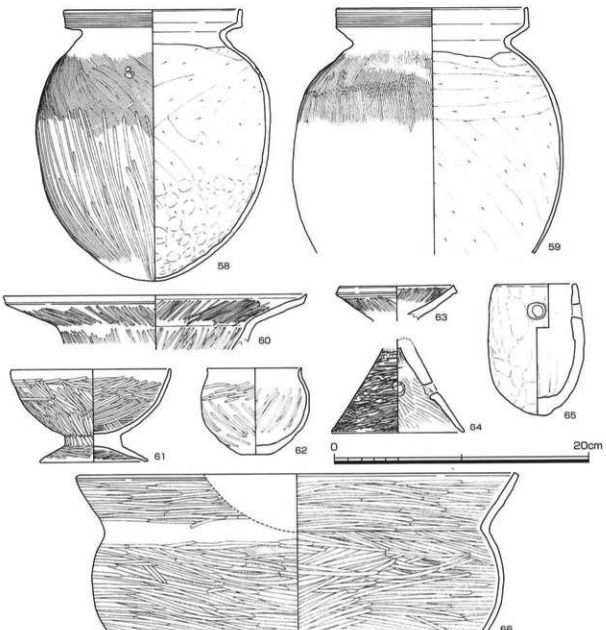


図25　105土器集積出土遺物（4）

一連の畠遺構の東限にあたる。これらの東側はレベルを急に下げており、また周辺には小規模な谷状の地形が形成され、土器集積付近まで入り込んでいる。土器は集中して出土しており、一括性はかなり高いものといえる。3面上で検出され、サイズの大きいものは4層の掘削中から一部が露出していた。

出土遺物（図22～25、図版74・75）

34は加飾性複合口縁壺で、口縁部を円形浮紋や鋸歯状の波状紋で飾る。35は広口壺、36～38は壺の体部である。38は生駒西麓産の胎土をもち、肩部を波状紋や直線紋で飾っている大形の加飾壺である。39・40は弥生形甕で、体部の張りが強い。41～54は庄内式甕で、底部は尖り気味の丸底をもつ個体が多い。体部内面ケズリはかなり単位が明瞭である。庄内式甕の組成比率は弥生形甕より圧倒的に多い。55は庄内式甕を模倣した弥生形甕、56は異形甕で底部は尖り気味の丸底である。57は山陰系の複合口縁甕で扁球状の体部をもつ。58・59は吉備系の複合口縁甕で、58は肩部に刺突痕がある。60は有段高杯で口縁部はシャープに作られている。61は台付鉢で全面ミガキ調整である。62は小形丸底土器の祖形となる

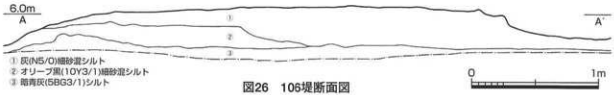


図26　106堤断面図

小形鉢の可能性がある。小さい平底をもつ。63・64は小形器台で、63は口縁端部にしっかりした端面を設けている。65はやや尖り気味の丸底をもつ蛸壺、66は大形鉢で、片口を失っている。全面にミガキ調整を施す。

106堤（図26・27、図版８）

１区Ｂ１－ｈ５～ｊ５・ｊ４に位置し、南東から北西方向へ向かう堤状遺構である。調査の不手際から平面的には検出できなかった。断面から復原すると基底面の幅約４ｍ、高さ0.6mで、堤上面の標高は6.2m、検出全長は約20mである。堤はオリーブ黒色シルトと灰色シルトを盛土して形成されている。４層の堆積によって覆われる直前の状態を示しており、堤の構築土のうち前者は、これに先行する小規模な堤の構築土であった可能性もあるが、詳細は明らかにできなかった。この堤の西側に平行して107溝が存在する。107溝は最大幅２ｍ、深さ約20cmで、埋土はオリーブ黒色極細砂である。106堤と一体の構造をなすものであろう。人工的な築堤は106堤だけであるが、この隆起と対応するのが１区西端における畠地の東限である。本遺構は１面で検出された103水路と、平面的にみれば極めて似通った位置関係にある（図27）。この両者の間には４層が約80cmの厚さで介在しており、それぞれ遺構の性格や時代などは全く異なるものである。こうした事象は、これらの遺構の構築された位置が地形的な制約を受けざるを得なかったことを示しており、おそらく水利系統を考える上で重要な地形変換点にあたっていたのであろう。なお、106堤構築土、107溝内から遺物は出土しなかった。

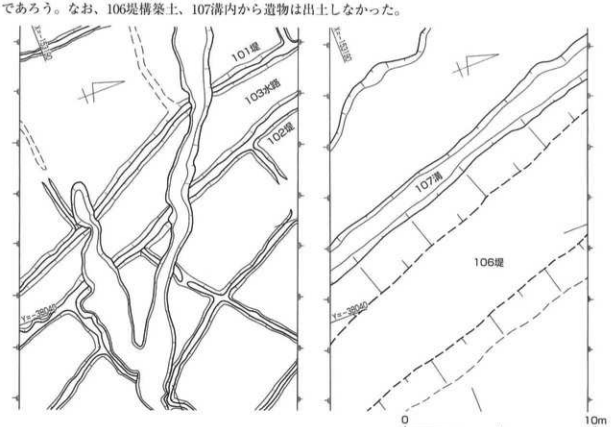


図27　１面103水路と３面106堤の位置的関係

久宝寺２号墓（図28、図版23）

久宝寺遺跡では過去の調査を含め、多数の方形周溝墓や古墳が検出されている。竜華地区の発掘調査が本格化して以降、当センターの担当区域においても新たに多数の墳墓が検出されるに至っている。これらの調査は、調査原因も調査年度も一定ではない。このような状況下、混乱を避けるため当センターにおいては、久宝寺遺跡における方形周溝墓・古墳を「久宝寺墳墓群」の中で捉え、調査年次に関係なくすべて連番号で呼称することに決定された。今回調査区の北側に位置する多目的地区検出の古墳を久宝寺１号墳とし、当地区で検出された方形周溝墓１基については連番により「久宝寺２号墓」とした。なお、方形周溝墓か古墳かで「墓」、「墳」の呼び分けを行っている。

久宝寺２号墓は３・４区の境界北端部、Ｂ２－ｅ５・ｅ４で検出された方形周溝墓である。検出位置が東西方向では地区割りの境界であったことに加え、調査区北端に墳丘の半分がかかった状態であった。

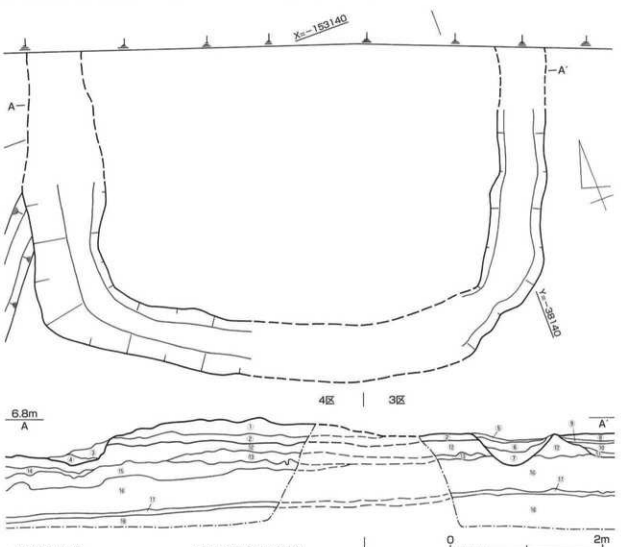


図28　久宝寺２号墓平・断面図

したがって墳丘は側溝によって分断されたため、検出状況はきわめて不良であった。

墳丘の東には304大溝、西には405大溝が南西から北東方向に走っている。2号墓はこの2条の大溝に挟まれた幅20m足らずの帯状の地形上に立地する。ベースの標高は6.6mで、調査区内の3面上の遺構では最も高い位置を占める。墳丘の検出は南辺を含む全体の半分ほどの面積にとどまるが、墳丘は方形を呈するとみてよい。規模は高さ0.5m、南辺でみた一辺の長さは5mで、小墳丘の墳墓である。周溝幅は最大で1m、深さ約30cmである。主体部については、調査区北辺と3・4区境界の矢板の交点がちょうど主体部の位置にあたって損壊が激しく、全く窺い知ることができなかった。したがって主軸はわからないが、南北軸を基準とすると座標の東西ラインから約20°東に振れている。墳丘は6層をベースとし、灰色系細砂を盛土することで構築されている。墳丘直下には5層が存在せず、ベースの6層は河川堆積層の本来の表層がそのままベースになっている。

2号墓周辺の畠作の状況であるが、検出された墳丘南側の範囲ではほぼ全面に耕地化している。墳丘と畠地との関係については、2号墓の東側において畠床土（6層）が周溝の直前でレベルを上げることが確認された。これに伴って耕土（5層）も周溝の手前で消滅しており、畠作が2号墓を避けるように行われていたことわかる。また墳丘の表層も土壌化の度合いが低かった。

墳丘、周溝から遺物が全く出土しなかったため、2号墓の築造時期は明らかにできないが、少なくとも周辺の5層の形成以前、すなわち畠作開始以前にすでに存在していたことが指摘できる。おそらく庄内式期初頭に属し、4・5面とも通じるものである。

主要な遺構は以上である。なお304・405大溝は、3～5面を通じて長く存在し機能している。したがって当該3面でも存在しており、各段階によって埋没や浚渫が繰り返された可能性が高い。面の認識は3区が4面まで、4区が5面までであるため、304大溝は4面、405大溝は5面で述べる。

4面（古墳時代面Ⅱ）

畠床土面（図29～33、図版7・8・16～20・24・28・29・36～38）

6層上面。畠の耕土層と考えられる5層を除去した遺構面で、1区西端～5区まで調査区のほぼ全域にわたる広範囲で耕作痕跡が検出されている。基本的には3面を構成する5層と対応関係にある。すなわち耕土層に対する床土面であり、単独で地表に露出した遺構面としては捉えることができない。したがって4面の形成は3面の開発行為と密接に関係しており、ほぼ同時期になるものと考えられる。またその経営期間は短期ではなく、長期に及んだ可能性が高い。4面上の畠作遺構は多数の平行する小溝群として検出される。これを耕作溝と呼ぶ。耕作溝の1単位は幅20～50cm程度、深さは20cm前後で、長さについては幅20m近い調査区を横断するものも多数ある。耕作溝は蛇行しながらも直線的なものが多いが、弧状を描く例もある。304大溝周辺では溝方向に平行か直交する方向で耕作溝が検出されており、地形に即して耕作が行われた側面をみせている。これらの溝は単一の方向をとった部分もあるが、むしろこれらが格子目状に錯綜し、場所によっては3方向以上の例もあるなど、非常に複雑な様相を呈している。耕作溝の方向はおよそ北北東－南南西、またこれと直交する東南東－西北西に軸にとった例が多い。しかし耕作溝の方向はすべてが同じというわけではなく、ある範囲ごとに方向性の単位をもつようである。このような場合でも、それぞれの切合い関係を見出すことは困難であった。3面で畝間溝が検出された3区では、これらと4面検出の耕作溝が方向性も一致し、上下で位置的に重なる可能性が高い。おそらく3面の畝間溝と4面の耕作溝が上下の関係で対応し、単一方向の平行溝群を形成するように耕

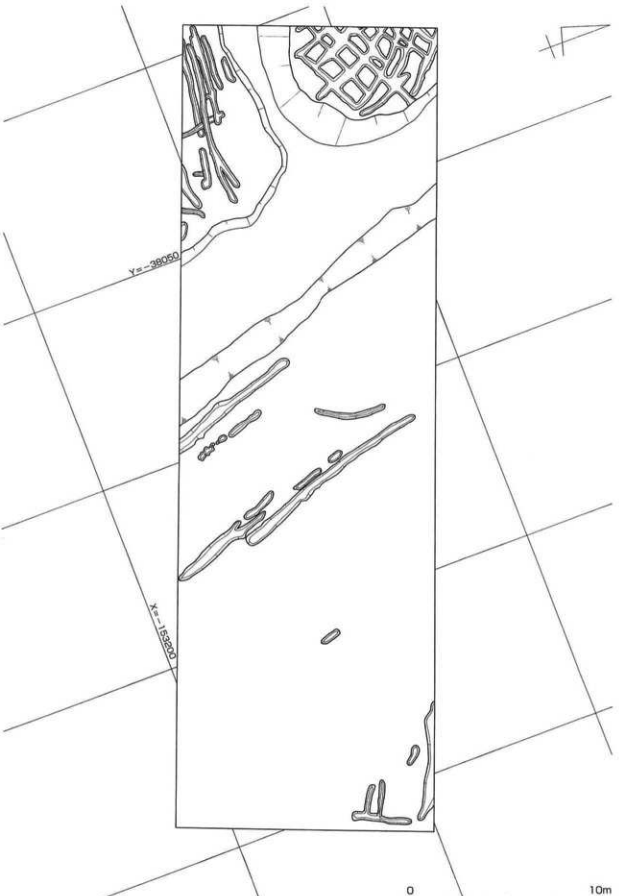


図29　１区４面遺構分布図

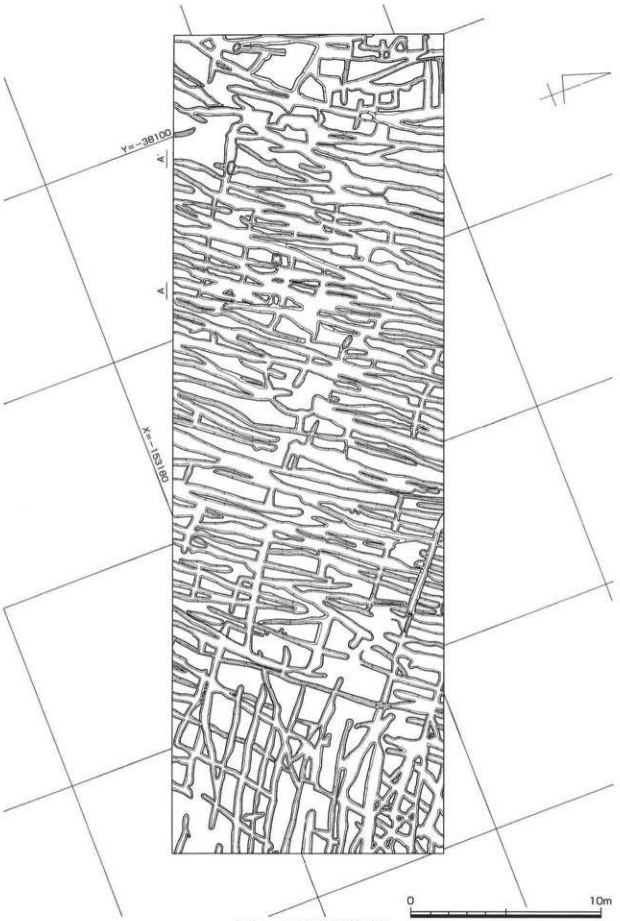


図30　２区４面遺構分布図

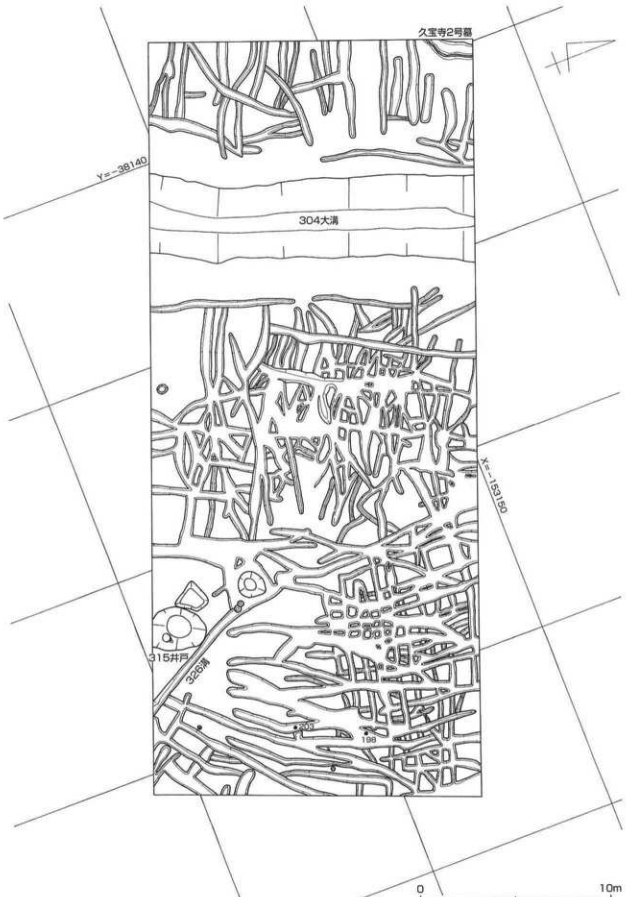


図31　３区４面遺構分布図

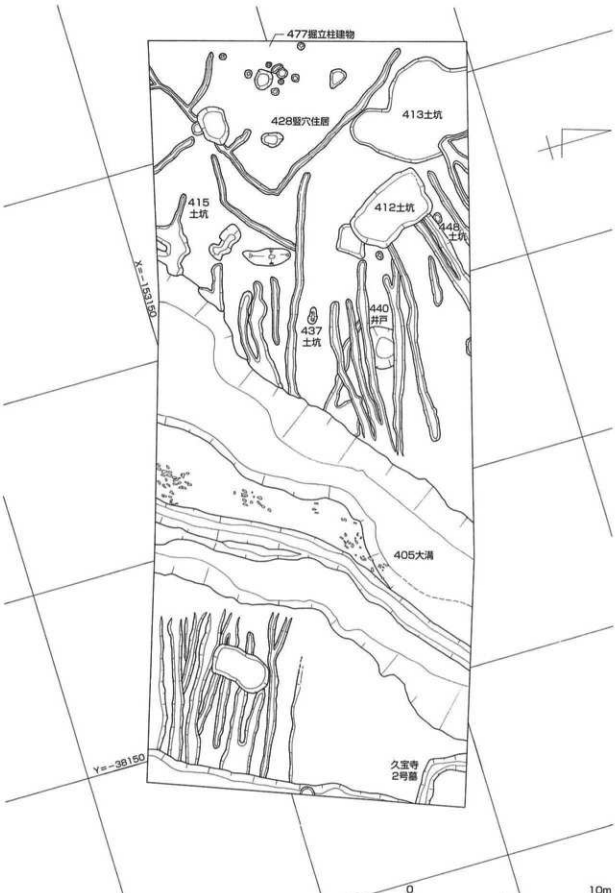


図32　4区4・5面遺構分布図

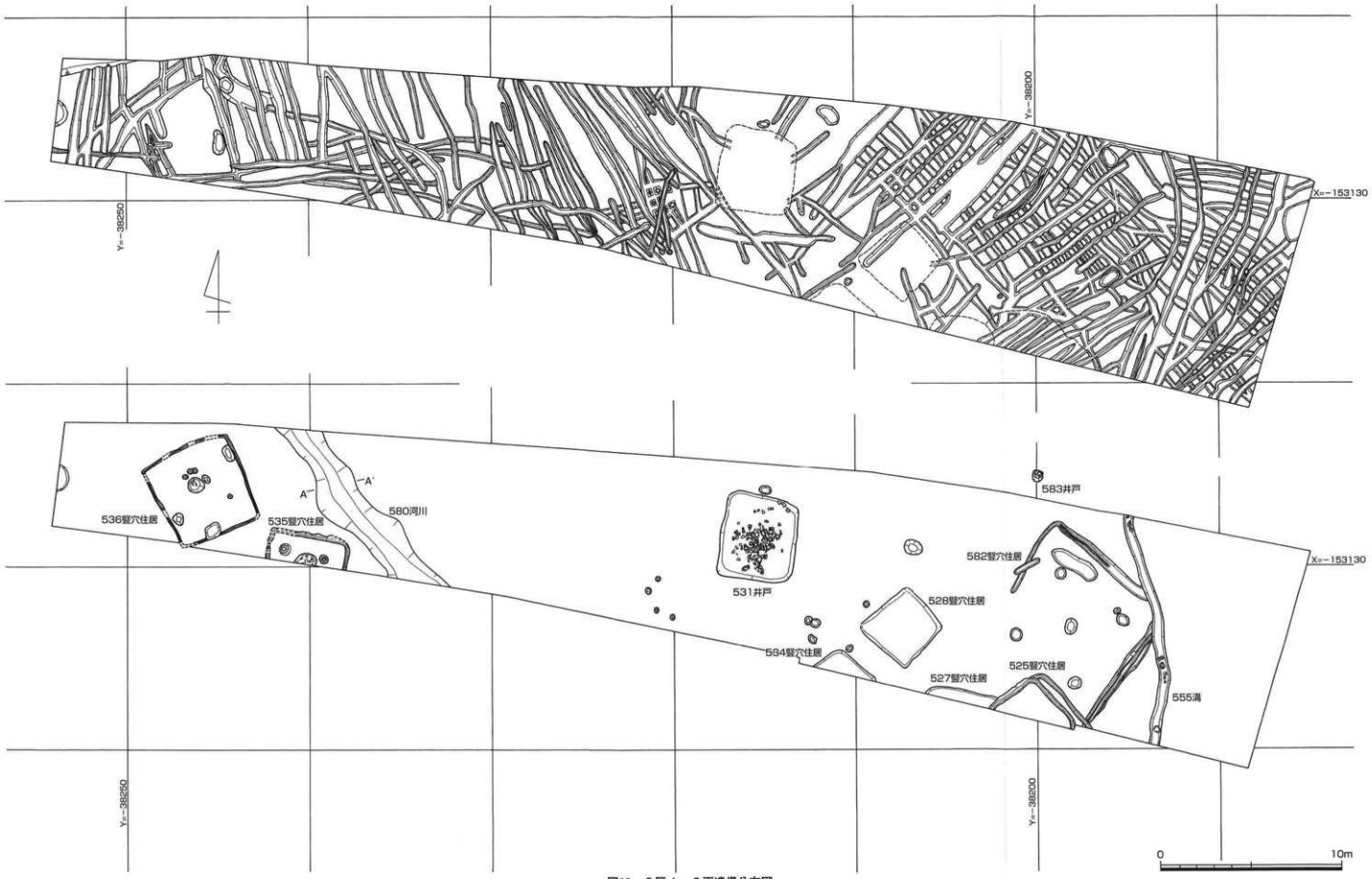


図33　5区4・5面遺構分布図

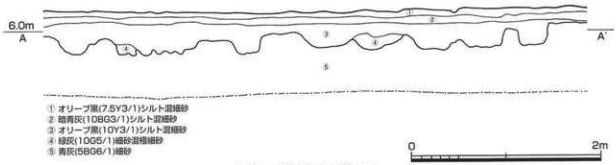


図34　畠耕作土層断面図

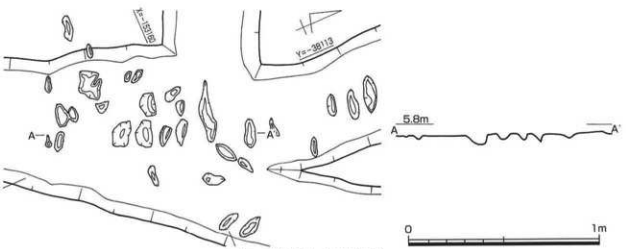


図35　耕作具痕（６層上面）

作が行われていたのであろう。４面において耕作溝群が格子目状に錯綜しているのは、経営期間の長さに応じて耕作方向に変更が加えられたものが混在して検出された可能性もある。６層は河川堆積層に由来する砂層であるため、もとより水捌けはよいが、耕作溝の用途は耕土の排水をより促す機能をもたせたものと解釈している。耕土の横断面（図34：平面位置は図30、図版19）では、１条の耕作溝はＵ字状を呈しており、これが連続して起伏を繰り返している。５－３層中に存在しているが、埋土も同じ５－３層であって溝内埋土としては分離することができない。耕作溝の底には所々に農具痕（図35、図版26）が観察された。これは溝内の５－３層を除去した際に６－１層上面で検出され、鍬先もしくは鋤先の痕跡と考えられる。農具痕のサイズは最大のもので幅20cm、長さ10cm、深さ５cmである。平面形は紡錘形を呈し、溝底のほぼ中央で連続性をもって穿たれた箇所もある。連続性が確認された例では、平均して１単位10～12cm間隔であった。この農具の刃先はＵ字状を呈しており、また単独で対をなさないことから股鍬などの類ではなかったと推定される。

なお、４面の畠作と関連する遺構には３区で検出された315井戸、その周辺の326溝がある。ただ検出面は同じ６層上面であるので便宜的に５面における遺構説明に含めた。

304大溝（図36、図版22）

Ｂ２－ｅ４～ｇ４で検出された大溝である。この遺構も畠作遺構と同じく３・４面に分離することはできない。あえていえば堆積過程の時間差を示すにとどまる。基本的に３面を構成する土壌化した５層は耕土層をなす場合が多いが、304大溝内にも耕土層から連続するように土壌層が堆積している。規模は検出全長20m、最大幅4.5m、深さ1.2mで、南南西から北北東の方向へ直線的に走行する。断面はＶ字に近いＵ字形を呈する。溝壁面の傾斜は底部付近では急峻であるが、表層付近では緩やかに傾斜を減

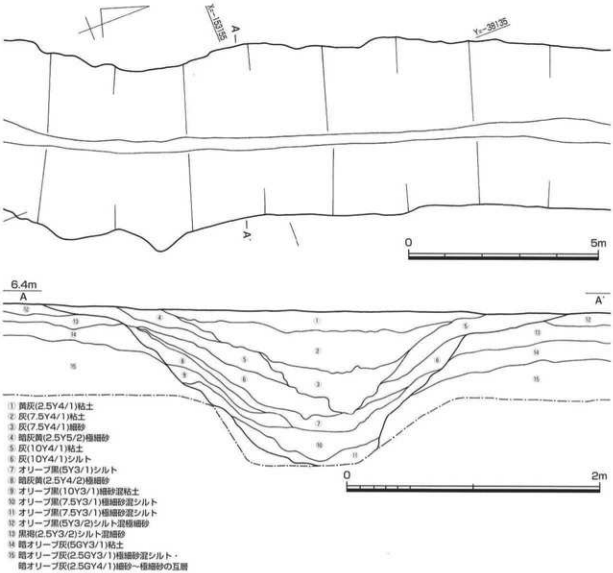


図36　304大溝平・断面図

じる。また周囲に土盛りなどは行われていない。断面観察によれば複数の堆積過程があり、また浚渫された形跡も窺える。断面のラインはベースとなる6層のラミナ層を分断し不整合の関係にあって、これが人工的な開削になることを示している。溝底のレベルは5.0m前後でほぼ一定しているが、周辺地形からみて南南西から北北東への水流があったものと考えられる。この大溝から東側には畠地が展開するが、西側にはほぼ平行する405大溝との間の区域に久宝寺2号墓が築造されている。

出土遺物（図37、図版75）

大溝内から出土した遺物には土器と石製品がある。ほとんどすべて中・下層から出土したものであるが、遺物の総量は少ない。図化できなかったが、上層からは布留式に属する土器片が出土している。これらの他に溝底付近から木片や骨片が出土した。

67は広口壺、68は大形の壺底部である。69は讃岐系複合口縁壺で、口縁部内面に黒色顔料を塗布する。70・71は庄内式甕、72は庄内系高杯、73は有段高杯である。74は小形器台で内外面に密なミガキがある。75は弥生系小形鉢である。76は小形丸底土器で、外面は黒色、内面は赤色に彩色する。

S1は砥石、S2は叩石状の円礫である。S2は両側に敲打痕を有する。

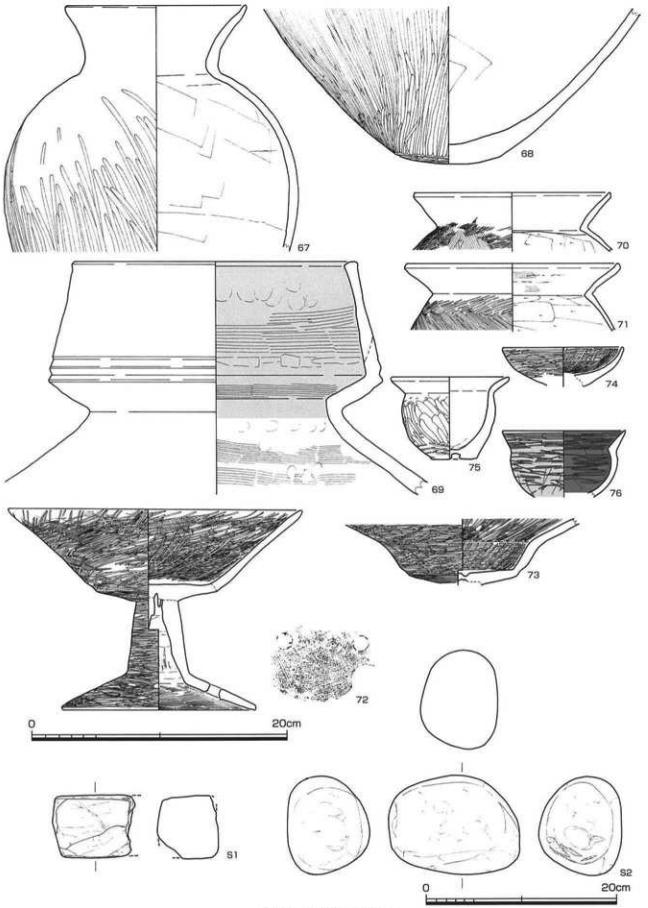


図37　304大溝出土遺物

5面（古墳時代面Ⅲ）

集落遺構面（図32・33、図版28～36）

6層上面。4・5区を中心として検出された古墳時代初頭（庄内式期初頭）の集落遺構群である。この遺構面は、3・4面の畠形成以前の集落遺構面と考えられる。ベース層の耕土化によって3面では完全に破壊されているが、4面では耕作溝のベース層中に辛うじて5面遺構が残存する。したがって5面

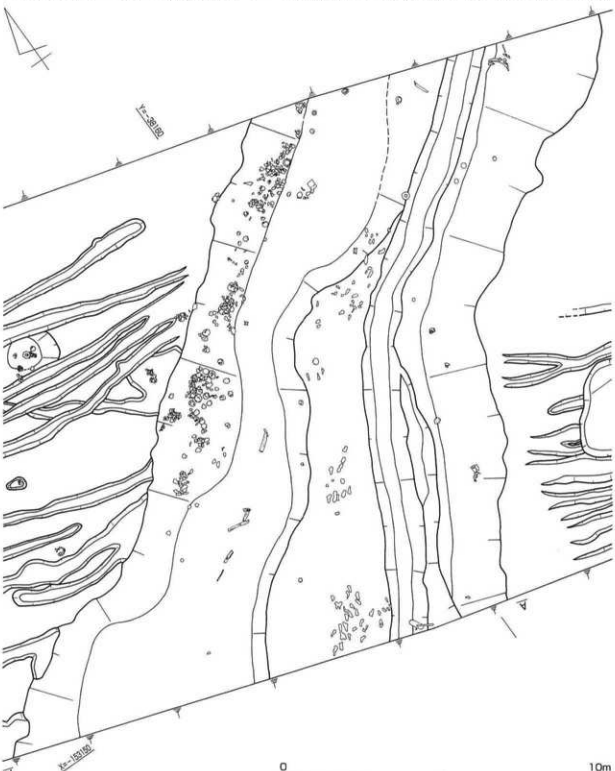


図38　405大溝遺物出土状況図

は意識的に分離された遺構面ともいえ、６層自然堆積物の表層付近が本来の遺構面に近かったはずである。これら遺構群の検出面は４面と同レベルであって、切合い関係から分離できるが層位上での上下関係はない。すべて６層上面検出遺構である。５面遺構は大溝、竪穴住居、井戸、土坑、溝などで構成される。出土遺物量は405大溝を境として東の１～３区は乏しく、西の４・５区は多い。なお、５面は１～３区では存在しないが、それは単に集落遺構が存在しなかったことを示すのみで、調査区の東部域で５面と同時期に畠作が行われていなかったことの証明にはならない。

405大溝（図38・39、図版27・28・30・31）

６層を構成する洪水砂をベースとする。調査区内で検出された６層は、東西方向約200mの広範囲に及んで分布しているが、なかでも405大溝周辺では上面のレベルが最も高い。また層中のラミナの方向は大溝を中心として急激に落ち込んでおり、大溝断面のラインと膚染む箇所すらある。このような状況から、405大溝は本来、６層の洪水砂を供給した自然河川の流芯部であって、これに人為的に手を加えて利水機能を付加した遺構と考えられる。この大溝は304大溝と対をなす主要遺構のひとつであり、少なくとも３面に至るまで長期間に及び流水機能を保持していた。大溝の最大幅は12m、検出全長は26m、深さ2.2mで南西－北東方向に蛇行しながら流水していたようである。断面形状は埋土から何段階かの堆積過程が窺え、また溝底には浚渫された形跡もある。溝内の状況について、各段階の細かい変遷を追うことはできなかったが、３面の段階には大溝中央に中洲状の隆起帯が人工的に設けられ、２条の溝として仕切られていたようである。また３面相当の大溝底には足跡がみられた。東半には小規模な溝が掘り込まれている。

遺物は左岸にあたる北西岸一帯、および左岸寄りの溝底から夥しい量の土器や木製品が出土した。土器はほぼ全てが庄内式古段階のもので、西側に展開する集落遺構の時期と符合し、５面集落遺構群との強い関連が窺える。しかし下層以外の中・上層堆積層からはこれ以降、量的にははるかに減少するが布留式までの土器が出土しており、大溝が３・４面の時期にもなお存在し機能していたことがわかる。

① 灰(5Y5/1)シルト
② 灰(5Y4/1)極細砂混シルト
③ 灰(N5/0)極細砂
④ 青灰(5B5/1)極細砂混シルト,灰白(7.5Y7/1) 粗砂の互層
⑤ オリーブ黒(7.5Y3/2)極細砂混シルト
⑥ 青灰(5BG6/1)極細砂混シルト
⑦ 灰(5Y4/1)極細砂混シルト
⑧ 灰(N5/0)細砂
⑨ 灰(7.5Y4/1)シルト
⑩ オリーブ黒(7.5Y3/2)シルト
⑪ 黄灰(2.5Y6/1)粘土混シルト
⑫ 暗青灰(5B4/1)細砂
⑬ 褐灰(7.5YR6/1)シルト
⑭ 灰オリーブ(5Y6/2)極細砂
⑮ 暗緑灰(10GY4/1),灰白(7.5Y7/1)シルト混細砂の互層
⑯ 灰(7.5Y4/1)シルト
⑰ 灰(N4/0)極細砂混シルト
⑱ 灰(7.5Y5/1)極細砂
⑲ 灰(N4/0)細砂混シルト
⑳ 青灰(5B5/1)細砂混シルト
㉑ オリーブ黒(7.5Y3/2)シルト
㉒ 灰(5Y4/1)シルト混細砂
㉓ オリーブ黒(7.5Y3/2)細砂混シルト
㉔ 青黒(5PB2/1)中砂混シルト
㉕ 灰(7.5Y4/1)極細砂
㉖ 黒褐(2.5Y3/1)シルト混極細砂
㉗ 明黄褐(2.5Y6/6)細砂
㉘ 青灰(10BG5/1)極細砂混シルト
㉙ 灰黄(2.5Y6/2)極粗砂混中砂
㉚ 青灰(5BG6/1)細砂
㉛ 暗オリーブ灰(2.5GY4/1)極細砂混シルト
㉜ 灰白(N7/0)細砂
㉝ オリーブ黒(5Y3/1)粘土
㉞ オリーブ黒(7.5Y3/2)シルト混中砂
㉟ 暗緑灰(7.5GY4/1)粘土

図39　405大溝断面図

出土遺物（図40～48、図版75～78・96・97・102）

土器、木製品、石製品がある。

出土土器は多量であったため、主要なものを取り上げる。

土器には壺、甕、高杯、鉢、器台、製塩土器等の器種がある。77～88は壺である。77は複合口縁壺で、拡張された口縁部外面に鋸歯状の波状紋を飾る。78は口縁部内外面に鋸歯状の波状紋を配した複合口縁壺である。77よりシャープさに欠ける。79は細頸直口壺で、平底を備えている。庄内式初頭にみられる器種である。80はやはり細頸直口壺の系統下の壺であろう。底部は小さい上げ底になっている。81は短頸直口壺で、体部外面のハケ調整に先行するタタキ目をよく残している。82は大形の加飾性垂下口縁壺で、口縁端面に刻目を施す。83は広口壺系の加飾壺で、口縁端部を上方に拡張して円形浮紋と刻目を施している。84は加飾性垂下口縁壺で、口縁部下端に粘土帯を付加して面を作り、数条の擬凹線を描いた後、竹管円形浮紋を貼付する。85・86はほぼ同形、同大の加飾性垂下口縁壺で、非常に丁寧に作られている。口縁部内外面に緻密な波状紋と、装飾面の上下に竹管円形浮紋を連続的に配する。86は頸部内面に黒色顔料を塗布する。87は広口壺系の加飾壺で、口縁端部に面を形成し波状紋と列点紋を装飾する。波状紋は口縁部内面、肩部にもみられる。口縁部の波状紋は一見複雑に見えるが、施紋法が種描で描き直しを行っているためである。88は讃岐系の大形複合口縁壺で、口縁部内外面に黒色顔料を塗布する。

89～106は甕である。89～102は弥生形甕で、体部をタタキ整形し内面をナデあるいはハケ調整する。口縁端部は丸くおさめたものが多いが、97・101・102は上方へやや拡張した尖り気味の口縁端部に作る。底部はおおむね突出した平底であるが、99は突出しない小さい平底をもち、庄内式甕に類似したプロポーションをもつ。103は弥生形をベースとした異形甕で、体部外面はタタキの後に斜方向ハケを施し、内面は板ナデで仕上げる。また口縁部は上方に目立って拡張されている。104・105は庄内式甕である。104は左上がりの細筋タタキ成形で、体部下半に放射状のハケを加えている。105は右上がりの細筋タタキ成形で、体部中央から下半にかけて疎らなハケ調整を行う。いずれも体部内面のケズリ単位はシャープである。106は体部内面ケズリをもつ異形甕で、硬質に焼成されている。

107～110は高杯である。107は在来系の有稜高杯で、外反しながら大きく広がる口縁部を備える。108はおそらく小形の有稜高杯で、東海の影響を受けたものである。109は椀形高杯で、半球形の体部に大きく広がる脚裾をもつ。極めて丁寧な作りである。110は有段高杯で、口縁部と脚裾に有段部を設ける。脚柱部から杯部中心を貫く軸心の痕跡がある。

111～127は鉢である。111～118は形態、製作法ともに小形甕に類似した小形鉢である。およそ右上がりか水平のタタキ分割成形であるが、116はナデ、117はミガキによっている。119は細かく丁寧なミガキを施した小形鉢である。120・121はタタキによる浅い皿型の小形鉢で、分割成形は行われていない。122は同様の形態をとる中形鉢である。123・124は有孔鉢で、123は小形で半球形の体部をもち、124は口縁部が外反する中形のものである。125・126は籠目鉢である。体部外面に籠目の圧痕を良好に残している。浅い籠容器の内面に粘土を圧着して製作されたもので、いずれも籠の底部から口縁部までの圧痕が残る。127は大形の複合口縁鉢である。体部外面はハケ、ナデ、内面はケズリ。

128～136は器台である。このうち128～133は小形器台、134・135は有段器台である。小形器台のうち128は体部が筒形を呈し、129は口縁部が大きく広がっており、いずれも弥生時代後期の大形中空器台の形状を色濃く留めている。130～132は貫通孔をもつ小形器台で、いずれも受部は浅く、口縁部端部にしっかりした面をもつ。133は外面のミガキ調整に、弥生系と庄内系の二種が混用されている。

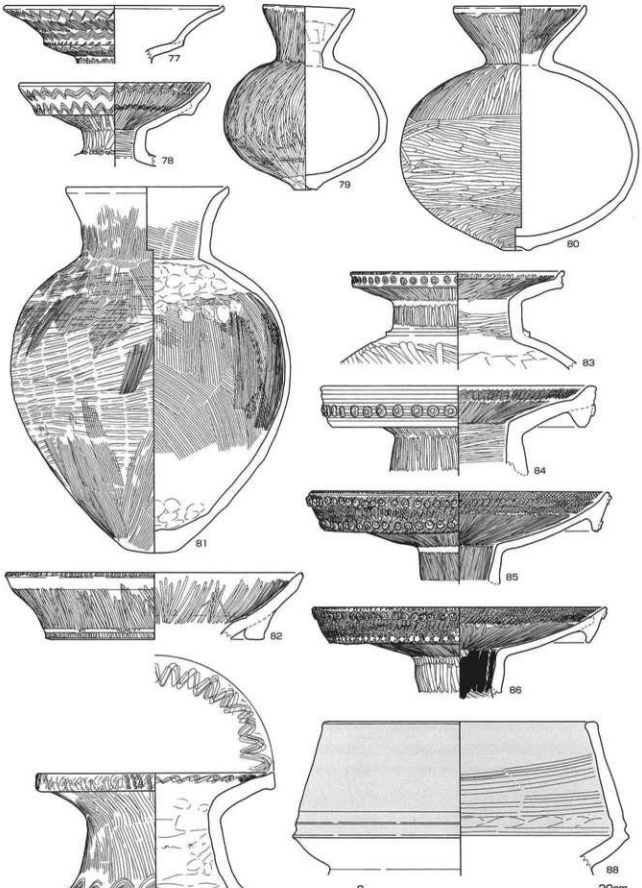


図40　405大溝出土遺物（1）

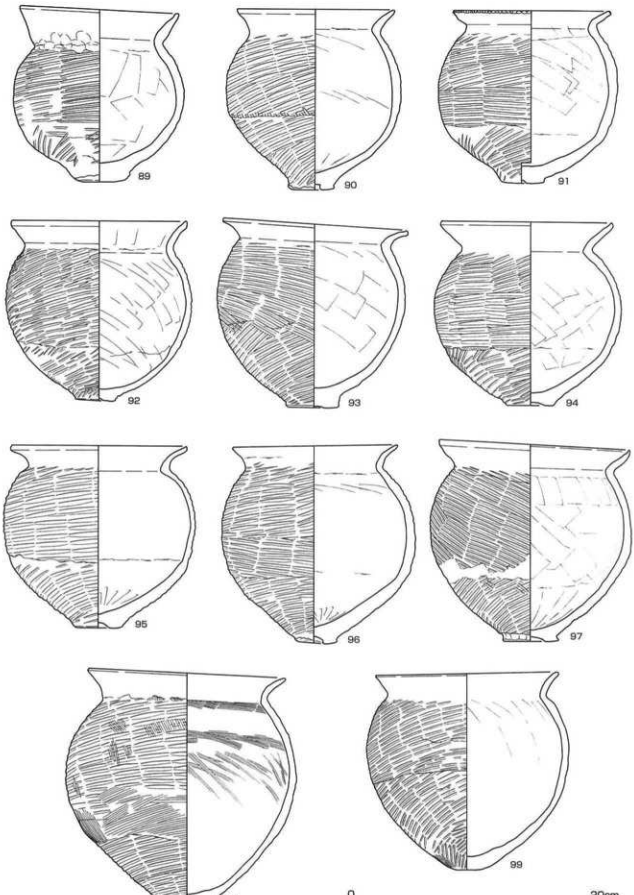


図41　405大溝出土遺物（2）

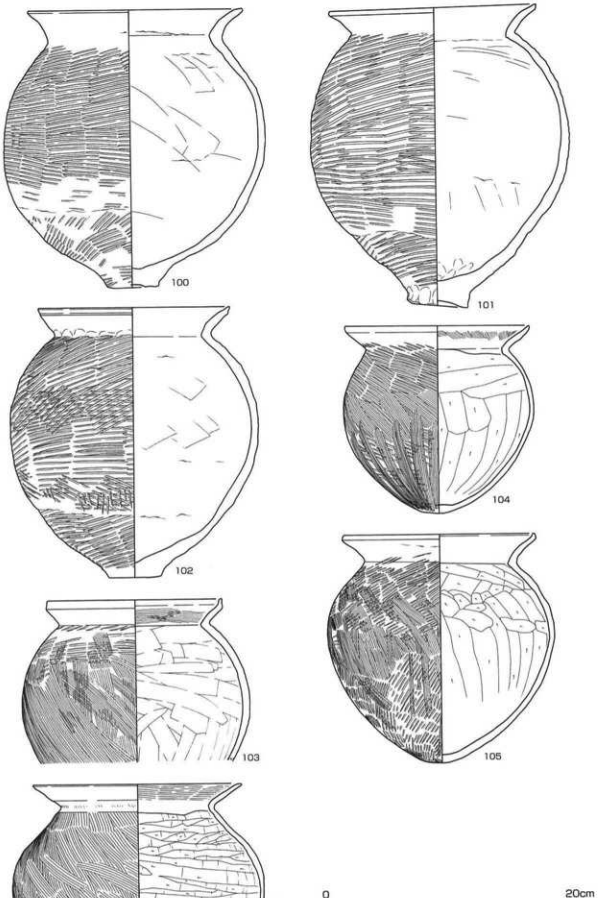


図42　405大溝出土遺物（３）

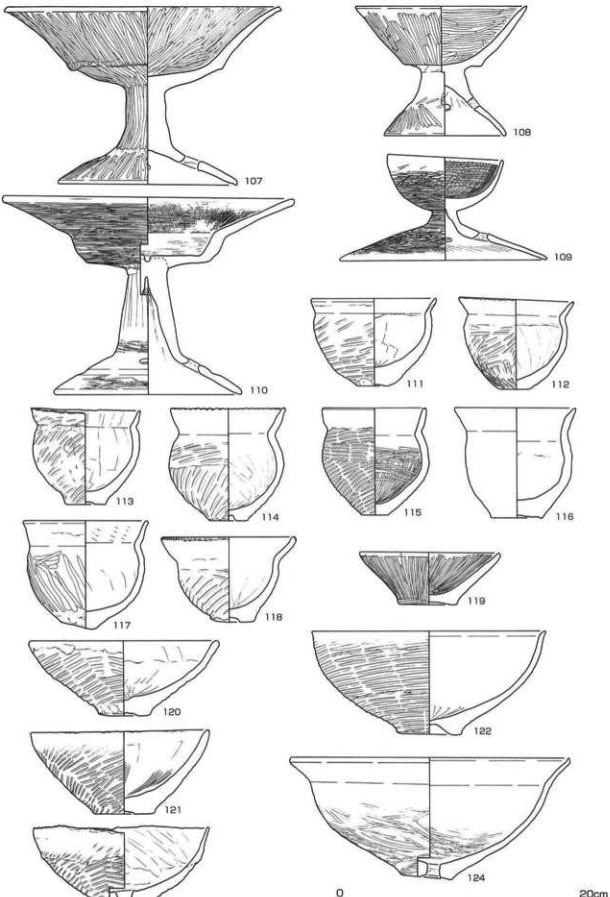


図43　405大溝出土遺物（4）

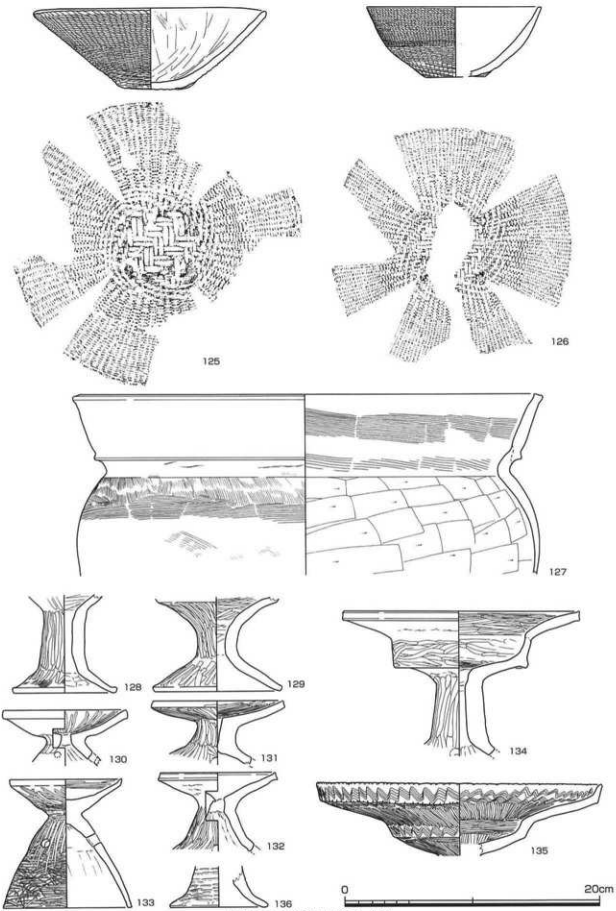


図44　405大溝出土遺物（5）

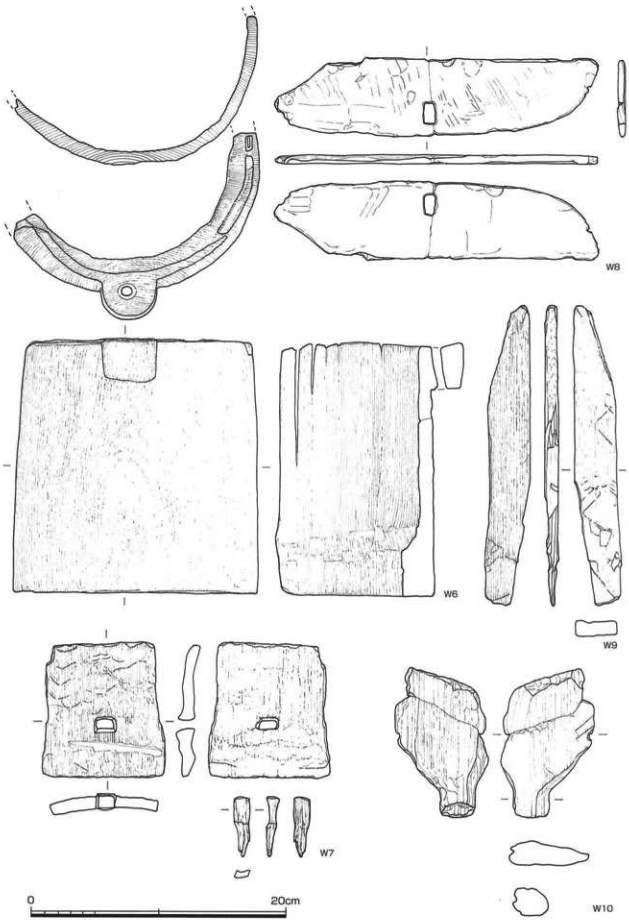


図45　405大溝出土遺物（6）

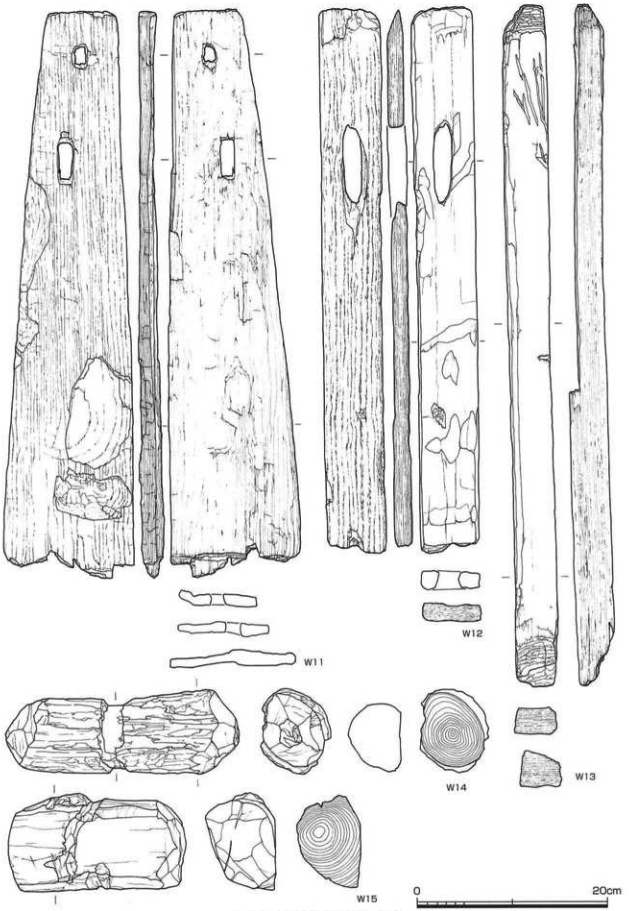


図46　405大溝出土遺物（7）

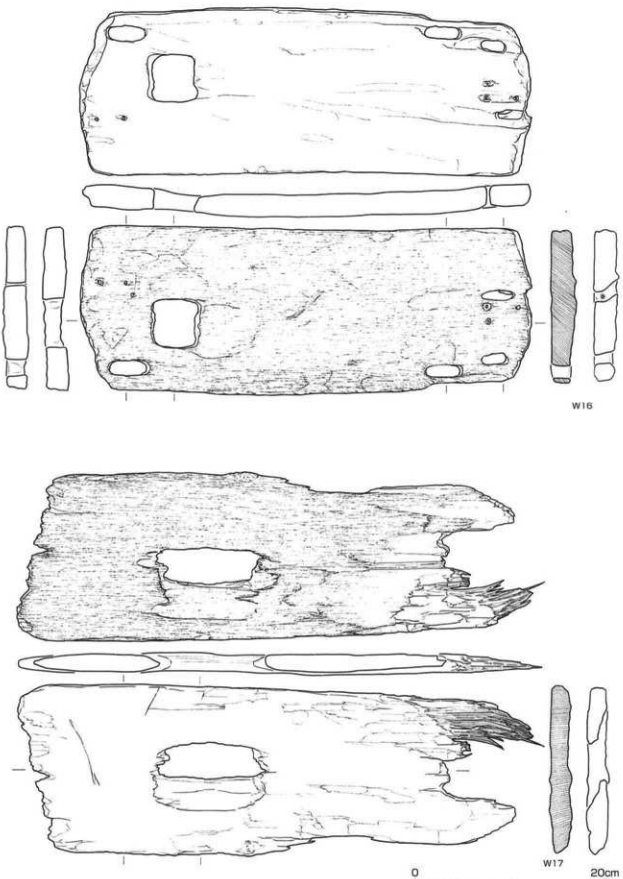


図47　405大溝出土遺物（8）

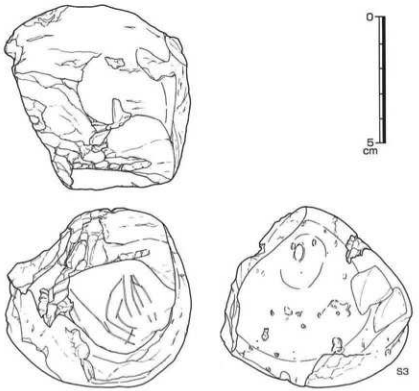


図48　405大溝出土遺物（９）

134は有段部が明瞭で無骨な作りの有段器台で、脚柱部中心に長い貫通孔がある。135は加飾性有段器台とみられ、上方に拡張した口縁端部内外面と有段部直上に鋸歯状の波状紋を配する。

136は製塩土器である。脚台Ⅱ式。

木製品は用途不明のものが多いが、容器や農耕具、雑具、建築部材などがある。Ｗ６は刳物桶である。底板はなく側のみである。一木を刳り抜き、底部にあたる側壁を厚く作る。口縁部外面に平面形が半円を呈する突起を設け、中央に小円孔を穿っている。弥生時代後期の石川県西念南新保遺跡に類例がある。Ｗ７は断片のため詳細はわからないが、刳物桶など容器の一部と思われる。側面に方形孔を穿ち、木製の栓が嵌入されていた。Ｗ８は半月状の板の中央に方形の孔を穿った木製品で、農具の可能性がある。Ｗ９は用途不明木製品で、何らかの器種の断片であろう。Ｗ10は農具で、鍬もしくは鋤の軸付近の断片である。Ｗ11～13は建築部材の一部であろう。Ｗ11・12は板状に加工した素材に枘孔を設けている。Ｗ14・15は木錘である。いずれも芯もち材の両端を落として、中央に縄掛けの溝を削り出す。Ｗ16・17は建築部材かと思われ、長方形の板に枘孔を穿つ。

石製品として線刻石製品Ｓ３がある。火山岩（軽石）の亜角礫の一端を削って面を作り出し、その面に女陰を印刻する。線刻は非常に繊細である。

477掘立柱建物（図49・50）

Ｂ２－ｄ９・ｅ９に位置する掘立柱建物で、417～420ピットで構成される。主軸の方位はＮ－45°－Ｗである。南辺２間、東辺１間が確認され、柱間は南辺で1.65m、東辺で2.7mである。柱穴は直径30cm前後で、深さは10cm前後で浅い。遺物は出土しなかった。

428竪穴住居（図49・50、図版39）

Ｂ２－ｄ８・９、ｅ８・９で検出された方形竪穴住居である。４区で全面積の約半分が確認されたが、５区では検出できなかった。４面の耕地化により削平されて壁体は存在せず、壁溝の存在によって辛う

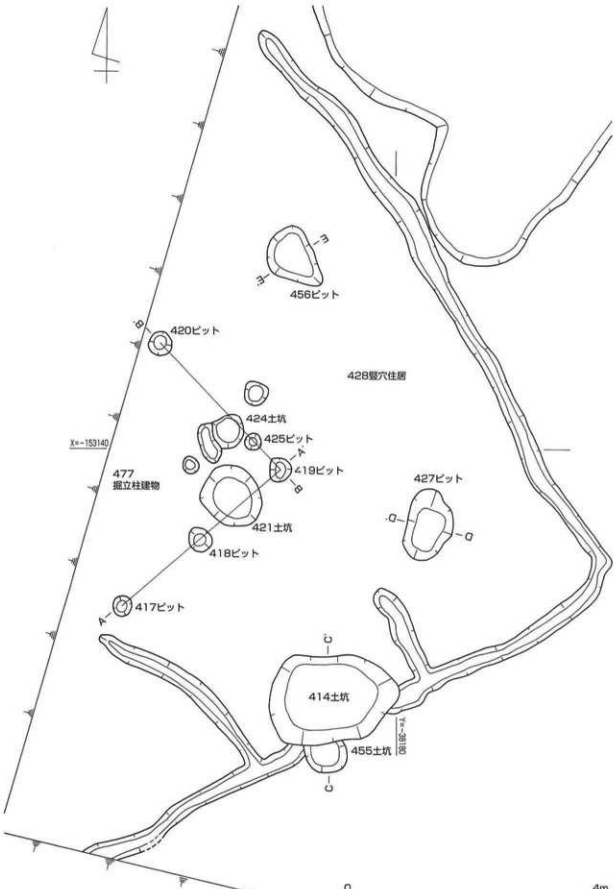


図49　477掘立柱建物・428竪穴住居平面図

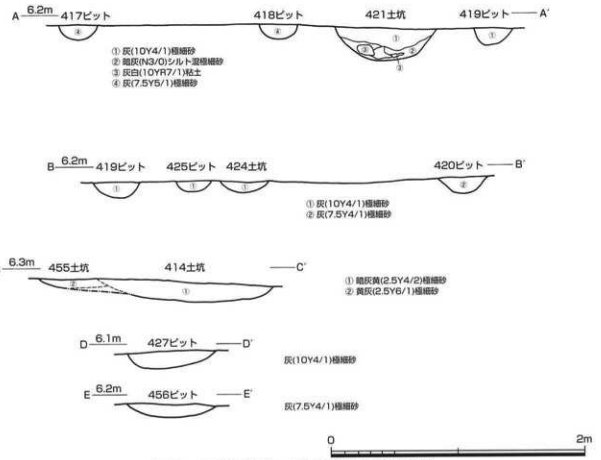


図50　477掘立柱建物・428竪穴住居内遺構断面図

じて確認できる状況であった。主軸の方位はＮ－28°－Ｗで、壁溝からみると南辺10m以上、東辺9.6m以上の大形竪穴住居である。壁溝は幅0.3m、深さ５cm前後で、南と東の２辺を構成する。柱穴と考えられる427・456ピットの２ヶ所が確認された。いずれも長軸１m以上、短軸0.8m前後で、深さは0.3mである。若干サイズが大きいが、損傷の結果とみられる。住居内施設として421・414土坑がある。421土坑は住居床面のほぼ中央に位置し、炉などの施設の可能性がある。長軸１m、短軸0.9mの楕円形を呈し、深さは約0.3mである。南辺の中央には414土坑があり、その両側に壁溝からほぼ垂直に分岐した小溝が走る。414土坑は長軸２m、短軸1.4mの不整楕円形で、深さは0.3mである。

出土遺物（図58）

414土坑から弥生系の小形鉢141が出土した。

582竪穴住居（図51・52、図版39・43）

Ｂ２－ｃ10・ｄ10・Ｂ３－ｃ１・ｄ１で検出された方形竪穴住居で、住居北東の隅角部では555溝に、また南側では525竪穴住居に切られている。４面の耕地化により削平され、壁体は遺存しない。東辺8.4m、北辺8.1mの大形竪穴住居である。周溝は北辺・東辺と、西辺の一部が残る。主軸方向は477竪穴住居に類すると考えればＮ－50°－Ｗである。壁溝は幅0.6m、深さ0.1mである。柱穴は566～569ピットの４ヶ所で、規模は直径0.7m前後、深さ0.7～0.9m前後である。すべての柱穴底には礎板が残存する。566・569ピットの礎板上には、鳥巣様の丸く束ねた植物性繊維が敷かれており、柱根の圧痕らしいへこみが観察された（図版99）。住居の中央には547土坑がある。長径0.9m、短径0.7mの楕円形を呈し、深さは0.2mである。埋土に炭化物や焼土塊が含まれていて炉跡と考えられる。埋土内には棒状のものを刺

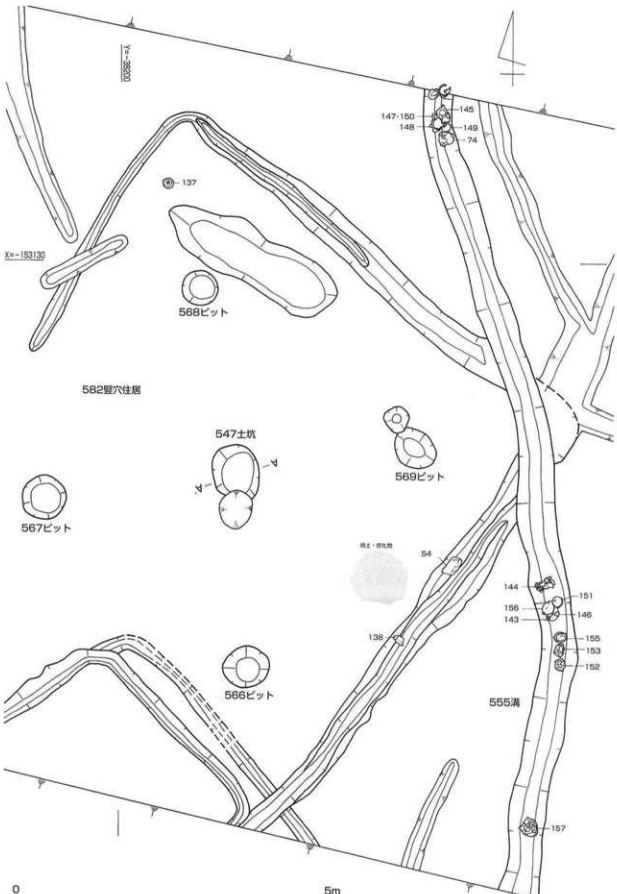


図51　582竪穴住居・555溝平面図

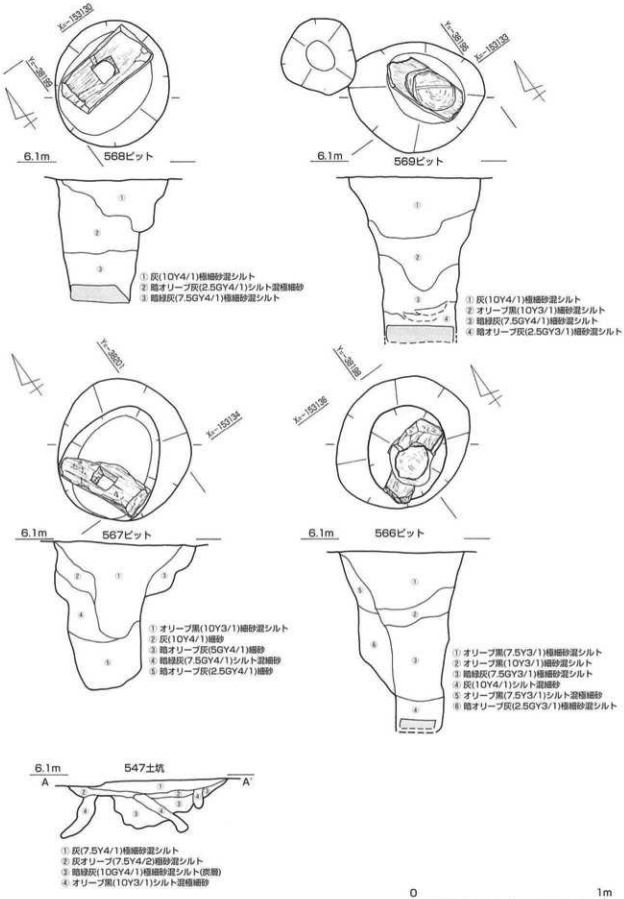


図52　582竪穴住居内遺構平・断面図

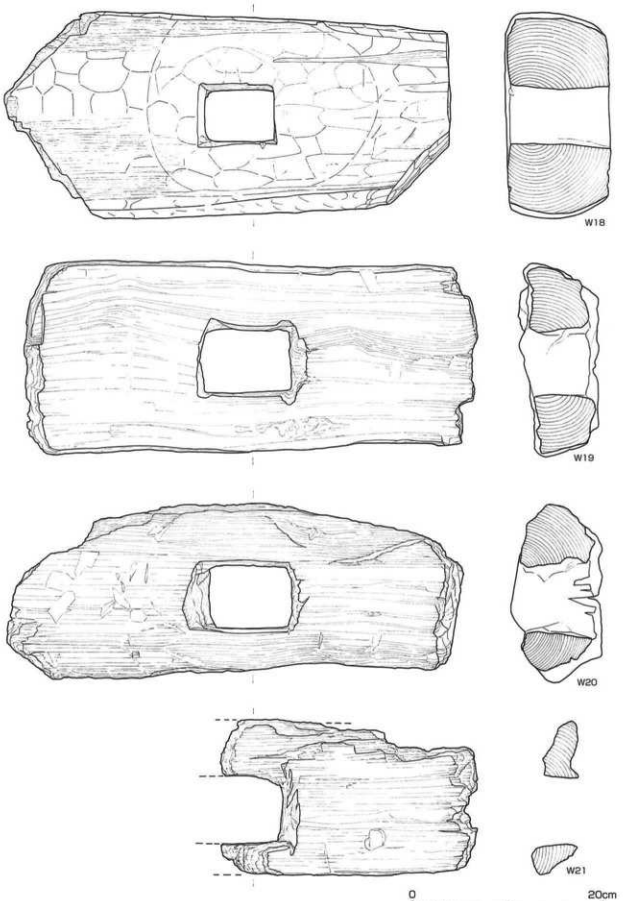


図53　582竪穴住居柱穴礎板

したような痕跡がみられ、その埋土にも炭化物や焼土塊が混入していた。

出土遺物（図53・58、図版98・99・102）

582竪穴住居からは木製品の礎板を含め、土器・石製品が出土した。

土器は137・138である。137は加飾性垂下口縁壺で、口縁部を床面に伏せた状態で住居北西隅から出土した。口縁部内外面に波状紋、外面に竹管円形浮紋を飾る。138は東辺壁溝内から出土した大形鉢である。内外面にミガキを密に施す。

木製品は礎板W18～21である。いずれも中央に方形の枘孔があり、柱材や梁材などの建築部材を切断し、礎板として転用したらしい。W18はヒノキ製礎板で、569ピットから出土した。片面には、おそらく建築物の段階で枘孔周辺に組み合わされていたとみられる、別材の痕跡が残っていた（図版43）。W19～21はいずれもコナラ亜属の礎板である。W19は568ピット、W20は567ピット、W21は566ピットから、それぞれ出土した。W21は遺存状態が不良であるが、本来は他の礎板のように枘孔を中心にして両側が残っていた。W18・21の上には前述のように、中央に鳥巣様に巻かれた植物性繊維の束が置かれていた。柱材を建てる際の調整に用いたものであろう。

石製品は石臼Ｓ４である。東辺壁溝内から出土した。大形の方形石材であるが、完形ではなく破損している。表面は滑らかで擦痕がある。

525竪穴住居（図54、図版40）

Ｂ２－ｄ10・Ｂ３－ｄ１に位置する方形竪穴住居である。582・527竪穴住居を切っている。南北軸を基準にすると主軸はＮ－45°－Ｅである。規模は北東辺3.8m、北西辺3.2m以上を本来の規模とするが、北西辺を軸に北東方向へ0.5m拡張する。また南東側にも床面積を拡大させているが、調査区外に及ぶため範囲は不明である。遺存する壁体の高さは0.2mである。床面の周囲に幅25cm、深さ５cm前後の壁溝が巡る。床面は平坦で、柱穴をはじめ付属する遺構は検出されなかった。また出土遺物も皆無である。

527竪穴住居（図54、図版40）

Ｂ３－ｄ１に位置する方形竪穴住居である。525竪穴住居に切られている。調査区の端に辛うじてか

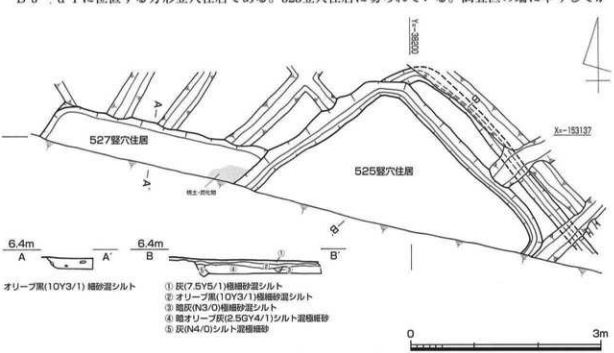


図54　525・527竪穴住居平・断面図

かる検出範囲であったため、北辺を含む一部が確認されただけである。南北軸を基準にすると主軸はN－15°－Eである。北辺は東側で525竪穴住居に切られており、残存長は3.3m、壁体の高さは0.1mである。壁溝を含め、床面から住居に付属する遺構は検出されず、また遺物も出土しなかった。

528竪穴住居（図55、図版41）

B3－d1に位置する方形竪穴住居である。南北軸を基準にすると主軸はN－50°－Eである。規模は北東辺3.0m、北西辺3.5m、壁体の高さ0.2mである。壁溝を含め、床面から住居に付属する遺構は検出されず、また遺物も出土しなかった。

534竪穴住居（図55、図版41）

B3－d1・d2に位置する方形竪穴住居である。調査区の端で一部が検出されたにとどまる。南北軸を基準にすると主軸はN－50°－Eである。規模は北東辺2.8m、北西辺1.8m以上で、壁体は5㎝程度しか遺存しない。床面の周囲に幅20～30㎝、深さ5㎝の周溝が巡る。床面から住居に付属する遺構は検出されず、また遺物も出土しなかった。

535竪穴住居（図56、図版42）

B3－c4・c5に位置する方形竪穴住居である。調査区の端で一部が検出されたにとどまり、また耕作溝による損壊が著しい。南北軸を基準とすると主軸はN－15°－Eである。規模は北辺4.3m、西辺1.7mで、壁体は全く遺存していない。床面から538・539ピットの2柱穴が検出された。柱穴は径約0.5mの不整円形を呈し、深さは0.4m前後である。床面の周囲には幅20～30㎝、深さ20㎝の周溝が巡る。床面には炭化物と焼土の薄い層が広がっている。両柱穴間の南寄りに548土坑があり、埋土に炭化物や焼土塊を多く含むことから炉と考えられるが、床面の炭化物等はこれに由来する。548土坑は部分的な検

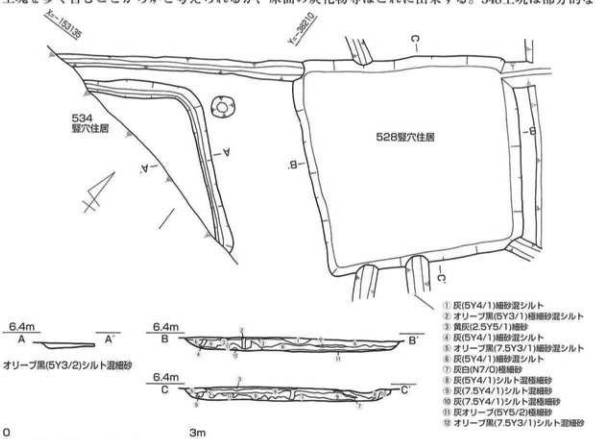


図55　528・534竪穴住居平・断面図

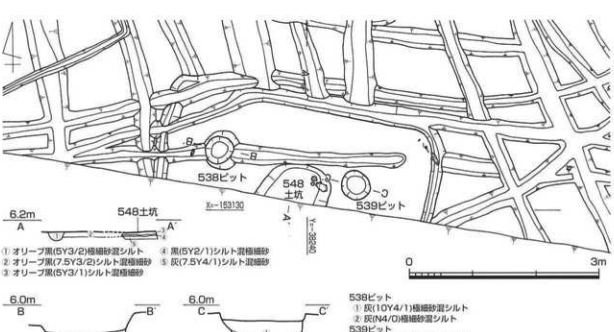


図56　535竪穴住居平面図・住居内遺構断面図

出であるが、東西軸1.1mの不整楕円形を呈するとみられる。深さは0.1mである。検出位置が北側の柱穴列に接近している位置関係から推定すると、住居床面の中央部分より、やや北側に偏って設けられているようである。

出土遺物（図58）

削平が激しいためか床面から遺物は出土しなかったが、548土坑から139・140が出土した。139は弥生形甕である。140は有稜高杯で、口縁部が大きく外反する在来系のものである。

536竪穴住居（図57、図版42）

Ｂ３－ｃ５に位置する方形竪穴住居で、ほぼ全景が検出された。耕作溝による損傷が著しく、壁体は遺存していない。主軸の方位はＮ－20°－Ｗで、壁溝からみた規模は東西軸5.0m、南北軸5.3mである。壁溝は幅0.2m、深さ５cm前後で床面を全周して方形に囲んでいる。柱穴は全く検出されなかった。住居内施設として540・546土坑がある。546土坑は住居床面のほぼ中央北寄りに位置し、炉の可能性がある。径0.6～0.7mの不整円形を呈し、深さは約0.3mである。土坑の壁面には、582竪穴住居と同様に棒状のものを刺した痕跡がある。南辺の中央には540土坑がある。長軸0.9m、短軸0.7mの不整楕円形で、深さは0.3mである。

出土遺物（図58）

削平が激しいためか床面から遺物は出土しなかったが、540土坑から142が出土した。142は底部から体部、体部から口縁部の間に明瞭な稜線を作るシャープな小形鉢である。丁寧なミガキを加えている。

555溝（図51、図版44）

Ｂ２－ｄ10～ｃ10にかけて、緩やかに蛇行しながら北上する溝である。582竪穴住居の北東角を切っている。検出全長は12.6m、幅0.6mで、深さは0.2～0.3mである。溝内からは土器がまとまって出土した。遺物は検出範囲の北端と南半にそれぞれ集中している。

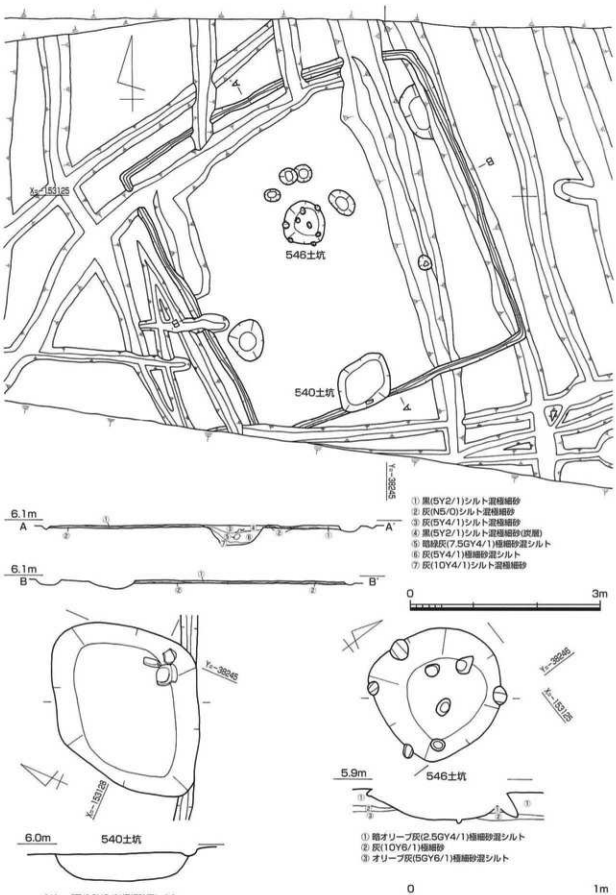


図57　536竪穴住居平面図・住居内遺構断面図

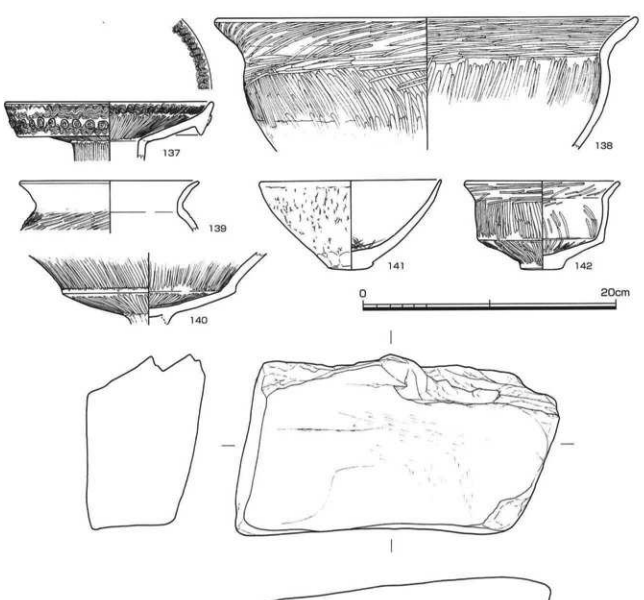


図58　竪穴住居出土遺物

出土遺物（図59・60）

555溝からは高杯、鉢、甕が出土した。143・144は有稜高杯である。いずれも口縁部と体部を区画する明瞭な稜線をもち、口縁部が大きく外反する在来系の高杯である。145は在来系の椀形高杯で、シャープさに欠ける。146は小形甕類似形態の小形鉢である。口縁部を上方に鈍く拡張し、外面をミガキで仕上げる。147～157は弥生形甕である。体部はいずれも右上がり、水平方向のタタキで成形し、内面をハケ、ナデで仕上げた通有のものである。口縁部は丸くおさめたものが多いが、148・151・155は端部を短く上方に拡張し、外面に擬凹線を施す。体部は張りの強いものや倒卵形のものが多いが、156のようにやや長胴の個体もある。

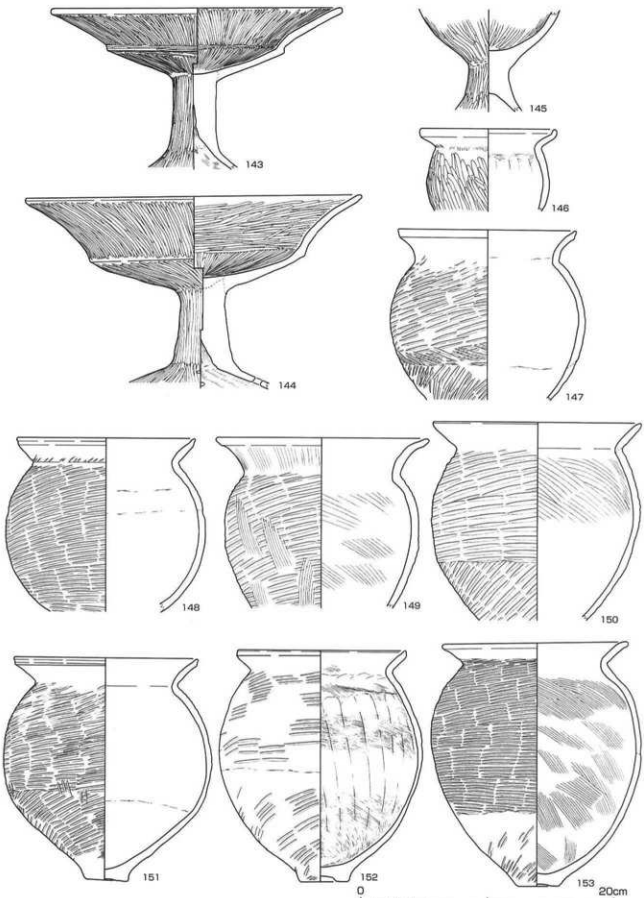


図59　555溝出土遺物（1）

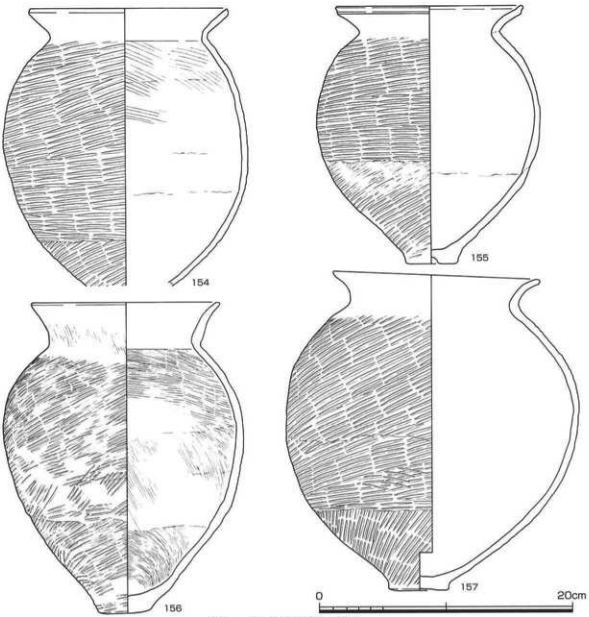


図60　555溝出土遺物（2）

412土坑（図61、図版33）

Ｂ２－ｄ８に位置する土坑である。長軸4.6m、短軸2.8mの不整長方形を呈する。深さは北側が南側より深く、0.4mである。灰色系極細砂を埋土とし、主として遺構の北半の底付近から土器が比較的まとまって出土している。

出土遺物（図62）

158～161は壺である。158・159は広口直口壺、160は加飾性複合口縁壺である。161は複合口縁壺である。162～164は高杯である。162・163は有稜高杯である。162は稜線がやや不明瞭で、口縁部は直線的に大きく広がる。163は通有のものに比べて脚部に対し杯部が小さい。164は椀形高杯である。165～170は通有の弥生形甕である。

413土坑（図63、図版33）

Ｂ２－ｄ８・ｄ９に位置する土坑である。長軸4.8m、短軸5.4mで、平面形は不定形である。深さは0.1m余で、灰色系極細砂を埋土とする。遺構の底部から土器がまとまって出土した。出土土器には帯状

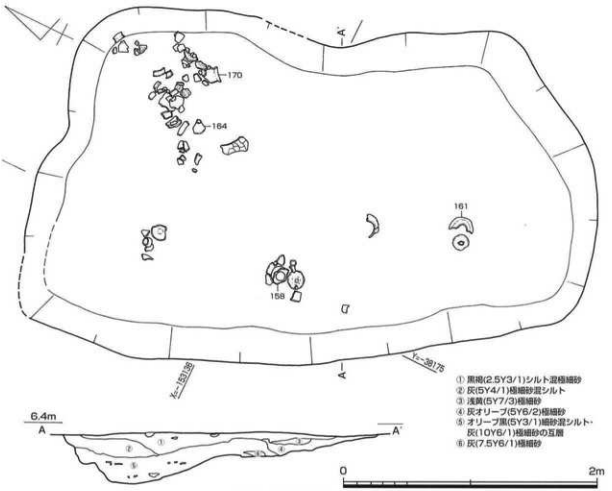


図61　412土坑平・断面図

に並ぶものがあり、これらは耕作溝群に由来する可能性もあるが、明確に分別できなかった。

出土遺物（図64）

171・172は壺である。171は広口直口壺、172は口縁部に円形の穿孔をもつ広口壺である。173～175は有稜高杯である。173・174は明瞭な稜線と外反気味に広がる口縁部を備える。175はやや小形で、稜線は明瞭でない。176～178は小形鉢である。176は口縁部を失っている。177はしっかりした平底と、体部から外折する口縁部を備える。178は有孔鉢である。179～182は弥生形甕である。181は下膨れの体部をもつ。183は弥生形台付甕の脚台部である。

407土坑（図65、図版32）

Ｂ２－ｅ８に位置する。３面で確認されたが、遺構の性格上、５面に属する可能性が高い。長軸3.0m、短軸1.2mの南北に長い不整形を呈する。深さは0.3mである。

出土遺物（図66）

有稜高杯184が出土した。口縁部は稜線から大きく外反する。

408土坑（図65、図版32）

Ｂ２－ｅ８に位置する。３面で確認されたが、遺構の性格上、５面に属する可能性が高い。径0.5m前後の不整円形を呈する。深さは0.1mであるが、検出面より高い位置で出土したので本来の遺構面のレベルは現状より高いはずである。

出土遺物（図66）

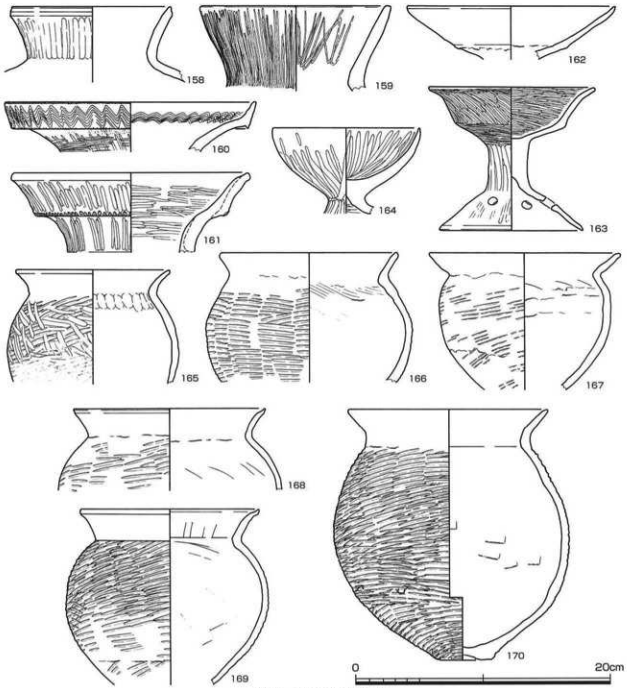


図62　412土坑出土遺物

外来系の壺190が出土した。北陸系の壺で複合口縁の外面に直線紋を施す。体部は球形に近い。

415土坑（図65）

Ｂ２－ｅ８、405大溝の左岸に位置する。長軸4.2m、短軸1.8m以上の不整形な土坑である。耕作溝群による損壊が激しい。深さは0.3mである。

出土遺物（図66）

185は庄内式甕である。突出しないやや広めの平底をもち、口縁端部は丸くおさめる。内面ケズリを行うが器壁は肉厚である。186は弥生形甕である。

437土坑（図65）

Ｂ２－ｅ７・ｅ８に位置する土坑である。長軸0.9m、短軸0.45mの不整形な土坑で、深さは約0.2mで

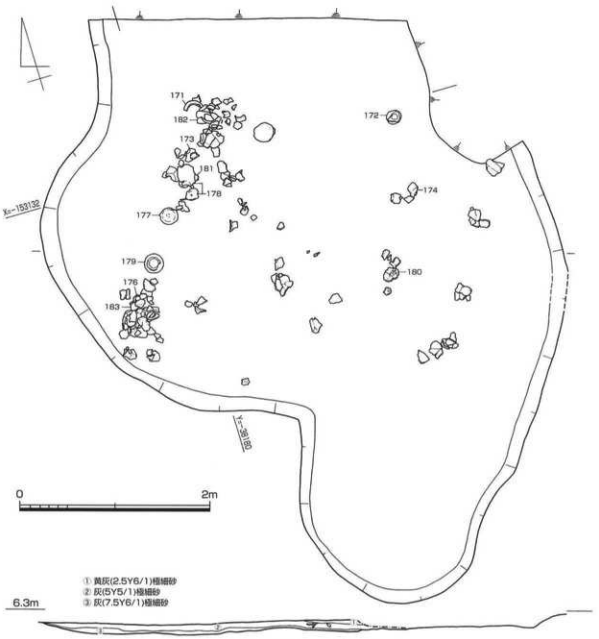


図63　413土坑平・断面図

ある。黄灰色極細砂を埋土とする。

出土遺物（図66）

庄内式甕189が出土した。シャープな作りで器壁は薄い。

448土坑（図65）

Ｂ２－ｄ８に位置する土坑である。径約0.5mの不整円形を呈する。深さは６㎝であるが、検出面より高い位置で遺物が出土したので、本来の遺構面のレベルは現状より高いはずである。

出土遺物（図66）

187は甕に類似した形態の小形鉢である。188は弥生形甕である。

315井戸（図67、図版25）

Ｂ２－ｇ２で検出された井戸で３区４面に属するが、編集の都合上ここにまとめた。ただし５面と時間的に重なる可能性は皆無ではない。３面が４－１～３層によって埋没する段階にはすでに完全に埋没

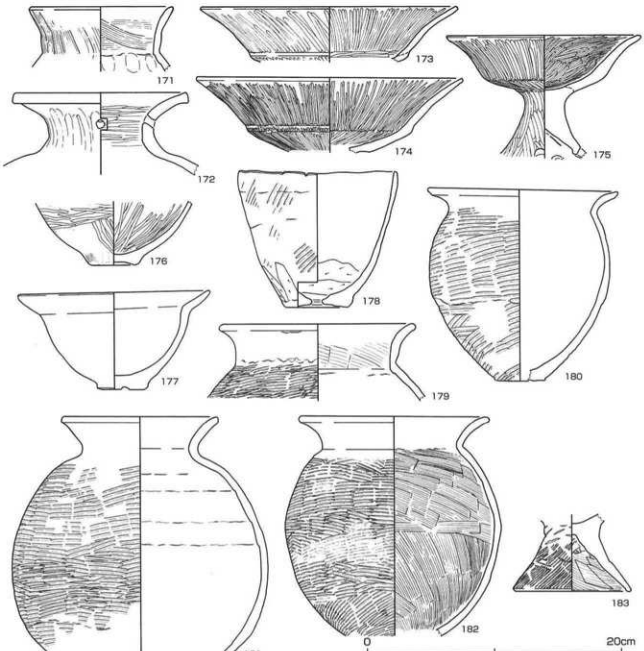


図64　413土坑出土遺物

を完了している。すなわち315井戸の上を耕土層である5層が覆う状況であった。ただし井戸直上の5層は、周囲の平坦面から比べて円形に窪んで落ち込んでおり、その周囲が耕土化していたかどうかはわからない。少なくとも4層の堆積直前には廃絶していたということである。

検出面の標高は4.7mである。井戸の掘形は南端が調査区外に及んでいるが、全形の大半が検出されている。平面形は長径2.8m以上、短径2.4mの不整楕円形を呈する。深さは1.1mである。埋土は下層から擂鉢状に堆積している。掘形の中心よりやや南側にずれた位置から井筒が検出された。この井筒は2個体の木製桶を転用したもので、上下2段組に重ねていた。出土位置からみて井戸の改築に伴った掘り直しによる最終段階の井戸の状況とみられる。したがって井筒の掘形などが存在したと考えられるが、湧水による崩壊が激しく詳細は明らかにできなかった。井筒の遺存状況は極めて不良であった。検出時点ですでに崩壊を起こしており、周囲に型枠を組んで保存処置を講じたので、井筒設置状況などの詳細は

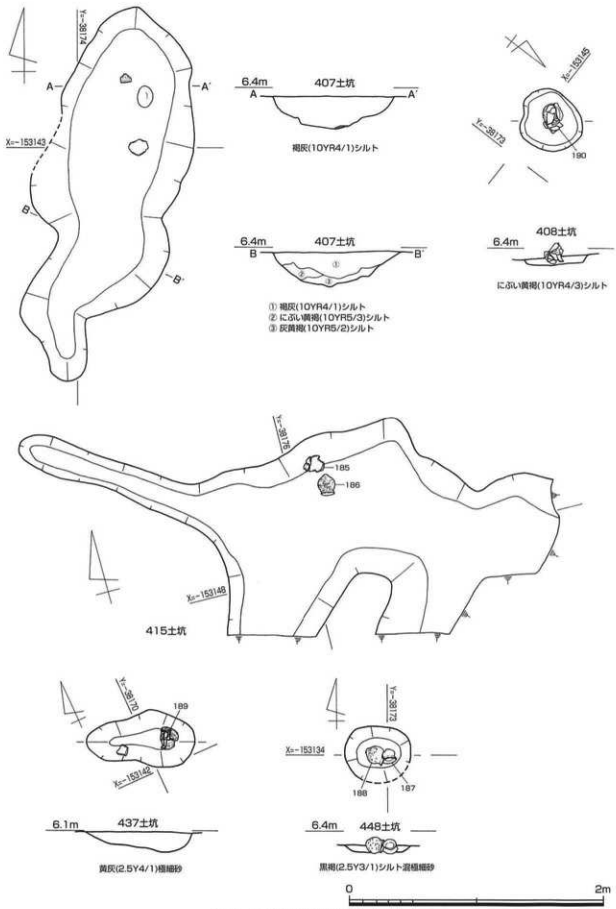


図65　5面その他の土坑平・断面図

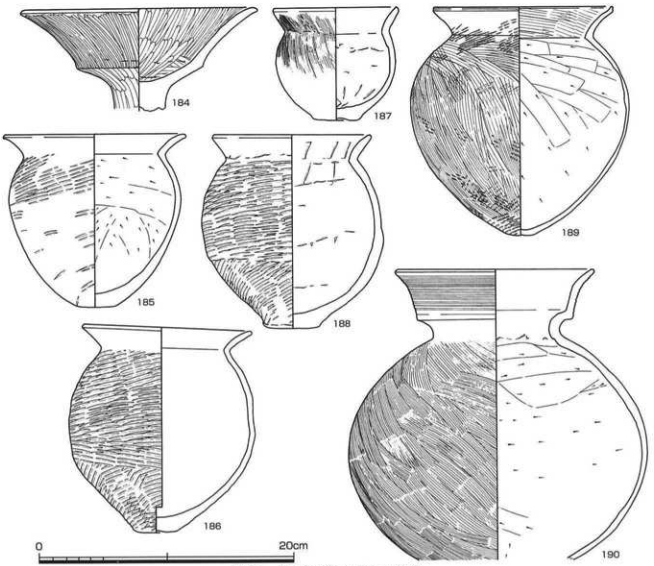


図66　5面その他の土坑出土遺物

一切明らかではない。

遺物は掘形からはほとんど出土しなかったが、井筒内から土器や木製品が出土した。

出土遺物（図68・69、図版100）

井筒内からは土器191～196、木製品W22が出土した。井筒はW23である。

191は口縁部内外面にミガキを加えた直口壺である。192は球形の体部に広い平底をもつ壺で、口縁部上半を意図的に打ち欠いている。193は有孔鉢で、体部外面にタタキ目を残す。194は高杯の脚柱部で、ミガキの状況から庄内系高杯とみられる。195は庄内式甕でシャープな作りである。196は弥生形甕で、体部内面はハケの後、強いナデを施す。

W22は舟形木製品である。破損しており、先端の両側が鋭角的に削り込まれていることから、舳先にあたる部分とみられる。底面は平らで、上面は緩やかに刳り込まれている。先端部と右舷よりの底に小孔を穿っている。一部に焼けた痕跡がある。

W23は井筒である。井筒は2個体あって、上下2段に組まれていたうちの下段の個体にあたる。保存のための処置を講じた時点で小断片の状態に崩壊しており、実測図は保存処理後に接合復原した個体から作成した。ただし樹種はサクラ属で、広葉樹のために保存処理による変形が著しい。上段の井筒は

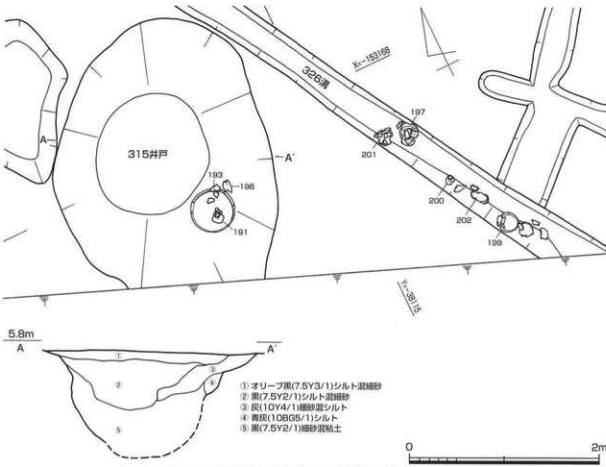


図67　315井戸平・断面図・326溝遺物出土状況図

個々の断片の変形が著しく、復原できなかったが、下段のものとほぼ同様である。W23は直径約45cm、高さ約64cmの井筒で、刳物桶を転用したものである。円筒形で器壁の幅は2.5cmであるが、下端から12.5cmの高さまでは約７cmと厚めに刳り出している。この部分には５箇所の穴がほぼ等間隔に穿たれている。この穴は長さ0.4～0.5cm、幅0.8～1.0cmの方形で、深さは1.3cmで器壁を貫通しない。この部分に桶の底板を嵌めた痕跡であろう。またほぼ同じ位置を朱塗りの痕跡が１cm強の幅で帯状に全周している。外面に加工痕はないが、樹皮の一部が火熱を受けて炭化している。内面は口縁部から底部付近まで細長い切削痕が残るが、底部の厚みがある部分の内面は切削痕がやや広めの面をもつことから、それぞれ異なった工具の使用が考えられる。

326溝（図67、図版26）

Ｂ２－ｇ２・ｈ２に位置し、315井戸の東側に走行する溝である。３区４面。この溝から井戸周辺を含めた西側には耕作溝が検出されなかったことから、井戸遺構と有機的な関連がある区画溝に類した性格をもつものと考えられる。この溝は315井戸の北側で方向を変え、西方向に折れるようであるが、耕作溝群が錯綜しており明確ではない。東北東－西南西の方向でほぼ直線的である。検出全長は８ｍ、深さは0.2mで、溝内から土器がまとまって出土した。土器は315井戸南側の溝内に集中する。

出土遺物（図70）

197・199は壺である。197は複合口縁壺で、複合部分の屈曲は弱いが、外見上は強調されている。199は加飾壺の体部で、肩部に細かい波状紋を施す。この施紋は９～10条に及ぶが、おのおの独立したものではなく、螺旋状に描いたものである。頸部には突帯を設け刻目を巡らせる。200は庄内系高杯である。

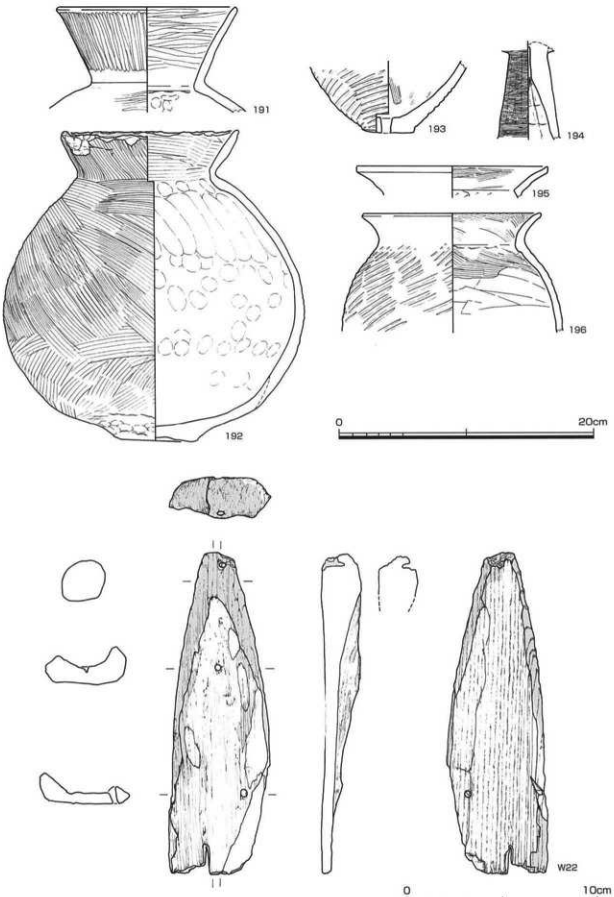


図68　315井戸出土遺物

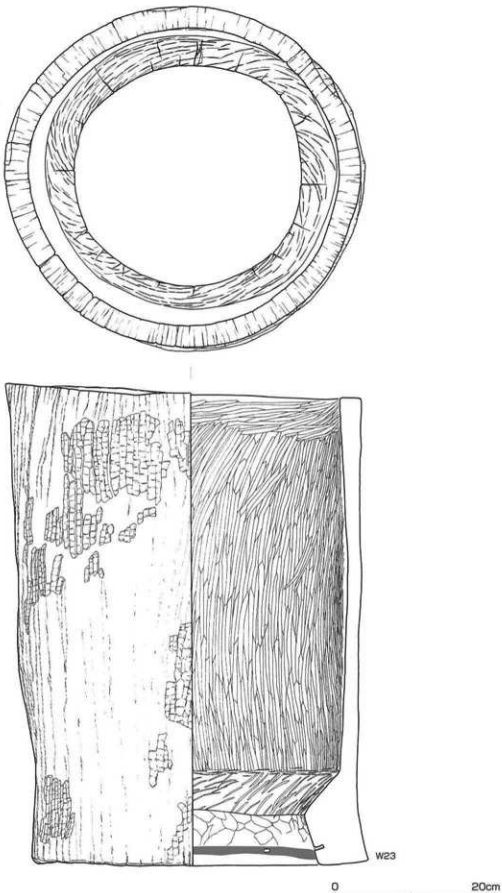


図69　315井戸井筒

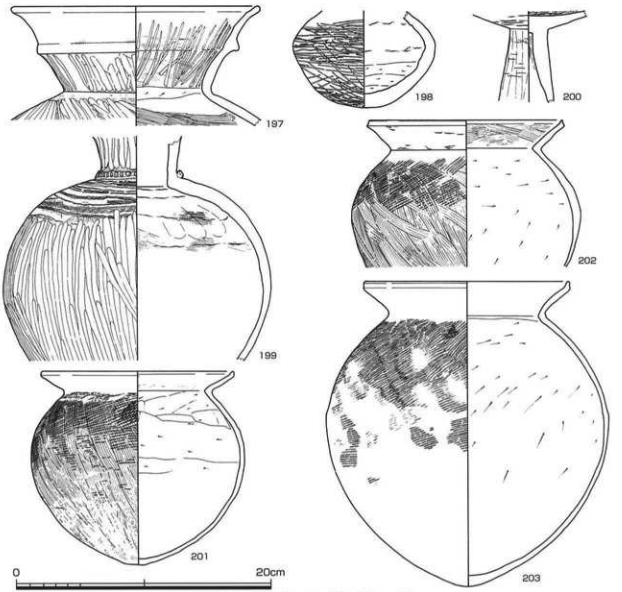


図70　326溝・3区耕作溝出土遺物

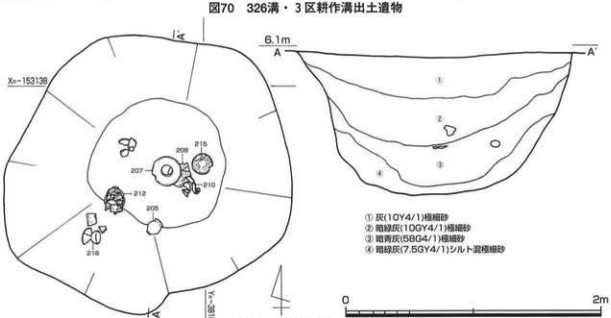


図71　440井戸平・断面図

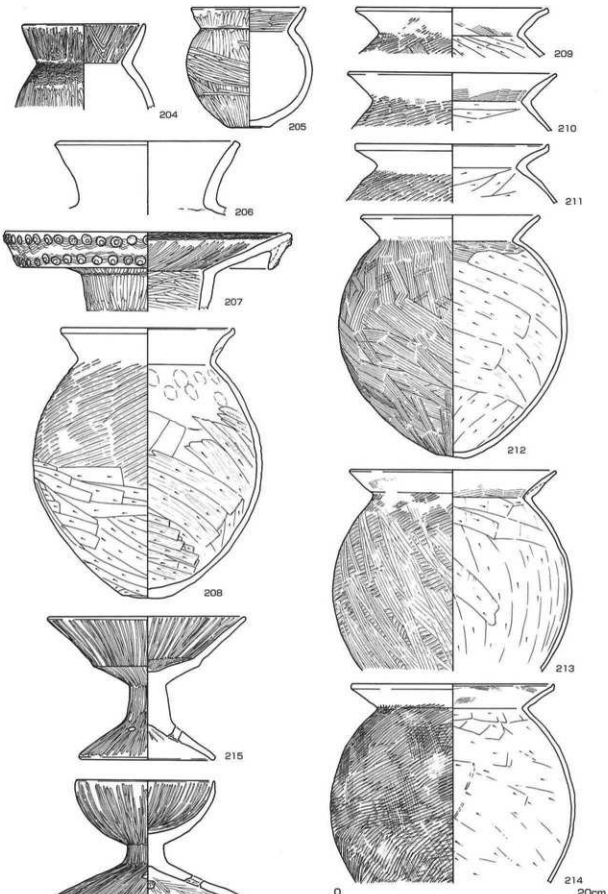


図72　440井戸出土遺物

201・202は庄内式甕で、底部の残る201はごく狭い平底をもつ。198・203はその周辺の耕作溝から出土した。198は外面に細かい横方向のミガキを施す小形の壺体部、203は尖底の庄内式甕である。

440井戸（図71、図版34）

Ｂ２－ｄ７に位置する井戸である。上部は耕作溝に切られている。径2.1～2.4mの不整円形を呈する。深さは約1.1mで、擂鉢状に深く落ち込んでいる。灰色系の極細砂を埋土とする。主として中層以上から土器が出土した。

出土遺物（図72）

出土した土器のうち204～207は壺、208～214は甕、215・216は高杯である。204は加飾壺、205は小形壺である。206は広口直口壺、207は加飾性垂下口縁壺である。甕は208が異形甕で、残りの209～214は庄内式甕である。208は突出しない平底を備えている。庄内式甕は底部を残した212をみると平底である。頸部から口縁部にかけての造作はシャープなものと、やや鈍重なものがある。215は小形の有稜高杯である。口縁部は長く、ほぼ直線的に広がる。216は椀形高杯である。

531井戸（図73・74、図版45・46）

Ｂ３－ｃ２・ｄ２に位置する井戸である。検出面の標高は約6.2mである。上層部分は耕作溝によって攪乱を受けているが、本体はおよそ良好に遺存する。平面形は東西軸4.3m、南北軸4.6mの隅丸方形である。このため掘削当初は竪穴住居を想定したが、堆積土が擂鉢状に落込み、かなり深くなることから井戸と判断した。深さは1.4mである。灰色系シルト、極細砂を埋土とし、下層から擂鉢状に堆積している。底は平面が楕円形に深い部分がある。中層からは夥しい量の土器が出土した。これらは接触し重なり合った状態で検出されており、極めて一括性の高い資料群であるといえる。また土器のまとまりが切れた下層からは木製品が、最下層からは石製品が出土した。

出土遺物（図75～93、図版79～95・101・102）

壺27点、甕115点、高杯17点、鉢15点、小形器台２点、ミニチュア壺１点、製塩土器１点、手焙１点、計179点が出土した。このうち状態のよいものを選別し図化した。

壺は総体として単純に口縁部が広がるシンプルな個体が多く、複合口縁壺や加飾壺は少ない。口縁部の形態には諸相があり、細分が困難なものもあるが、いずれかの分類に含めている。口縁部が外反しながら大きく広がる広口壺Ａは217～220・230・235である。219・220・235は口縁端部に面を作る。235は口縁部の外反を強調するように上半を水平に曲げている。底部の残る217・220はいずれも突出した平底である。頸部径が大きく、口縁部が短く外反する広口壺Ｂは221～225・236である。いずれも口縁端部を丸くおさめる。226～229は小形壺で、そのうち227～229は直口壺系の壺である。228は口縁部上半が破損したか、もしくは打欠きを行った後、破断面を研磨し補修している。229は口縁部に打欠きがある。いずれも小さい平底、または小さい上げ底である。直線的に広がる短い口縁部をもった広口直口壺は231・237である。232・233は直口壺としたが、正統的な形態のものは232である。234は複合口縁壺で、垂直に立ち上がる頸部をもつ。238・239は口縁部を欠いている。238は球形の体部に突出した平底をもつ。外面に紐掛けの痕跡がある。239は体部上半が張った扁平な体部をもつ。240は口縁部が直線的に広がる壺であるが、広口壺系、直口壺系のいずれにも属さない形態である。体部内面にケズリを有し、また底部径も広いなど異質である。241は大形の加飾性複合口縁壺で、大きく拡張した口縁部外面に波状紋と竹管円形浮紋を飾る。242は加飾性垂下口縁壺で、口縁端部の下に粘土帯を付加して拡張し、刻目と竹管円形浮紋を施す。273は北陸系の複合口縁壺である。緩やかに外反する口縁部外面に直線紋を巡

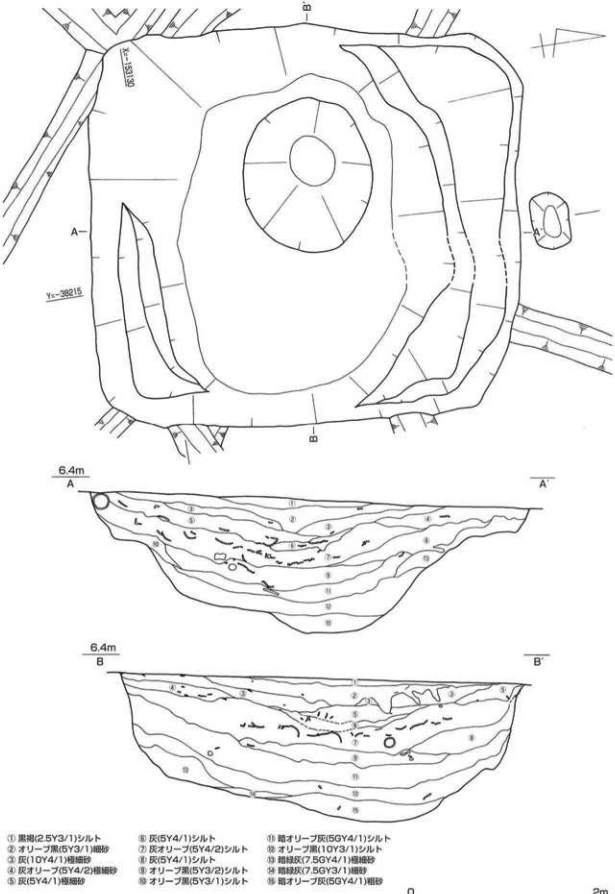


図73　531井戸平・断面図

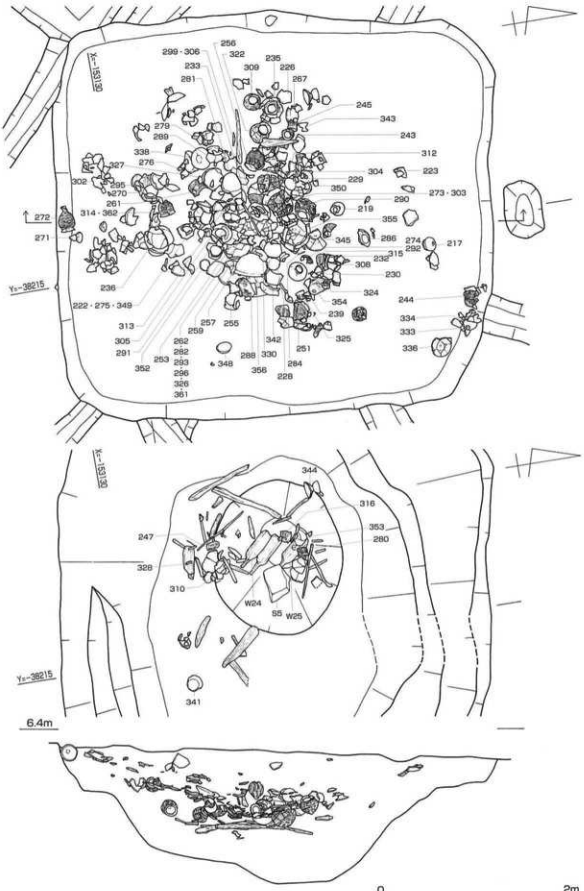


図74　531井戸遺物出土状況図

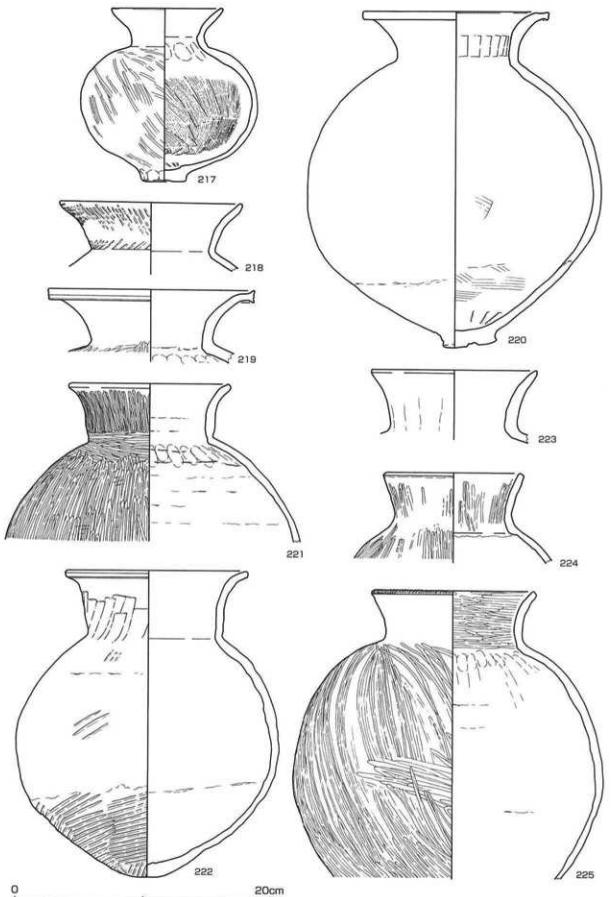


図75　531井戸出土遺物（1）

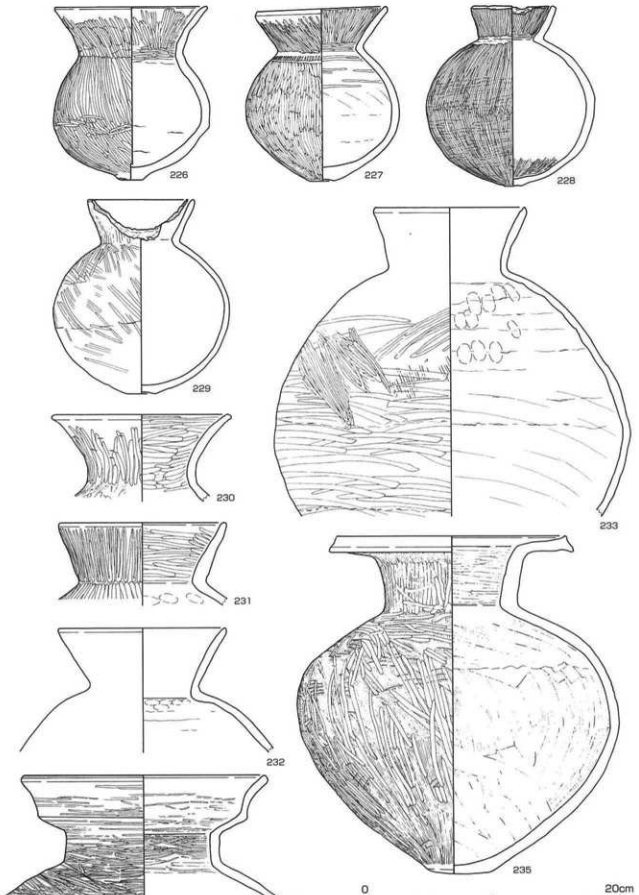


図76　531井戸出土遺物（2）

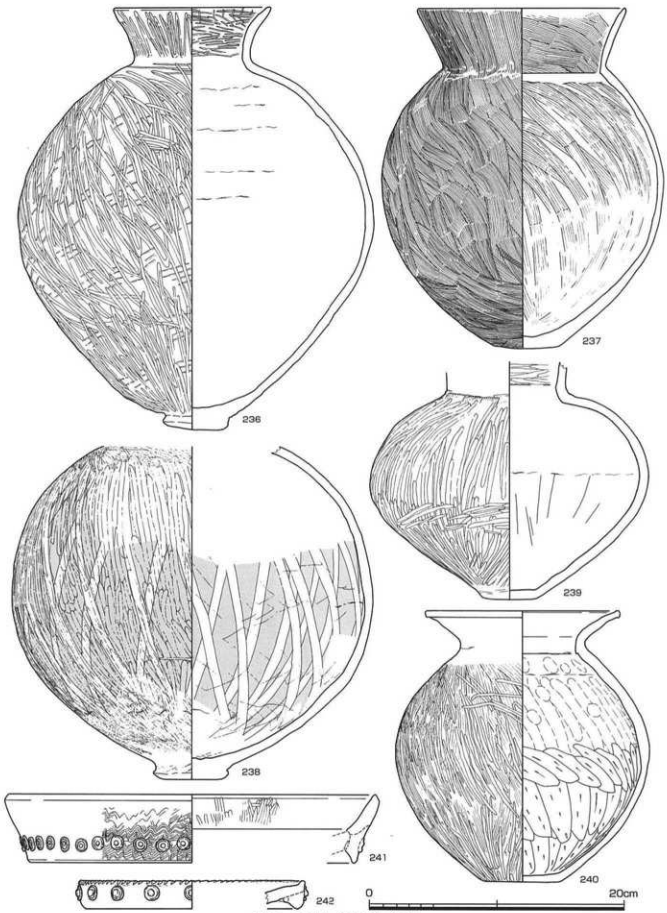


図77　531井戸出土遺物（3）

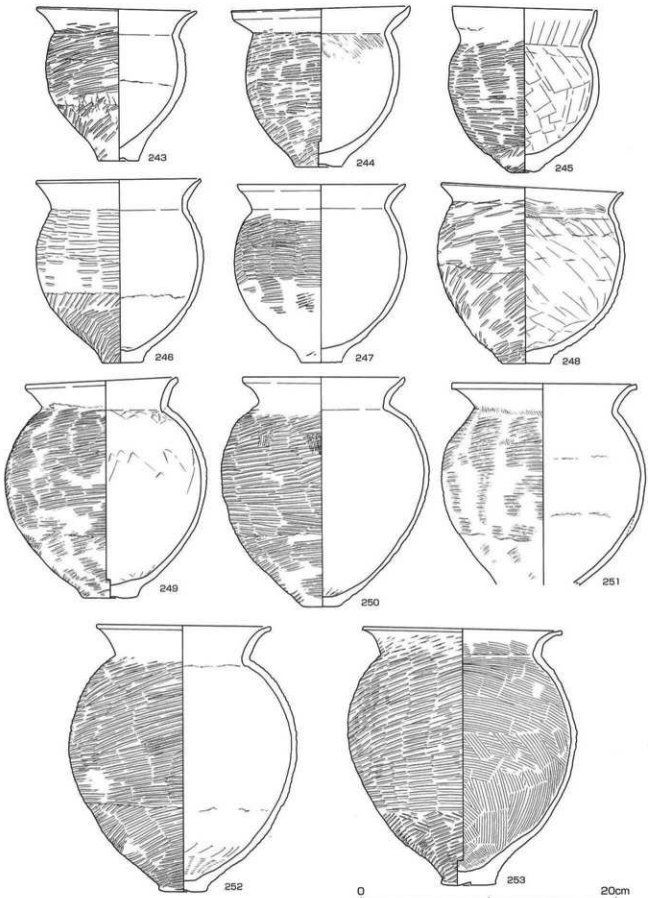


図78　531井戸出土遺物（4）

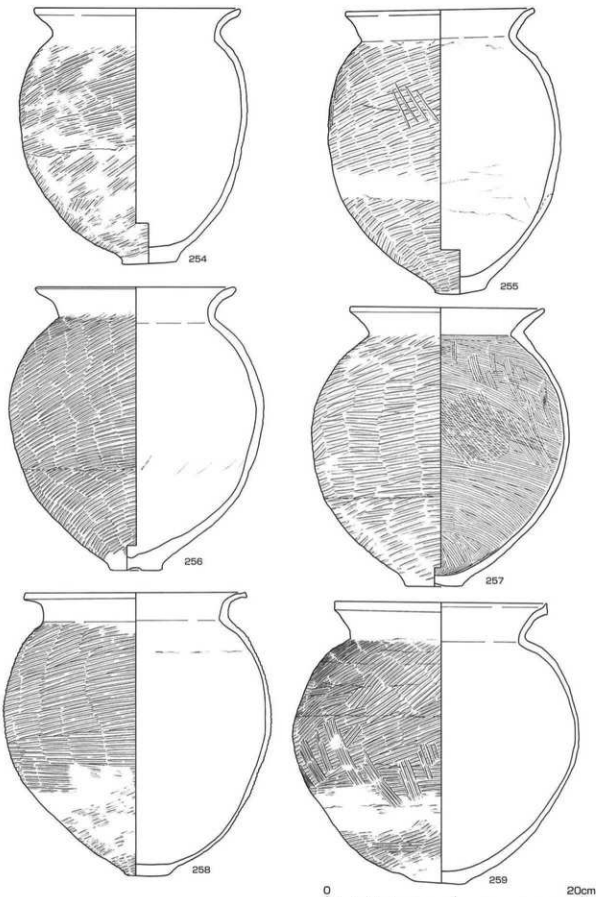


図79　531井戸出土遺物（5）

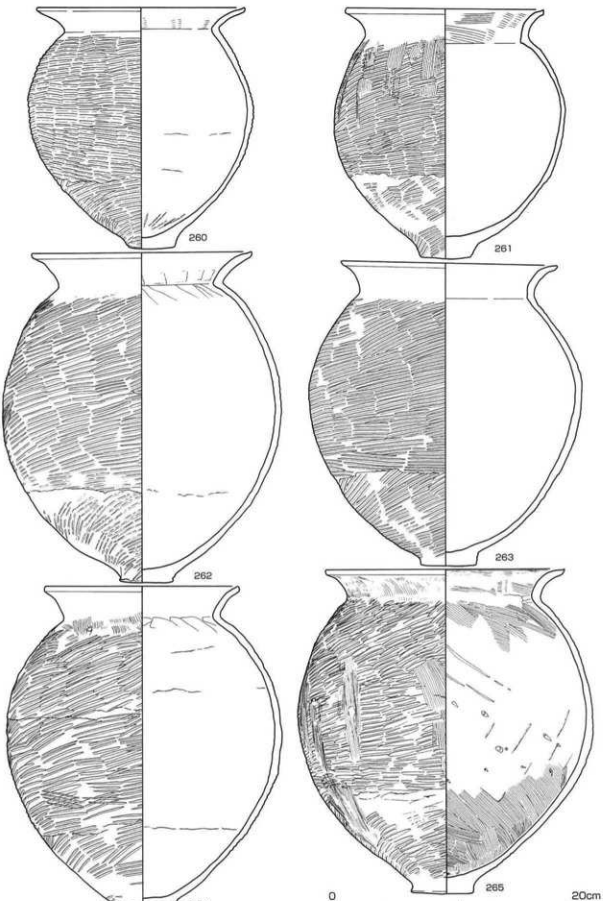


図80　531井戸出土遺物（6）

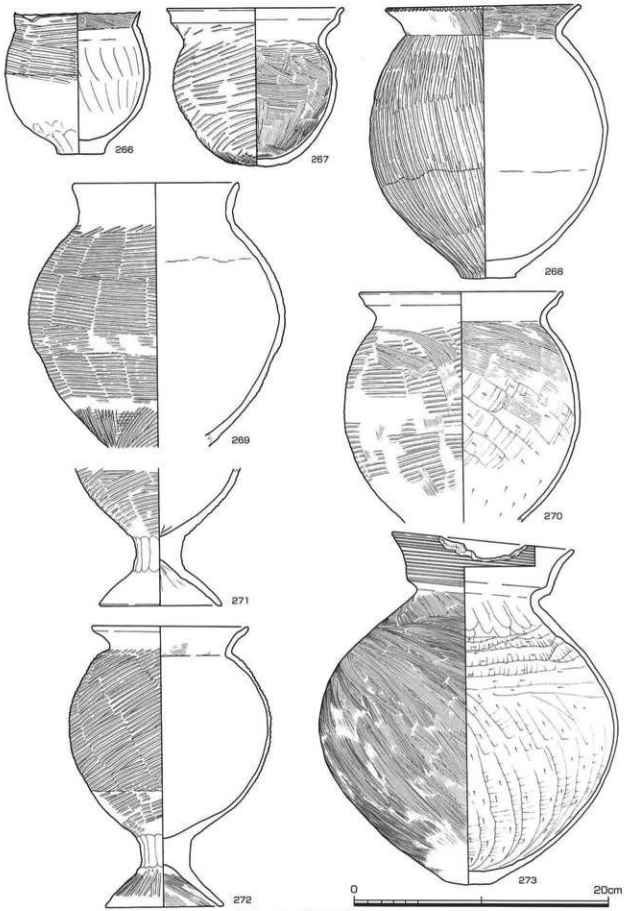


図81　531井戸出土遺物（7）

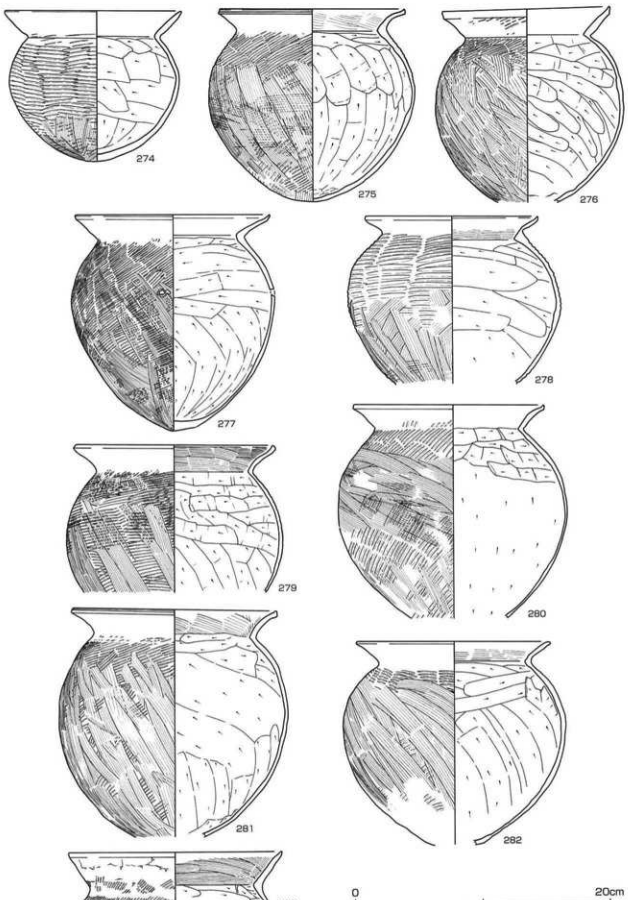


図82　531井戸出土遺物（8）

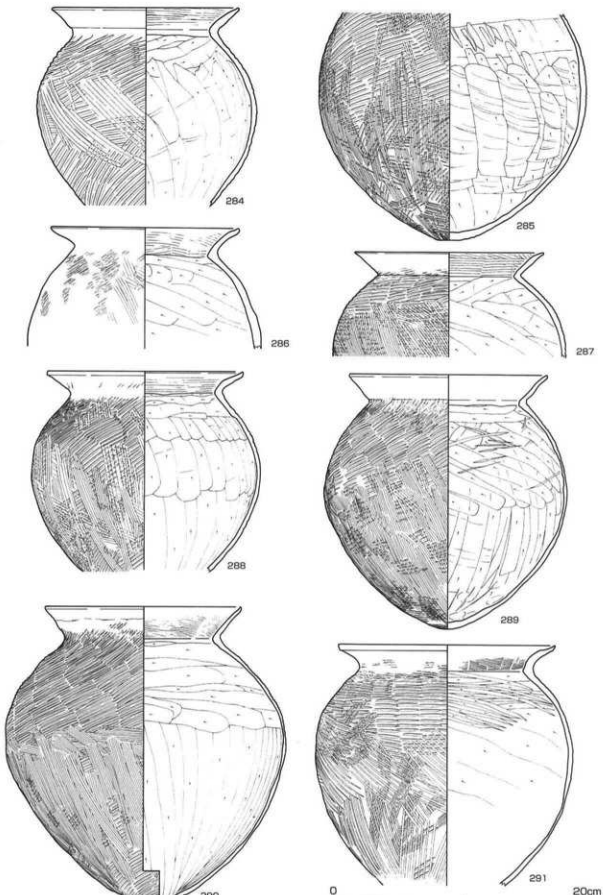


図83　531井戸出土遺物（9）

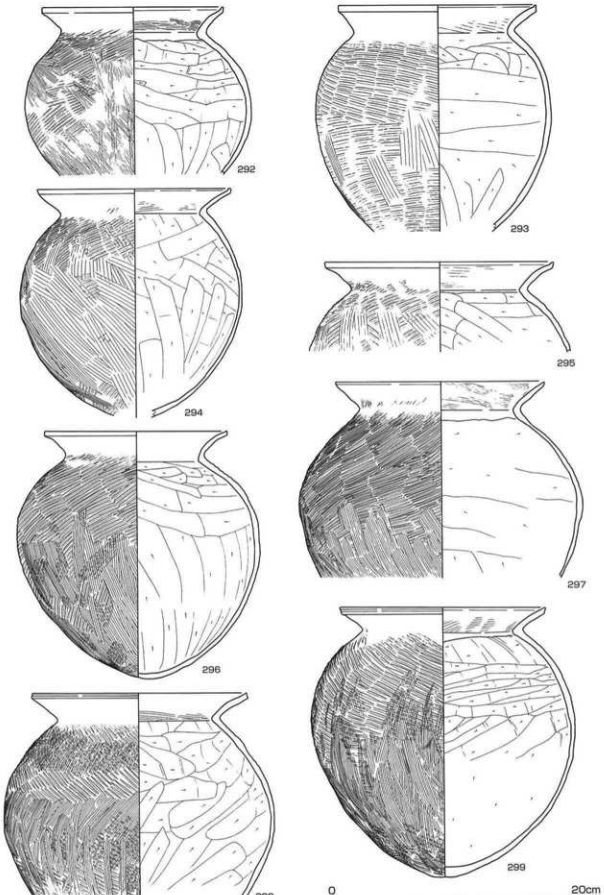


図84　531井戸出土遺物（10）

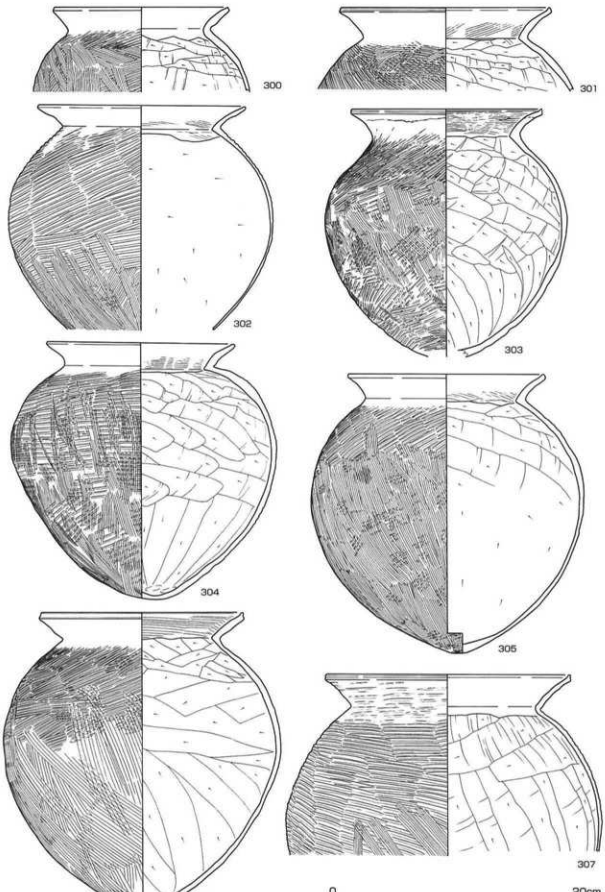


図85　531井戸出土遺物（11）

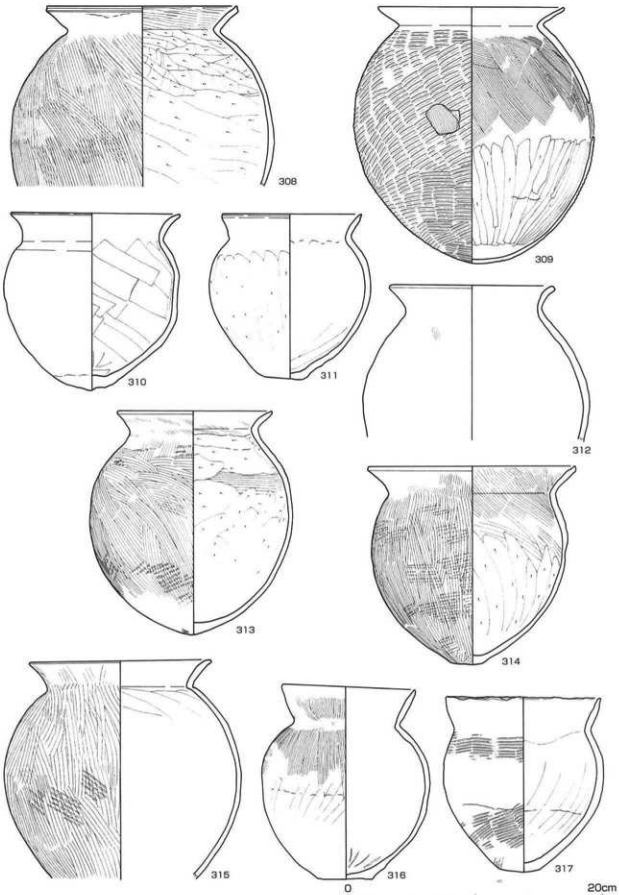


図86　531井戸出土遺物（12）

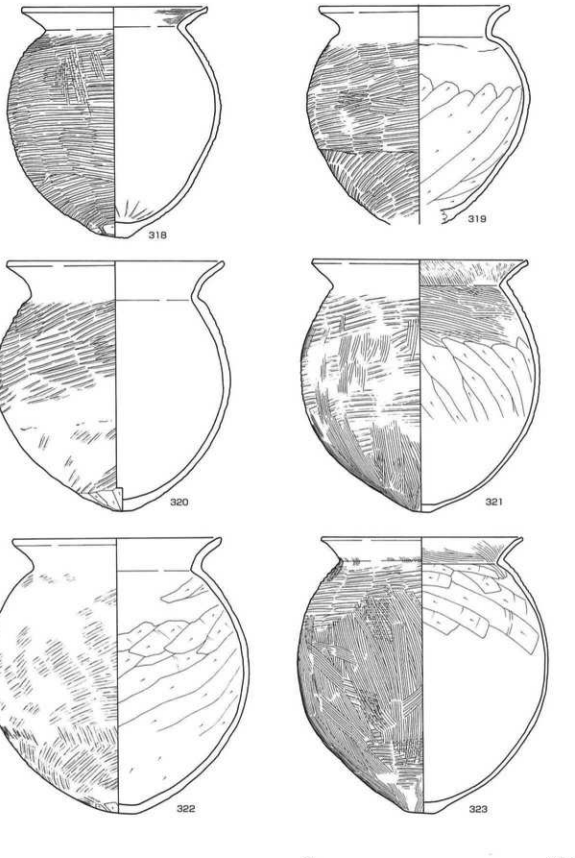


図87　531井戸出土遺物（13）

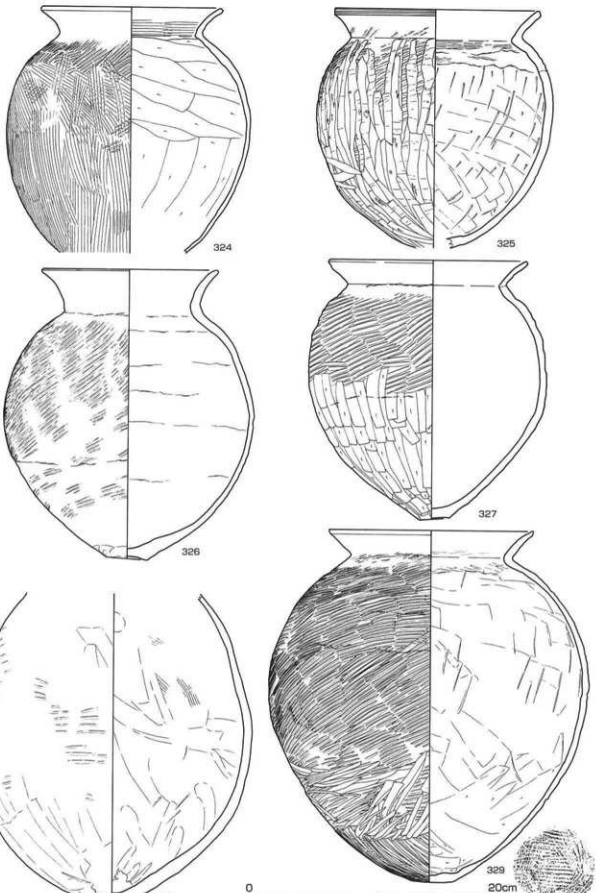


図88　531井戸出土遺物（14）

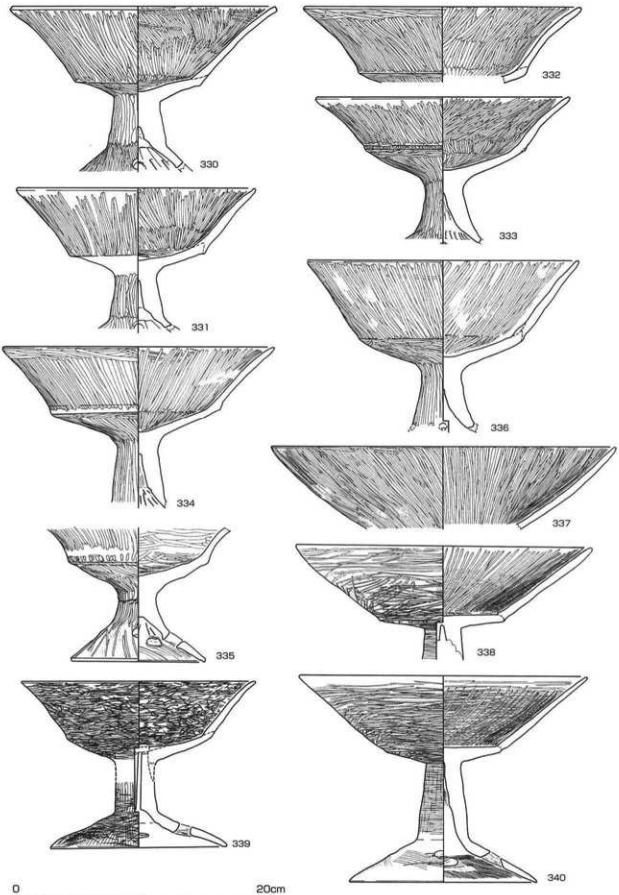


図89　531井戸出土遺物（15）

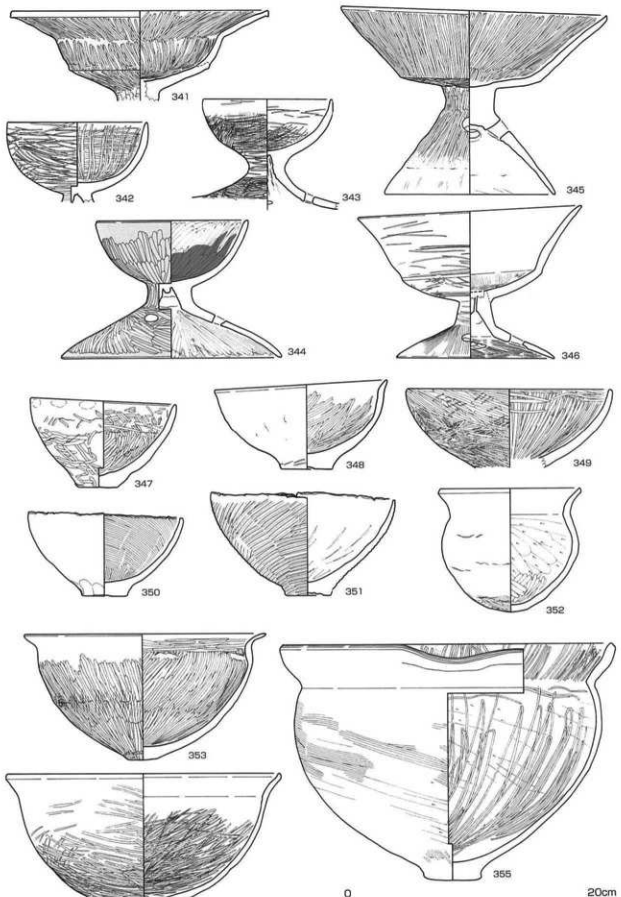


図90　531井戸出土遺物（16）

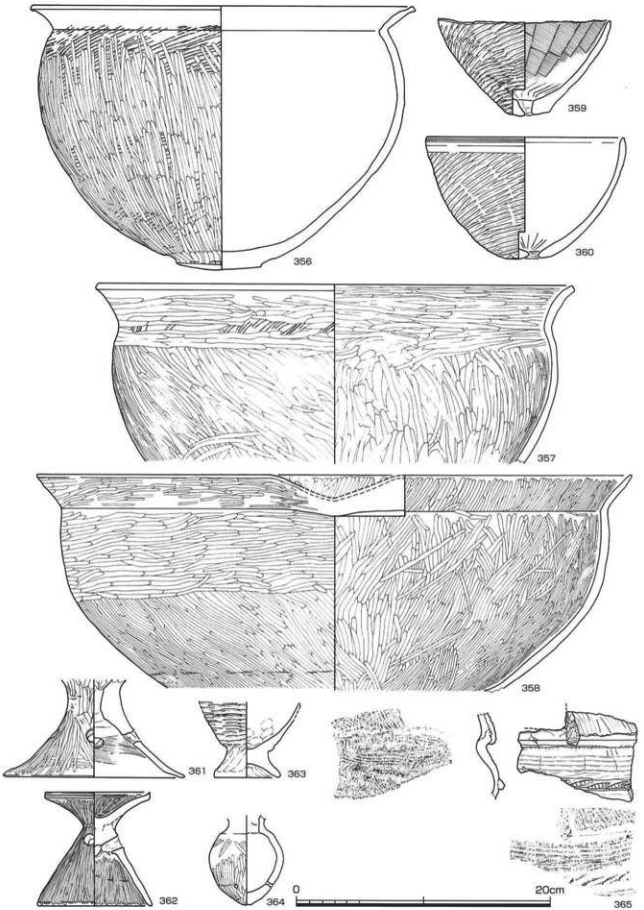


図91　531井戸出土遺物（17）

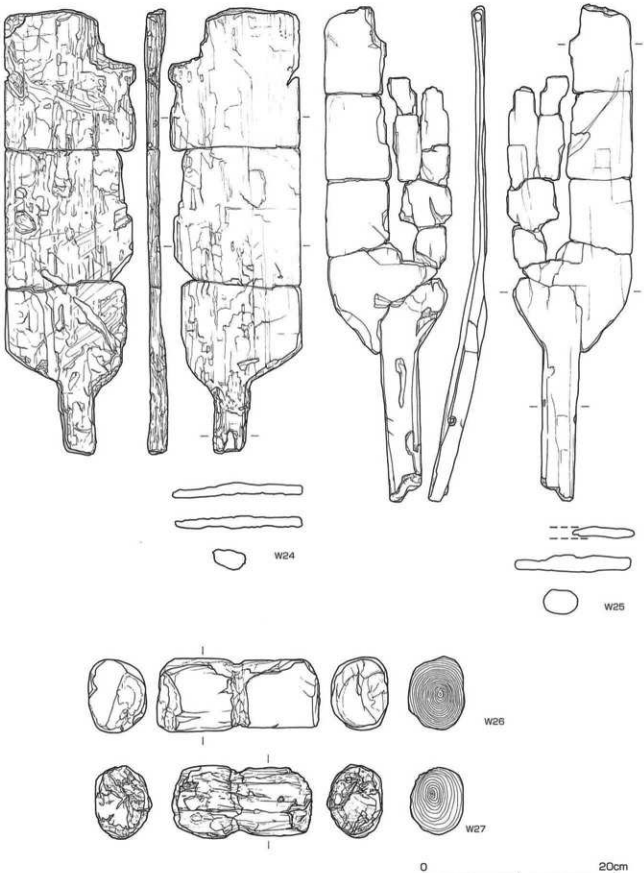


図92　531井戸出土遺物（18）

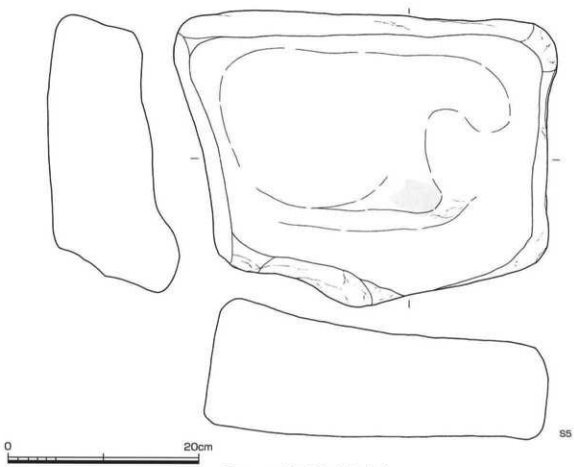


図93　531井戸出土遺物（19）

らせる。体部は外面が斜方向ハケ、内面がケズリである。口縁部に打欠きがある。

甕の内訳は弥生形甕54点、弥生形台付甕２点、庄内式甕34点、異形甕25点である。243～270は弥生形甕で、243～265は体部外面が右上がり、水平タタキ、内面がハケ、ナデの通有のものである。各種のサイズがある。266～270は通有のものと異なる特徴を備えた弥生形甕である。266は小形で口縁部が発達していない。267は受口状口縁で丸底をもつ。268は体部のタタキが縦方向である。269は口縁部の開きが小さく、直立している。270は受口状口縁である。271・272は弥生形台付甕で、通有の形態の甕に脚台を付加している。274～307は庄内式甕で、角閃石を含む生駒西麓産の胎土が多いが、異なるものもある（275・293）。各種のサイズがあるが274は最小の個体である。体部は上半に最大径のある倒卵形を呈する。底部を残した個体では、突出しない尖底に近い状態のごく小さな平底をもつ。タタキは太筋のものもあるが細筋が主流で、極細筋のものはない。タタキの方向は左上がりは少なく、右上がりが主流である。成形は底部からタタキによる分割成形が行われている。タタキの後に加えるハケ調整は、体部全体に疎らに施すもの、体部下半に密に施すものなどがある。口縁端部の形状は、弥生形のように丸くおさめるもの、しっかりした端面をもつもの、上方へ僅かに拡張するものなどがあって一定していない。体部内面はケズリの単位が明瞭であるが、頸部と口縁部との境界付近のケズリは回転力が弱く、上下に波打つ個体が多い。また頸部の屈曲より下方にケズリの境界をもつことが少なくない。ほとんどの個体は焼成が非常に良好で、かなり硬質かつ堅緻な焼き上がりである。308～329は標準的な弥生形甕、庄内式甕から逸脱した甕で、類型化が困難な一群である。異形甕と総称する。308は庄内式甕に類似した形状であるが、胎土は生駒西麓産のものではない。またタタキがみられず全面ハケで仕上げられている。

309は生駒西麓産の胎土で、器壁も薄く庄内式甕に類似するが、タタキだけでハケ調整せず、また体部内面はケズリを行わずナデで仕上げる。体部中央に焼成後の穿孔がある。310～329は非生駒西麓産の胎土である。310・311は全面ナデ仕上げの小形の甕である。312は体部ハケのち全面ナデ、313は体部外面がタタキのちハケ、内面ケズリの甕である。314は弥生形に近いがタタキ成形後に全面縦方向ハケを加える。315・316は体部を全面ハケ調整する。317は細筋タタキのちナデを加えている。318～324は弥生形の製作技法を基本としながらも、形態や調整の上で庄内式を意識し、指向した甕である。タタキ原体はいずれも太筋で、弥生形のものと変わりはない。318は体部外面タタキ、内面ナデであるが、底部は突出しない平底で、口縁端部を上方に拡張する。319は体部外面タタキ、内面は部分的なケズリを行う。320は体部外面タタキのち下半部にナデを加える。321は体部外面タタキのち下半部を中心にハケを加える。また内面には部分的なケズリを施す。322は体部外面はタタキだけで仕上げ、内面には部分的なケズリを加える。尖底である。323は体部タタキのち下半を中心にハケ調整する。324は体部タタキのちハケを施す。325は体部タタキのち縦方向の弱いヘラナデもしくはケズリ、内面ケズリという特異な調整法をとる。326は体部タタキのち下半部ナデを加える。底部は上げ底になっている。327は体部タタキのち下半部にヘラナデを行う。底部は小さい平底である。328は粗製の甕で、体部の形態は下半部が膨らみ、締まりがない。タタキのちナデ仕上げで小さい平底をもつ。329は体部外面タタキのち下半部にヘラナデを加え、内面は強い板ナデのような不完全なケズリを行う。突出しない狭い平底をもつ。底面にはタタキが加えられる。

高杯の内訳は有稜高杯8点、椀形高杯3点、庄内系高杯3点、吉備系高杯1点、東海系高杯1点、有段高杯1点である。330～337は有稜高杯である。これらのうち330～335は、杯部稜線から外反しつつ大きく開く口縁部を備えた伝統的な高杯である。336・337は口縁部が直線的、あるいは内湾傾向をもつ有稜高杯である。338～340は庄内系高杯である。小形の339は口縁部がやや外反しているが、338・340は杯部稜線から直線的に大きく広がる口縁部をもつ。外面と杯部内面に横方向の細かいミガキを施しており、いずれも脚柱部やその上端に軸心の棒を刺した痕跡がある。341は有段高杯で、杯部内外面に縦方向の伝統的なミガキを施す。342～344は椀形高杯で、344は2次焼成で煤化し、内面に赤色顔料が付着する。345は稜線をもつシャープな杯部と、円錐形脚部を備えた東海系高杯である。346はやや深めの杯部と、直線的で小振りな脚部をもつ吉備系高杯である。

鉢の内訳は小形鉢9点、中形鉢2点、大形鉢2点、有孔鉢2点である。347～354は小形鉢である。347～351は半球状の体部で、底部を残すものはすべて突出した平底である。口縁部はナデを行う347～349と、指頭調整のみの350・351がある。352は口縁部を外反させる小形鉢で、底部は丸く作る。353・354は平底をもつ扁平な半球状の体部に、外反する口縁部を付加する。355～360は中形鉢で、平底をもつ半球状の体部に、外反する口縁部を備える。355は片口を有する。357・358は大形鉢で、形態は中形鉢に類する。358は片口を有する。

その他の器種として小形器台2点、製塩土器1点、ミニチュア土器1点、手焙1点がある。小形器台には361・362がある。361は弥生系器台の特徴をよく残した定型化していない個体である。口縁部を欠くが、器高も底径も通有の小形器台と比べサイズが大きい。362は皿型の受部と円錐形の脚部をもつ小形器台である。器面は内外面ともに非常に緻密なミガキ調整が施され、胎土は精良、焼成も良好な外来系土器である。

363は低い脚台をもつ製塩土器で、粗雑な作りである。364はミニチュア土器の壺で、尖底の紡錘形体

部をもつ。体部下半に小孔を穿つ。365は手焙で、覆いの一部を含む小破片である。調整法や胎土が在地のものとは異なっており、外来系土器と見なされる。

木製品は数点出土したが、遺存状態が不良で図化できたものはW24～27のみである。W24・25は平鍬で、軸と長方形の身を一木で削り出している。W26・27は木錘で、いずれも芯もち材の両端を落として、中央に縄掛けの溝を削り出す。

石製品としてＳ５石臼が井戸最下層から出土した。不整長方形の板石状を呈し、角は丸く、片面に使用痕らしい凹みがある。一部に赤色顔料の付着がみられ、辰砂の粉砕に用いたものであろう。

583井戸（図94、図版47）

Ｂ２－ｃ10に位置する小形の井戸である。調査区矢板際の土層観察用セクション内にあり、一部は側溝にかかっていたため、遺存状態は不良である。掘形は径0.6ｍの円形で、検出面からの深さは0.3ｍである。掘形の周囲に先端を削って矢板状に加工した板材を縦方向に刺し、土留めを行っている。埋土はオリーブ黒色シルト、粘土である。

出土遺物（図95）

366は壺の体部下半で、井戸の内部にはまり込んでいた。球形の体部に突出した平底を備える。367は埋土下層から出土した。小形の茶臼山型複合口縁壺である。

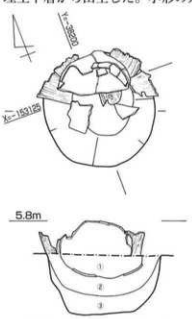


図94　583井戸平・断面図

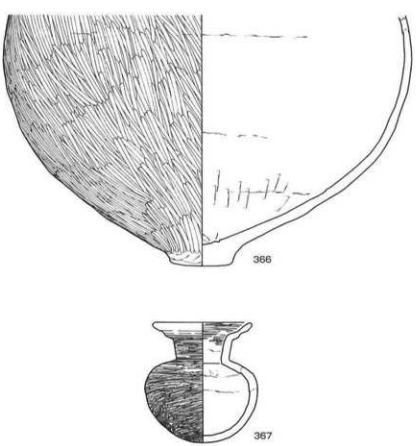


図95　583井戸出土遺物

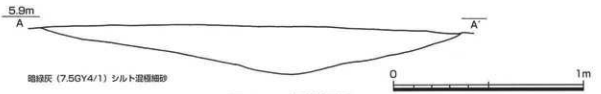


図96　580河川断面図

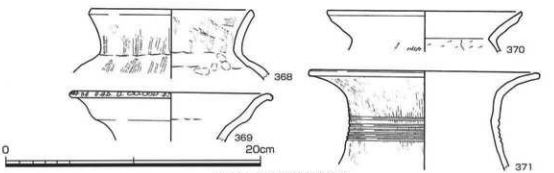


図97　580河川出土遺物

580河川（図96）

B3－c4・c5・d4に位置する小規模な河川である。検出全長13m、幅2.4m、深さ0.2～0.3mで、南東～北西方向に流水する。左岸に535・536竪穴住居がある。

出土遺物（図97）

368は広口直口壺、369は複合口縁壺である。369は複合口縁の屈曲が弱く、端部に刻目を巡らせる。370は庄内式甕である。371は弥生時代前期の壺で、混入遺物ではあるが、今回の調査で得られた資料中で最も古い土器である。

第3項　深掘部

1～5区に関し、調査区のほぼ中央に設定される管路埋設部分についてトレンチ調査を行った。調査は5区から1区にかけて深くなっており、2～5区では掘削深度が比較的浅かったため、7層以下の層準に達することができなかった。1区深掘部土層断面模式図を図98に示す。①～⑥は7層に属する層準で、シルト、極細砂で構成される。その下の⑦は標高4.8～4.9mで検出された8層で、暗オリーブ灰色シルトである。上面には細かい起伏があるが、遺構面として確認することはできなかった。7層以下は遺物が全く出土せず、層準の形成時期は不明である。

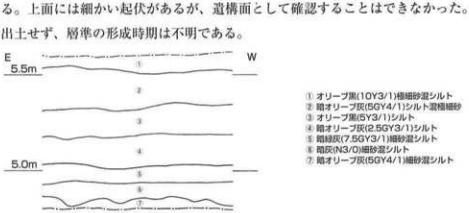


図98　1区深掘部土層断面模式図

第4章　調査の成果・6区

第1節　層序

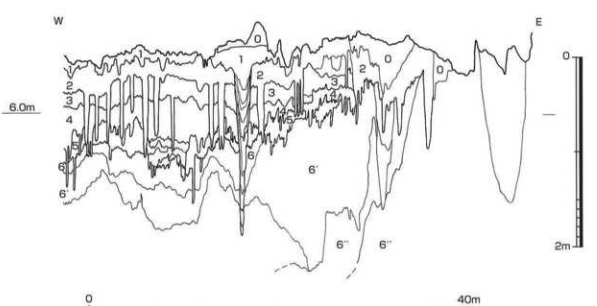
基本層序は図99の通りである。

第0層　竜華操車場設置にともなう盛土と、それ以降の撹乱土。層の上面は約T.P.8.0mにあたり、層の厚みは約1.0mである。第0層は重機により掘削している。

第1層　中世（鎌倉時代）以降の耕作土層。西半分は下層の第2・3層を撹拌しているため、粗砂を多く含む細砂を主とするが、東半分は粗砂の少ない細砂から極細砂を主とする。長期間地表面化していた地層と考えられる。層の上面レベルは6.4～6.6mの範囲で、層の厚みは20～30cmである。第1層は下層である第2層を全域で撹乱している。また層中から古代（奈良～平安時代）の土器が出土することから、第1層は古代の層も撹拌しているといえよう。

第2層　古墳時代初頭の古土壌。主に細砂で構成される。第0層と第1層により殆どが撹乱されている。層の上面レベルは6.3～6.5mの範囲で、調査区の東から西にかけて高くなる。層の厚みは5～10cmにとどまる。他の調査区では、第2層に相当する層の上面で、古墳時代前期の水田の畦が検出されているが、当地区での層上面は、全面にわたって上層形成時に撹拌されていたため、水田にかかわる痕跡は検出できなかった。第2層は残存している層を観察する限り、土壌化の傾向が強くうかがわれることから、地表面化していた期間が長かったと考えられる。

第3層　弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての古土壌。細砂または極細砂で構成されるが、中央部から西側は下層の粗砂層を撹拌していることから粗砂が混じる。層の上面レベルは6.15～6.3mの範囲



1 緑灰(5GY5/1)細砂
2 暗緑灰(10GY4/1)細砂(シルト・小礫混)
3 暗緑灰(10GY4/1)細砂
4 暗緑灰(10G4/1)細砂～極細砂(炭化物・灰色粘土混)
＊遺構の埋土は遺構ごとに記している
5 暗緑灰(10G4/1)極細砂～シルト
6 青灰(10BG5/1)細砂
6' 灰(7.5Y5/1)シルト(細砂わずかに混)
6'' 灰(7.5Y4/1)シルト

図99　6区全体基本層序断面図

だが、西側は第2層に撹拌されているため層の広がりはない。層の厚さは10～15cmである。第3層は第2層同様、一定期間地表面化していたといえる。

第4層　弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての古土壌。主に極細砂で構成されるが、中央部から西側は下層の粗砂層を撹拌していることから粗砂が混じる。層の上面レベルは6.1～6.2mの範囲だが、西側は第2層に撹拌されているため層の広がりはない。層の厚さは東側が厚く20cm前後、中央部から西側にかけて薄く5cm前後である。第4層も一定期間の地表面化が想定できる。

第5層　弥生時代後期末の河川堆積層。下層の第6層の洪水砂が堆積した後、緩やかな流水作用のもとで堆積した層である。極細砂またはシルトで形成され、細かくみれば三つの堆積に分けることができる。

第6層　弥生時代後期末の洪水砂層。調査区中央部分では、T.P.5.0m以下でも層の上面が検出できなかったが、調査区の西側では層の上面は6.3mの高さで確認できた。洪水の流芯は調査区から、さらに西に外れた地点であると考えられる。この洪水砂が、東側が低く西側が高いという、弥生時代後期末から古墳時代初頭までの調査地の地形を大きく決定づける。

第2節　遺構と遺物

第1項　古代（図100）

中世から古代の遺構は第1層を掘削した地表面で確認した。同一面で古墳時代前期の遺物を伴う遺構があることから、中世から古代の遺構は大方が削平され深い遺構のみが残ったといえる。

601井戸（図101・102、図版48）

調査区中央部で検出した。井戸枠内最終埋土から出土した土器より、奈良時代後半には機能を停止していたといえる。掘形は外側と内側で形が異なる。外側掘形は不整形な円形で、南北直径1.0m、東西直径1.5m、内側掘形は0.7×1.1mの方形である。井戸枠は上下二段にわかれ、両段とも板材を用いている。ただし井戸は第1層による撹拌を大きく受けているため、本来の上段は検出されたものよりも高かったと考えられる。

上段は横長の板を横方向に組んだもので、北側で4枚、南側で3枚、西側で3枚、東側で2枚使用している。北側の上から1・2枚目の板、南側の上から1枚目の板、それぞれの外側に墨書がされている（図104）。北側の1枚目（W28）は「東」と判読できるが、2枚目（W29）の墨書は判読できない。南側の1枚目の板（W30）には「東」と墨書されている。「東」の墨書はともに板のほぼ中央に、正位（上下逆にならず）で書かれている。したがってこれらの墨書は、井戸枠を組む際の目安の目的で書かれたと考えられる。

下段は桶を逆向きに設置している。下段桶の上部には上段枠板を受けるために、長方形の長板が四方に組まれている。また下段の桶は四辺とも、外側に厚さ約1～2cmのほぼ方形の板で囲われている。井戸枠の最下層には水を濾過するための礫が敷き詰められていた。

出土遺物（図103～106、図版103～105）

桶は、長さ79.0cm、幅56.0cm、高さ62.5cmをはかる（図105）。桶の形状としては縦横幅に比べ高さ（深み）のある形といえる。底板は外され、側板4枚が残る。側板の厚みは1.3cm前後である。底板と側板の接触部分と考えられる箇所には釘穴が12ヶ所存在する。側板どうしは、板の縦辺に作り出した凹凸を互いに組み、鉄釘を打ち込んで組み合わされている。鉄釘は断面四角形のものであり、側板に打ち付けら

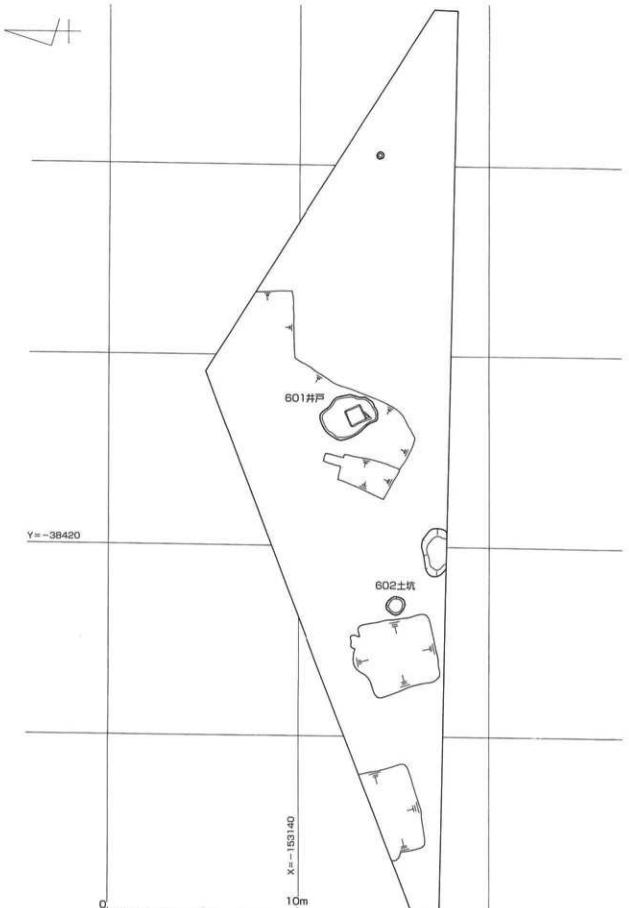
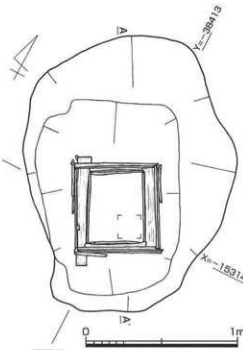
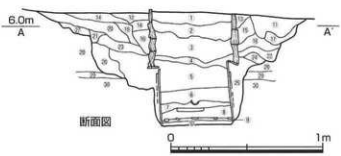


図100　古代〜中世面全体平面図

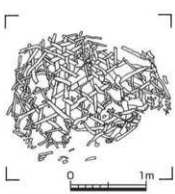


平面図

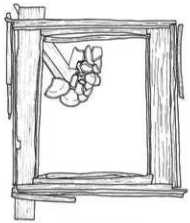


断面図

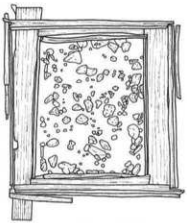
1 灰オリーブ(5Y5/3)シルト
2 灰(7.5Y4/1)シルト
3 灰(10Y4/1)シルト
4 灰(10Y4/1)シルト(植物遺体等有機物混)
5 暗オリーブ灰(5GY3/1)シルト
6 オリーブ(5Y5/4)細砂〜シルト(炭化した有機物細)
7 灰(10Y4/1)シルト
8 オリーブ灰(10Y4/2)細砂
9 緑灰(10GS/1)細砂(礫多く混)
10 緑灰(10GS/1)細砂〜粗砂
11 灰白(2.5GY8/1)細砂
12 灰(7.5Y4/1)細砂
13 灰(10Y4/1)シルト
14 オリーブ灰(2.5GY4/1)粘土
15 灰(7.5Y4/1)細砂(灰色粘土ブロック、土器片、小礫混)
16 灰オリーブ(7.5Y5/2)シルトと、オリーブ灰(2.5GY4/1)シルトのブロック土
17 灰オリーブ(5Y5/2)シルト(小礫混)
18 灰(10Y4/1)シルト(灰オリーブのブロック、小礫、土器片混)
19 灰オリーブ(7.5Y5/2)シルト(小礫、木片混)
20 灰オリーブ(5Y5/2)細砂
21 灰オリーブ(5Y5/3)細砂
22 灰(10Y4/1)シルト(部分的に灰オリーブ色粘土ブロック混)
23 灰オリーブ(5Y5/3)細砂(土器片混)
24 暗オリーブ灰(5GY3/1)シルト(灰オリーブ色粘土ブロック混)
25 灰(7.5Y4/1)細砂(礫、土器片・木片混)
26 灰(7.5Y4/1)シルト
27 灰(10Y4/1)粘土
28 灰(10Y4/1)シルト
29 緑灰(10GY5/1)粘土(有機物混)
30 暗緑灰(7.5GY4/1)細砂



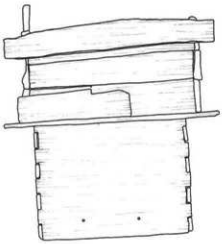
井戸枠下段籠状木製品出土状況



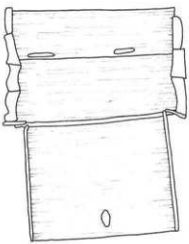
同左遺物出土状況



同左最下層礫敷



井戸見通し図(西から)



同左西から(内部)

図101　601井戸平・断面・見通し図

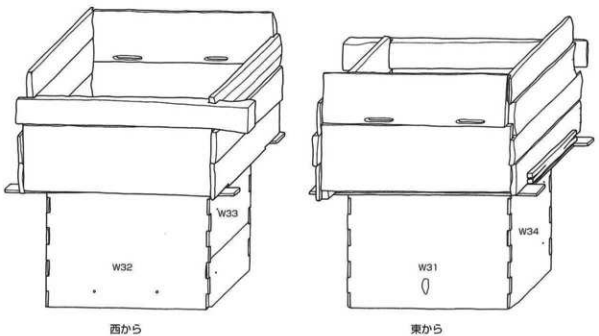


図102　601井戸枠組立図

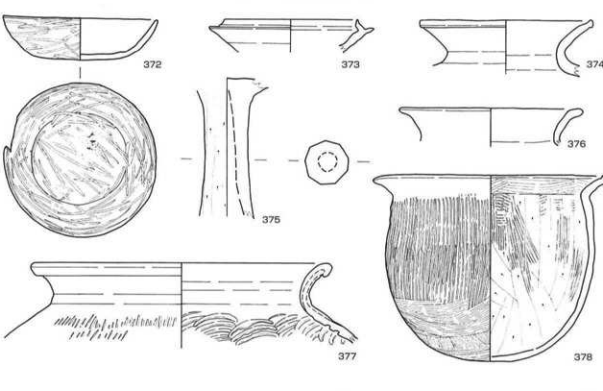
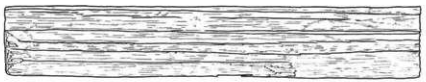


図103　601井戸出土遺物

れたままであった。側板の凹凸の数により組み方の呼称があり、当例は八枚組と呼ばれる組み方である。櫃は底板を抜いた状態で井戸の中に設置されていた。

櫃の前面（幅広の側板）には中央上部に１ヶ所、背面には上部に２ヶ所の穴があけられている。いずれの穴にも、櫃の身と蓋を固定するための壺金具が差し込まれる。側面の小さいほうの側板には２枚ともに共通して、縦方向に２ヶ所の小さな孔が開けられている。この孔の用途は定かではないが、縦方向



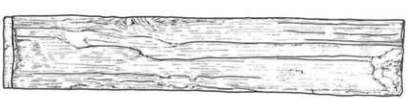
W28（表）

W28　墨書拡大

W28（裏）

W29（表）

W29　墨書拡大



W29（裏）

W30（表）

W30　墨書拡大

W30（裏）

図104　601井戸上段墨書枠板

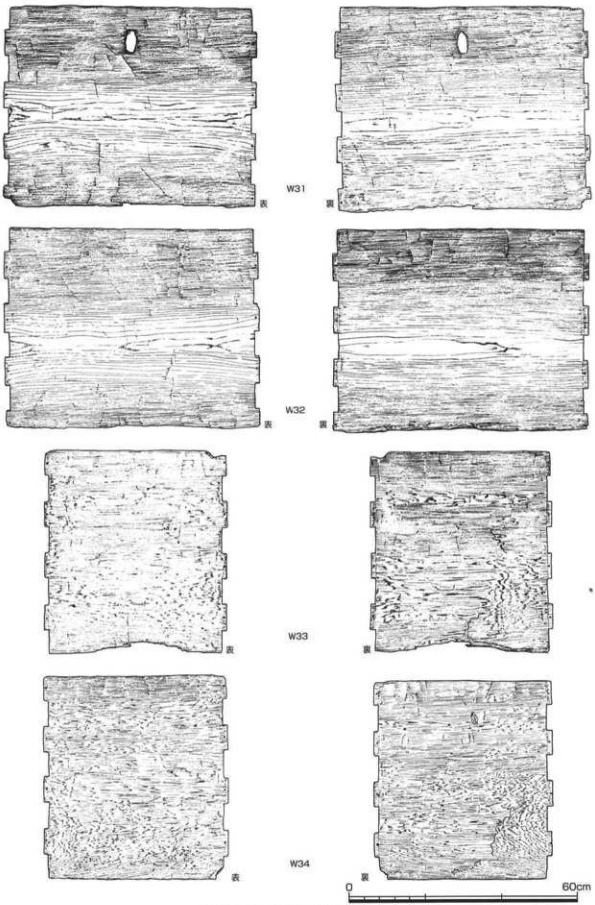


図105　601井戸下段枠板転用櫃板材

に桟を渡した痕跡かもしれない。桟は多くの場合横方向に取り付けられるが、正倉院の櫃の中には縦方向に桟を取り付けたものも少数ながらある。また脚を付けた痕跡は認められない。使用された板の材質は4枚ともヒノキ科のサワラで、板目の木取りをしている。なお調査では外された底板、壺金具は出土しなかった。あらかじめこれらを外した後に井戸の中に設置したのであろう。

上段の枠板内埋土からは遺物は出土していないが、下段の櫃の埋土から木製品と土器が出土している。下段埋土の上部からは籠状の木製品が出土した（図101）が、極めて脆弱な状態であったため保存処理を施すことができず、現地での記録にとどまった。土器は籠状木製品の下層からまとまって出土した（図103）。372は土師器の杯である。底部には「南」と墨書されている。373は杯身、376は壺、377は甕、すべて須恵器である。374は壺、375は高杯の脚部、378は小形甕、いずれも土師器である。

木製品もすべて井戸枠下段の埋土から出土している（図106）。W35は円盤状の木製品が欠損したもので、中央部に

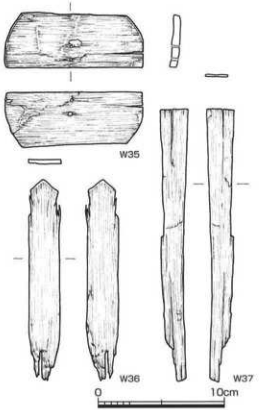


図106　601井戸出土遺物

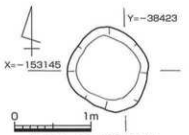


図107　602土坑平面図

図108　土坑出土遺物

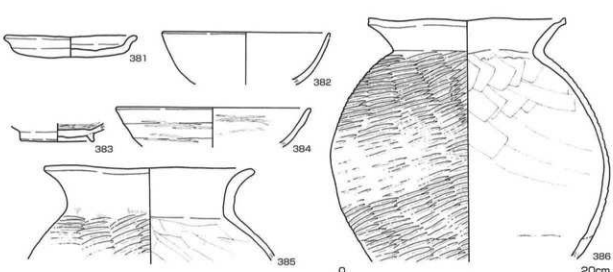


図109　第1層出土遺物

は孔が開けられている。容器の蓋と考えられる。W36・37はどちらも斎串である。

374と380の土器の時期は8世紀第四四半期にあてられ、この頃には井戸は機能を失っていたといえよう。また埋土中から斎串が出土していることから、埋没の過程で祭祀行為が行われた可能性が考えられる。

602土坑（図107）

調査区南辺で検出した。直径1.1m、深さ0.15mで、埋土は灰オリーブ色の細砂である。出土遺物から中世（鎌倉時代初頭頃）の土坑と考えられる。

出土遺物（図108）

土坑の埋土から、瓦器椀1点（379、和泉型）と土師器皿1点（380）が出土している。379の時期は12世紀後半から13世紀初頭頃にあてられ、調査地の中世の耕作時期を示す遺物といえる。

なお、第1層掘削中に出土した遺物を図109に示した。381は土師器皿、382は灰釉陶器椀、383・384は瓦器椀（384は和泉型）である。385・386は甕で、下層の古墳時代以前の遺物が含まれる。

第2項　弥生～古墳時代

（1）古墳時代前期（図110、図版48）

第1層を掘削して検出した遺構のうち、古墳時代前期の遺物を伴うもの。古代以降の遺構検出面と同一であるが、出土遺物で古墳時代前期と判断できるものを報告する。遺構は溝と土坑が主である。

603溝（図111）

調査区の東半を南西から北東に向けて走る溝である。溝の下半分は、人為的な埋戻しと考えられ、流水作用による堆積はみられない。残存幅は0.8～1.2m、深さは0.4～0.6mである。最下層から土器片が少量出土しているが、すべてが小破片である。

604土坑（図112）

調査区中央部で検出した円形の土坑で、直径は1.0m、深さは0.1mである。

出土遺物（図113）

土坑内から甕（387）、小形丸底土器（388）、小形器台（389）が出土している。なお図114は第1層除去面（遺構検出中）から出土した土器、鉄器である。390・391は甕であるが、390は受け口状の口縁をもつ。392・393は鉢である。394は調査地西側部分で出土した鉄鏃である。

鉄鏃の出土地点は、調査区西側の高まり付近で、ここは後掲する古墳時代初頭の、605溝の北の肩部にあたる。そのため鉄鏃は下層の土に包含されていた可能性も考えられる。

（2）古墳時代初頭（図115、図版49）

第2層を掘削して検出した古墳時代初頭の遺構である。検出遺構は竪穴住居と耕作溝、それ以外の溝の三種類のみであるが、上の遺構検出面よりも遺構密度が高い。耕作溝は調査地の西半で南北方向、中央部で東西方向のものがそれぞれ主となるが、遺構の前後関係からみて、南北方向の耕作溝が東西方向のものより後出するといえよう。また検出された住居址はいずれも耕作溝による削平を受けている。このことから調査地は居住域から耕作域という土地変遷を経ていたことがわかる。

605溝（図116、図版50）

調査区の西側、第5・6層の洪水砂層が厚く堆積した場所に掘り込まれた溝。残存幅は1.5～1.8m、深さは0.5～0.6m。埋土はすべて粗砂の多く混じった古土壌であり、流水作用による堆積はみとめられ

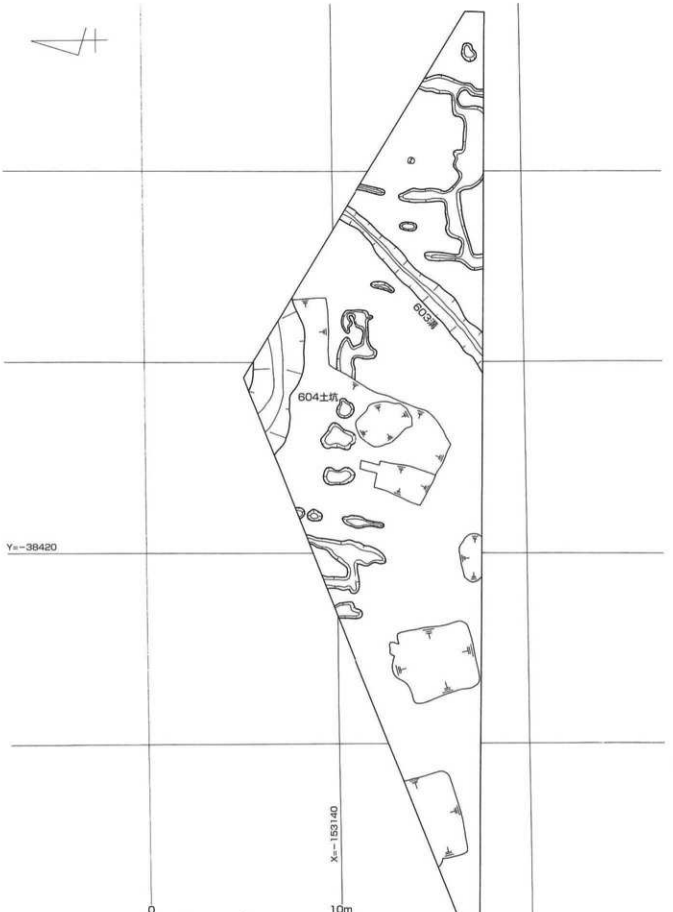


図110　古墳時代前期面全体平面図

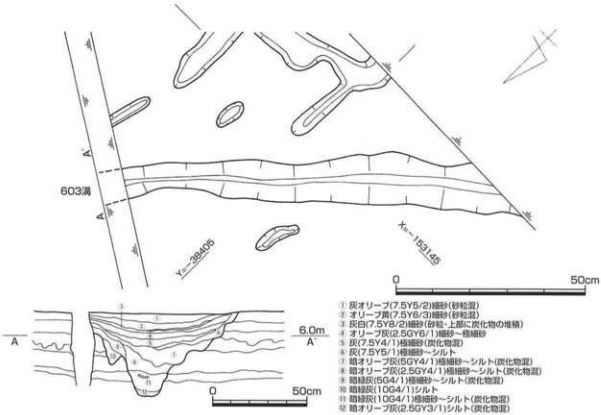


図111　603溝平・断面図

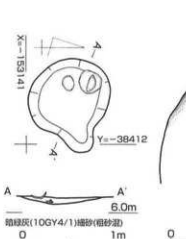


図112　604土坑平・断面図

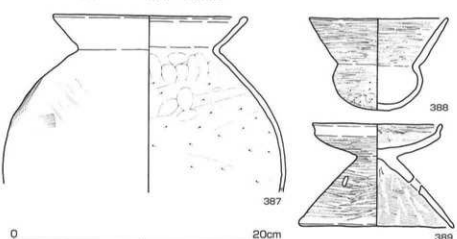


図113　604土坑出土遺物

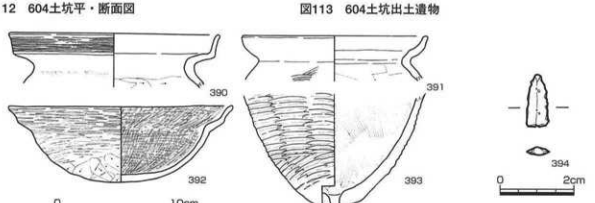


図114　第1層除去面出土遺物

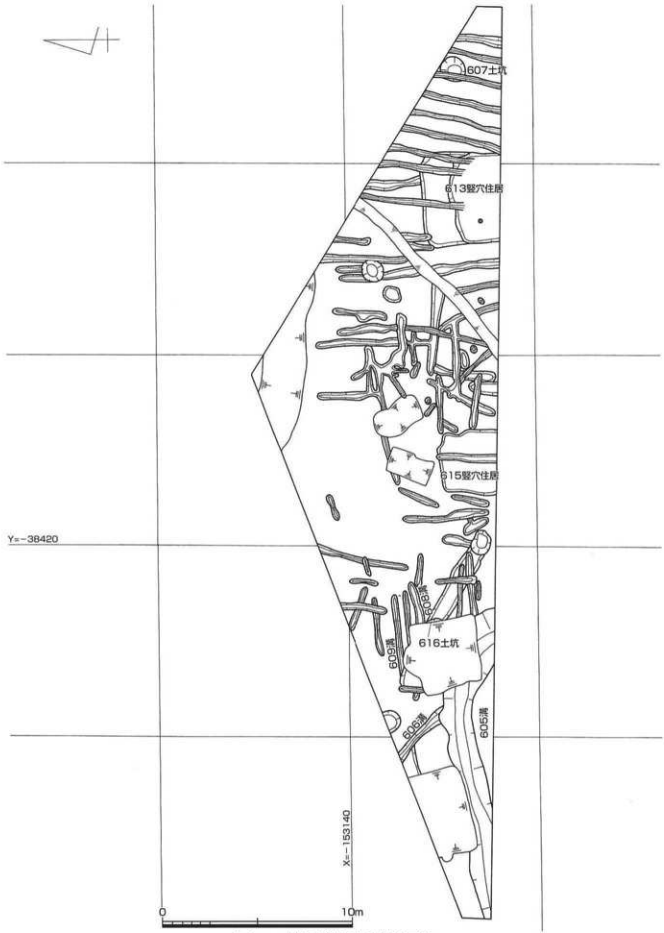


図115　古墳時代初頭面全体平面図

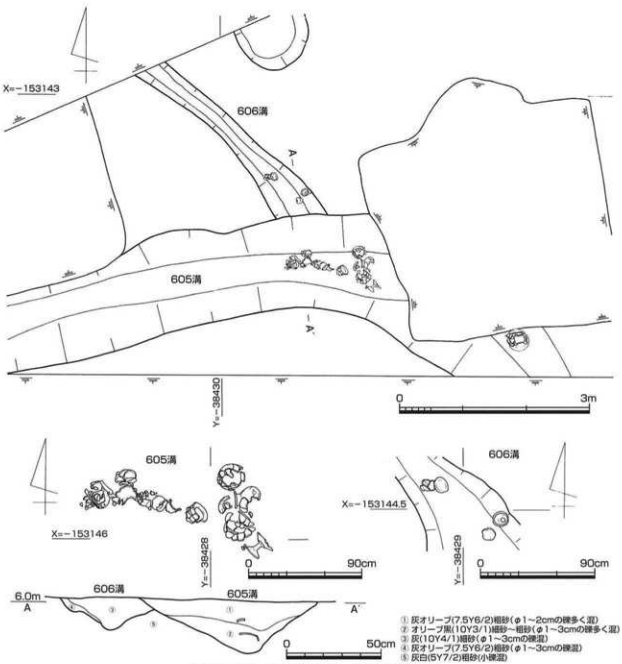


図116　605・606溝平・断・遺物出土状況図

ない。また埋土中には土器の砕片が数多く含まれていることから、溝の埋没は、肩部からの古土壌の崩落、ないしは人為的な埋め戻し行為によると考えられる。溝が東側で90°近く屈曲すること、流水堆積が皆無で水利用の溝と考えがたいことから、溝は周溝墓の周溝ないしは、区画用の溝どちらかの可能性が高い。

出土遺物（図117～119、図版106～108）

溝の埋土最下層からは、ほぼ完全な形を保った土器がまとまって出土した。高杯（396・400）や鉢（395）、壺（416・417）が出土しているが、それら以外はすべて甕である。甕は口縁径12～14cm、器高12～14cmの小形のものと、口縁径15cm前後、胴部径20cm前後、器高25cm前後の、中形のものに分かれる。小形の甕は、口縁端部をわずかに内反させるもの（405～407）と、内反させないもの（401～404・408・409）に分かれる。中形の甕は内外面調整、口縁形態等、すべてほぼ同様の特徴をあわせもつが、

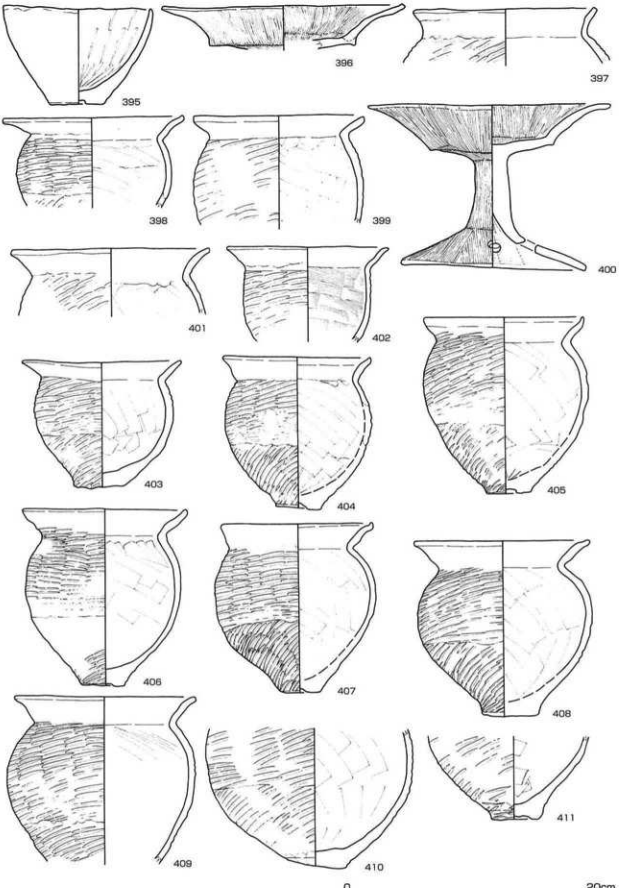


図117　605溝出土遺物（1）

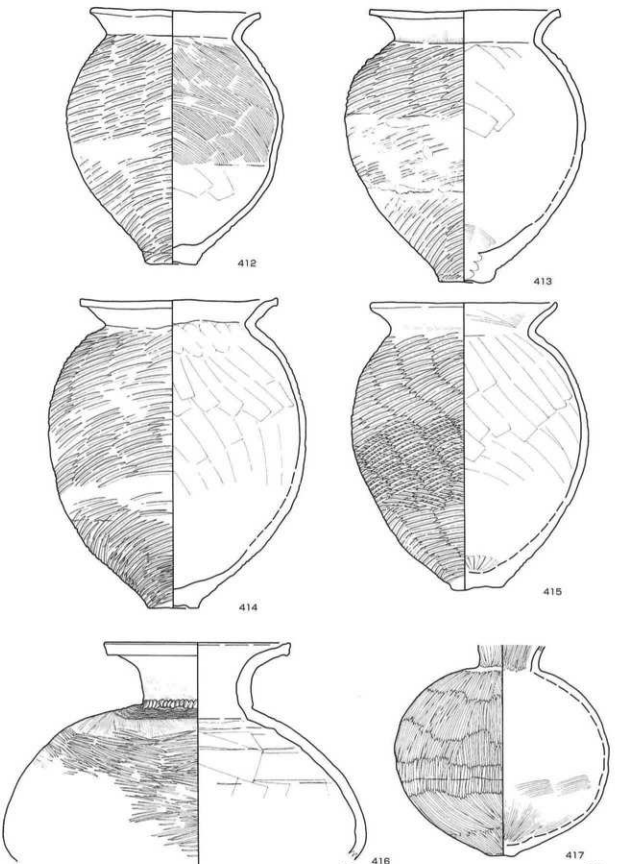


図118　605溝出土遺物（2）

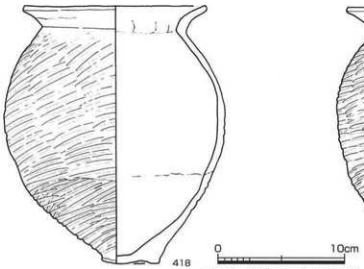


図119　605溝出土遺物（3）

図120　606溝出土遺物

415はやや内反する口縁をもつ。これらは型式的にも同一様相を示しており、溝の最初の埋没時期を直接表すものと考えて大過ない。

606溝（図116、図版50）

605溝に先行する南東から北西にかけて走行する溝で、残存幅は0.3～0.6m、深さは0.2～0.3mである。埋土は灰色のシルトが主であったため、605溝との前後関係は一見してあきらかだった。

出土遺物（図120、図版108）

溝の埋土中から、鉢（420）、台付鉢の脚部（421）、甕（422）が出土している。

607土坑（図121）

調査区の東端で検出した土坑で、残存直径1.2m、深さ0.2mである。埋土は一様ではなく、上層には焼け土混じりのシルトがひろがっていた。埋土の共通性から、西側近隣にある住居址とかかわる可能性も考えられる。土坑は一部が耕作溝に削平されていることから、溝掘削以前には埋まっていたといえ、後述する竪穴住居と耕作溝との順序と一致する。

出土遺物（図122）

土坑の埋土からは小形器台（423）と甕（424）が出土して

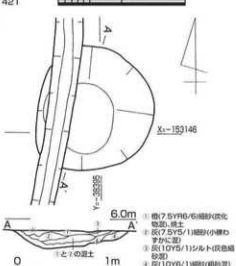


図121　607土坑平・断面図

図122　607土坑出土遺物

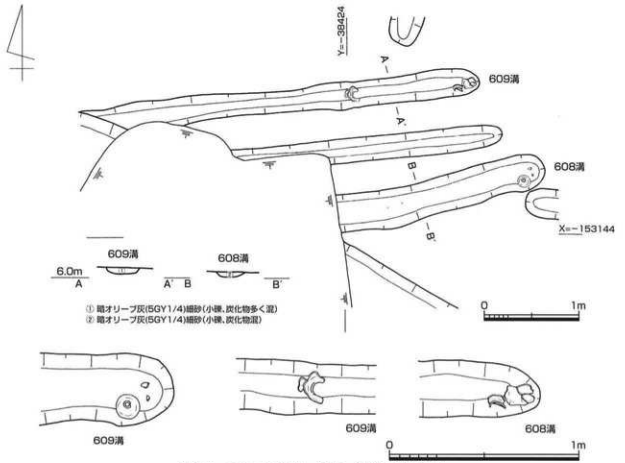


図123　608・609溝平・断面・遺物出土状況図

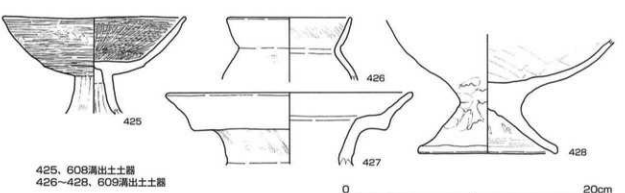


図124　608・609溝出土遺物

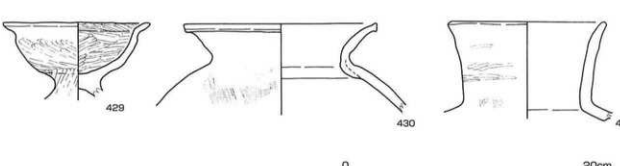


図125　第3面溝群出土遺物

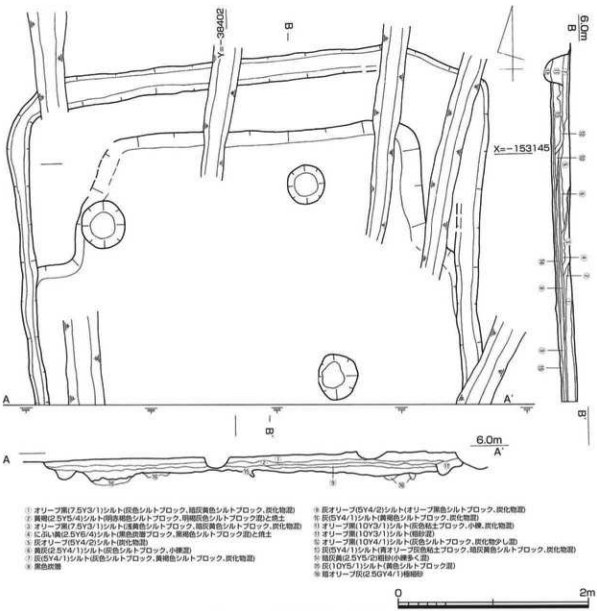


図126　613竪穴住居平・断面図

いる。

608・609溝（図123）

調査地の中央より西側で検出した東西方向の溝。残存幅はどちらも0.2～0.3m、深さはどちらも15～30cmである。耕作にともなう溝と考えられる。

出土遺物（図124）

608溝からは高杯（425）、小形の甕（426）、複合口縁の壺（427）が出土している。609溝からは台付鉢（428）が出土している。

上記以外の溝の埋土中から出土した土器を図125に示した。台付鉢（429）は610溝から、広口壺（430）は611溝から、直口壺（431）は612溝から出土している。溝の位置は図115を参照。

613竪穴住居（図126、図版50）

調査区東側部南辺で検出された、屋内に高床部を有する竪穴住居である。東西辺6.0m、南北辺は調査区外に伸びるため、実寸は定かでない。調査区南側の側溝断面（B－B′断面）にまで竪穴住居の掘り込

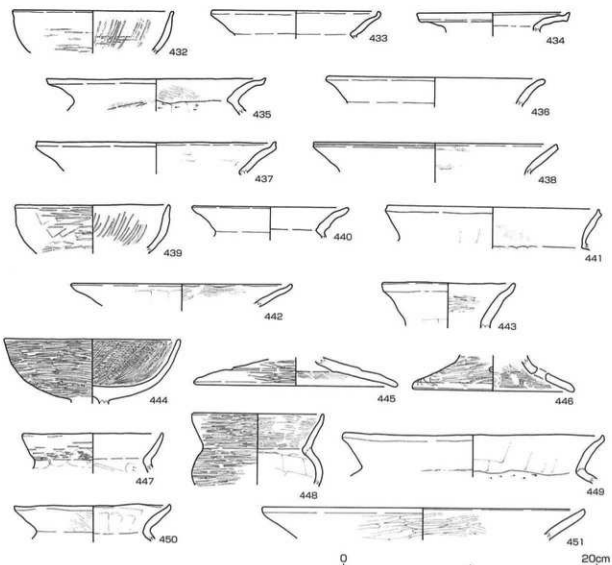


図127　613竪穴住居出土遺物

みが確認されることから、南北辺も6.0m近くあったと想定できる。高床部は竪穴住居の北側で検出され、粗砂混じりの整地土上に盛土をして造られている。高床部盛土は居住によるためか、きわめて硬くしまった土である。柱穴は3ヶ所確認できた。ただし竪穴住居のプランから考えればやや不整形な配置で、すべてがやや西に寄っている。掘削の最終段階で竪穴住居内埋土を除去したさいに、不整形な土坑（614土坑、図128）を検出した。位置関係から柱穴とは考えられないが、埋土が竪穴住居のそれと共通することから、住居にともなう土坑で、床面から掘り込んでいた可能性が考えられる。住居内の数ヶ所には、南北方向の耕作にともなう溝による攪拌痕跡がみられる。このことから住居から畠地という遺構の変遷が確認できる。

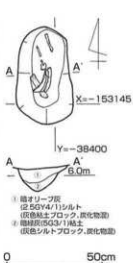


図128　614土坑平・断面図

出土遺物（図127）

竪穴住居は耕作にともなう溝でおおきく攪乱されているため、出土した土器はすべて断片資料である。432～438は住居の最終埋没段階と考えられる土層からの

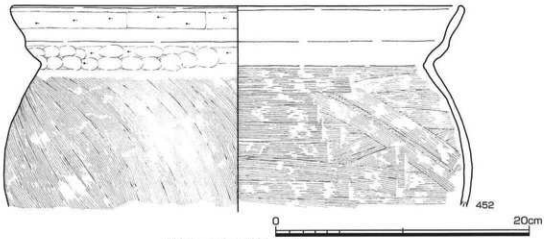


図129　614土坑出土遺物

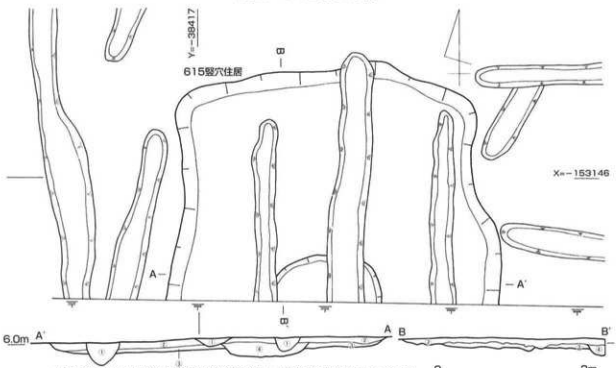


図130　615竪穴住居平・断面図

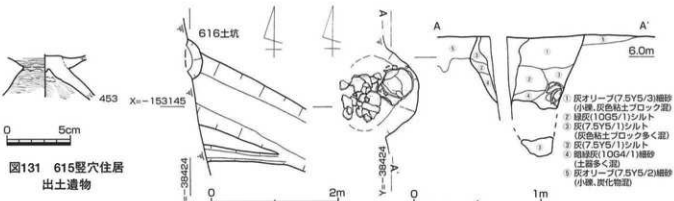


図131　615竪穴住居出土遺物

図132　616土坑平・断面・遺物出土状況図

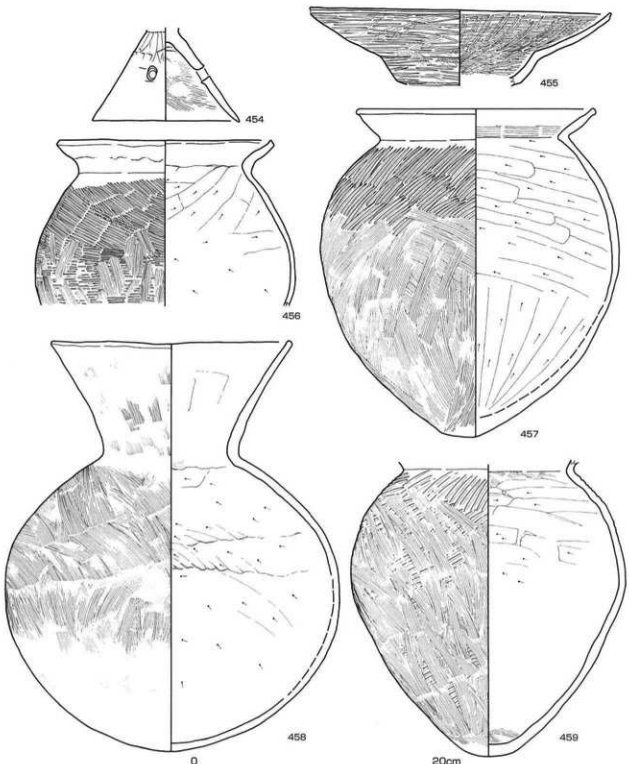


図133　616土坑出土遺物

出土土器で、これらは畠作段階の土器が混入している可能性が高い。439～445は住居床面直上出土土器。446～451は住居構築時の埋土出土土器である。452は614土坑から出土した大形の甕である（図129、図版108）。

615竪穴住居（図130、図版50）

調査区中央部南辺で検出された竪穴住居。住居は掘り込み面のみの残存であった。大きさは東西辺4.5

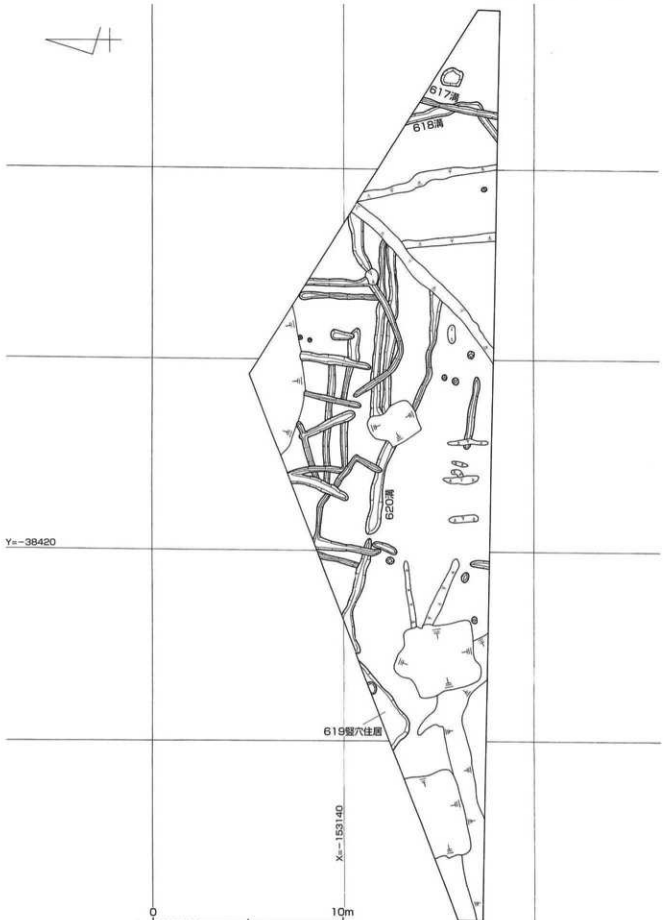


図134　弥生時代末面全体平面図

m、南北辺4.5mである。ただし南北辺は、調査区側溝にかかるため613竪穴住居同様推定値である。またここでも、南北方向の溝による攪拌痕跡が確認できることから、住居から畠地という遺構の変遷が認められる。

出土遺物（図131）

住居からは破片資料が出土したのみで、時期の限定できる資料はきわめて少ない。時期比定のできる資料は453の高杯の破片程度である。

616土坑（図132、図版51）

調査区の西側部分で、近代の井戸に3／4以上が撹乱された土坑を検出した。残った部分も井戸の構築にともなう木枕の影響で地層の乱れが著しいが、断面形状からみて井戸の可能性が高い。最下層の埋土中からまとまって土器が出土した。616土坑は612溝を切り込む形で掘られており、612溝から616土坑という遺構の変遷が確認できる。

出土遺物（図133、図版109）

土坑の出土遺物はすべて最下層埋土からである。454は小形器台の脚部、透かし孔は三方向にあけられている。455は高杯杯部である。456・457・459は甕、458は直口壺である。457～459の底部は、丸底化の傾向にあり、同一面で検出した遺構出土土器よりも新しい様相をもっているといえよう。これは616土坑が612溝よりも後出するという調査内容とも符合する。

（3）弥生時代末（図134、図版51）

第3層を掘削して検出した弥生時代末の遺構である。竪穴住居一棟と東西・南北に伸びる溝を検出した。ただし南北に伸びる溝は、上面に帰属する可能性がある。

617・618溝（図135）

調査区の東端で検出した溝である。逆くの字型に曲がる618溝が埋まった後、617溝が掘削された。どちらも残存幅は0.2～0.3m、深さは617溝が0.2m、618溝が0.15mである。618溝はその平面形から調査時、竪穴住居の周壁溝の一部の可能性も考えられた。しかし溝より西側の部分で、それに対応する遺構が検出されていないことから、竪穴住居の蓋然性は低い。

出土遺物（図136）

出土遺物は、すべて617溝と618溝の交点周辺から出土した。検出状況からどちらの溝にともなうか判断しながら取上げたが、のちの整理作業で両溝にまたがって接合する資料が確認できた。そのため、あえて遺物の帰属する溝埋土を特定せずに報告する。460は高杯脚部、461は高杯杯部である。462・464・465は甕、465は外面全面にナデ調整を施す。463は直口壺である。

619竪穴住居（図137、図版51）

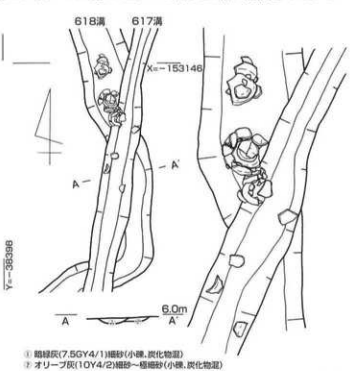


図135　617・618溝平・断面・遺物出土状況図

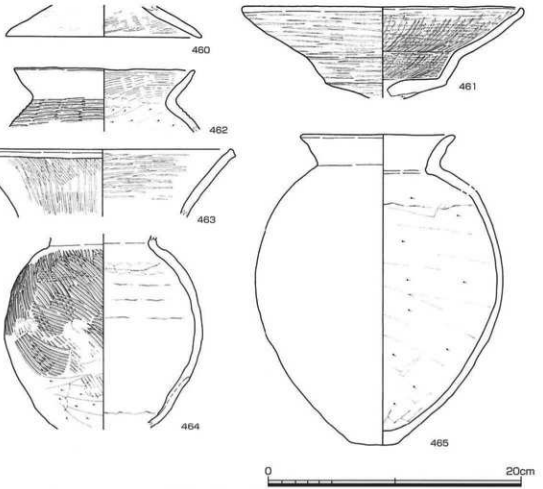


図136　617・618溝出土遺物

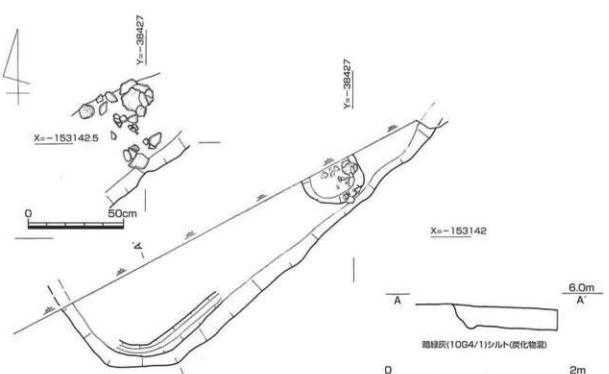


図137　619竪穴住居平・断面・遺物出土状況図

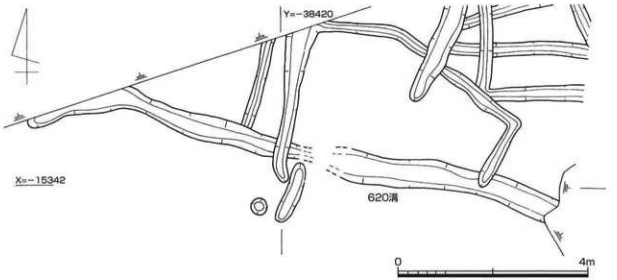


図138　620溝平面図

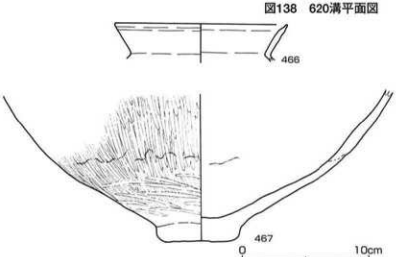


図139　619竪穴住居出土遺物

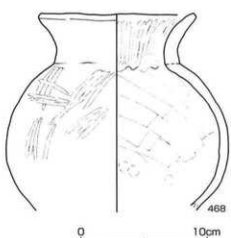


図140　620溝出土遺物

調査区西側部分で竪穴住居を検出した。住居は掘り込み面と一部周壁溝が残存するのみであった。住居のほとんどが調査区外に伸びるため、大きさは一辺４ｍ以上としかわからない。住居址の北側で、残存直径約0.3ｍの土坑が検出され、土器はその周辺にかたまって出土した。なお住居の平面形が不明確なため、土坑の機能はわからない。

出土遺物（図139）

土坑の周辺で出土した土器である。466は甕の口縁、467は大形の甕の胴部から底部片である。出土土器は上層からの攪拌のため、破片資料ばかりであった。

620溝（図138）

調査区の中央部北側で東西に伸びる溝を検出している。溝の残存幅は0.6～0.8ｍ、深さは約0.3ｍである。検出状況からどの溝よりも先行する可能性がある。

出土遺物（図140）

調査時に最も古い段階の溝であると認識していたため、精緻に埋土を掘削したが、出土した遺物は468の広口壺一点であった。しかし468は、おなじ検出面の617・618溝出土土器と比較しても古い様相をもつといえるため、溝が古い段階に開削されたという調査見解と符合する。

第５章　調査の成果・７区

第１節　層序

弥生時代から中世まで大別９層に分層した（図141・180、表２・３）。

１層　近世耕土層と近代の竜華操車場設置に伴う盛土および撹乱層で、調査区の全面に認められる。現地表面の標高は約7.9mで、１層を対象に機械掘削で平均7.0mまで排除した。調査区の西端部では４層の存在により地表面のレベルが高くなっている。これを隆起帯とする。

１－１層　全区域に分布する近代の盛土層で、操車場設置時点のベースとなる。灰オリーブ色シルトを基調とする。本層位上面（現地表面）のレベルは7.9m前後である。

１－２層　1938年の竜華操車場造成以前の層位で、近世・近代作土層およびそのベース層である。層厚は最大約40cmで、灰オリーブ色シルトを主体とする。上面は鳥畠を形成する。

２層　主として東半部で確認された近世の鳥畠の高まりに残された古代の包含層で、西端部の隆起帯には存在しない。層厚は約30cmである。遺構面は２層上面に１面（古代面Ⅰ・中世面）が存在する。

２－１層　灰色粘土を基調とする。層厚約20cm。

２－２層　灰色細砂を基調とする。層厚約10cm。

３層　調査区東半の水田面、およびそのベース層である。西端部の隆起帯には存在しない。遺物は皆無で、正確な形成時期を明らかにできなかったが、層位的関係から古代に属するものであろう。遺構面としては３層上面には２面（古代面Ⅱ）とした水田面がある。

３－１層　暗灰黄色粘土を基調とする層位で、層厚は最大約15cmである。水田耕土層に相当する。

３－２層　灰オリーブ色粘土を基調とする。調査区東半部に分布する。層厚は５～６cmである。

４層　調査区西端部の地形隆起帯を形成する層位で、やや異質な堆積環境下にある。地籍図でも周辺地区を含めて地割が乱れており、地形が南北方向に隆起していることを窺わせる。古墳時代前期～後期までの堆積層である。南－北方向の小規模河川に伴う自然堤防の可能性がある。遺構面として３面（古墳

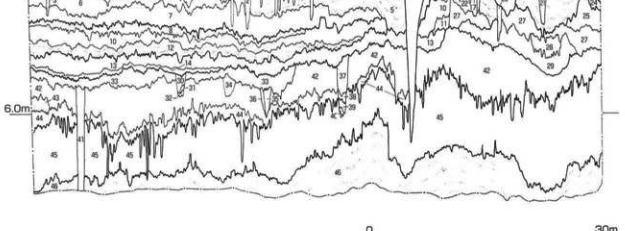


図141　７区南壁土層断面図

時代面Ⅰ）・4面（古墳時代面Ⅱ）がある。当該面には僅かながら古代～中世の遺構も存在する。おそらく削平された上層から切り込まれたものであろう。

4－1層　灰オリーブ色シルト・極細砂を基調とする。最大厚50cm。極細砂にはラミナがみられ、流水堆積であることを示す。

4－2層　灰オリーブ色シルトを基調とする。層厚約30cm。

5層　古墳時代初頭～前期の形成層である。6層の表層部に由来する耕作土層で、人為的な撹拌により自然堆積層から変質している。調査区全域に分布する。遺構面として5層上面に5面（古墳時代面Ⅲ）がある。標高は東が6.4m、西が6.7mである。

5－1層　調査区東半を中心に分布する灰オリーブ色シルトである。最大層厚15cm。土壌層。

5－2層　灰・黄灰色粘土・シルトを基調とする。最大層厚50cm。やや弱い土壌層。

6層　調査区全面にみられる河川堆積層。古墳時代初頭の形成である。遺構面は6層上面に6面（古墳時代面Ⅳ）・7面（古墳時代面Ⅴ）がある。

6－1層　灰オリーブ色シルトを基調とする。5層の撹拌、撹乱の及んでいない遺構面のベースで、河川堆積の上層にあたる。層厚は最大70cm。

6－2層　河川堆積物の下層にあたる。暗オリーブ灰色砂礫層を基調とする。正確には5層上面が本来河川堆積の表層部に近いが、5～7面との分離が困難であるため、便宜的に6－2層上面を8面（古墳時代面Ⅵ）とした。

7層以下　調査区の中央において、7層より下層部分の調査を行った。結果は本章末に記述する。

表2　7区土層名

番号	土層	大別	細別	備考	番号	土層	大別	細別	備考
1	灰オリーブ（5Y5/2）極細砂混シルト	1層	1-1	近代	24	灰オリーブ（5Y5/2）極細砂混シルト	4層	4-2	古墳後期
2	灰オリーブ（7.5Y5/2）極細砂混シルト			遺構埋土	25	灰オリーブ（5Y4/2）極細砂混粘土			
3	灰（10Y4/1）極細砂混粘土			遺構埋土	26	灰オリーブ（5Y4/2）細砂混シルト			
4	灰オリーブ（5Y5/2）極細砂混シルト		1-2	近世	27	灰オリーブ（5Y4/2）極細砂混シルト			
5	灰オリーブ（5Y5/2）細砂混シルト				28	灰オリーブ（5Y5/2）極細砂混シルト			
6	灰（7.5Y5/1）粘土				29	灰オリーブ（5Y4/2）極細砂混粘土			
7	灰（5Y4/1）極細砂混シルト				30	灰オリーブ（5Y4/2）極細砂混シルト	5層		遺構埋土
8	灰（7.5Y4/1）極細砂混粘土	2層	2-1	古代～中世	31	オリーブ黒（5Y3/2）極細砂混シルト			
9	灰（5Y4/1）極細砂混粘土				32	オリーブ黒（5Y3/2）中砂混シルト			
10	暗灰黄（2.5Y4/2）極細砂混粘土				33	灰オリーブ（5Y4/2）粘土		5-1	古墳前期
11	灰オリーブ（5Y4/2）極細砂混粘土				34	オリーブ黒（5Y3/2）極細砂～細礫混シルト			遺構埋土
12	灰（7.5Y4/1）細砂		2-2		35	オリーブ黒（5Y3/2）極細砂～細礫混シルト			遺構埋土
13	暗灰黄（2.5Y4/2）極細砂混粘土	3層	3-1	古代水田	36	オリーブ黒（5Y3/2）極細砂～粗砂混シルト			
14	灰オリーブ（5Y4/2）粘土		3-2	古代	37	オリーブ黒（5Y3/2）極細砂～細礫混シルト			
15	灰オリーブ（5Y4/2）極細砂混シルト	4層		遺構埋土	38	オリーブ黒（5Y3/2）極細砂混シルト			遺構埋土
16	灰（5Y4/1）粘土			遺構埋土	39	オリーブ黒（5Y3/1）極細砂混粘土			
17	灰オリーブ（5Y4/2）極細砂混シルト			遺構埋土	40	オリーブ黒（5Y3/2）極細砂混粘土			
18	灰オリーブ（7.5Y4/2）極細砂混シルト			遺構埋土	41	灰（10Y4/1）極細砂～粗砂混シルト			遺構埋土
19	灰オリーブ（7.5Y4/2）細砂混シルト			遺構埋土	42	黄灰（2.5Y4/1）極細砂混シルト		5-2	古墳初頭～前期
20	暗オリーブ灰（2.5GY4/1）極細砂混シルト				43	灰（7.5Y4/1）細礫			
21	オリーブ灰（2.5GY5/1）極細砂混シルト				44	灰（5Y4/1）シルト			
22	灰オリーブ（5Y5/2）極細砂混シルト		4-1	古墳後期	45	灰オリーブ（5Y4/2）シルト	6層	6-1	古墳初頭
23	灰オリーブ（5Y5/3）極細砂				46	暗オリーブ灰（2.5GY4/1）砂礫		6-2	弥生後期河川

第２節　遺構と遺物

第１項　古代～中世

１面（古代面Ⅰ・中世面）（図142、図版52・53）

基本的には近世の島畠を除去した面で、東半を中心に検出された。しかし西半の地形隆起帯では、表土を除去した段階で２・３面にあたる古墳時代～古代の遺構面が露出した。すなわち隆起帯上において１面は単独で存在しない。また隆起帯上の１面帰属遺構は稀薄である。１面では東半で土坑、井戸、溝、西半隆起帯上でピットが検出されている。東半の遺構は東西方向に並び、条里地割に規制された形跡が窺える。これらの遺構群以南では地形がやや低くなっており、遺構は全く検出されなかった。

702土坑（図143）

Ｂ４－ｃ３に位置する土坑である。長軸0.45m、短軸0.4mの不整円形を呈し、深さは0.15mである。

出土遺物（図145）

和泉型の瓦器椀492が出土した。

703土坑（図143、図版54）

Ｂ４－ｃ３に位置する土坑である。長軸1.9m、短軸0.75mの東西方向に長い不整長方形を呈する。深さは0.25mである。土坑壁面には緩やかな段がある。

出土遺物（図145）

土器469～482が出土した。469～475はての字口縁の土師器小皿である。476・477は土師器台付皿である。478・479は和泉型の瓦器椀である。480は瓦質皿、481は瓦質甕、482は土師質鍋である。総体的にみて11世紀に属する。

704土坑（図143、図版54）

Ｂ４－ｃ２・ｃ３に位置する土坑である。長軸1.05m、短軸0.45mの東西方向に長い不整長方形を呈する。深さは0.25mである。土坑壁面には緩やかな段がある

出土遺物（図145）

黒色土器椀493が出土した。10世紀末。

706土坑（図144）

Ｂ４－ｃ２に位置する土坑である。径0.5m前後の不整円形を呈する。深さは0.05mで浅い。

出土遺物（図145）

和泉型の瓦器椀491が出土した。

707土坑（図144）

Ｂ４－ｃ２に位置する土坑である。長軸1.1m、短軸0.8mの不整形な平面形で、深さは0.2mである。

出土遺物（図145）

土師器小皿483～487、瓦質皿488、土師器台付皿489 が出土した。

705井戸（図144、図版55）

Ｂ４－ｃ２に位置する井戸である。東側の一部を706土坑に切られている。掘形は長径0.8m、短径0.7mの不整楕円形を呈し、深さは0.7mである。井戸の構造材は全く遺存していなかったが、最下部に直径25cm、深さ20cmの円筒形の掘形があり、井筒の痕跡とみられる。

出土遺物（図145）

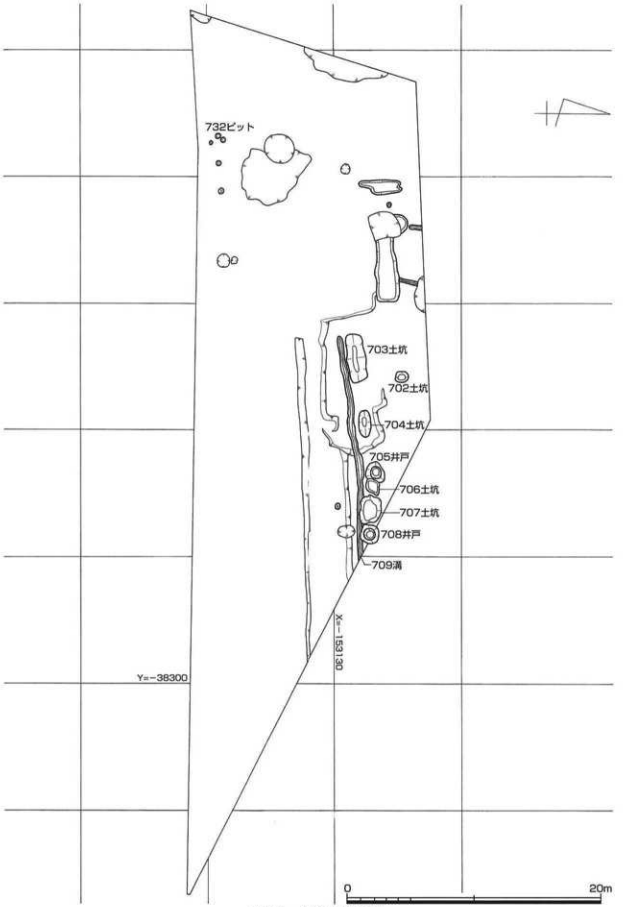


図142　１面遺構分布図

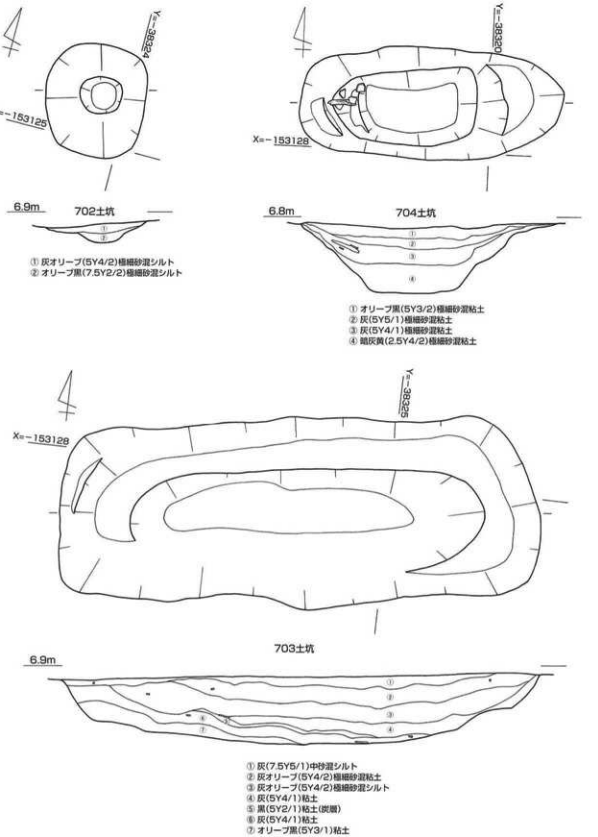


図143　1面遺構平・断面図（1）

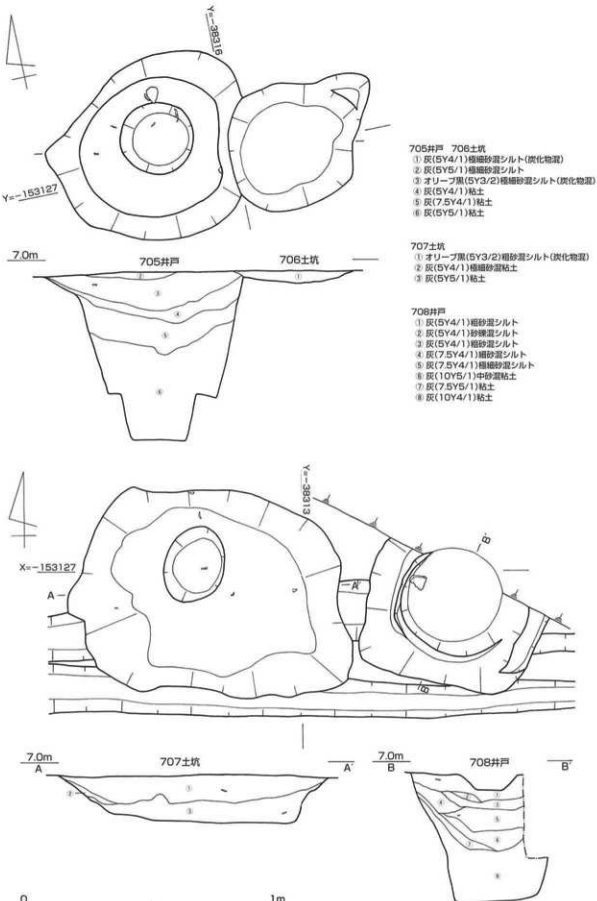


図144　１面遺構平・断面図（２）

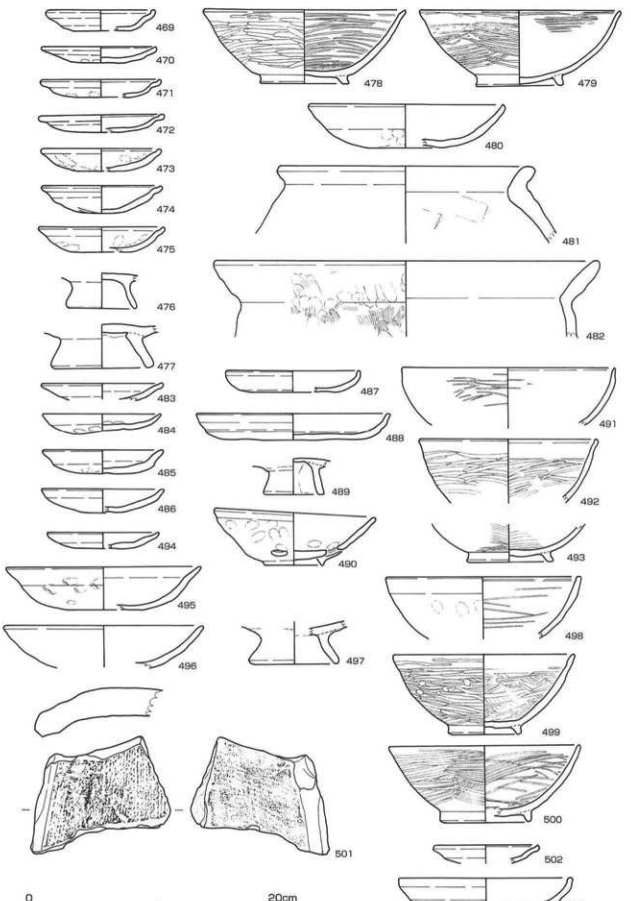


図145　1面遺構出土遺物

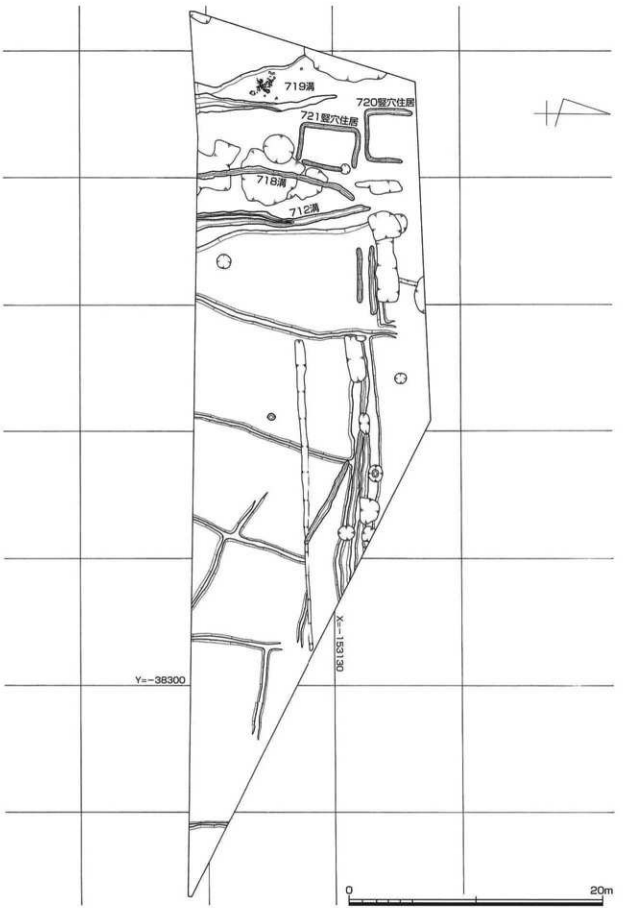


図146　2・3面遺構分布図

土師器小皿494、土師器皿495・496、台付皿497、和泉型の瓦器椀498～500の他、平瓦501が出土した。11世紀。

708井戸（図144、図版55）

Ｂ４－ｃ２に位置する井戸で、北側の一部は側溝で切られている。掘形は一辺約0.7mの隅丸方形を呈し、深さは0.5mである。構造材は全く遺存していなかったが、最下部に直径35cm、深さ20cmの円筒形の掘形があり、井筒の痕跡とみられる。

出土遺物（図145）

土師器小皿502、土師器皿503が出土した。11～12世紀。

709溝（図版54）

Ｂ４－ｃ１～ｃ３に位置し、１面土坑・井戸の南側を東西に走る溝である。検出全長21m、最大幅0.6m、深さ0.3mである。遺物は皆無であるが、位置関係から１面遺構群と関連をもつ遺構であろう。

732ピット

Ｂ４－ｄ５に位置するピットで、当該期においては隆起帯上で確認された唯一の遺構である。しかし周辺に同様のピットが散見されることから、これらも当該期に帰属する可能性がある。掘形は径0.4mの円形を呈し、深さは0.2mである。

出土遺物（図145）

ピット底から土師器椀490が出土した。10世紀。

２面（古代面Ⅱ）（図146、図版56・57）

調査区東半の南側で検出された水田面である。

水田は調査区の南東、Ｂ３－ｄ10・Ｂ４－ｄ１～ｄ４を中心に、その周辺を一部含めて検出された。Ｂ４－ｃ１～ｃ３にかけて大畦畔が検出されている。この大畦畔は幅１m、検出全長22m、高さ0.1mで東西に延び、条里地割に従っている。大畦畔の北側で畦畔は確認されなかったが、南側では小区画水田が検出された。水田面を区切る畦畔は、条里地割と方向を異にしており、東西方向のものは東へ、南北方向のものは北へ振れている。畦畔は幅50cm、高さ５～10cm前後で、区画は方形ではなく菱形に歪んでいる。水田面の標高は6.4～6.5m前後である。西側は隆起帯の手前が耕作域の境界になっている。遺物は全く検出されなかったが、１面遺構群が大畦畔の一部を掘り崩しているため、明らかに10世紀以前の遺構面であるといえる。

第２項　古墳時代

３面（古墳時代面Ⅰ）（図146、図版56）

古墳後期を主体とし、一部に飛鳥時代の遺構を含む。調査区西半の隆起帯上に存在する遺構面で、東半部には認められない。機械掘削の時点ですでに露出しており、遺構面の連続性はないが、外見上は１・２面と同一面で検出されている。

712溝（図版58）

Ｂ４－ｄ４・ｅ４に位置する南北方向の溝である。隆起帯東縁の傾斜変換点にあたる。検出全長は13m、幅１mで、深さは0.2mである。北側は削平のため浅くなって途切れている。

出土遺物（図147）

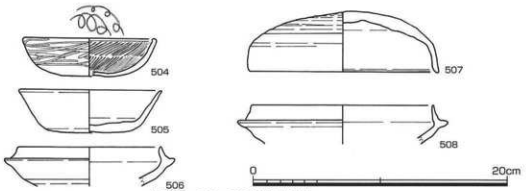


図147　712・718溝出土遺物

土器504～507が出土した。504は土師器杯、505は須恵器杯身である。７世紀。506は須恵器杯身、507は須恵器杯蓋である。６～７世紀。

718溝（図版58）

Ｂ４－ｃ４・ｄ４・ｄ５・ｅ５に位置する南北方向の溝である。検出全長14m、幅0.4m、深さ0.2mである。北側は削平のため浅くなって途切れている。

出土遺物（図147）

須恵器杯身508が出土した。６世紀。

720竪穴住居（図148、図版59）

Ｂ４－ｃ５に位置する方形竪穴住居である。721竪穴住居の北側にある。壁溝の一部のみが方形に巡

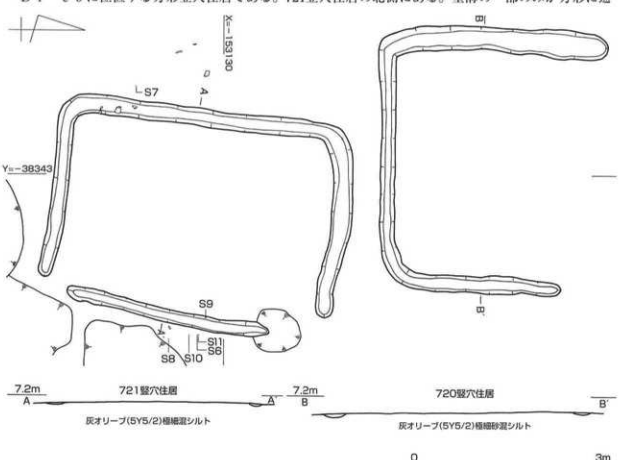


図148　720・721竪穴住居平・断面図

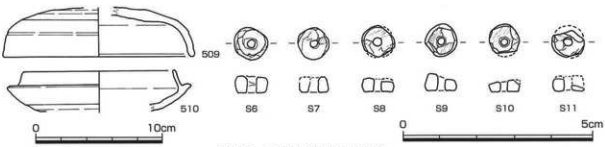


図149　721竪穴住居出土遺物

り、柱穴や床面遺構などは全く検出されなかったが、規模や形状から一応、竪穴住居として扱った。隆起帯の中央北寄りにあるが、隆起帯は北側ほど強い削平を受けている。おそらく721竪穴住居と同様に壁溝が四方向に巡るとみられるが、東、西、南の３方のみ壁溝がある。南北辺3.4m、東西辺3.6mで、壁体は全く遺存しない。また貼床等の存在も認められなかった。遺物は出土しなかった。

721竪穴住居（図148、図版59）

Ｂ４－ｃ５・ｄ５に位置する方形竪穴住居である。720竪穴住居の南側にある。壁溝が方形に巡るだけで柱穴や床面遺構などは全く検出されなかったが、規模や形状から一応、竪穴住居として扱った。南

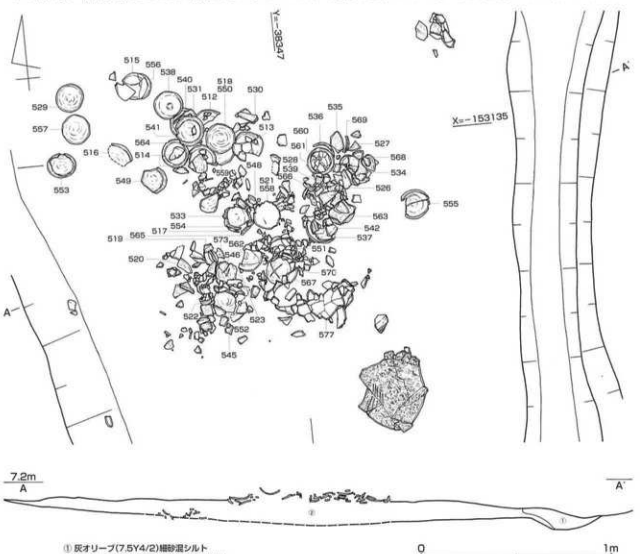


図150　719溝遺物出土状況図

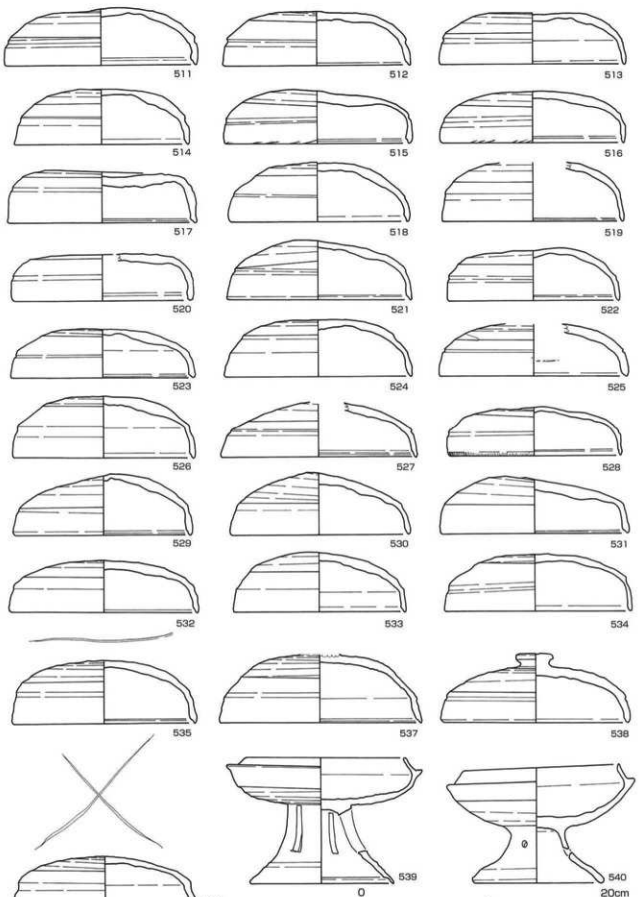


図151　719溝出土遺物（1）

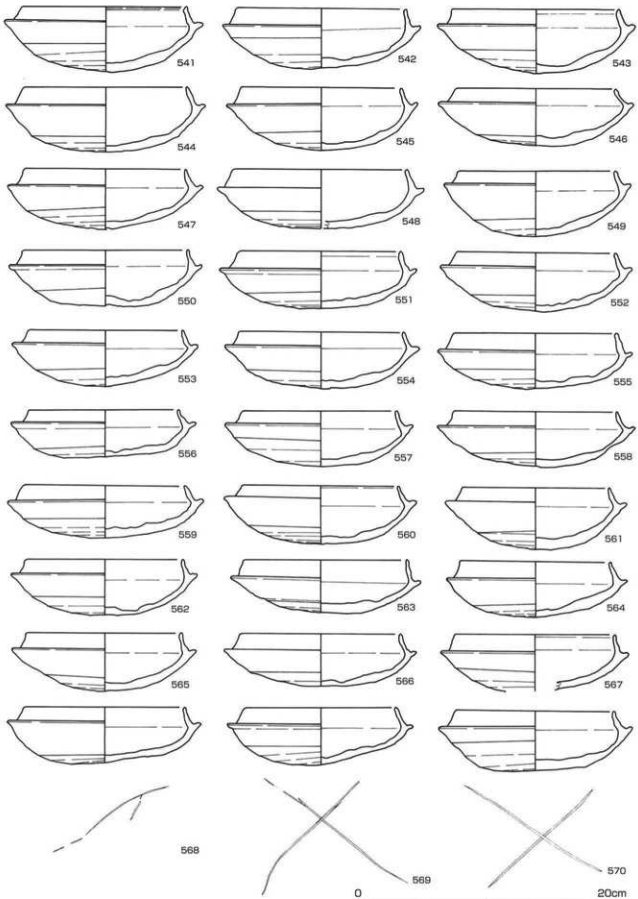


図152　719溝出土遺物（2）

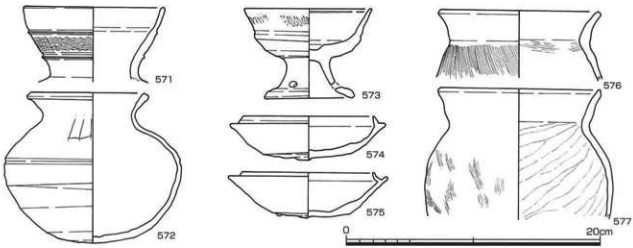


図153　719溝出土遺物（３）

北辺4.2m、東西辺3.6mで、壁体は全く遺存しない。

出土遺物（図149）

床面直上や壁溝から須恵器杯蓋509、杯身510、滑石製臼玉Ｓ６～11が出土した。６世紀。

719溝（図150、図版60）

Ｂ４－ｄ５・ｅ５に位置する溝である。検出全長10m、幅は北側で４m、南側で2.4m、深さは0.1～0.2mである。機械掘削により表土を除去した時点で、多量の土器が露出した。これらの掘形は確認できず、719溝に属するものとした。ただしこの溝自体の輪郭が不明瞭であり、落込みに類する遺構の可能性も捨てきれない。遺物は高密度で集積していた。

出土遺物（図151～153、図版110・111）

須恵器（511～575）、土師器（576・577）が出土した。511～536は杯蓋である。口縁部と天井部を区画する沈線は乱れて曖昧で、回転ケズリも粗雑である。537・538は有蓋高杯蓋、539・540は有蓋高杯である。539は脚部に方形、540は円形の透孔がある。541～570は杯身である。受部の立ち上がりは内傾し、大半の口縁端部は丸くおさめている。回転ケズリの位置は下がったものが多い。571は壺口縁部で、２条の突線間に波状紋を加える。572は短頸壺で、外傾する短い口縁部をもつ。573は台付鉢で、口縁部外面に不完全な刻目を施す。杯蓋、杯身、高杯などはおおむねＴＫ10の範疇で捉えられ、６世紀中葉に属する。576・577は土師器甕で、外面をハケ、内面をハケまたはナデで仕上げる。他に内面に同心円当て具痕のある須恵器甕の体部が出土している。

須恵器杯身574・575は、須恵器、土師器の土器集積よりも北側で検出されており、一括性のあるものではない。上層からの混入遺物であろう。ＴＫ217古相。

４面（古墳時代面Ⅱ）

古墳時代面Ⅰに先行する遺構面である。隆起帯上のみで確認された。

溝群（図154、図版61）

隆起帯上の全面で検出された溝群である。溝群は726～731・734・738溝の計８条の溝で構成される。ほぼ南北方向に平行して走行し、検出全長は最長のもので16.7m、幅は0.6mである。深さは0.2～0.3mで、遺物は出土しなかった。

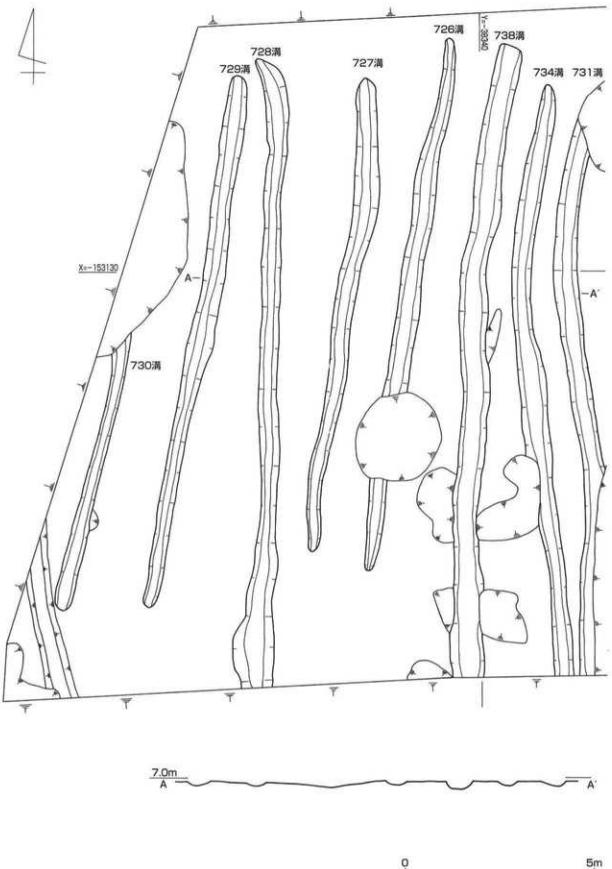


図154　4面溝群平・断面図

5面（古墳時代面Ⅲ）（図155、図版62）

5層上面。古墳時代初頭～前期古段階（庄内式期～布留式期）の畑の耕作土層上面を基本とし、最終は古墳時代前期、布留式古段階にあたる。3・4面を乗せた4層の堆積以前であり、隆起帯は存在せず、5面は調査区の全面に分布する。おおむね強く土壌化するが、西半の隆起帯直下は土壌化が進行していない。

724堤（図156、図版63～65）

739河川の堤防遺構で、B4－c2～c4に位置する。検出全長34mで、ほぼ東西方向に走るが、c2より東ではやや北寄りに振れるようである。739河川の左岸に沿って、5層に由来する土層を盛土して堤が設置されている。堤の基底部南側はレベルがやや低くなっていて、築堤のための土取りが行われた可能性がある。堤の断面は河川側が切り立った台形を呈し、基底部の幅3.0m、上面幅1.4m、基底面からの高さは最大で0.4mである。堤の直下やその南側の5層内から多量の土師器が出土した。土器はほとんどが密集した土器集積の状態で検出され、幾つかの群を構成する。その目的は明らかではないが、土器内部が空洞のままで保たれた個体もあり、築堤の直前に集積され、人為的な埋没を受けたようである。築堤時期を示す遺物として捉えられる。

出土遺物（図157～165、図版111～120）

578～584は壺である。578～583は直口壺である。そのうち578～580は丁寧な横方向ミガキで調整されている。丸底が多いようであるが、581は比較的大きい平底を残している。584は複合口縁壺の一部で、頸部から口縁部にかけての屈曲が明瞭である。

585～641は甕である。585～607は庄内式甕である。すべて河内型で、このうち585～605は角閃石を含む生駒西麓産の胎土をもつが、606・607は胎土が異なる。庄内式甕のうち大半は、体部の外面が細筋、極細筋の右上がりタタキとハケ、内面ケズリで仕上げられている。601は大形の庄内式甕で、タタキが確認できない。口縁端部の形状は上方に拡張したものや、やや内側に折りこむもの、拡張部が丸みをもつものなどがある。底部を残すものはすべて丸底で、球形に近い体部をもつ個体もある。592・599の体部には焼成後の小さい穿孔がある。606・607は非生駒西麓産の胎土をもち、産地を異にする可能性もあるが、技法的には通常の庄内式甕と区別がつかない。608～612は庄内系甕である。胎土は非生駒西麓産で、正統的な庄内式甕の技法からは外れている。いずれも外面タタキが水平に近い左上がりで、色調が近似するなど、技法の特徴から一群をなしている。613～636は布留式甕である。各種のサイズがあり、大形の628・629、小形の633～635以外は中形である。内湾気味の口縁部をもち、口縁端部を内側に拡張する定型化した個体が主流をなし、いわゆる布留式傾向甕は存在しない。肩部の外面に横方向のハケを加えた個体が多いが、必ずしもそれに従わない個体（630～636）もある。622の体部には焼成後の穿孔がある。637～639はハケ甕で、器形が一定せず粗製である。640・641は東海系の台付甕である。体部が接合できなかったために口縁部と台部を掲載したが、それぞれ1個体分の破片が出土した。

642～651は高杯である。642～647は庄内系高杯である。器壁は細かい横方向のミガキで調整する。642～645は口径が大きく伝統的な形態をとどめるが、646・647は口径が小さく、口縁部がやや内湾するなどの退化傾向が窺える。648は椀形高杯、649～651は高杯脚部である。

652～662は鉢である。652は弥生系の小形鉢で、丸底である。653～662は丸底の浅い体部と、短い口縁部を備えた鉢で、いずれもほぼ同形態である。660～662は脚台の付いた台付鉢である。体部は横方向ミガキを加えたものが多いが、654・655・659はハケ調整である。653・660・657・662では体部内面の

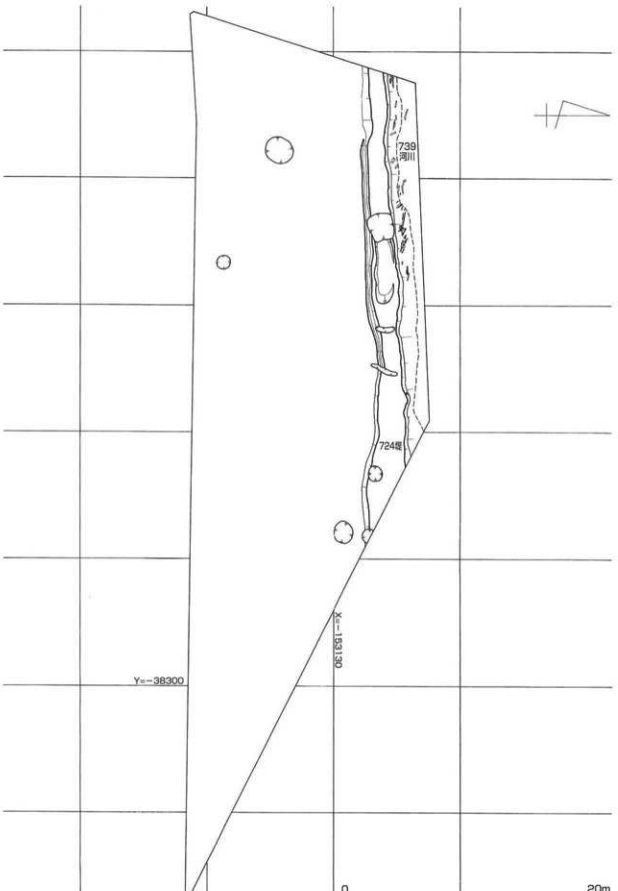


図155　5面遺構分布図

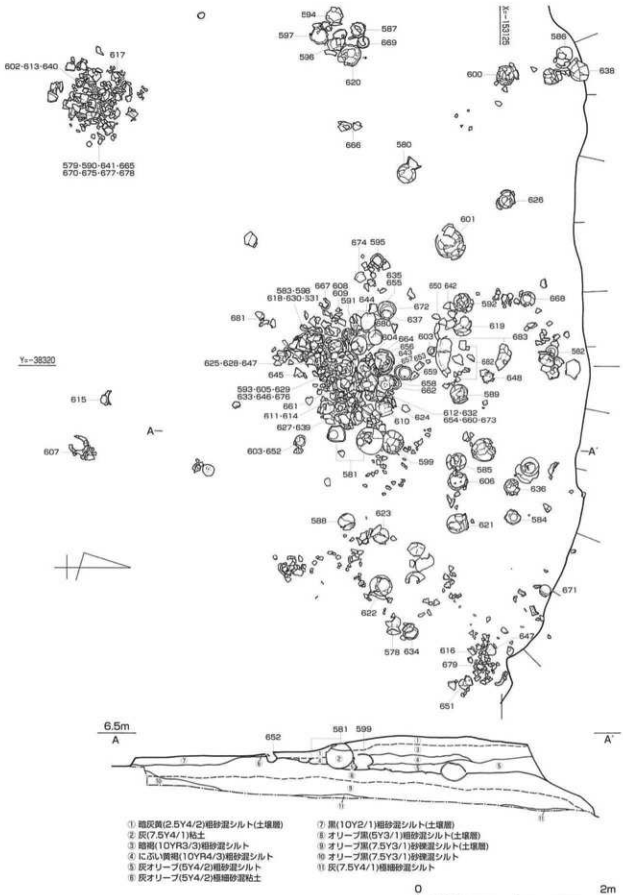


図156　724堤直下遺物出土状況図

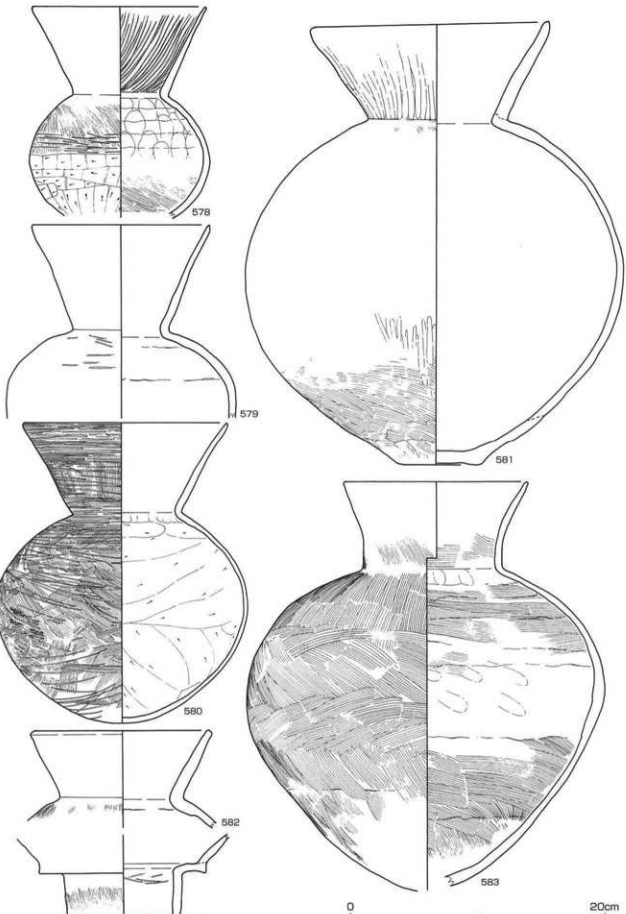


図157　724堤出土遺物（1）

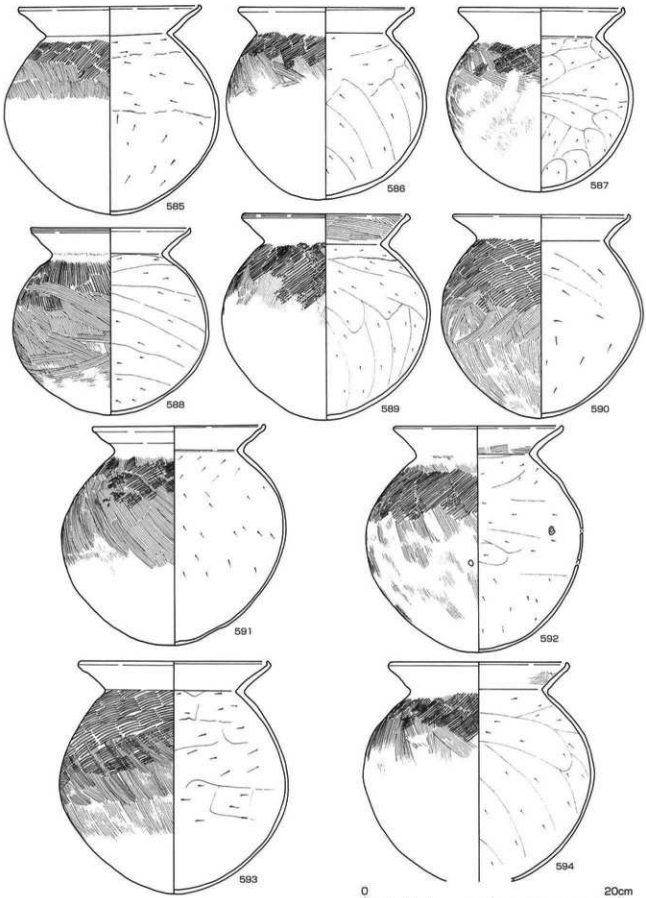


図158　724堤出土遺物（２）

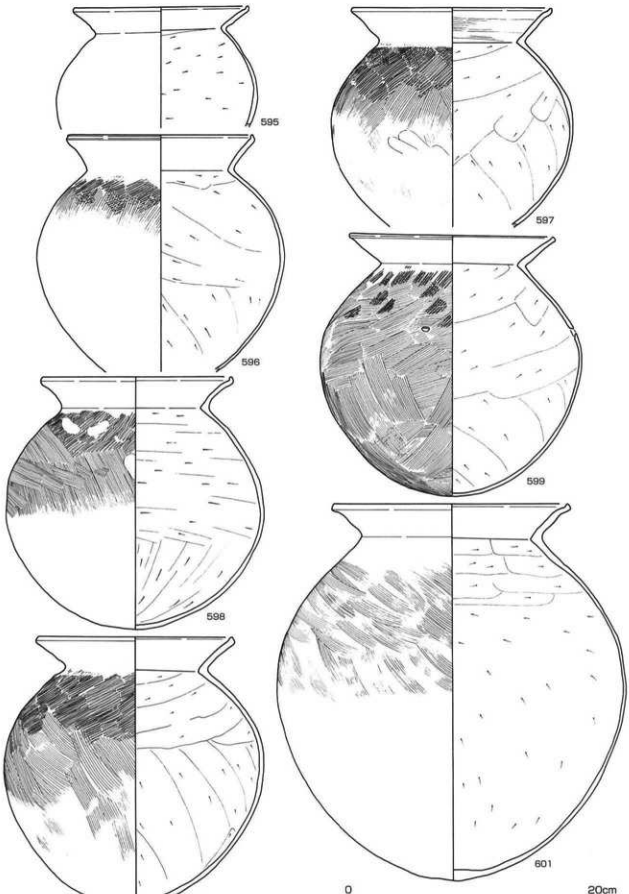


図159　724堤出土遺物（3）

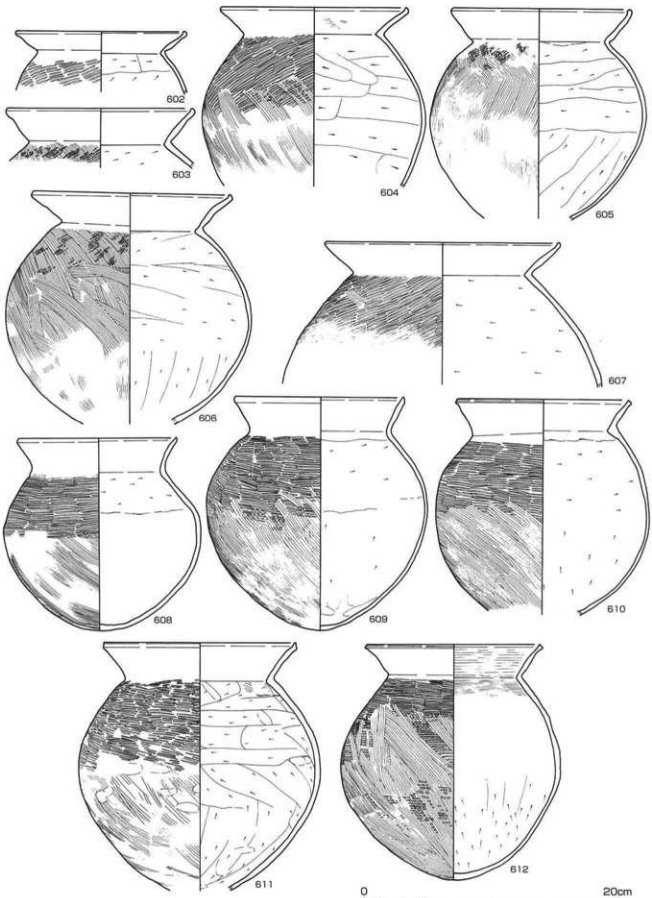


図160　724堤出土遺物（4）

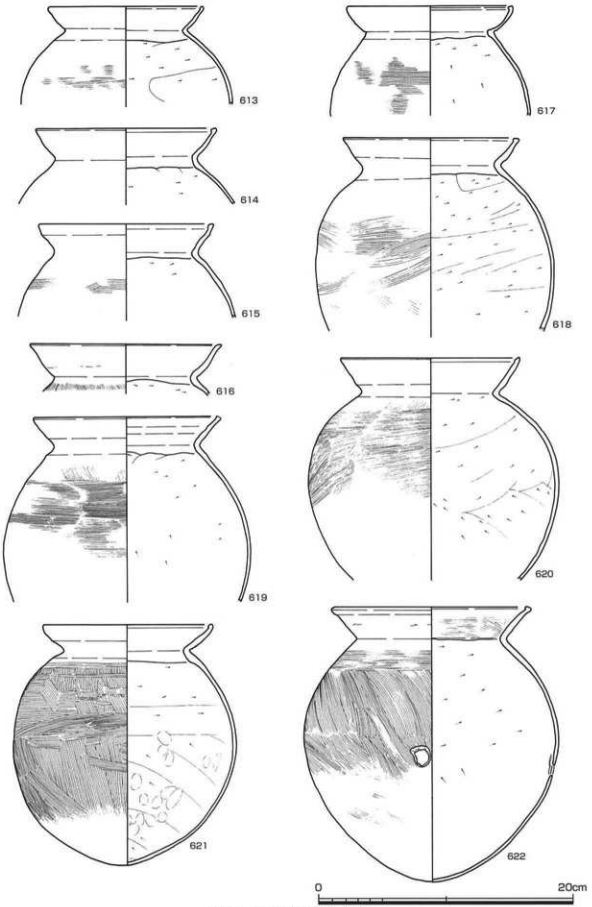


図161　724堤出土遺物（5）

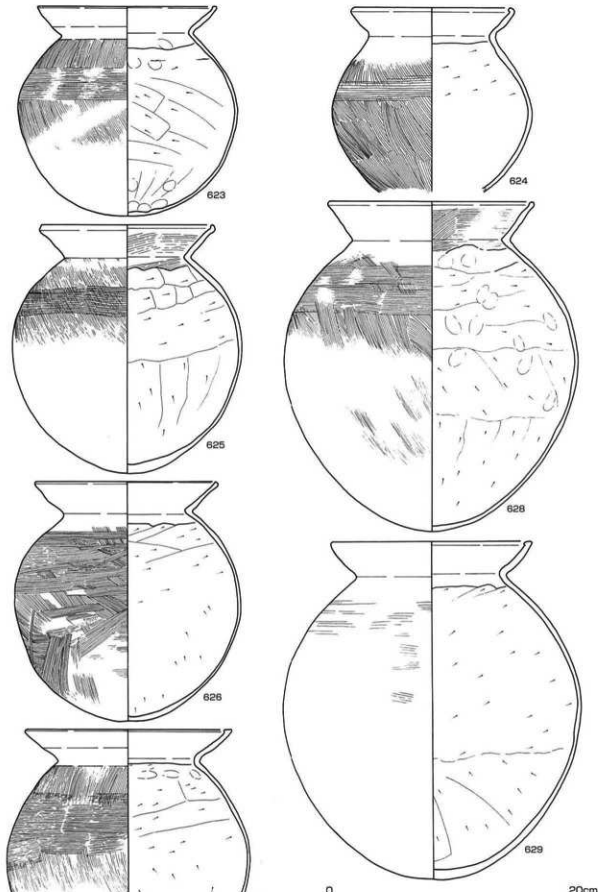


図162　724堤出土遺物（６）

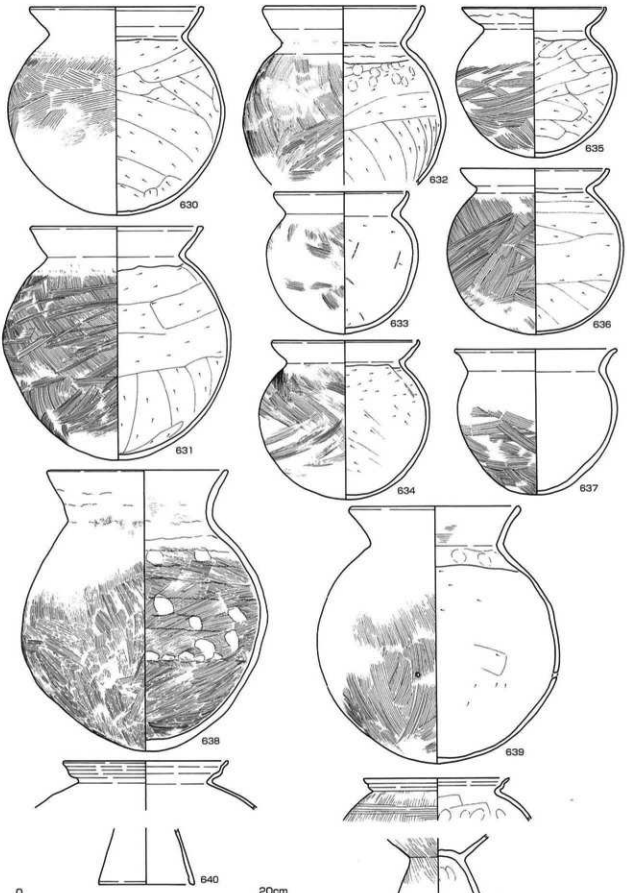


図163　724堤出土遺物（7）

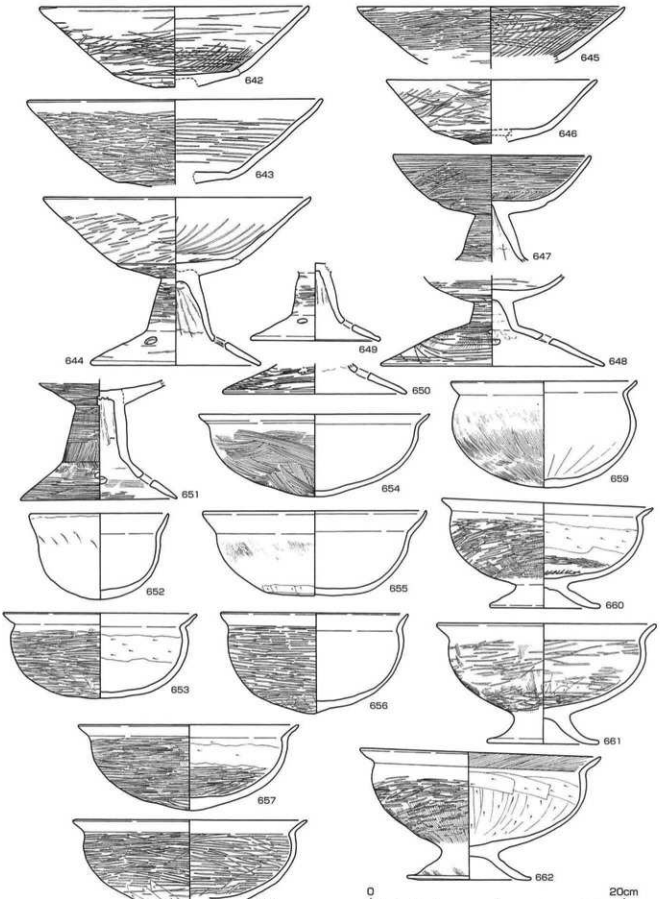


図164　724堤出土遺物（8）

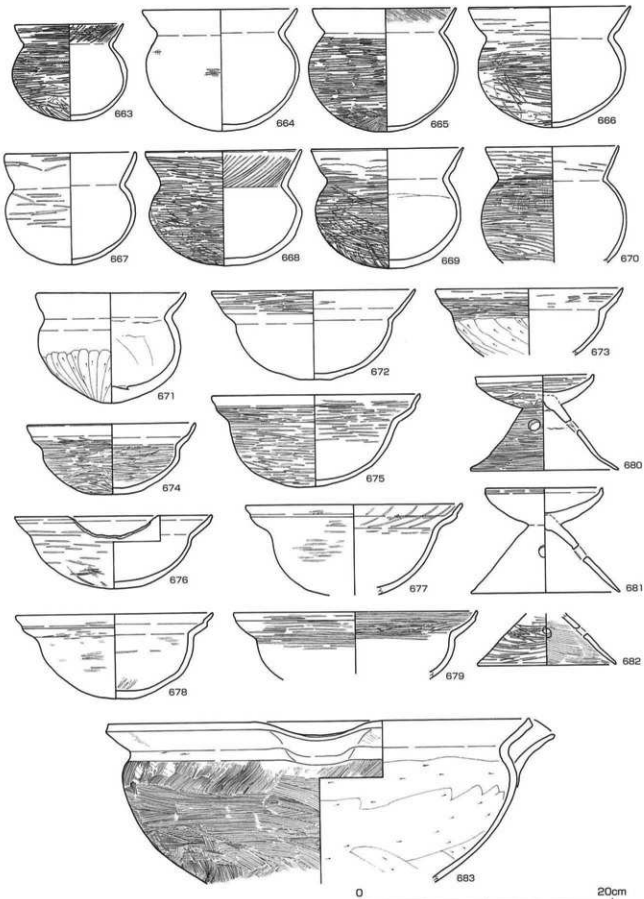


図165　724堤出土遺物（9）

上半に弱いケズリがある。

663～671は小形丸底土器で、663の法量は通常であるが、他の個体はこの器種の中ではサイズが大きいものといえよう。調整は体部下半ケズリ、細かい横方向のミガキで緻密に仕上げたものが多いが、671はナデ調整が主体の粗製品である。

672～679は有段口縁鉢である。細かい横方向のミガキで調整する。口径に対して体部の深い個体が目立つ。676の口縁部には打欠きがある。

680～682は小形器台である。680・681の口縁端部は上方に拡張され、外側に面をもつ。

683は片口をもつ大形鉢である。

以上の土器相から、724堤直下の土器集積は総体的に布留式古段階に属する。

739河川（図版63）

Ｂ４－ｃ２～ｃ５に位置する河川で、調査区の北縁に沿って検出された。ほぼ東西方向に走行し、周辺地形から流水は東から西への方向とみられる。検出全長は27m、幅は左岸から２m強が確認された。深さについては、標高5.4mで掘削限界に達したため作業を中止し、明らかにできなかった。河川内部の全面に砂層が堆積する。河川堆積層からは弥生～古墳前期の土器が出土した他に、木片等も検出された。検出された河岸は左岸にあたるが、河道側の斜面はかなり削られ切り立っている。724堤直下の土器が斜面に露出し、またこれから河川の堆積土中に転落した個体もあった。

出土遺物（図166）

684～688は甕である。684は弥生形甕、685は庄内式甕、686～688は布留式甕である。689は小形丸底土器、690は弥生系の小形鉢、691は小形器台、692は有段口縁をもつ大形甕である。

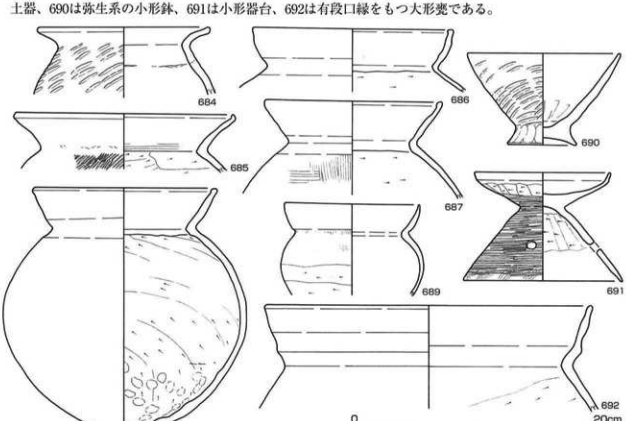


図166　739河川出土遺物

6面（古墳時代面Ⅳ）（図167、図版66）

6層上面。古墳時代初頭～前期の遺構面であるが、基本的には5面を構成する5層と対応する。すなわち耕土層に対する床土面であり、地表に露出する遺構面としては捉えられない。したがって6面の形成は5面と同時期と考えられる。6面上の遺構は複数の平行する溝状遺構として検出される。これを耕作溝と呼ぶ。耕作溝は調査区内のほぼ全域で検出された。その方向は単一の方向をとった部分もあるが、基本的には東西方向と南北方向に平行した耕作溝群が交差し、碁盤目状に形成されている。耕作溝は幅0.3～0.5m、検出面からの深さは0.1～0.2mである。また溝相互の間隔は0.5～1.0m前後である。

7面（古墳時代面Ⅴ）（図167、図版66）

6層上面。古墳時代初頭（庄内式期初頭）の集落遺構群の形成面をさす。この遺構面は本来、5・6面の畑形成以前の集落遺構面である。5面では耕作行為によって完全に7面遺構は破壊されているが、6面では耕作溝のベース層中に辛うじて7面遺構が遺存する。したがって7面の検出面は6面と同レベルであって、分離することはできない。竪穴住居4棟や土坑などが検出された。

748竪穴住居（図168・169、図版67・68）

Ｂ４－ｃ３・ｃ４・ｄ３・ｄ４に位置する方形竪穴住居である。南辺の一部を749竪穴住居によって切られている。本住居は焼失家屋で、中心から放射状に倒れ込んだ炭化材が検出されている。壁体は壁溝を含めて約0.3mの高さが遺存するが、耕作溝によってかなり損壊している。規模は東辺6.8m、北辺6.6mの隅丸方形で、主軸はＮ－60°－Ｗである。床面からの深さ0.2m、幅0.2mの壁溝が住居の四周を巡る。柱穴は767～770ピットの4ヶ所で、掘形の規模は直径0.25～0.4m、深さ0.3～0.5m前後である。また柱痕跡の直径は0.2m前後である。住居の中央には771土坑がある。長径1.2m、短径1ｍの不整楕円形を呈し、深さは0.3mである。埋土に炭化物や焼土塊が含まれており、炉跡と考えられる。

出土遺物（図170）

住居内から693～699が出土した。693～695は壺の底部で、突出した平底を備えている。696は弥生形甕、697～699は小形鉢である。

749竪穴住居（図168、図版67）

Ｂ４－ｄ４に位置する方形竪穴住居である。748竪穴住居を南辺から中央部にかけて切っている。748竪穴住居は火災を受けていたが、749竪穴住居にはその形跡がない。規模は北辺2.6m、東辺3.4mの隅丸長方形である。南北軸を基準にすると、主軸の方位はＮ－15°－Ｗである。床面までの深さは約0.1mで、748竪穴住居床面の方が低いため、748竪穴住居掘削時には一部を残してほとんどが消滅した。なお、柱穴等の床面施設は全く存在しなかった。

出土遺物（図170）

床面上から700～705が出土した。700は壺の体部である。下膨れの球形体部に突出した平底を備える。701は庄内式甕で、口縁部はシャープな作りである。702・703は高杯である。702は有段高杯、703は在来系の高杯脚部である。704は中形鉢で、外傾する短い口縁部を備えている。705はやや尖底気味の底部をもつ蛸壺である。

750竪穴住居（図171）

Ｂ４－ｄ３・ｄ４に位置する竪穴住居である。強い削平を受け、また748・749竪穴住居によって切られているため損壊が著しく、詳細は不明である。南東辺の一部と辺に沿って土坑が存在しており、竪穴

図167　6・7面遺構分布図

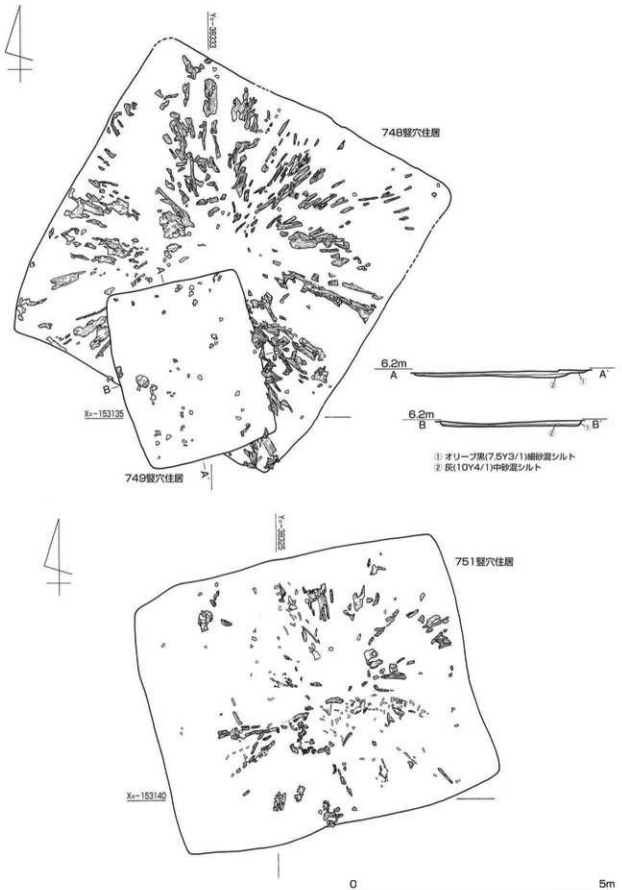


図168　748・751竪穴住居炭化材検出状況図・749竪穴住居平・断面図

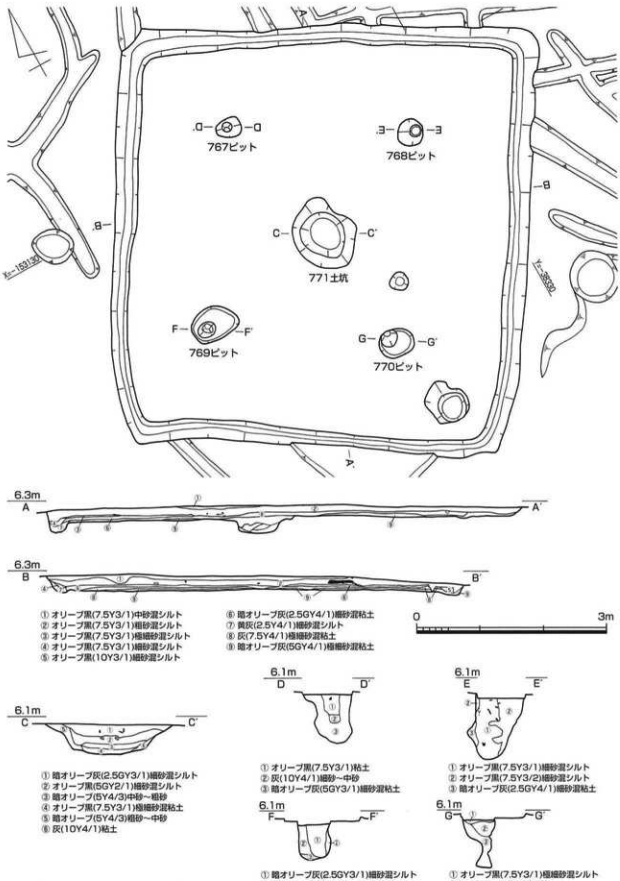


図169　748竪穴住居・住居内遺構平・断面図

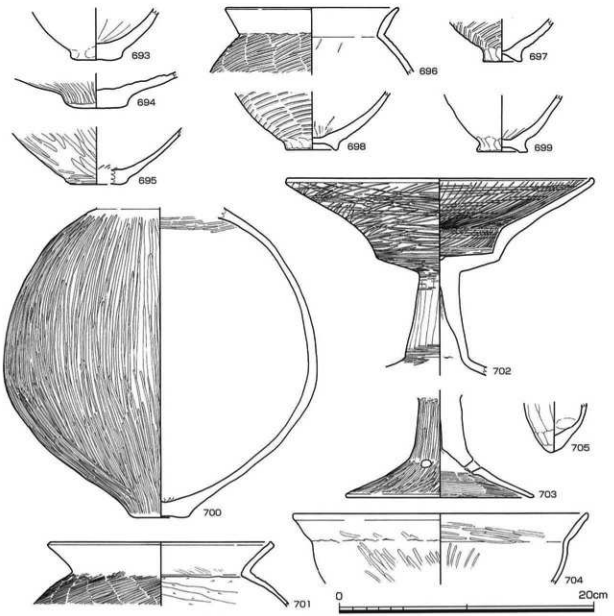


図170　748・749竪穴住居出土遺物

住居と判断した。748・749竪穴住居に先行して建築された住居の痕跡であろう。壁体は全く遺存していないが、遺構面には南東辺の壁溝とみられる溝がある。この壁溝は現存長4.8m、幅0.3m、深さ5㎝前後である。検出面が床面にあたる。壁溝の北側の床面には炭化材が散在していて、焼失住居であることがわかる。床面施設として直接に関連した可能性がある遺構は、壁溝の北側中央部に沿う761土坑である。竪穴住居の一辺の中央付近に、このような土坑を設けた例は比較的多く、また住居の位置関係では平側に作られるようである。761土坑は長軸1.3m、短軸0.8mの不定形を呈しており、深さは0.2mである。壁溝は土坑が埋没した後に掘られている。なお、748・749竪穴住居を含めて遺構面を精査したが、柱穴等の存在は確認できなかった。

出土遺物（図175）

住居床面から706～709、761土坑から710～717が出土した。706・707は広口壺である。いずれも大きく広がる口縁部をもち、緩やかな口縁端面を作る。708～711は通有の弥生形甕である。712は椀形高杯である。

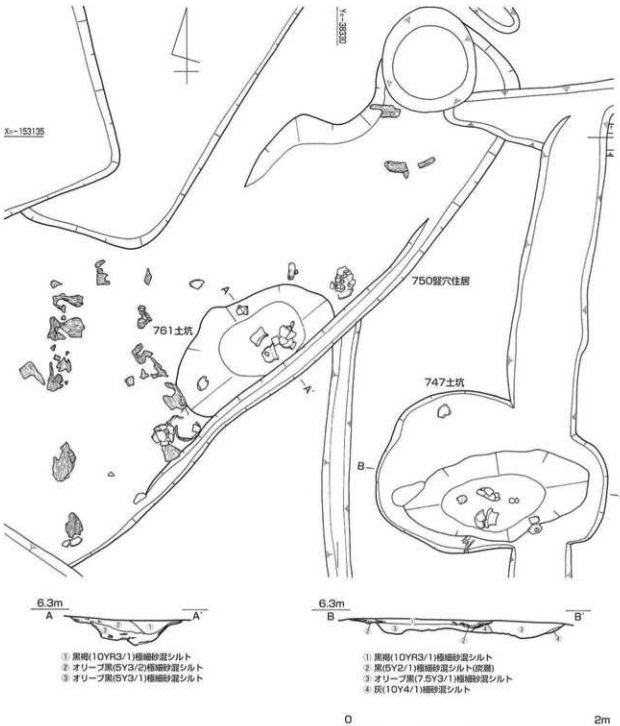


図171　750竪穴住居・周辺遺構平・断面図

751竪穴住居（図168・172、図版67・68）

Ｂ４－ｄ３・ｅ３に位置する方形竪穴住居である。本住居は焼失家屋で、中心から放射状に倒れ込んだ炭化材が検出されている。本来の規模は北辺5.2m以上、西辺4.4mであるが、最終的に北辺6.2m、西辺5.4mまで拡張されている。床面は中央部がやや高く、周囲がやや低くなっている。壁溝が床面の周囲を巡るが遺存状態は不良である。壁体の高さは壁溝を含めて0.3m、遺構検出面から床面までの深度は0.1m前後である。拡張は南西隅を基点とし、北および東に向かって行われており、西辺と南辺の壁体の一部を共有している。主軸の方向はともにＮ－15°－Ｗである。柱穴はそれぞれ４ヶ所ずつ、計８ヶ所

が検出された。したがって完全な建替えによって床面積の拡張が行われたことを示している。柱穴はいずれもベース土の条件によるためか、掘形の遺存状態は不良で、変形が著しい。拡張前の柱穴は773・778・780・782ピットで、掘形の直径は0.3m前後、深さは最深部で0.45m前後である。また拡張後の柱穴は772・777・779・781ピットで、掘形の直径は0.2～0.3m前後、深さは最深部で0.35m前後である。それぞれの住居中央には土坑が検出され、いずれも埋土に焼土塊、炭化物を含むことから炉跡と考えられる。拡張前の炉跡は775土坑で、長径0.4m、短径0.3mの不整楕円形を呈し、深さは0.1mである。炉の掘り込みの周囲には幅25cm、高さ５cmの炉堤が巡る。拡張後の炉跡は774土坑で、775土坑の北側を切っている。径0.4mの不整円形を呈し、深さは0.1mである。774土坑には炉堤が設けられていない。他の床面施設として２基の土坑が検出された。762土坑は住居南辺の中央部に位置する。長径0.45m、短径0.3mの不整楕円形を呈し、深さは0.1mである。780ピットの掘形を切っている。766土坑は拡張後の住居の北東に位置し、拡張前住居の壁溝北東隅を切っている。長径0.7m、短径0.6mの不整楕円形を呈し、深さは0.15mである。

出土遺物（図175、図版121）

住居からは土器、金属器、石製品が出土した。このうち713～715、Ｍ１、Ｓ12は住居内堆積土、716は762土坑、717は766土坑からそれぞれ出土した。713は庄内式甕、714・715は有段高杯である。716は椀形高杯の脚部であろう。717は弥生系の小形鉢である。

Ｍ１は鋼鏃である。床面上の堆積土中から単独で出土した。

Ｓ12は床面から出土した砥石である。直方体で両端を欠損する。

755土坑（図176、図版69）

Ｂ４－ｄ４・ｄ５に位置する比較的大きな土坑である。長径４m、短径2.9mの不整楕円形を呈し、深さは0.2mである。

出土遺物（図177）

718～727の土器が出土した。718は直口壺、719は広口直口壺、720は壺の底部である。721は弥生形甕である。722は在来系の有稜高杯、723は椀形高杯である。724は小形器台の脚部であろう。725～727は鉢である。725は椀形の体部に短い脚部をもつ鉢で、726も同一器種とみられる。

740土坑（図176）

Ｂ３－ｄ９に位置する土坑である。調査区際の矢板付近で検出されたため全容は不明ながら、短径1.4m前後の不整楕円形を呈するとみられ、深さは0.4mである。７面で検出されたが、出土土器相からそれ以後の形成であり、おそらく５面に属する遺構である。

出土遺物（図177）

小形丸底土器728が出土した。布留式古段階。

745土坑（図176）

Ｂ４－ｅ３に位置する土坑である。調査区際の矢板付近で検出されたため全容は不明である。検出幅は1.3m、深さは0.5mである。

出土遺物（図177）

中形鉢729が出土した。タタキ仕上げで平底を備える。

747土坑（図171、図版69）

Ｂ４－ｄ３に位置する土坑である。長径1.8m、短径1.2mの不整楕円形を呈し、深さは0.1mである。

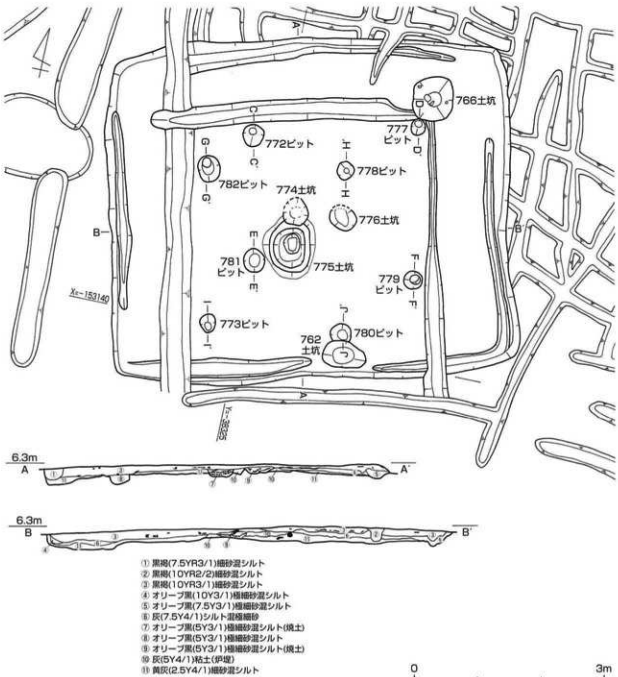


図172　751竪穴住居平・断面図

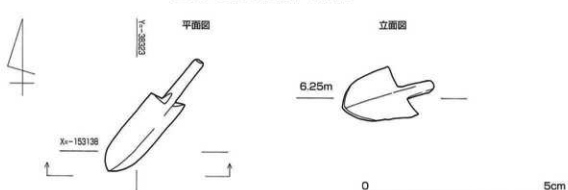


図173　751竪穴住居銅鏃出土状況図

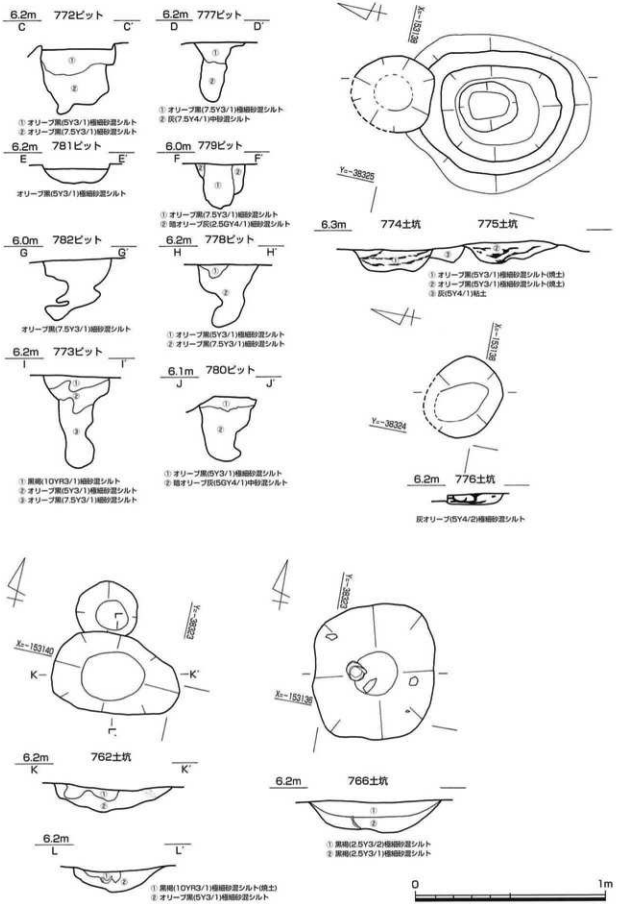


図174　751竪穴住居内遺構平・断面図

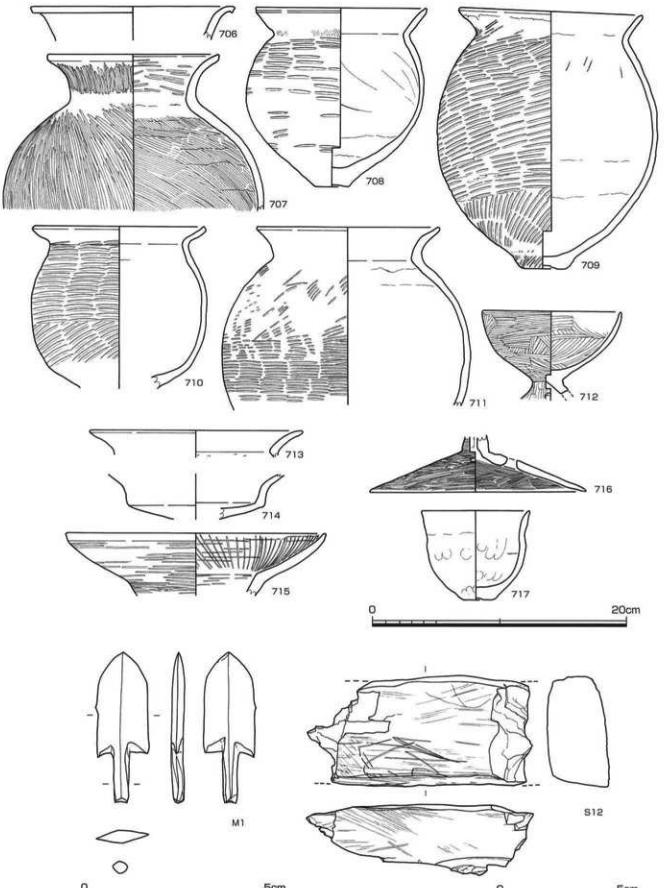


図175　750・751竪穴住居出土遺物

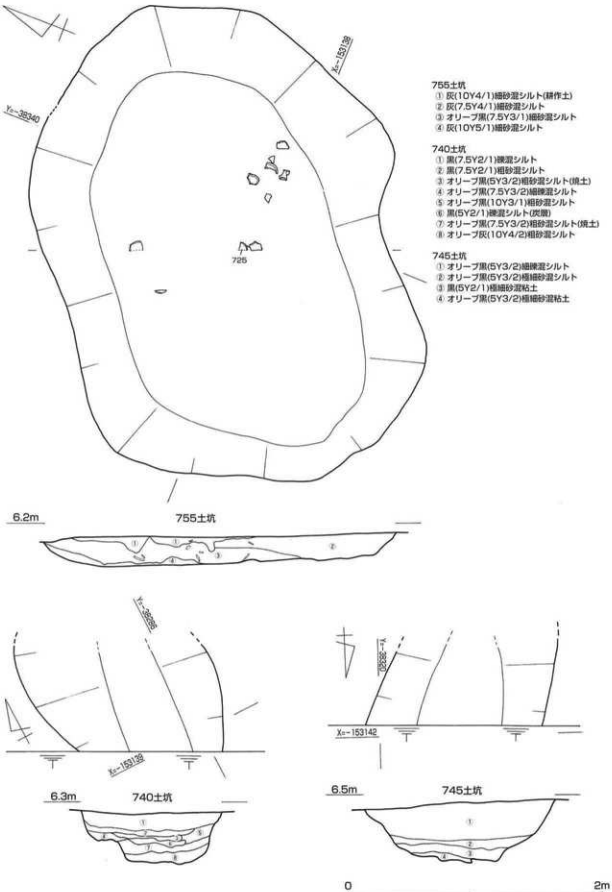


図176　7面土坑平・断面図

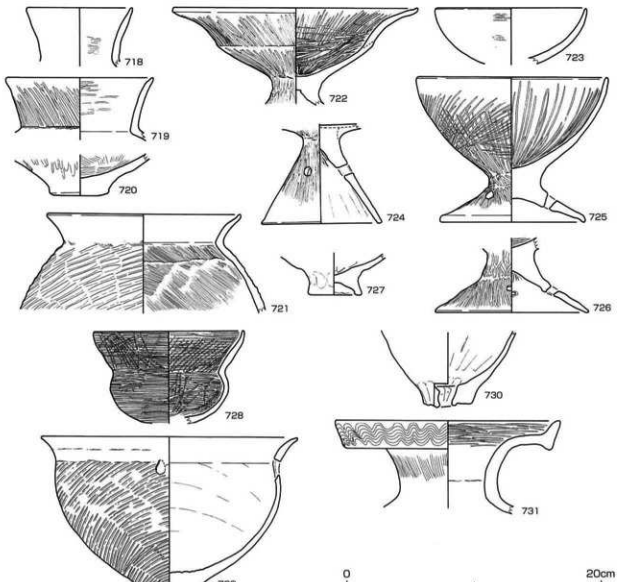


図177　7面土坑出土遺物

出土遺物（図177）

730・731が出土した。730はナデ仕上げの有孔鉢である。731は加飾性複合口縁壺で、口縁部外面に波状紋を施す。

8面

河川（6層）

7面のベースとなっている古墳初頭の河川堆積層上部で、7面遺構の及ばない面をさす。調査区内全域が河道の流路帯にあたり、遺構番号は付与していない。河岸を検出していないので詳細は不明であるが、ラミナの状況等からみて、およそ南東から北西方向への流水があったようである。

出土遺物（図178）

732～736は壺である。732・736は加飾性複合口縁壺、733・735は広口壺、734は直口壺である。737・739・740は弥生形甕、738は異形甕、741は弥生後期の甕である。742は有稜高杯、743は椀形高杯、744は中形鉢である。全体的に弥生時代後期～古墳時代初頭の土器相である。

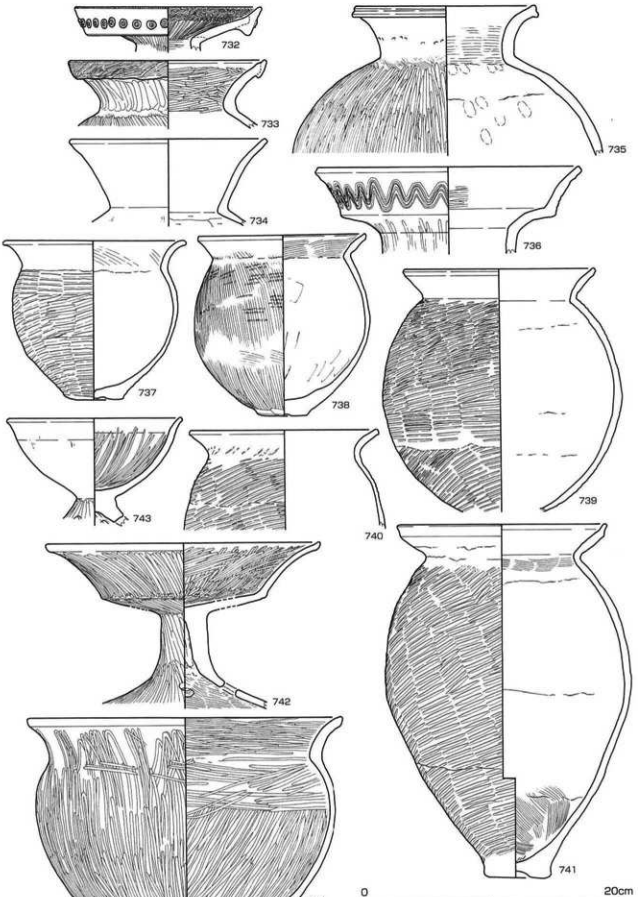


図178　河川（6層）出土遺物

第３節　２次掘削

７区では矢板の安全深度であるT.P.5.40mまで１次掘削を行った。さらに調査区中央部、矢板の内側7.39mラインの内部についてT.P.4.00mまで２次掘削を実施した。２次掘削面積は213㎡であるが、壁面に傾斜を設けているため、遺構検出面はさらに縮小する（図179）。平面記録もおこなったが、調査期間との兼ね合いから断面記録を主とした調査を実施した。

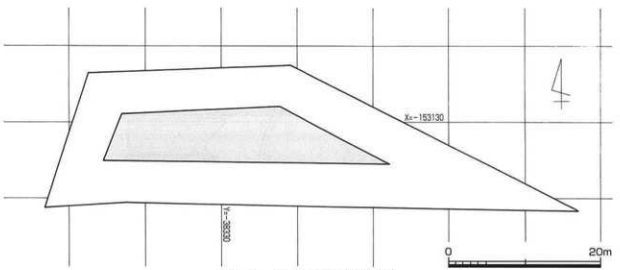


図179　７区２次掘削部位置図

第１項　層序（図180・表３）

７層　河川堆積（６層）の川底となるシルト主体の堆積層である。その上面にあたる７－１層は土壌化しており、河川形成以前は地表面もしくはその付近にあって、陸化していたことがわかる。遺構面は存在しないが、９面の遺構面を直接に覆うため、地形の起伏は影響を受けている。７－２層から石製穂摘具が出土しており、上下の遺構面との関係から弥生時代後期前半～後半の形成と考えられる。調査区の東端には存在しないが、６層の堆積段階で削平を受けたものと考えられる。

７－１層　オリーブ黒色極細砂混粘土を基調とする層位である。層厚15cm。

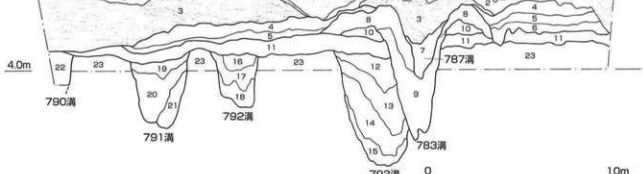


図180　２次掘削部南壁土層断面図

表３　７区２次掘削部土層名

番号	土層	大別	細別	備考
1	暗オリーブ灰(2.5GY4/1)粗砂	6層	6−2	古墳初頭河川
2	オリーブ黒(10Y3/1)粘土			
3	灰(5Y6/1)粗砂			
4	オリーブ黒(10Y3/1)極細砂混粘土	7層	7−1	弥生後期
5	オリーブ黒(7.5Y3/1)極細砂混粘土		7−2	
6	オリーブ黒(7.5Y3/1)粘土		7−3	
7	オリーブ黒(7.5Y3/1)極細砂混粘土	8層		787溝埋土
8	暗オリーブ灰(2.5GY3/1)粘土			787溝堤
9	暗オリーブ灰(2.5GY3/1)粘土			783溝埋土
10	オリーブ黒(7.5Y3/1)細砂混粘土			783溝堤
11	暗灰(N3/0)極細砂混粘土			弥生後期

番号	土層	大別	細別	備考
12	暗オリーブ灰(2.5GY3/1)細砂混粘土	9層		793溝埋土・粘土ブロック含む
13	暗緑灰(7.5GY3/1)粘土			
14	暗オリーブ灰(5GY4/1)粘土			792溝埋土・粘土ブロック含む
15	暗オリーブ灰(2.5GY3/1)粘土			
16	暗緑灰(7.5GY3/1)粘土			
17	暗オリーブ灰(5GY3/1)粘土			
18	暗オリーブ灰(5GY3/1)極細砂混粘土			791溝埋土・粘土ブロック含む
19	暗オリーブ灰(2.5GY3/1)粘土			
20	灰(N4/0)粘土			
21	暗灰(N3/0)粘土			
22	暗緑灰(7.5GY4/1)粘土			790溝埋土
23	暗緑灰(10G4/1)極細砂混粘土			弥生前期

７－２層　オリーブ黒色極細砂混粘土を基調とする層位である。層厚10cm。

７－３層　オリーブ黒色粘土を基調とする層位である。層厚10cm。調査区西側のみ分布する。

８層　暗灰色極細砂混粘土を基調とする層位で、層厚20cm。上面は遺構面９－１面（弥生時代面Ⅰ）・９－２面（弥生時代面Ⅱ）である。いずれも弥生時代後期前半。

９層　暗緑色極細砂混粘土を基調とする層位で、層厚は30cm以上である。上面は遺構面10面（弥生時代面Ⅲ）である。９層の途中で掘削限界に達した。

第２項　遺構と遺物

７層出土遺物（図181・182、図版70・121）

７層中で遺構面は確認できなかったが、２次調査トレンチの北西隅で石製穂摘具Ｓ13～16が検出され

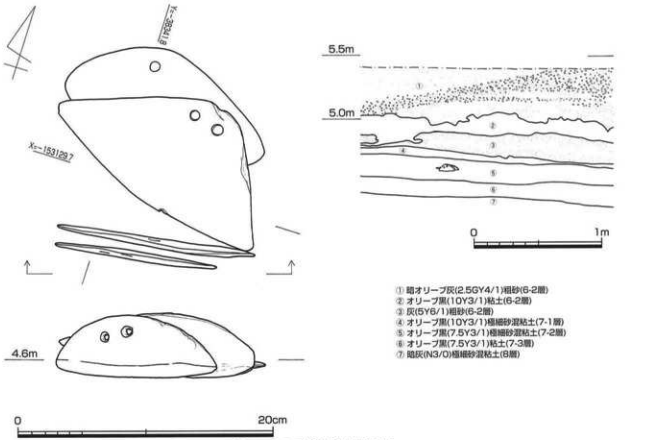


図181　７層遺物出土状況図

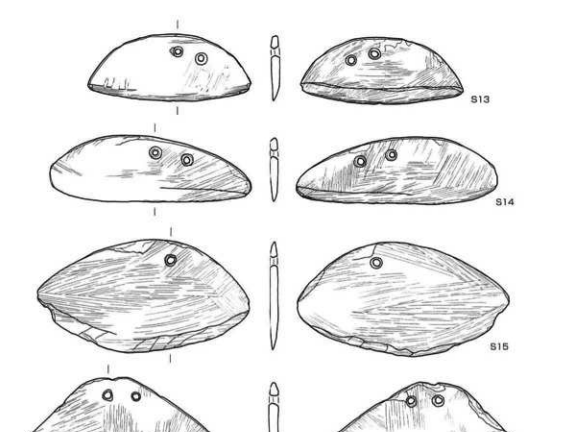


図182　７層出土遺物

た。石製穂摘具は７－２層内で４点が集合して出土した。S13・14が密着して刃を下に向け、垂直に立てて置かれ、その北側にS15・16が水平に重ねた状態で検出された。このような出土状況から、遺構面の存在を確認するため周囲を含めて精査したが、遺構の掘形等は全く確認できなかった。石製穂摘具はいずれも緑色片岩製である。S15は紐掛けの穿孔が１ヶ所しかなく、刃部も粗く研磨されたままで使用痕がないことから未製品とみられる。他の個体には使用痕がある。弥生時代後期。

９－１面（弥生時代面Ⅰ）（図183）

８層上面。調査区の中央と西端で、787溝とこれに伴う堤状の高まりを検出した。787溝は検出全長４m、幅3.5～５m、深さ0.7mで、黒灰色系の粘土を埋土とする。およそ南から北へ走行する。787溝は下層に存在する783溝と、同一溝の新旧の関係にあるとみられる。溝の東西には小規模な墓堤が行われている。堤は遺構面からの高さ0.3m、基底部の幅３～4.5mで、783溝に付属する堤をさらに盛り上げて補強したものである。東側の堤の上から樹木の樹幹基部と根が検出されたことから、この面が地表面に露出していたことがわかる。787溝の東側では、南北から東西に向きを変えて走行する小規模な785溝が検出された。その南側では多数の足跡がみられた。遺物は出土しなかったが、９－２面遺構の示す弥生時代後期前半とみてよい。

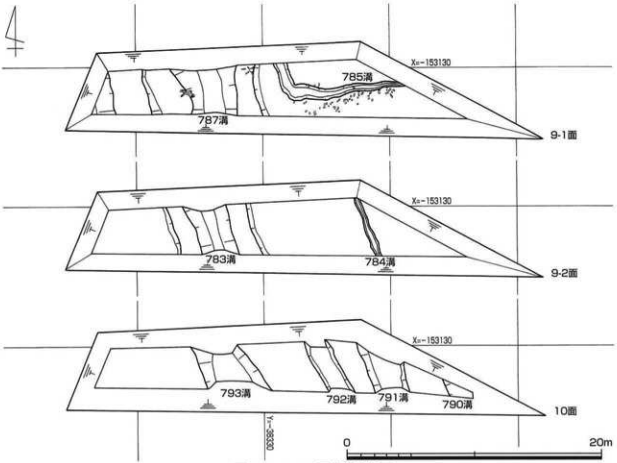


図183　９・10面遺構分布図

９－２面（弥生時代面Ⅱ）（図183、図版71）

８層上面で、遺構面のレベルは９面と同じである。787溝に先行する783溝を検出した。787溝は783溝と位置や築堤の状況が近似し、同一溝の改修に伴う新旧の関係とみられる。783溝は検出全長４ｍ、幅３ｍ、深さ1.2mで、暗オリーブ灰色粘土を埋土とする。溝の東西に高さ0.1m、幅２ｍの小規模な築堤がある。783溝の東に平行して784溝が検出されたが、これは下層遺構791溝の影響によるへこみの可能性がある。

出土遺物（図184・図版120）

溝内から高杯脚部745が出土した。弥生時代後期前半。

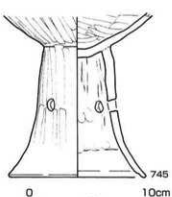


図184　783溝出土遺物

10面（弥生時代面Ⅲ）（図183、図版72・73）

９層上面。上面は土壌化して遺構検出が困難であったため10㎝ほど掘り下げ、４条の平行溝群（790～793溝）を検出した。いずれも検出全長は４m以下で、南東から北西方向に延びる。規模は793溝が最も大きく幅6.3m、深さ1.4m、791溝が幅2.7m、深さ0.5m、792溝が幅1.8m、深さ0.5mである。790溝は一部を検出したにとどまる。いずれの溝の埋土にも最大で15㎝角の粘土ブロック塊の混入が認められ、人為的に埋め戻された形跡がある。遺構には遺物を全く伴わないが、河内平野では埋土の所見と共に、これらと特徴を同じくする平行溝群の存在が知られており、いずれも弥生時代前期に帰属する。したがって層位的な所見からも、790～793溝がおおむね前期に属するものとみて齟齬はない。

第6章　久宝寺遺跡の自然科学分析

辻本裕也（パリノ・サーヴェイ株式会社）

はじめに

久宝寺遺跡（大阪府八尾市所在）は、河内平野の南部の沖積低地に位置する。本遺跡は弥生時代～古墳時代を中心とした遺跡である。河内平野には縄文時代以降の遺跡が多数分布しているが、遺跡の分布は、河内湖の消長と密接な関係をもっている。久宝寺遺跡が出現するのは、海退によって生じた潟湖に土砂が流入して低地ができた縄文時代末からである。本遺跡からは、縄文時代晩期の籾の圧痕がついた土器が過去に検出されており、河内平野の中でも早い時期から稲作が行われていたことが推定されている。また古墳時代には水田、畑、集落が形成されるが、周りでも古墳や集落が多数見つかっていることから、当時の河内平野の中でも中心的な地域の一つと考えられている。今回は、弥生時代～古墳時代の珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を行い、遺跡における人間の生業と、古環境変遷との関わりを検討する。

1．試料

試料は久宝寺遺跡２区、４区から採取された22点である。この中から、目的などを考慮し、珪藻分析６点、花粉分析17点、植物珪酸体分析14点を実施する。分析試料の詳細は表４にまとめて記す。

2．分析方法

（1）珪藻分析

試料を湿重で７g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、

表４　分析試料一覧

地区名	試料番号	層相	時代性	性格	分析項目		
					珪藻分析	花粉分析	植物珪酸体分析
2区	1	黒褐色シルト	古代	水田耕土(3-2層)		○	○
	2	黒褐色粘土質シルト	古代	水田耕土(3-2層)		○	○
	3	黒褐色粘土	古代	沼地?(4-1層)		○	○
	4	黒褐色粘土	古代	沼地?(4-2層)		○	○
	5	黒褐色粘土	古代	沼地?(4-3層)		○	○
	6	オリーブ黒色シルト混じり砂	古墳時代初頭	畠の耕作土(5-1層)	○	○	○
	7	オリーブ黒色シルト混じり砂	古墳時代初頭	畠の耕作土(5-2層)	○	○	○
	8	黒褐色シルト混じり砂	古墳時代初頭	耕作溝の埋土		○	○
4区	9	黒褐色粘土まじりシルト	古代～中世	洪水層(上部は耕作土?)		○	○
	10	暗褐色粘土	古代～中世	洪水層(上部は耕作土?)		○	○
	11	黒褐色粘土	古代～中世	洪水層(上部は耕作土?)		○	○
	12	褐灰色粘土	古墳時代初頭～前期	405大溝の最終堆積土		○	○
	13	灰色シルト質砂	古墳時代初頭～前期	405大溝の最終堆積土		○	○
	14	オリーブ黒色粘土	古墳時代初頭	405大溝の埋土	○	○	
	15	オリーブ黒色粘土	古墳時代初頭	405大溝の埋土	○	○	
	16	黒褐色シルト	古墳時代初頭	405大溝の埋土	○	○	
	17	暗オリーブ灰色砂質シルト	古墳時代初頭	405大溝の埋土	○	○	○

プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、K.Krammer and Lange-Bertalot（1986・1988・1991a・1991b）、K・Krammer（1992）などを用いる。

同定結果は、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出した化石が現地性か異地性かを判断する目安として完形殻の出現率を求め考察の際に考慮した。堆積環境の解析にあたって、海水～汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai,K.& Watanabe,t.（1995）、生活型などについてはVOS,P.C.& DE WOLF,H（1993）の環境指標種を参考とする。

（2）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総花粉・胞子数から不明花粉を除いたものを基数とした百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

（3）植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生や稲作について検討するために、植物珪酸体組成図を作成した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

3．結果

（1）珪藻分析

結果を表5，図185に示す。珪藻化石は、各地区とも豊富に産出する。産出種は、各地区により異なっている。2区では陸上のコケや土壌表面などの好気的環境に付着生育する陸生珪藻が優占するのに対して、4区では水生珪藻が80%と優占する。産出分類群数は、合計で31属162種類である。以下、地区別に珪藻化石群集の特徴を述べる。

表5　珪藻分析結果（1）

種類	生態性			環境指標種	2区		4区			
	塩分	pH	流水		6	7	14	15	16	17
Nitzschia sigma (Kuetz.) W.Smith	Euh-Meh			E2	-	-	1	-	-	-
Amphora strigosa Hustedt	Meh				-	-	2	-	-	-
Nitzschia levidensis var. salinarum Grunow	Meh				-	-	1	-	-	-
Nitzschia lorenziana Grunow	Meh			E2	1	1	1	1	-	1
Anomoeoneis sphaerophora (Kuetz.) Pfitzer	Ogh-Meh	al-bi	ind		1	-	-	-	-	-
Bacillaria paradoxa Gmelin	Ogh-Meh	al-bi	l-ph	U	-	-	4	-	1	1
Cyclotella meneghiniana Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	l-ph	LS	-	-	-	2	1	-
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	-	-	-	1	1	2
Navicula capitata Ehrenberg	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	2	2
Navicula cincta (Ehr.) Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	2	-	-	-
Navicula goeppertiana (Bleisch) H.L.Smith	Ogh-Meh	al-il	ind	S	1	-	-	-	1	-
Navicula tenera Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind	S	-	-	-	1	-	-
Nitzschia frustulum (Kuetz.) Grunow	Ogh-Meh	al-bi	ind		-	-	-	1	2	1
Nitzschia levidensis var. victoriae Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	2
Nitzschia palea (Kuetz.) W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	-	1	4	2	4	-
Rhopalodia gibberula (Ehr.) O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		1	-	-	-	-	1
Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	2	-	2
Achnanthes convergens H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	1	1	1	1	-	-
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	1	1	-	-	-	-
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1	1	-	-
Achnanthes hungarica Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	2	-
Achnanthes inflata (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	-	-	1	-	1
Achnanthes lanceolata (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	1	21	7	21	6
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-
Achnanthes oblongella Ostrup	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	1
Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	2	-	1	-	-	-
Achnanthes spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	3	2	14
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	3	1	-	5	5	-
Amphora normanni Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	1	-	2	1	-
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	-	2	2
Aulacoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	-	-	-	-	1	-
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	2
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	-	1	-	3
Caloneis molaris (Grun.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	1
Caloneis silicula var. minuta (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-
Cocconeis disculus Schumann	Ogh-ind	al-il	l-bi		-	1	-	-	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	4	-	2	4
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	3	1	-	3
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	1
Craticula cuspidata (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	1	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	3	1	3	-	-	4
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	2	7	1	3	4
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	1
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	-	7	2	3	6
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	6	1	1	5
Diatoma hyemale var. mesodon (Ehr.) Kirchener	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	1	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		3	3	2	1	-	1
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		-	-	-	-	-	1
Eunotia bilunaris (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	10	-	-
Eunotia formica Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-bi		-	-	-	-	-	1
Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	1	-	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	2	2	-
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O	3	3	4	1	-	2
Eunotia subarcuatoides Noerpel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	1	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	-	-
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	3	-	1	-
Fragilaria construens (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	1	1	-	1
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	1	2	1	2	7

表５　珪藻分析結果（２）

種類	生態性			環境指標種	2区		4区			
	塩分	pH	流水		6	7	14	15	16	17
Fragilaria parasitica (W.Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	1	-
Fragilaria pinnata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	-	-	-	1
Fragilaria pinnata var. lancettula (Schum.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	1	-
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	6	-	-	1
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	3	1	2	1
Fragilaria vaucheriae var. capitellata (Grun.) Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	-	-	-
Frustulia constricta Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	1
Frustulia vulgaris (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	2	2
Frustulia weinholdii Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	1	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	2	-
Gomphonema contraturris Lange-B. & Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	1	-
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	-	2	1	2	1
Gomphonema helveticum Brun	Ogh-unk	ind	r-ph	T	1	-	-	-	2	1
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	1	1	6	47	42	3
Gomphonema parvulum var. lagenula (Kuetzing) Frenguelli	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	15	1	2	2
Gomphonema pumilum (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	5	2	-	3
Gomphonema quadripunctatum (Oestrup.) Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K,T	-	1	1	2	1	-
Gomphonema sumatorense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	-	-	-	-	-	2
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	-	-	1	-
Gyrosigma scalproides (Rabh.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		-	-	3	-	-	2
Gyrosigma spencerii (W.Smith) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	4
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	31	40	-	4	5	8
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	-	-	5	-	1	1
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs) V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	1	1	-	-
Navicula arvensis Hustedt	Ogh-unk	unk	unk	U	-	-	-	1	-	-
Navicula bryophila Boye-Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	-	1	1	-
Navicula capitatoradiata Germain	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	3	1	-	-
Navicula cohnii (Hilse) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	-	-	-	1
Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	-	-	2	1	3	1
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	2	2	7	1	4
Navicula contenta fo. biceps (Arnott) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	1	4	5	8	7
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	1	-
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	1	3	1	2	1
Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	-	2	2	6	3
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	-	2	-	-	4
Navicula gallica var. perpusilla (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	1
Navicula hambergii Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	1
Navicula hasta var. gracilis Skvortzow	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	-	-	-
Navicula heuflerii var. leptocephala (Breb. ex Grun.) Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	3	1	-	2
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-	-	-
Navicula kotschyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	1	1
Navicula lapidosa Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	-	-
Navicula medioconvexa Hustedt	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	81	87	8	12	7	10
Navicula mutica var. ventricosa (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	1	1	-	-	1	-
Navicula oppugnata Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	2	1	1
Navicula paramutica Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	1
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		12	5	2	-	-	-
Navicula pseudocurcicula H.Kobayasi	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	2
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	1	1
Navicula rhynchocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	4
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	-	-	-	-	1	-
Navicula venerabilis Hohn & Hellerman	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	1
Navicula viridula (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	-	1	-	-	3
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	-	5	5	5	2
Navicula viridula var. rostrata Skv.	Ogh-ind	al-il	r-ph		-	-	15	7	6	4
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	3	2	2	2
Neidium affine (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi		-	-	-	1	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	-	1	-	1

表5　珪藻分析結果（3）

種類	生態性 塩分	pH	流水	環境指標種	2区 6	2区 7	4区 14	4区 15	4区 16	4区 17
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	-	1	1	2
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	-	-	-	-	1	-
Neidium dubium (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	1	-
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	-	1	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	1	-	-	-	1	1
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	1	2	-	2	-	2
Nitzschia debilis (Arnott)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	-	-	1	-	-
Nitzschia dissipata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	1	-	-
Nitzschia fonticola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	2	1
Nitzschia intermedia Hantzsch ex Cleve et Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	-
Nitzschia linearis W.Smith	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	-	1
Nitzschia umbonata (Ehr.)Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	31	28	-	-	-	1
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	2	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	1	1	2	-	3
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	1	-	-
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	1	-	-
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	-	1	-	1	-
Pinnularia ornata H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1	-	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	1	2	4	-
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	2	1	-	-	-	3
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	-	-	2	7	4	1
Pinnularia subcapitata var. paucistriata (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,U	-	-	-	-	-	1
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	1	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	1	-	-
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	1	-	1
Sellaphora americana (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	1
Sellaphora bacillum (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	4	13	11	8
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	3	1
Stauroneis lauenburgiana Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-
Stauroneis lauenburgiana fo. angulata Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	5	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	1	1	-
Stauroneis phoenicenteron fo. gracilis (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	1	1	-
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	1	-
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	2	-	-	-	-	-
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	2	-
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1	-	1
Surirella tenera Gregory	Ogh-hob	ind	l-bi		-	-	-	1	-	-
海水生種合計					0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種合計					0	0	1	0	0	0
汽水生種合計					1	1	4	1	0	1
淡水～汽水生種合計					3	1	11	7	12	9
淡水生種合計							188	198	196	196
珪藻化石総数							204	206	208	206

凡例

H.R.：塩分濃度に対する適応性
Euh-Meh　：海水生種～汽水生種
Meh　：汽水生種
Ogh-Meh　：淡水～汽水生種
Ogh-hil　：貧塩好塩性種
Ogh-ind　：貧塩不定性種
Ogh-hob　：貧塩嫌塩性種
Ogh-unk　：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
al-bi　：真アルカリ性種
al-il　：好アルカリ性種
ind　：pH不定性種
ac-il　：好酸性種
unk　：pH不明種

C.R.：流水に対する適応性
l-bi　：真止水性種
l-ph　：好止水性種
ind　：流水不定性種
r-ph　：好流水性種
r-bi　：真流水性種
unk　：流水不明種

環境指標種群
E:2:汽水泥質干潟指標種（以上は小杉，1988）
J:上流性河川指標種，K:中～下流性河川指標種，L:最下流性河川指標種，
M:湖沼浮遊性種，O:沼沢湿地付着生種（以上は安藤，1990）
S:好汚濁性種，U:広域適応性種，T:好清水性種（以上はAsai，K. & Watanabe，T.，1986）
R:陸生珪藻（RA:A群，RB:B群，RI群，伊藤・堀内，1991）

淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数，淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお，●は２％未満の試料を示す。

図185　主要珪藻化石群集の層位分布

・2区

試料番号6、3とも陸生珪藻が80%以上と優占する。産出種も2試料とも近似しており、陸生珪藻の中でも分布が陸域にほぼ限られるA群（伊藤・堀内,1991）の*Navicula muticа*が40%以上と優占する。これに次いで、同じくA群の*Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia borealis*が約20%と多産する。

・4区

完形殻の出現率は、試料番号14～17とも約70%以上と化石の保存が良い。珪藻化石群集は、試料番号17、試料番号16・15、試料番号14で違いがある。

試料番号17は、淡水生種の生態性では貧塩不定性種（小量の塩分であれば耐えられる種）、真＋好アルカリ性種（pH7.0以上のアルカリ性水域に生育する種）、真＋好流水性種（流水域に生育する種）と流水不定性種（流水にも止水にも生育する種）が多産する。産出種はとくに多い種類はなく、好流水性で中～下流性河川指標種群（安藤,1990：河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、その環境を指標する可能性の高い種群）の*Achnanthes lanceolata*、*Cymbella turgidula*、好流水性種の*Cymbella turgidula* var.*nipponica*、流水不定性種の*Amphora affinis*、*Sellaphora pupula*、好止水性種（止水域に生育する種）の*Fragilaria construens* fo.*venter*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*、*Navicula muticа*などが産出する。このうち*Sellaphora pupula*、*Fragilaria construens* fo.*venter*は、有機汚濁の進んだ富栄養水域から産出する好汚濁性種（Asai, K. and Watanabe,T.,1995）でもある。

試料番号16・15は、淡水生種の生態性では大きな変化はない。流水不定性で富栄養種の*Gomphonema parvulum*が約20%産出し、前試料で産出した*Achnanthes lanceolata*、*Sellaphora pupula*、陸生珪藻の*Nvicula mutica*、好流水性種の*Navicula viridula* var.*rostrata*を伴う。

試料番号14は、真＋好流水性種が種数数・出現率ともに多くなることが特徴である。前試料で優占した*Gomphonema Parvulum*は減少し、好流水性で中～下流性河川指標種群の*Achnanthes lanceolata*、好流水性で好汚濁性種の*Gomphnonema Parvulum* var.*lagenula*、好流水性種の*Navicula viridula* var.*rostrata*が約10%産出し、好流水性で中～下流性河川指標種群の*Cymbella sinuata*、*C.turgidula*、*Melosira varians*、好流水性の*Cymbella turgidula* var.*nipponica*、*Navicula viridula* var. *rostellata*を伴う。

（2）花粉分析

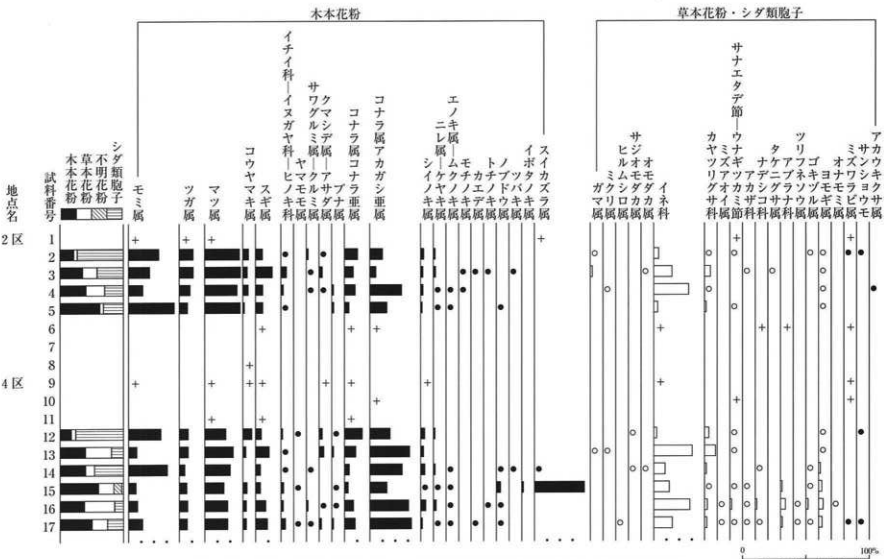
結果を表6、図186に示す。全体的に保存状態が悪く、花粉化石がほとんど見られない試料も多い。

2区では、試料番号2～5から花粉化石が検出されているが、他の試料では花粉化石が少なく、花粉外膜の風化も著しい。木本花粉に着目すると、試料番号2～5の組成は比較的近似する。木本花粉では、マツ属、モミ属、ツガ属、コウヤマキ属、スギ属など針葉樹花粉が多いのが特徴である。広葉樹花粉は、コナラ属とアカガシ亜属が多く検出される。草本花粉は、試料番号3・4でその割合が高く、その中でも特にイネ科の割合が高い。また割合は高くないが、ガマ属、ミクリ属、サンショウモなど水生植物の花粉や胞子が検出される。

4区では、試料番号12～17から花粉化石が検出される。木本花粉化石をみると、針葉樹花粉が多い点、広葉樹花粉ではアカガシ亜属とコナラ亜属が多い点で2区と類似する。なお、試料番号15ではスイカズラ属が多産しており、他の試料とは異なっている。草本花粉ではイネ科花粉の組成にばらつきがみられ、多い試料では約30%、少ない試料では3%の出現率を示す。その他カヤツリグサ科やヨモギ属などが検出されるほか、水生植物の花粉・胞子（ガマ属、ミクリ属、ヒルムシロ属、オモダカ属、サジオモダカ

表６　花粉分析結果

種類	試料番号	2区 1	2	3	4	5	6	7	8	4区 9	10	11	12	13	14	15	16	17
木本花粉																		
マキ属		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
モミ属		19	48	38	24	89	-	-	-	3	-	-	40	14	64	14	16	25
ツガ属		1	22	25	18	16	-	-	-	-	-	-	11	15	9	14	15	14
トウヒ属		-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属		4	55	64	54	69	-	-	-	3	-	1	26	48	42	36	41	41
コウヤマキ属		-	9	8	9	3	-	-	1	1	-	-	11	5	-	8	6	6
スギ属		-	11	30	12	14	4	-	-	1	-	2	7	23	8	9	18	21
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科		-	1	10	4	1	-	-	-	-	-	-	2	2	1	5	4	8
ヤナギ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
ヤマモモ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1
クルミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
サワグルミ属－クルミ属		-	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	1
クマシデ属－アサダ属		-	1	6	1	-	-	-	-	1	-	-	4	8	-	-	1	4
カバノキ属		-	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	2
ハンノキ属		-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	4	-
ブナ属		-	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	2	3
コナラ属コナラ亜属		-	21	16	18	9	1	-	-	1	-	1	22	19	8	7	16	19
コナラ属アカガシ亜属		-	20	11	53	33	1	-	-	-	1	-	25	67	53	32	69	74
クリ属		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シイノキ属		-	5	4	4	3	-	-	-	1	-	-	5	5	7	2	9	3
ニレ属－ケヤキ属		-	3	4	1	1	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	5	1
エノキ属－ムクノキ属		-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	1
キハダ属		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ウルシ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
モチノキ属		-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニシキギ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-
カエデ属		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
トチノキ属		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ブドウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2	-
ツタ属		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ノブドウ属		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8	2	1
ツバキ属		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
ウコギ科		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ハイノキ属		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
トネリコ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
スイカズラ属		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	94	-
草本花粉																		
ガマ属		-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ミクリ属		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ヒルムシロ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
サジオモダカ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
オモダカ属		-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イネ科		-	36	91	141	12	1	-	-	2	-	-	20	161	46	42	166	65
カヤツリグサ科		-	8	30	4	5	-	-	-	-	-	-	30	46	7	3	13	8
ミズアオイ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
ミズヒキ節		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	17	4
ギシギシ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節		1	2	-	-	3	-	-	-	-	1	-	3	2	-	3	8	3
アカザ科		-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	3
ナデシコ科		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	3
タケニグサ属		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科		-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	4	22	6
ワレモコウ属		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バラ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	3	-
マメ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
ツリフネソウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
セリ科		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヒルガオ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
オミナエシ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ゴキヅル属		-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	10	1
ヨモギ属		-	1	2	4	1	-	-	-	-	-	-	5	5	7	9	21	12
オナモミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
キク亜科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-
タンポポ亜科		-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	1	-	-
不明花粉		2	3	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	4	1	48	2	1
シダ類胞子																		
ミズワラビ属		7	1	-	-	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1
サンショウモ		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
アカウキクサ属		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のシダ類胞子		448	663	263	150	123	15	0	4	149	239	13	660	100	236	12	80	109
合計																		
木本花粉		25	201	227	212	247	6	0	1	11	1	4	157	214	209	239	226	226
草本花粉		1	50	143	150	21	13	0	1	2	1	2	60	217	72	94	279	108
不明花粉		2	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	4	1	0	48	2	1
シダ類胞子		455	665	263	151	123	16	0	4	151	240	13	661	100	236	12	80	112
総計（不明を除く）		481	916	633	513	391	35	0	6	164	242	19	878	531	517	345	585	446



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満、＋は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

図186　主要花粉化石群集の層位分布

属、ミズアオイ属、ミズワラビ属、サンシヨウモ属、アカウキクサ属）も少量検出される。

（３）植物珪酸体

結果を表７、図187に示す。各試料から植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、各区の産状を述べる。

・２区

栽培植物のイネ属は、ほぼ全ての試料で認められるが、多い試料でも短細胞珪酸体で３%、機動細胞珪酸体で10%前後である。その他の種類として、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科が認められるが、短細胞・機動細胞ともにタケ亜科の出現率が高い。ただし、試料番号６～８ではヨシ属やウシクサ族の出現率がやや多い。

・４区

各試料とも組成に大きな変化は見られない。植物珪酸体組成は２区に類似する。

４．考察

（１）各地点の環境変遷

・２区

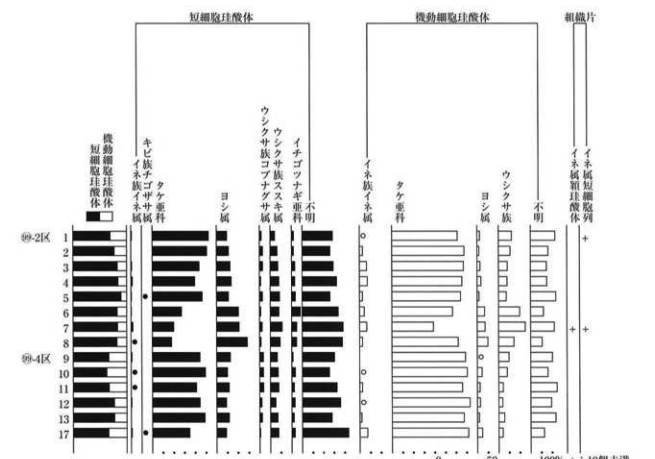
古墳時代の畑と古代の水田層が検出されている。畑作土層と耕作溝の埋土（試料番号６～８）の珪藻化石群集をみると、陸生珪藻Ａ群が優占する。陸生珪藻Ａ群は、陸生珪藻の中でも特に耐乾性が高い種類で、これが優占する場所は乾いた場所であると考えられている（伊藤・堀内,1991）。畑の場合、耕すことによって作土全体が好気的状況下になることから、調和的な結果であるといえる。またこのような場所では花粉化石の風化が進んで分解される場合が多いため、今回検出されなかったと考えられる。植物珪酸体組成をみると、イネ属が少量ながら検出される。これらは、耕作土の母材となった土壌（おそらく氾濫堆積物）に含まれていたとも考えられるが、稲籾や稲藁は古くから資材として活用されているため、保温などの目的で畑に持ち込まれた可能性もある。稲籾に形成される珪酸体が試料番号７で発見されるのは後者の説を支持するものであるが、当時の農業技術に関する検討が不十分なため、今後の課題である。

その上には古代の沼地層が覆う（試料番号３～５）。花粉化石・シダ類胞子では、水生植物（ガマ属、ミクリ属、オモダカ属、アカウキクサ属など）が検出されることから、堆積構造から判別されたように、湿地的環境であったと考えられる。その上位の試料番号１・２は水田耕土と考えられている。しかし、植物珪酸体分析結果をみるとイネ属の割合は低く、下位の沼地層や古墳時代の畑作土層と大きな変化はない。しかしこれとは逆に、沼地層では、上下層の耕作土を上回るほどのイネ属が検出されていると考えることもできる。このように解釈すると、沼地層での稲作の可能性が考えられるが、明瞭な水田遺構が検出されていない点や、植物珪酸体の割合が低い点などから断定することは難しい。また、水田層での花粉化石は保存が悪い。後代の影響（好気的環境下にさらされた？）などが考えられるが、現段階では不明である。ただし、水生植物の種類（サンシヨウモ、ミズワラビ属など）が多少ではあるが検出されていることからすると、耕作が行われていた時代には、湿地的な環境であり、これらの水生植物が水田雑草として生育していたことが推測される。

一方、植物珪酸体では全ての層位でタケ亜科が多産する。この傾向は２区のみでなく、他の地区にもみられることから、本遺跡での普遍的な傾向であるといえる。タケ亜科の植物珪酸体は生産量が多く、

表7　植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	2区 1	2	3	4	5	6	7	8	4区 9	10	11	12	13	17
イネ科葉部短細胞珪酸体															
イネ族イネ属		2	-	4	8	5	2	10	1	2	1	1	2	-	2
キビ族チゴザサ属		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
タケ亜科		147	186	220	228	438	147	106	88	100	113	99	157	181	86
ヨシ属		27	41	64	79	104	110	111	140	29	23	28	32	43	22
ウシクサ族コブナグサ属		5	11	15	7	26	7	13	7	8	8	9	7	9	2
ウシクサ族ススキ属		12	24	37	47	84	44	59	46	15	17	19	18	26	19
イチゴツナギ亜科		6	7	16	18	34	45	26	23	3	8	6	11	8	8
不明キビ型		28	38	75	79	143	116	137	125	30	25	36	63	51	58
不明ヒゲシバ型		10	17	18	31	32	25	17	19	6	5	4	6	12	17
不明ダンチク型		43	42	56	77	74	43	50	43	33	29	39	59	41	33
イネ科葉身機動細胞珪酸体															
イネ族イネ属		1	3	7	8	3	5	7	3	-	1	3	1	2	9
タケ亜科		75	74	72	73	71	66	42	69	78	96	78	79	75	91
ヨシ属		3	2	3	4	2	8	8	11	1	6	3	3	2	6
ウシクサ族		15	12	9	9	8	23	27	16	11	11	5	4	6	5
不明		28	18	16	17	26	14	24	12	23	22	29	21	26	16
合計															
イネ科葉部短細胞珪酸体		280	366	505	574	941	539	529	492	226	229	241	355	371	248
イネ科葉身機動細胞珪酸体		122	109	107	111	110	116	108	111	113	136	118	108	111	127
総計		402	475	612	685	1051	655	637	603	339	365	359	463	482	375
組織片															
イネ属短細胞珪酸体		-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-
イネ属短細胞列		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1％未満の種類を示す。また、組織片の産状を検出個数により+の記号で示す。

図187　植物珪酸体群集と組織片の産状

また風化に強いことから、沖積低地ではしばしば多産する（たとえば辻本ほか，1996など）。これらの中には、遺跡周辺の自然堤防上など開けた空間に生育しているものも含まれるであろうが、洪水の際などに集水域から運ばれて堆積したものも多数含まれていると考えられる。このため、タケ亜科の割合が、実際周囲に生育しているよりもグラフ上では多く表現されている可能性がある。今回イネ属の植物珪酸体が少なかったのもこれが要因の一つになっていると思われる。また、ヨシ属やウシクサ族（ススキ属、コブナグサ属を含む）などの分類群も、タケ亜科と同様、周辺に多くみられたと考えられるが、タケ亜科の影響によってグラフ上では過小に評価されている可能性がある。なお、花粉化石ではイネ科が多産するが、これらの分類群に由来しているものと推定される。

・4区

古墳時代初頭の405大溝内堆積物のうち、試料番号14～17の珪藻化石群集は、中～下流性河川指標種群を多く含む流水性種が多産することを特徴とする。これより、試料が堆積する頃は、溝内は流水域であったと考えられる。また、405大溝の水質を細かく検討すると、何れの試料からも好汚濁性種や富栄養種が産出することから、富栄養な水質であったと考えられる。花粉化石をみると、イネ科が多く、カヤツリグサ科やアブラナ科、ヨモギ属などを伴っている。これらは河川付近の植生を反映していると考えられることから、当時周辺はイネ科（タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科など）を中心とした草地であったと考えられる。また水生植物（ヒルムシロ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ミズワラビ属、サンショウモ）も少量ながら検出されることから、大溝内やその付近の湿地帯にこれらが生育していたと考えられる。また試料番号15では、スイカズラ属の花粉化石が多産する。スイカズラ属は虫媒花であるため、花粉生産量や飛散能力が低く、多産することは希である。おそらく、調査地点のすぐ近くにスイカズラ属が生育し、そこから花粉化石がもたらされたものと考えられる。

試料番号12～13は、405大溝の最終堆積層である。花粉化石群集、植物珪酸体群集ともに大きな変化がみられないことからすると、周辺の環境は、イネ科草本類を主体とする草地であったと考えられる。その上位の洪水層（試料番号9～11）になると、花粉化石はほとんど見られない。おそらく、堆積速度が早いなどの理由で化石が取り込まれなかったことが考えられる。一方、植物珪酸体をみると、他の地区・層位と大きな変化がなく、タケ亜科が多い。これは、先にも述べたように、タケ亜科の植物珪酸体が集水域から運ばれて堆積したものが多数含まれているためとみられる。

（2）森林植生変遷

木本類は針葉樹が主体で、その中でもマツ属の割合が高い。また草本類の割合が高く、その中でもイネ科が顕著である。近畿地方の植生変遷をまとめた前田（1984）の結果に対比すると、今回分析を行った飛鳥時代は照葉樹林Ⅱ期の後半に相当する。この時期の特徴として、マツ属の増加、草本花粉の増加、栽培植物の出現があげられる。また、それ以前から引き続いてモミ属、ツガ属、スギ属など温帯針葉樹の増加やアカガシ亜属の多産といった傾向がみられる。これは、今回の成果と比べても調和的である。

草本類はイネ科を中心として多産するが、これらは水田などに伴う開発などによってできた開放空間に、先駆的に進入して生育し分布を拡大していった考えられる。一方、マツ属の増加は、人間の生業に伴う植生干渉の結果、マツの二次林や植林が増えた結果であると考えられている。このような植生改変は、弥生時代～古墳時代頃から各地で起こったことが、これまでの発掘成果から明らかになっている（辻,1993）。また、モミ属、ツガ属、コウヤマキ属、スギ属などの温帯針葉樹林の増加は、気候の冷涼化が原因と考えられ、縄文時代後・晩期から増加が始まっている（前田,1984;那須,1989）。広葉樹ではアカ

ガシ亜属の割合が高く、シイノキ属も検出される。これらの照葉樹は、暖温帯林のなかでも主要な構成要素であることから、多くの森林を作っていたものと考えられる。なお、暖温帯林構成種の中では、クスノキ科が重要な要素を占めるが、クスノキ科の花粉は膜の構造が非常に弱いため、化石としては残らない。このため花粉化石群集には反映されないが、おそらく、シイ類やカシ類に混じって、クスノキ科も多く分布していたと考えられる。このような傾向は、大阪平野に立地する遺跡の花粉分析結果をみても、堺市の小坂遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社：1992，鈴木：1992，安田：1992）や、東大阪市の宮ノ下遺跡（辻本ほか，1996）や鬼虎川遺跡（金原正明・金原正子，1997）などで同様な傾向がみられる。おそらく、これらの温帯針葉樹や照葉樹は、主に、段丘～山地を中心に分布していたものと考えられる。

また、本遺跡周辺の考古遺跡における古墳時代の花粉分析結果をみると、マツ属の産状が地点によって異なっている傾向が窺える。本遺跡西側に隣接する加美遺跡（辻本ほか,2003）では、距離的に近いにも関わらず、マツ属は今回のように多産していない。本遺跡東南方向に位置する志紀遺跡では古墳前期の層準で多産するようになるが、田井中遺跡では低率である（辻本ほか,2002など）。また、本遺跡南方の河内台地縁辺に位置する長原遺跡（第31・32工区：那須ほか,1982、NG00-11次：渡邊,2002a、東北地区：渡辺,2002b、東部地区:辻本・金井,2003）では、東部地区以外の調査区でマツ属が低率であり、東部地区で今回の久宝寺遺跡と同様にマツ属の出現率が高い。一般にマツ属など高木になりかつ花粉生産量の多い風媒性の種類は、花粉分析結果の解釈時に広域要素として捉えられ、地層の生層序対比に利用される。しかし、本遺跡およびその周辺でのマツ属の産状は、地域的な普遍性を示していない。本遺跡周辺と同様の傾向が生駒山地南麓に位置する遺跡（パリノ・サーヴェイ,1996・1998など）でも確認されていることなどから、本地域に限って起こっていることではないようである。先述したようにマツ属は極端な陽樹で二次林の構成要素でもあるため、その分布拡大は人間活動や土地条件の変化を考える上で重要な種類である。本遺跡周辺での産状を見る限り、調査地点の性格（生産域・集落域・墓域など）や土地条件（後背湿地や離水した微高地など）と密接に関わっているようにも思われる。この点に関しては、調査地区の地形発達およびそこでの人間活動、さらに各地点の植生史情報を総合的に捉え再評価するようにしたいと考える。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p.73-88.

Asai,K. and Watanabe,T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and saproxenous taxa．Diatom，10，p.35-47.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6．p.23-45.

金原正明・金原正子（1997）鬼虎川遺跡第35-1次調査における古植生および古環境の検討．鬼虎川遺跡第35-1次発掘調査報告，p.104-119.東大阪市文化財協会．

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用.第四紀研究．27，p.1-20.

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析,その特性と応用.第四紀研究，25，p.31-64.

Krammer，K. and Lange-Bertalot，H.（1986）Bacillariophyceae.Teil 1，Naviculaceae. Band 2/1 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa，876p.，Gustav Fischer Verlag.

Krammer，K. and Lange-Bertalot，H.（1988）Bacillariophyceae. Teil 2. Epithemiaceae，Bacillariaceae，Surirellaceae. Band 2/2 Yon:Die Suesswasserflora yon Mitteleuropa,536p.，Gustav Fischer Verlag

Krammer,K. and Lange-Bertalot,H.（1991a）Bacillariophyceae. Teil 3. Centrales,Fragilariaceae，Eunotiaceae. Band 2/3

von:I) ie Sucsswasserflora von Mitteleuropa,230p. , Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 Yon:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p. , Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26, p.1-353. , BERLIN･STUTTGART.

Lange-Bertalot,H.unter Mitarbeit yon A. Steindorf (1995) Rote Liste der Kieselalgen (Bacillariophyceae) Deutschlands. Schr. -R. f. Vegetationskde. H. 28 000-000 BfN, Bonn-Bad Godesberg p.1-31.

前田安夫（1984）花粉分析学的研究よりみた近畿地方の洪積（更新）世後期以降の植生変遷.「日本植生誌　近畿」,宮脇昭編著, p.87-99.至文堂.

那須孝悌・岡本素治・布谷知夫（1978）長原遺跡周辺の古植生.「長原遺跡発掘調査報告」, p.207-213.（財）大阪市文化財協会.

那須孝悌（1989）活動の舞台:概論.「弥生時代の研究1　弥生人とその環境」,永井昌文・那須孝悌・金関　恕・佐原　真編, p.119-130.雄山閣.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）小阪遺跡における珪藻・花粉・植物珪酸体からみた古環境.「小阪遺跡　－近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書－　自然科学・考察編」, p. 561-582.大阪府教育委員会・大阪文化財センター

パリノ・サーヴェイ株式会社（1996）珪藻化石・植物化石・樹種による古環境復元.「北島遺跡の耕作地跡と古環境　－寝屋川南部流域植付ポンプ場土木工事に伴う北島遺跡第１次発掘調査報告書－」, p.71-130., 財団法人　東大阪市文化財協会.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1998）鬼虎川遺跡の古環境復元.「鬼虎川遺跡第35-2・3次発掘調査報告－大阪府道大阪東大阪線建設に係わる西石切工区下部工事に伴う鬼虎川遺跡第35-2・3次発掘調査報告報告書」, p.56-84,（財）東大阪市文化財協会.

鈴木　茂（1992）小阪遺跡15Fトレンチの花粉化石.「小阪遺跡　－近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書－　自然科学・考察編」, p. 525-533.大阪府教育委員会・大阪文化財センター

辻本裕也・伊藤良永・馬場健司（1996）古環境.「宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書　－第2分冊－」, p. 27-55.東大阪市教育委員会・東大阪市文化財協会.

辻本裕也・辻　康男・田中義文・馬場健司（2002）志紀遺跡における縄文時代から中世の古環境解析　－６B区の調査成果を中心にして－.「財団法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書第73集　志紀遺跡（その２・３・５・６）」, p.605-613. 財団法人大阪府文化財調査研究センター.

辻本裕也・田中義文・馬場健二・渡邉正巳,（2003）第1節　自然科学分析.「大阪市平野区加美遊路発掘調査報告I　2001年度大阪外環状鉄道建設工事に伴う発掘調査報告書」, p.85-111. 財団法人大阪市文化財協会

辻本裕也・金井慎司（2003）長原遺跡の自然科学分析.「長原遺跡東部地区発掘調査報告VI　2000年度大阪市長原東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書」, p.67-82.財団法人大阪市文化財協会

辻　誠一郎（1993）植物と気候.「古墳時代の研究　総論・研究史」,石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, p.105-112.雄山閣

Vos,P.C. and H.de Wolf (1993) Reconstruction of sedimentary environments in Holocene costal deposits of the south-west Netherlands; the Poortvliet boring, a case studynof palaeoenvironmental diatom research. Twelfth International Diatom Symposium, p.297-296.

渡邉正巳（2002a）第１節　長原遺跡東北地区における花粉・珪藻・プラントオパール分析.「長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅴ－1999年度大阪市長吉東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書」, p.87-96. 財団法人　大阪市文化財協会

渡辺正巳（2002b）NG00-11次調査に係わる花粉分析.「長原遺跡発掘調査報告IX　市営長吉長原東第２住宅建設工事に伴う発掘調査報告書」, p.56-65, 財団法人大阪市文化財協会

安田喜憲（1992）小阪遺跡の泥土の花粉分析.「小阪遺跡　－近畿自動車道松原海南線および府道松原泉大津線建設に伴う発掘調査報告書－　自然科学・考察編」, p.519-522.大阪府教育委員会・大阪文化財センター

第７章　531井戸出土の古式土師器

１．はじめに

今回、報告の対象となった竜華東西線・竜華東西線その２の調査では、古墳時代初頭～前期に属する集落構造の一端を知る上で重要な手がかりが得られた。また531井戸、724堤、105土器集積など、一括性の高い状態で出土した土器資料にも恵まれた。そのなかでも531井戸の土器は、廃絶に伴う閉鎖系の出土状態を示し、またその時期が庄内式古段階として捉えられる点で資料的価値はとりわけ高い。405大溝を境として左岸にあたる西側一帯の地域では、弥生時代末～古墳時代初頭に形成された竪穴住居を中心とする集落が形成されていて、531井戸はこの集落の一角に位置する。ここでは531井戸出土土器の編年的位置づけについて若干まとめておきたい。

２．531井戸出土土器の主な特徴

井戸内からは個体数にして合計179点に及ぶ土器が出土した。器種別の組成比は甕64.2%、壺15.1%、高杯9.6%、鉢8.4%で、以下はその他の器種が占める。

甕の組成をみると弥生形甕47.0%、弥生形台付甕1.7%、庄内式甕29.6%、異形甕21.7%となっている。約半数を占める弥生形甕が最も多いが、庄内式甕が３割近く、また異形甕が２割強の割合で存在して、目立つ存在である。その他、壺では広口壺などの伝統的器種が多いが、複合口縁壺や直口壺は少なく、弥生的な様相が強い。高杯は伝統的なものや庄内系高杯も多くみられ、また他地域からの搬入高杯として吉備系、東海系の高杯が存在する。鉢は土着的で弥生時代のものと大差ない。

当該資料中の庄内式甕には次のような特徴がある。小形品（274）では体部が扁球状であるが、他の中形品では肩がよく張り、上半に最大径をもつ倒卵形を呈したものが主体をなす。全体的に器壁は肉厚で、プロポーションはやや鈍重な印象がある。底部は突出せず、尖底に近い小さな平底に作る。成形は底部から全面タタキによる分割（おそらく２～３分割）成形による。分割成形技法には全体的にタタキ方向がほぼ一致する個体が主流をなし、連続ラセン状タタキ手法が駆使されている。また分割成形の単位ごとにタタキの方向が異なる282・284・285・289・291・293・304も存在する。タタキ原体の方向は右上がりを主体とし、ほかに水平（274・278・287・291・293）、左上がり（298・299・301・307）がある。また底部が左上がり、体部が右上がりの個体（285・289）もあり、タタキ成形が必ずしも一定の技法として定型化されていない状況が窺える。タタキの幅は304・307など太いものと、277・297など細いものが混在する。口縁タタキ出し手法も用いられている。口縁端部の形状は、拡張しないもの（274・282・284・287・297・300・302・305）、拡張せず端面をもつもの（279・289）、端部を僅かに跳ね上げるもの（286・304）、上方に拡張するもの（277・278・283・290）、上方に拡張して外面に端面をもつもの（276・280・291～296）、上方に拡張して外面の端面に擬凹線をもつもの（275・281・298・299・301・303・306・307）がある。したがって口縁部の形状は必ずしも定型化していないが、端部を上方へ拡張する傾向は出現しているといえよう。体部外面のハケ調整は必ず付属する属性で、体部下半を中心に縦・斜方向に加えられる。頸部直下を除いてタタキをほぼ消した276もあるが、少なくとも体部下半を中心にハケを加えるという原則がある。291は体部下半の調整にハケを用いず、タタキ原体をハケの代用としている。体部内面には荒々しいケズリが施され、その単位や切合いが明瞭に識別できる。また素地の抵抗により、工具の刃が跳ねた痕もよく観察できる。ケズリは底部から体部下半まで垂直方向、

体部中央は斜方向、頸部付近は横方向という３工程を基本とするが、必ずしも一定してはいない。ケズリ上端の位置は、頸部の屈曲に達してシャープな稜線を作る個体は稀で、それよりやや下方に位置するものが多い。また頸部まで達するケズリも、工具の回転力が弱いためか、シャープな稜線を作らない。胎土は一部に生駒西麓産以外のもの（275・293）もみられるが、大半が生駒西麓産である。焼成はきわめて硬質で、堅緻な焼き上がりの個体が主流をなす。後半期以降の土鍋的な焼き上がりと比較して、相対的に、より高温で焼成された可能性がある。

以上のように、531井戸の庄内式甕は、口縁部の形態や内面ケズリなど、製作技法上の諸属性において後半期のシャープで安定した形質とは異なる特徴をもつ。基本的に右上がりタタキの河内型庄内式甕に通じる特徴が強いが、左上がりタタキの個体などは大和型との関連を窺わせる。また頸部内面のケズリは全般に甘いものが多く、庄内式甕の古い属性のひとつとして挙げることができよう。頸部のケズリも大和型は古い形質を残している可能性もある。

弥生形甕、庄内式甕のほか、これらの系譜から逸脱する甕を一括して異形甕と仮称した。異形甕の成形、整形には様々な手法が組合わされ、類型化が困難であるが、弥生形甕をベースとして庄内式甕を模倣した甕なども含まれる。甕におけるこのような不安定な状態は布留式の初期でも同様にみられる。

組成全体の様相は、甕と高杯に大きな変化が生じているが、壺、鉢については変化が比較的乏しいようである。また新たな器種として小形器台の出現が大きな特徴である。小形器台には搬入品らしい精緻な作りの362、弥生形器台の特徴を残す過渡的な361がある。

他地域との併行関係を示す資料は北陸系複合口縁壺273で、堀編年の月影（風巻）３式に属する[註]ほか、吉備系高杯346は高橋編年９－ｂ・ｃ期に相当する。

３．編年的位置づけと意義

出現期の庄内式の様相は、この段階の一括資料がきわめて限定的であることから、弥生系の土器様相の中で点的に出現していた可能性が高い。なかでも中田遺跡では出現期の庄内式土器が比較的まとまって存在することが知られており、庄内様式誕生の候補地のひとつとみてよい。ここでは531井戸資料群の位置づけを行うために、庄内式古段階の基準資料とされる八尾市中田遺跡ＳＸ01（福田1986）、中田遺跡刑部土坑（高木1981）と比較する。中田遺跡ＳＸ01からは甕をはじめ各種の土器が出土した。庄内式甕は生駒西麓産ではなく在地の胎土とされる。口縁部はⅤ様式的なものが主流で、また底部は久宝寺遺跡531井戸資料群より明瞭な平底をもつ。したがってこれらの特徴からＳＸ01資料群は、531井戸と比べ、型式学的に先行する位置にあると考えられる。厳密にいえば庄内式甕の定義づけ自体にも関わるが、ＳＸ01における庄内式甕の胎土は、生駒西麓産素地土の選択、および定着以前の段階と解されよう。刑部土坑資料は中部瀬戸内系の土器が多量に存在し、畿内にあっては特異な土器組成をもつ。庄内式甕の破片が出土しているが、少数かつ小破片であって比較するのは困難である。しかし出土資料中の吉備系高杯・庄内系高杯をみると、いずれも531井戸資料と比較して口縁部の発達が劣っており、やはり531井戸に先行する資料とみて大過なかろう。

ここに挙げた資料群は、いずれも庄内式古段階に位置づけられるが、今回の調査ではその前段階と考えられる資料も得られている。555溝は531井戸の東に位置する遺構で、出土点数が少なく器種構成に偏

[註] 堀　大介氏（朝日町教育委員会）教示

りはあるものの、出土土器中で最古相を示し、集落開始期に近い土器相を示す点で重要である。同溝からは在来系の有稜高杯が２点出土している。このうち143は北島池下層式を標識とした「北島池遺跡下層型有稜高杯」（原田2003）とされる高杯に類似している。また144は143より型式学的に新しい要素をもつが、いずれも531井戸資料の有稜高杯群330～336より先行すると考えられる。北島池遺跡下層資料に関しては、これを弥生時代末とするか、古墳時代初頭とするかで見解が二分されている。555溝土器組成をみると、甕は比較的まとまって出土しているがすべて弥生形であり、庄内式甕は全く含まれていない。また156のように長めの体部をもった古い形質の弥生形甕がある。庄内的要素を備えた土器は一切含まれず、すべて在来系土器で構成されている。したがって出土量に難点はあるが、555溝の土器組成は、少なくとも庄内式甕の誕生以前の様相を示す可能性がある。

以上の所見から、久宝寺遺跡における集落の形成開始期は、弥生時代末～古墳時代初頭、すなわち庄内式甕の出現前夜から搬籃期にかけての時期にほぼ限定される。庄内～布留式期の河内平野では、河内湖に注ぐ旧大和川水系の分流に沿って「東郷・中田遺跡群」、「加美・久宝寺遺跡群」の二大遺跡群が形成されている。中田・矢作・小阪合・成法寺・東郷・萱振等の諸遺跡で構成される東郷・中田遺跡群は「小阪合分流路」（松田2000）の自然堤防上に分布する。一方、加美・久宝寺遺跡群は加美・久宝寺・亀井北遺跡で構成され、小阪合分流路より西側を北流する別の「久宝寺分流路」を基盤とする。庄内式甕の出土量は、東郷・中田遺跡群が河内平野の中でも群を抜いて多く、その生産の中核をなす地域であったことを窺わせる。したがって庄内式甕の発展過程には東郷・中田遺跡群が主体的に関与したとみられるが、久宝寺遺跡における搬籃期の庄内式土器の存在は、両遺跡群の地域的紐帯の証左ともいえ、河内平野の中においても特に先進的な地域であったことを裏づける資料として捉えられよう。

文献註

高木真光　1981「中田遺跡＜刑部地区＞関西電力K.K.地中線埋設工事に伴う埋蔵文化財調査概要」『昭和53・54年度埋蔵文化財発掘調査年報』八尾市文化財調査報告７　八尾市教育委員会

福田英人　1986『中田遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会

松田順一郎　2000「八尾市小阪合遺跡における弥生時代～古代の河川堆積作用と地形発達」『小阪合遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第51集

原田昌則　2003「中・南河内地域における弥生時代後期後半～古墳時代初頭前半（庄内式古相）の土器の細分試案について」『久宝寺遺跡第29次発掘調査報告書』(財)八尾市文化財調査研究会報告74　(財)八尾市文化財調査研究会

遺物観察表

土器観察表（1）

※法量値の単位はcm、（ ）内の数値は復原口径、残存器高。

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
1	5 層	B1-i5	土師器 直口壺	口径 － 器高 (12.1)	外 にぶい褐(7.5YR5/4) 内 にぶい橙(7.5YR6/4)	良	
2	5 層	B1-i5	土師器 直口壺	口径 13.5 器高 26.1	外 にぶい黄(2.5Y6/3) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産
3	5 層	B1-i5	土師器 庄内式甕	口径 (12.7) 器高 17.7	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 黄灰(2.5Y6/1)	良	非生駒西麓産
4	5 層	B1-h5	土師器 弥生形甕	口径 (14.9) 器高 (9.9)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
5	5 層	B1-j5	土師器 複合口縁壺	口径 (13.5) 器高 (7.0)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	山陰系
6	5 層	B1-h9	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 23.7 器高 32.2	外 にぶい褐(7.5YR6/3) 内 にぶい褐(7.5YR6/3)	精良	鉢掛け痕
7	5 層	B1-h9	土師器 庄内式甕	口径 (16.4) 器高 (11.0)	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産
8	5 層	B1-h9	土師器 庄内式甕	口径 (14.9) 器高 (2.9)	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 灰黄褐(10YR5/2)	良	生駒西麓産
9	5 層	B1-h9	土師器 庄内式甕	口径 (16.5) 器高 (2.7)	外 にぶい黄褐(10YR5/3) 内 灰黄褐(10YR5/2)	良	生駒西麓産
10	5 層	B1-h9	土師器 複合口縁甕	口径 (13.6) 器高 (8.5)	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 にぶい黄褐(10YR5/3)	良	生駒西麓産
11	5 層	B1-h9	土師器 有孔鉢	口径 (10.6) 器高 10.3	外 にぶい橙(7.5YR7/3) 内 にぶい橙(7.5YR7/3)	粗	
12	5 層	B1-h9	土師器 小形器台	口径 9.2 器高 (4.2)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/4)	精良	
13	5 層	B1-h9	土師器 小形器台	口径 9.6 器高 9.6	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	3 方透孔
14	5 層	B1-h9	土師器 庄内式甕	口径 19.0 器高 26.4	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 灰黄褐(10YR4/2)	良	生駒西麓産
15	5 層	B1-g10	土師器 台付鉢	口径 (10.0) 器高 (5.8)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 褐灰(10YR4/1)	精良	内面灰色顔料
16	5 層	B1-g10	土師器 弥生形甕	口径 (17.2) 器高 (8.8)	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
17	5 層	B1-g10	土師器 庄内式甕	口径 (14.7) 器高 (3.5)	外 黒褐(10YR3/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	生駒西麓産
18	5 層	B1-g10	土師器 庄内式甕	口径 (15.9) 器高 (2.8)	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 灰黄褐(10YR5/2)	良	生駒西麓産
19	5 層	B1-g10	土師器 庄内式甕	口径 (16.2) 器高 (4.1)	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 灰黄褐(10YR5/2)	良	生駒西麓産
20	5 層	B1-g10	土師器 庄内式甕	口径 (16.0) 器高 (10.7)	外 黄灰(2.5Y4/1) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	生駒西麓産
21	5 層	B2-g3	土師器 加飾壺	口径 19.6 器高 (8.5)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 浅黄橙(7.5YR8/4)	良	
22	5 層	B2-g2	土師器 直口壺	口径 (11.7) 器高 (11.6)	外 橙(7.5YR6/6) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	精良	
23	5 層	B2-g2	土師器 壺	口径 － 器高 (23.3)	外 にぶい褐(7.5YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	精良	
24	5 層	B2-g3	土師器 直口壺	口径 (13.8) 器高 (6.9)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	精良	
25	5 層	B2-g3	土師器 複合口縁壺	口径 (19.6) 器高 (3.7)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	精良	
26	5 層	B2-g3	土師器 庄内式甕	口径 (15.8) 器高 (3.6)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	生駒西麓産
27	5 層	B2-g3	土師器 庄内式甕	口径 (17.0) 器高 (5.4)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 にぶい黄褐(10YR5/3)	粗	生駒西麓産
28	5 層	B2-g3	土師器 庄内式甕	口径 (16.0) 器高 (18.7)	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 黒褐(2.5Y3/1)	良	生駒西麓産
29	5 層	B2-g3	土師器 椀形高杯	口径 (12.5) 器高 (5.7)	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	精良	
30	5 層	B2-g3	土師器 小形鉢	口径 (12.1) 器高 5.9	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
31	5 層	B2-g2	土師器 小形器台	口径 (10.5) 器高 (2.9)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	精良	
32	5 層	B2-d10	土師器 小形壺	口径 8.5 器高 9.7	外 明赤褐(5YR5/6) 内 赤褐(5YR4/6)	良	
33	5 層	B2-d10	土師器 庄内式甕	口径 (18.0) 器高 (5.4)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	生駒西麓産
34	105 土器集積	B1-i7	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 (24.4) 器高 (8.5)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 灰黄(2.5Y6/2)	精良	
35	105 土器集積	B1-i6	土師器 広口壺	口径 (12.9) 器高 (21.2)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	良	
36	105 土器集積	B1-i6	土師器 壺	口径 － 器高 (15.0)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
37	105 土器集積	B1-i7	土師器 壺	口径 － 器高 (30.1)	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	粗	
38	105 土器集積	B1-i6	土師器 加飾壺	口径 － 器高 (30.2)	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 暗灰黄(2.5Y4/2)	精良	生駒西麓産
39	105 土器集積	B1-i7	土師器 弥生形甕	口径 12.4 器高 16.2	外 黄灰(2.5Y5/1) 内 黄灰(2.5Y5/1)	粗	
40	105 土器集積	B1-i6	土師器 弥生形甕	口径 14.5 器高 (18.3)	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)	良	

土器観察表（2）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
41	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 (14.6) 器高 (3.3)	外 褐灰(10YR5/1) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	生駒西麓産
42	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 (14.0) 器高 (5.1)	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 赤灰(2.5YR6/1)	良	生駒西麓産
43	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 (14.9) 器高 (6.3)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 黄灰(2.5Y6/1)	良	生駒西麓産
44	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 13.6 器高 15.2	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 灰黄褐(10YR4/2)	良	生駒西麓産
45	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 (15.1) 器高 (13.7)	外 にぶい黄褐(10YR5/3) 内 にぶい黄褐(10YR5/3)	良	生駒西麓産
46	105 土器集積	B1-i6	土師器 庄内式甕	口径 15.0 器高 (12.7)	外 黄褐(2.5Y5/3) 内 暗灰黄(2.5Y4/2)	良	生駒西麓産
47	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 (15.2) 器高 16.8	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 黄灰(2.5Y6/1)	良	生駒西麓産
48	105 土器集積	B3-i8	土師器 庄内式甕	口径 (17.1) 器高 (7.1)	外 暗灰黄(2.5Y4/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産
49	105 土器集積	B1-i6	土師器 庄内式甕	口径 (16.2) 器高 (12.0)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産
50	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 (14.2) 器高 (16.2)	外 にぶい黄褐(10YR5/3) 内 灰黄褐(10YR4/2)	粗	生駒西麓産
51	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 (14.8) 器高 18.9	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 灰黄褐(10YR4/2)	良	生駒西麓産
52	105 土器集積	B1-i6	土師器 庄内式甕	口径 14.7 器高 18.3	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 黄灰(2.5Y5/1)	良	生駒西麓産
53	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 15.8 器高 (21.0)	外 褐灰(10YR6/1) 内 褐灰(10YR5/1)	良	生駒西麓産
54	105 土器集積	B1-i7	土師器 庄内式甕	口径 18.2 器高 22.2	外 褐灰(10YR5/1) 内 褐灰(10YR6/1)	良	生駒西麓産
55	105 土器集積	B1-i7	土師器 弥生形甕	口径 15.2 器高 13.9	外 褐灰(10YR4/1) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	良	庄内式模倣
56	105 土器集積	B1-i7	土師器 異形甕	口径 (15.3) 器高 20.1	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい橙(7.5YR6/4)	良	
57	105 土器集積	B1-i7	土師器 複合口縁甕	口径 13.3 器高 (13.8)	外 灰白(2.5Y8/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	山陰系
58	105 土器集積	B1-i6	土師器 複合口縁甕	口径 (14.0) 器高 21.6	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	粗	吉備系
59	105 土器集積	B1-j5	土師器 複合口縁甕	口径 15.0 器高 (19.3)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 赤灰(2.5YR6/1)	良	吉備系
60	105 土器集積	B1-i7	土師器 有段高杯	口径 (23.8) 器高 (4.3)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	精良	

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
61	105 土器集積	B1-i6	土師器 台付鉢	口径 (12.5) 器高 7.3	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 浅黄(2.5Y7/3)	粗	
62	105 土器集積	B1-i7	土師器 小形丸底土器	口径 (7.4) 器高 7.1	外 にぶい黄橙(10YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
63	105 土器集積	B1-i7	土師器 小形器台	口径 − 器高 (2.7)	外 にぶい黄褐(10YR5/3) 内 灰黄褐(10YR5/2)	良	
64	105 土器集積	B1-i6	土師器 小形器台	口径 − 器高 (7.6)	外 黄褐(2.5Y5/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
65	105 土器集積	B1-i6	土師器 蛸壺	口径 6.3 器高 10.5	外 橙(7.5YR6/6) 内 にぶい褐(7.5YR6/3)	良	
66	105 土器集積	B1-i6	土師器 大形鉢	口径 (34.1) 器高 (12.8)	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 にぶい黄橙(10YR7/4)	良	片口
67	304大溝	B2-e4	土師器 広口壺	口径 14.0 器高 (19.4)	外 黄褐(2.5Y5/3) 内 黄灰(2.5Y4/1)	良	
68	304大溝	B2-f4	土師器 壺	口径 − 器高 (12.4)	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
69	304大溝	B2-e4	土師器 複合口縁壺	口径 (22.1) 器高 (18.3)	外 にぶい黄褐(10YR5/3) 内 にぶい黄褐(10YR5/3)	良	讃岐系 角閃石含む 口縁部内面黒色顔料
70	304大溝	B2-e4	土師器 庄内式甕	口径 (15.3) 器高 (4.6)	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
71	304大溝	B2-e4	土師器 庄内式甕	口径 (16.5) 器高 (5.3)	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 にぶい黄褐(10YR5/3)	良	
72	304大溝	B2-f4	土師器 庄内系高杯	口径 22.9 器高 15.9	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	4方透孔 脚部に布目痕
73	304大溝	B2-e4	土師器 有段高杯	口径 − 器高 (5.2)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	精良	
74	304大溝	B2-e4	土師器 小形器台	口径 9.4 器高 (3.1)	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 明赤褐(7.5YR5/6)	精良	
75	304大溝	B2-e4	土師器 小形鉢	口径 9.2 器高 6.6	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
76	304大溝	B2-f4	土師器 小形丸底土器	口径 (9.5) 器高 (5.3)	外 明赤褐(5YR5/6) 内 黄褐(10YR5/8)	精良	内面赤色顔料 外面煤化
77	405大溝	B2-e7	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 17.0 器高 (3.6)	外 浅黄橙(7.5YR8/3) 内 橙(2.5YR6/6)	良	
78	405大溝	B2-e7	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 (14.8) 器高 (6.8)	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 浅黄(2.5Y7/3)	精良	
79	405大溝	B2-e7	土師器 細頸直口壺	口径 7.1 器高 14.6	外 淡黄(2.5Y8/4) 内 灰白(10YR8/1)	粗	
80	405大溝	B2-e7	土師器 細頸直口壺	口径 10.4 器高 19.3	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 橙(5YR6/6)	良	

土器観察表（3）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調	胎土	備考
81	405大溝	B2-e7	土師器 短頸壺口縁	口径 12.6 器高 28.9	外 にぶい黄橙(10YR5/3) 内 灰黄褐(10YR4/2)		粗	
82	405大溝	B2-d6	土師器 加飾性非下口縁壺	口径 (23.0) 器高 (5.3)	外 オリーブ褐(2.5Y4/4) 内 黄褐(2.5Y5/3)		粗	
83	405大溝	B2-e6	土師器 加飾性広口壺	口径 16.3 器高 (7.8)	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 浅黄(2.5Y7/3)		精良	
84	405大溝	B2-e7	土師器 加飾性非下口縁壺	口径 21.0 器高 (7.2)	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)		良	
85	405大溝	B2-f7	土師器 加飾性非下口縁壺	口径 23.1 器高 (7.3)	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 にぶい橙(7.5YR6/4)		精良	
86	405大溝	B2-e8	土師器 加飾性非下口縁壺	口径 (23.0) 器高 (7.0)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)		精良	頸部内面に黒色顔料
87	405大溝	B2-e7	土師器 加飾壺	口径 18.4 器高 (10.4)	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)		良	
88	405大溝	B2-f7	土師器 複合口縁壺	口径 (21.1) 器高 (12.1)	外 にぶい黄橙(10YR5/3) 内 黒(N2/0)		粗	讃岐系 口縁部内外面黒色顔料
89	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 12.4 器高 13.8	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y7/1)		粗	
90	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 12.4 器高 14.3	外 にぶい橙(5YR7/4) 内 灰白(2.5Y8/2)		粗	
91	405大溝	B2-d6	土師器 弥生形甕	口径 12.3 器高 13.7	外 にぶい褐(7.5YR6/3) 内 浅黄(2.5Y8/3)		粗	
92	405大溝	B2-d6	土師器 弥生形甕	口径 13.6 器高 14.8	外 にぶい黄橙(10YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/4)		良	
93	405大溝	B2-d6	土師器 弥生形甕	口径 14.6 器高 14.5	外 極暗赤褐(2.5YR2/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/4)		粗	
94	405大溝	B2-d6	土師器 弥生形甕	口径 (13.4) 器高 14.5	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰白(10YR7/1)		粗	
95	405大溝	B2-d6	土師器 弥生形甕	口径 13.7 器高 14.4	外 淡赤橙(2.5YR7/4) 内 明黄褐(10YR6/8)		良	
96	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 13.0 器高 15.6	外 灰白(10YR8/1) 内 灰白(2.5Y8/2)		良	
97	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 15.1 器高 15.6	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 黄橙(10YR8/6)		良	
98	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 15.4 器高 19.3	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 浅黄橙(7.5YR8/4)		良	
99	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 14.4 器高 15.7	外 浅黄橙(7.5YR8/4) 内 黄灰(2.5Y4/1)		良	
100	405大溝	B2-d6	土師器 弥生形甕	口径 16.8 器高 22.0	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)		粗	

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調	胎土	備考
101	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 16.1 器高 24.4	外 灰白(2.5Y8/1) 内 灰白(10YR8/2)		粗	
102	405大溝	B2-e7	土師器 弥生形甕	口径 15.0 器高 21.5	外 灰白(2.5Y8/1) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)		粗	
103	405大溝	B2-e8	土師器 異形甕	口径 (13.6) 器高 (13.0)	外 褐灰(10YR6/1) 内 橙(7.5YR6/6)		粗	
104	405大溝	B2-e7	土師器 庄内式甕	口径 14.8 器高 14.4	外 灰褐(5YR4/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)		良	生駒西麓産
105	405大溝	B2-e7	土師器 庄内式甕	口径 15.0 器高 18.0	外 明黄褐(10YR6/6) 内 にぶい黄橙(10YR6/4)		良	生駒西麓産
106	405大溝	B2-e7	土師器 異形甕	口径 (16.2) 器高 (10.0)	外 にぶい橙(2.5YR6/4) 内 にぶい赤褐(2.5YR5/3)		良	
107	405大溝	B2-d6	土師器 有稜高杯	口径 (21.4) 器高 14.1	外 灰白(2.5Y8/2) 内 淡黄(2.5Y8/3)		粗	4 方透孔
108	405大溝	B2-e7	土師器 高杯	口径 13.5 器高 10.2	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)		良	4 方透孔 東海系
109	405大溝	B2-e7	土師器 椀形高杯	口径 9.1 器高 8.4	外 にぶい橙(5YR7/4) 内 にぶい橙(5YR7/4)		良	4 方透孔
110	405大溝	B2-e7	土師器 有段高杯	口径 (22.6) 器高 14.5	外 にぶい褐(7.5YR6/3) 内 にぶい橙(7.5YR6/4)		良	4 方透孔
111	405大溝	B2-d6	土師器 小形鉢	口径 9.8 器高 7.0	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 浅黄(2.5Y7/3)		粗	
112	405大溝	B2-d6	土師器 小形鉢	口径 8.9 器高 7.3	外 にぶい橙(5YR6/3) 内 灰黄(2.5Y7/2)		良	
113	405大溝	B2-d6	土師器 小形鉢	口径 8.6 器高 7.6	外 橙(5YR6/6) 内 にぶい橙(5YR6/3)		良	
114	405大溝	B2-e7	土師器 小形鉢	口径 9.0 器高 8.9	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)		精良	
115	405大溝	B2-e7	土師器 小形鉢	口径 8.0 器高 8.6	外 灰白(2.5Y8/2) 内 浅黄(2.5Y7/4)		良	
116	405大溝	B2-d6	土師器 小形鉢	口径 (9.5) 器高 8.7	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)		粗	
117	405大溝	B2-e7	土師器 小形鉢	口径 9.6 器高 8.6	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)		良	
118	405大溝	B2-e7	土師器 小形鉢	口径 10.4 器高 6.7	外 灰白(7.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)		良	
119	405大溝	B2-e7	土師器 小形鉢	口径 11.0 器高 4.2	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)		精良	精製品
120	405大溝	B2-e7	土師器 小形鉢	口径 (14.6) 器高 6.0	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 浅黄橙(7.5YR8/3)		粗	

土器観察表（4）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調	胎土	備考
121	405大溝	B2-d6	土師器	口径	13.7	外 褐灰(10YR5/1)	粗	
			小形鉢	器高	6.7	内 浅黄(2.5Y7/3)		
122	405大溝	B2-e7	土師器	口径	18.4	外 にぶい橙(5YR7/4)	良	
			中形鉢	器高	8.5	内 灰褐(7.5YR6/2)		
123	405大溝	B2-d6	土師器	口径	13.7	外 灰白(2.5Y7/1)	良	
			有孔鉢	器高	6.5	内 灰黄(2.5Y6/2)		
124	405大溝	B2-d6	土師器	口径	21.8	外 にぶい黄(2.5Y6/4)	良	
			有孔鉢	器高	9.6	内 にぶい黄(2.5Y6/4)		
125	405大溝	B2-d7	土師器	口径	18.2	外 灰黄褐(10YR6/2)	良	
			笹目鉢	器高	6.5	内 にぶい褐(7.5YR6/3)		
126	405大溝	B2-e7	土師器	口径	13.7	外 にぶい黄橙(10YR6/3)	精良	
			笹目鉢	器高	5.6	内 にぶい黄橙(10YR6/3)		
127	405大溝	B2-e7	土師器	口径	(36.5)	外 浅黄(2.5Y7/4)	粗	山陰系
			大形複合口縁鉢	器高	(14.4)	内 浅黄(2.5Y7/4)		
128	405大溝	B2-d7	土師器	口径	−	外 灰黄(2.5Y7/2)	精良	
			小形器台	器高	(7.8)	内 浅黄(2.5Y7/3)		
129	405大溝	B2-d7	土師器	口径	−	外 にぶい黄橙(10YR7/4)	精良	
			小形器台	器高	7.4	内 にぶい黄橙(10YR7/3)		
130	405大溝	B2-e7	土師器	口径	9.5	外 にぶい黄橙(10YR7/3)	精良	3方透孔
			小形器台	器高	(4.4)	内 にぶい黄橙(10YR7/4)		
131	405大溝	B2-e7	土師器	口径	10.2	外 浅黄(2.5Y7/3)	良	
			小形器台	器高	(5.1)	内 灰白(2.5Y8/2)		
132	405大溝	B2-e7	土師器	口径	9.0	外 にぶい黄褐(10YR5/3)	精良	
			小形器台	器高	(6.7)	内 灰黄褐(10YR6/2)		
133	405大溝	B2-e8	土師器	口径	(8.4)	外 にぶい橙(7.5YR7/4)	精良	
			小形器台	器高	10.2	内 にぶい橙(7.5YR7/4)		
134	405大溝	B2-d7	土師器	口径	(18.5)	外 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
			有段器台	器高	(11.4)	内 にぶい黄橙(10YR7/2)		
135	405大溝	B2-e7	土師器	口径	(22.3)	外 にぶい橙(7.5YR7/4)	良	
			加飾性有段器台	器高	(5.8)	内 にぶい黄橙(10YR7/3)		
136	405大溝	B2-e7	土師器	口径	−	外 灰黄(2.5Y7/2)	粗	脚台Ⅱ式
			製塩土器	器高	(3.3)	内 灰黄(2.5Y6/2)		
137	582 竪穴住居	B2-c10	土師器	口径	16.1	外 橙(5YR6/8)	良	
			加飾性垂下口縁壺	器高	(4.7)	内 にぶい橙(7.5YR6/4)		
138	582 竪穴住居	B2-d10	土師器	口径	(33.0)	外 灰黄(2.5Y7/2)	粗	
			大形鉢	器高	(10.6)	内 にぶい黄橙(10YR7/2)		
139	535 竪穴住居	B3-c5	土師器	口径	(13.9)	外 灰黄褐(10YR5/2)	粗	548土坑
			弥生形甕	器高	(4.1)	内 褐灰(10YR5/1)		
140	535 竪穴住居	B3-c5	土師器	口径	−	外 橙(7.5YR6/6)	粗	548土坑
			有稜高杯	器高	(5.7)	内 にぶい黄橙(10YR7/3)		

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調	胎土	備考
141	428 竪穴住居	B2-e9	土師器	口径	14.5	外 灰白(2.5Y7/1)	粗	414土坑
			小形鉢	器高	7.1	内 灰黄(2.5Y7/2)		
142	536 竪穴住居	B3-c5	土師器	口径	11.9	外 灰黄(2.5Y7/2)	良	540土坑
			小形鉢	器高	7.1	内 にぶい黄橙(10YR7/2)		
143	555溝	B2-d10	土師器	口径	22.7	外 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
			有稜高杯	器高	(12.9)	内 にぶい黄橙(10YR7/3)		
144	555溝	B2-d10	土師器	口径	26.3	外 浅黄(2.5Y7/3)	良	4方透孔
			有稜高杯	器高	(13.1)	内 にぶい黄橙(10YR7/2)		
145	555溝	B2-c10	土師器	口径	−	外 灰黄褐(10YR6/2)	粗	在来系
			椀形高杯	器高	(8.1)	内 灰黄(2.5Y7/2)		
146	555溝	B2-d10	土師器	口径	(10.5)	外 灰黄(2.5Y6/2)	粗	
			小形鉢	器高	(6.6)	内 灰黄(2.5Y7/2)		
147	555溝	B2-c10	土師器	口径	(13.9)	外 灰黄褐(10YR6/2)	粗	
			弥生形甕	器高	(13.6)	内 にぶい黄橙(10YR7/2)		
148	555溝	B2-d10	土師器	口径	(13.8)	外 灰白(2.5Y7/1)	良	
			弥生形甕	器高	(13.6)	内 灰白(2.5Y8/1)		
149	555溝	B2-c10	土師器	口径	(16.5)	外 褐灰(10YR4/1)	粗	
			弥生形甕	器高	(13.3)	内 褐灰(10YR5/1)		
150	555溝	B2-c10	土師器	口径	16.3	外 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
			弥生形甕	器高	(15.5)	内 灰黄褐(10YR6/2)		
151	555溝	B2-d10	土師器	口径	14.4	外 灰黄(2.5Y7/2)	良	
			弥生形甕	器高	17.7	内 浅黄(2.5Y7/3)		
152	555溝	B2-d10	土師器	口径	13.2	外 灰黄(2.5Y6/2)	良	
			弥生形甕	器高	18.7	内 灰黄(2.5Y6/2)		
153	555溝	B2-d10	土師器	口径	14.2	外 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
			弥生形甕	器高	19.2	内 灰黄褐(10YR6/2)		
154	555溝	B2-d10	土師器	口径	15.5	外 黄灰(2.5Y5/1)	粗	
			弥生形甕	器高	(21.8)	内 黄灰(2.5Y5/1)		
155	555溝	B2-d10	土師器	口径	14.4	外 灰黄(2.5Y6/2)	良	
			弥生形甕	器高	20.3	内 暗灰黄(2.5Y5/2)		
156	555溝	B2-d10	土師器	口径	14.5	外 灰黄(2.5Y7/2)	良	
			弥生形甕	器高	24.6	内 明褐灰(5YR7/2)		
157	555溝	B2-d10	土師器	口径	16.0	外 灰白(2.5Y7/1)	粗	
			弥生形甕	器高	25.2	内 灰白(5Y7/2)		
158	412土坑	B2-d8	土師器	口径	12.4	外 橙(5YR6/6)	粗	
			広口直口壺	器高	(5.9)	内 橙(5YR7/6)		
159	412土坑	B2-d8	土師器	口径	(15.0)	外 浅黄(2.5Y7/3)	良	
			広口直口壺	器高	(6.7)	内 にぶい黄橙(10YR7/4)		
160	412土坑	B2-d9	土師器	口径	(19.6)	外 にぶい黄橙(10YR7/4)	良	
			加飾性複合口縁壺	器高	(3.9)	内 にぶい橙(7.5YR6/4)		

土器観察表（5）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量			色調		胎土	備考
161	412土坑	B2-d8	土師器 複合口縁壺	口径 器高	(18.4) (6.2)	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) 橙(7.5YR6/6)	良	
162	412土坑	B2-d8	土師器 有稜高杯	口径 器高	(16.3) (4.2)	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) 灰黄褐(10YR5/2)	良	
163	412土坑	B2-d8	土師器 有稜高杯	口径 器高	13.0 11.2	外 内	橙(5YR7/6) 橙(7.5YR7/6)	粗	推定5～6方透孔
164	412土坑	B2-d8	土師器 椀形高杯	口径 器高	(11.5) (6.7)	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰白(2.5Y7/1)	精良	
165	412土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	(11.9) (9.0)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) にぶい黄橙(10YR7/2)	粗	
166	412土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	(13.8) (10.2)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/4) 橙(7.5YR7/6)	良	
167	412土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	(14.9) (10.8)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/3) にぶい褐(7.5YR6/3)	良	
168	412土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	15.0 (6.4)	外 内	にぶい橙(5YR6/4) にぶい橙(2.5YR6/4)	良	
169	412土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	14.0 (13.8)	外 内	灰黄(2.5Y6/2) 浅黄橙(10YR8/3)	良	
170	412土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	(15.5) 19.7	外 内	浅黄橙(10YR8/3) にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
171	413土坑	B2-d8	土師器 広口直口壺	口径 器高	(11.0) (5.1)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 灰黄褐(10YR6/2)	良	
172	413土坑	B2-d8	土師器 広口壺	口径 器高	13.3 (6.4)	外 内	浅黄橙(7.5YR8/6) 橙(5YR6/8)	粗	口縁部穿孔（1箇所）
173	413土坑	B2-d8	土師器 有稜高杯	口径 器高	(20.0) (4.4)	外 内	灰白(2.5Y8/2) にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
174	413土坑	B2-d8	土師器 有稜高杯	口径 器高	(20.8) (5.9)	外 内	褐灰(10YR4/1) 黒褐(10YR3/1)	良	
175	413土坑	B2-d8	土師器 有稜高杯	口径 器高	(15.0) (9.6)	外 内	灰黄褐(10YR6/2) 灰黄褐(10YR6/2)	良	5方透孔
176	413土坑	B2-d8	土師器 小形鉢	口径 器高	－ (5.0)	外 内	浅黄橙(10YR8/3) 灰白(10YR8/2)	良	
177	413土坑	B2-d8	土師器 小形鉢	口径 器高	14.8 7.9	外 内	橙(7.5YR7/6) 橙(7.5YR7/6)	良	
178	413土坑	B2-d8	土師器 有孔鉢	口径 器高	(12.2) 10.7	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) 黒褐(2.5Y3/1)	良	
179	413土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	14.8 (6.1)	外 内	灰白(10YR8/2) にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
180	413土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	14.8 15.3	外 内	黄灰(2.5Y6/1) 黄灰(2.5Y6/1)	良	

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量			色調	胎土	備考
181	413土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	(12.0) (19.0)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
182	413土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	14.6 (17.3)	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰黄(2.5Y7/2)	良	
183	413土坑	B2-d8	土師器 台付弥生形甕	口径 器高	－ (6.1)	外 内	暗灰黄(2.5Y5/2) 灰黄(2.5Y6/2)	粗	
184	407土坑	B2-e8	土師器 有稜高杯	口径 器高	17.9 (8.9)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/3) にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
185	415土坑	B2-e8	土師器 庄内式甕	口径 器高	(14.1) 13.6	外 内	灰黄褐(10YR5/2) 灰黄褐(10YR5/2)	粗	
186	415土坑	B2-e8	土師器 弥生形甕	口径 器高	13.1 16.4	外 内	にぶい黄橙(10YR7/4) にぶい黄橙(10YR7/2)	粗	
187	448土坑	B2-d8	土師器 小形鉢	口径 器高	9.6 8.9	外 内	浅黄橙(10YR8/3) 浅黄橙(10YR8/3)	粗	
188	448土坑	B2-d8	土師器 弥生形甕	口径 器高	(12.3) 15.3	外 内	にぶい黄(2.5Y6/3) にぶい黄(2.5Y6/3)	粗	
189	437土坑	B2-e7	土師器 庄内式甕	口径 器高	14.0 18.0	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) 灰黄褐(10YR4/2)	良	
190	408土坑	B2-e8	土師器 複合口縁壺	口径 器高	15.4 (22.9)	外 内	浅黄橙(10YR8/3) にぶい黄橙(10YR7/2)	良	北陸系
191	315井戸	B2-g2	土師器 直口壺	口径 器高	13.8 (8.4)	外 内	灰白(10YR8/2) 灰白(2.5Y8/2)	良	生駒西麓産
192	315井戸	B2-g2	土師器 壺	口径 器高	(14.0) 24.5	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 灰黄褐(10YR6/2)	良	打欠きで擬口縁を作る
193	315井戸	B2-g2	土師器 有孔鉢	口径 器高	－ (6.8)	外 内	暗灰黄(2.5Y5/2) 黄灰(2.5Y6/1)	良	
194	315井戸	B2-g2	土師器 庄内系高杯	口径 器高	－ (7.3)	外 内	にぶい黄(2.5Y6/3) 灰黄(2.5Y6/2)	精良	
195	315井戸	B2-g2	土師器 庄内式甕	口径 器高	(15.0) (2.5)	外 内	灰黄褐(10YR4/2) 黄褐(2.5Y5/3)	良	生駒西麓産
196	315井戸	B2-g2	土師器 弥生形甕	口径 器高	(13.8) (9.5)	外 内	暗灰黄(2.5Y5/2) 黄灰(2.5Y5/1)	良	
197	326溝	B2-g2	土師器 複合口縁壺	口径 器高	19.3 (9.5)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
198	耕作溝	B2-g1	土師器 小形壺	口径 器高	－ (7.7)	外 内	にぶい橙(7.5YR6/4) にぶい黄橙(10YR6/4)	良	
199	326溝	B2-h2	土師器 加飾壺	口径 器高	－ (17.8)	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰黄(2.5Y7/2)	良	
200	326溝	B2-g2	土師器 庄内系高杯	口径 器高	－ (7.3)	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) にぶい黄橙(10YR6/3)	良	

土器観察表（6）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
201	326溝	B2-g2	土師器 庄内式甕	口径 (14.9) 器高 15.4	外 内	暗灰黄(2.5Y5/2) 暗灰黄(2.5Y5/2)		良	生駒西麓産
202	326溝	B2-g2	土師器 庄内式甕	口径 (15.2) 器高 (11.5)	外 内	暗灰黄(2.5Y4/2) 暗灰黄(2.5Y4/2)		良	生駒西麓産
203	耕作溝	B2-g1	土師器 庄内式甕	口径 (16.0) 器高 24.1	外 内	灰黄褐(10YR5/2) 灰黄褐(10YR6/2)		良	生駒西麓産
204	440井戸	B2-d7	土師器 加飾壺	口径 9.6 器高 (6.8)	外 内	灰白(2.5Y8/2) 淡黄(2.5Y8/3)		良	
205	440井戸	B2-d7	土師器 小形壺	口径 8.8 器高 9.5	外 内	浅黄(2.5Y7/3) 灰白(2.5Y7/1)		良	
206	440井戸	B2-d7	土師器 広口d口c壺	口径 (13.8) 器高 (6.0)	外 内	灰黄褐(10YR5/2) にぶい黄橙(10YR6/3)		良	
207	440井戸	B2-d7	土師器 加飾性重ＦＩ縁壺	口径 22.3 器高 (6.3)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) 灰黄褐(10YR5/2)		精良	
208	440井戸	B2-d7	土師器 異形甕	口径 13.5 器高 21.3	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 浅黄橙(10YR8/3)		良	
209	440井戸	B2-d7	土師器 庄内式甕	口径 (15.1) 器高 (3.9)	外 内	黄灰(2.5Y4/1) 暗灰黄(2.5Y5/2)		良	生駒西麓産
210	440井戸	B2-d7	土師器 庄内式甕	口径 (16.4) 器高 (4.6)	外 内	暗灰黄(2.5Y5/2) 暗灰黄(2.5Y5/2)		良	生駒西麓産
211	440井戸	B2-d7	土師器 庄内式甕	口径 (15.2) 器高 (4.7)	外 内	灰黄褐(10YR5/2) にぶい黄橙(10YR5/3)		良	生駒西麓産
212	440井戸	B2-d7	土師器 庄内式甕	口径 (14.0) 器高 19.2	外 内	灰黄褐(10YR6/2) 灰黄褐(10YR4/2)		良	生駒西麓産
213	440井戸	B2-d7	土師器 庄内式甕	口径 16.2 器高 (15.9)	外 内	暗灰黄(2.5Y5/2) 灰白(2.5Y6/2)		良	生駒西麓産
214	440井戸	B2-d7	土師器 庄内式甕	口径 (16.0) 器高 (15.7)	外 内	にぶい黄橙(10YR5/3) にぶい黄橙(10YR5/3)		良	生駒西麓産
215	440井戸	B2-d7	土師器 有稜高杯	口径 15.3 器高 11.3	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 灰黄(2.5Y7/2)		良	3 方透孔
216	440井戸	B2-d7	土師器 椀形高杯	口径 10.9 器高 10.2	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 浅黄橙(10YR8/3)		良	2 次焼成 4 方透孔
217	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺A	口径 8.5 器高 13.8	外 内	浅黄橙(10YR8/3) 褐灰(7.5YR5/1)		良	
218	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺A	口径 (14.2) 器高 (5.5)	外 内	灰黄褐(10YR5/2) 灰黄褐(10YR5/2)		良	
219	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺A	口径 11.2 器高 (5.8)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) にぶい黄橙(10YR6/3)		良	
220	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺A	口径 14.4 器高 26.5	外 内	灰黄褐(10YR6/2) 灰黄褐(10YR6/2)		良	
221	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺B	口径 12.3 器高 (12.5)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 灰白(2.5Y8/2)		良	
222	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺B	口径 (14.0) 器高 24.1	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) にぶい黄橙(10YR7/4)		粗	
223	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺B	口径 (13.1) 器高 (5.6)	外 内	浅黄橙(10YR8/3) 浅黄橙(7.5YR8/4)		良	
224	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺B	口径 (10.5) 器高 (7.1)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) にぶい黄橙(10YR7/2)		良	
225	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺B	口径 12.5 器高 (22.7)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 灰黄褐(10YR6/2)		粗	
226	531井戸	B3-c2	土師器 小形壺	口径 12.0 器高 13.8	外 内	灰白(2.5Y8/2) 灰白(2.5Y8/2)		良	
227	531井戸	B3-c2	土師器 小形壺	口径 10.3 器高 13.6	外 内	灰白(2.5Y7/1) 浅黄(2.5Y7/3)		粗	
228	531井戸	B3-c2	土師器 小形壺	口径 5.4 器高 14.3	外 内	にぶい黄(2.5Y6/3) にぶい黄(2.5Y6/3)		粗	
229	531井戸	B3-c2	土師器 小形壺	口径 8.3 器高 15.4	外 内	明褐灰(7.5YR7/2) にぶい黄橙(10YR7/2)		良	口縁打欠き
230	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺A	口径 (13.6) 器高 (7.0)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/4) 灰黄(2.5Y7/2)		良	
231	531井戸	B3-c2	土師器 広口d口c壺	口径 (13.0) 器高 (6.5)	外 内	にぶい赤褐(5YR5/4) 灰褐(5YR6/2)		精良	
232	531井戸	B3-c2	土師器 直口壺	口径 13.0 器高 (9.8)	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰黄(2.5Y7/2)		粗	
233	531井戸	B3-c2	土師器 直口壺	口径 11.7 器高 (24.3)	外 内	灰白(10YR8/2) 灰(5Y5/1)		良	
234	531井戸	B3-c2	土師器 複合口縁壺	口径 18.9 器高 (10.4)	外 内	にぶい黄(2.5Y6/3) 浅黄(2.5Y7/3)		良	
235	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺A	口径 (18.0) 器高 26.7	外 内	灰白(2.5Y8/2) 灰白(2.5Y8/1)		良	
236	531井戸	B3-c2	土師器 広口壺B	口径 12.1 器高 33.3	外 内	灰白(10YR8/2) 灰白(10YR8/2)		粗	
237	531井戸	B3-c2	土師器 広口d口c壺	口径 16.4 器高 26.8	外 内	浅黄橙(10YR8/4) 浅黄橙(10YR8/3)		良	
238	531井戸	B3-c2	土師器 壺	口径 － 器高 (26.3)	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰黄褐(10YR6/2)		粗	縦掛け痕
239	531井戸	B3-c2	土師器 壺	口径 － 器高 (18.9)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/4) にぶい黄橙(10YR7/4)		良	
240	531井戸	B3-c2	土師器 壺	口径 15.3 器高 21.3	外 内	灰白(2.5Y7/1) 灰白(2.5Y8/1)		粗	

土器観察表（7）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調	胎土	備考
241	531井戸	B3-c2	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 (28.8) 器高 (5.4)	外 にぶい橙(5YR7/4) 内 にぶい橙(5YR7/3)	良	
242	531井戸	B3-c2	土師器 加飾性垂下口縁壺	口径 (17.4) 器高 (2.2)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい赤褐(5YR5/4)	良	
243	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 12.5 器高 12.2	外 灰白(2.5Y7/1) 内 灰白(2.5Y8/1)	良	
244	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 14.1 器高 12.8	外 灰白(10YR8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	良	
245	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 11.5 器高 13.4	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	良	
246	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 (12.9) 器高 14.5	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 灰白(10YR8/2)	良	
247	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 13.2 器高 (14.2)	外 灰オリーブ(5Y6/2) 内 褐灰(N3/0)	粗	
248	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 14.0 器高 14.4	外 灰白(2.5Y7/1) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	
249	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 11.8 器高 22.5	外 灰白(10YR8/2) 内 浅黄橙(10YR8/3)	良	
250	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 (12.7) 器高 18.1	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 黄灰(2.5Y6/1)	良	
251	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 14.4 器高 (16.0)	外 にぶい橙(5YR7/4) 内 にぶい橙(5YR7/4)	良	
252	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 13.5 器高 21.1	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰(7.5Y6/1)	良	
253	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 15.5 器高 20.4	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	
254	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 16.0 器高 20.1	外 灰白(5Y7/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)	良	
255	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 14.6 器高 22.5	外 灰白(10YR8/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
256	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 15.4 器高 22.3	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	
257	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 15.2 器高 30.2	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰白(5Y7/1)	良	
258	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 17.2 器高 22.1	外 黒(5Y2/1) 内 浅黄(2.5Y7/3)	良	
259	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 16.6 器高 22.0	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 浅黄橙(10YR8/3)	良	
260	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 16.3 器高 19.1	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調	胎土	備考
261	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 15.6 器高 19.7	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 にぶい黄橙(10YR7/4)	良	
262	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 17.2 器高 26.1	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
263	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 17.0 器高 24.2	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰白(10YR7/1)	良	
264	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 15.1 器高 25.8	外 にぶい褐(7.5YR5/4) 内 にぶい黄褐(10YR5/3)	良	
265	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 18.0 器高 26.8	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 灰黄褐(10YR5/2)	良	
266	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 9.9 器高 11.4	外 にぶい黄(2.5Y6/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
267	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 13.9 器高 12.6	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	粗	受口状口縁
268	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 15.1 器高 21.4	外 黒(5Y2/1) 内 褐灰(10YR4/1)	良	縦方向タタキ
269	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 (12.9) 器高 (20.9)	外 黒(5Y2/1) 内 灰黄(2.5Y6/2)	粗	
270	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形壺	口径 (15.8) 器高 (18.2)	外 浅黄橙(7.5YR8/6) 内 灰白(10YR8/2)	粗	受口状口縁
271	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形台付甕	口径 – 器高 (10.8)	外 浅黄橙(7.5YR8/4) 内 浅黄橙(10YR8/3)	良	
272	531井戸	B3-c2	土師器 弥生形台付甕	口径 12.2 器高 22.1	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 浅黄橙(10YR8/3)	良	
273	531井戸	B3-c2	土師器 複合口縁壺	口径 14.5 器高 27.8	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 にぶい黄褐(10YR5/4)	良	北陸系 口縁打欠き
274	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 13.8 器高 12.0	外 灰白(2.5Y7/1) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	生駒西麓産
275	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.7 器高 15.4	外 灰白(10YR8/2) 内 浅黄(2.5Y8/3)	粗	非生駒西麓産
276	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 13.0 器高 (15.5)	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
277	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.2 器高 17.2	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 灰白(2.5Y7/1)	良	生駒西麓産 焼成後穿孔
278	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 13.5 器高 (13.4)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	生駒西麓産
279	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (15.4) 器高 (11.7)	外 灰(5Y6/1) 内 灰(N4/0)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
280	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.9 器高 (17.0)	外 黄灰(2.5Y4/1) 内 黒褐(10YR3/1)	良	生駒西麓産 焼成堅緻

土器観察表（8）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
281	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.9 器高 (18.1)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 灰黄褐(10YR5/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
282	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (15.1) 器高 (16.1)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい褐(7.5YR5/4)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
283	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 16.7 器高 (4.4)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	生駒西麓産
284	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.6 器高 (15.7)	外 灰(5Y6/1) 内 オリーブ黒(10Y3/1)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
285	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 − 器高 (18.0)	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 灰オリーブ(5Y5/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
286	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (14.9) 器高 (7.4)	外 黒灰(5YR6/1) 内 灰赤(2.5YR6/2)	粗	生駒西麓産
287	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (14.7) 器高 (9.6)	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 にぶい橙(7.5YR6/4)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
288	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.5 器高 (16.0)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	良	生駒西麓産
289	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (15.6) 器高 20.3	外 赤灰(2.5YR6/1) 内 黒灰(5YR6/1)	良	生駒西麓産
290	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.3 器高 23.7	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	生駒西麓産
291	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 17.0 器高 (18.9)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
292	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.1 器高 (13.3)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
293	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.5 器高 (17.9)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	良	非生駒西麓 産
294	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.9 器高 (18.1)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	生駒西麓産
295	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (18.0) 器高 (7.0)	外 にぶい黄橙(10YR5/3) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産
296	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.2 器高 19.5	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
297	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (16.4) 器高 (15.6)	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 灰(5Y5/1)	精良	生駒西麓産
298	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 16.7 器高 (17.0)	外 黒(2.5Y2/1) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
299	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (16.1) 器高 21.2	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	生駒西麓産
300	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 13.6 器高 (6.8)	外 灰オリーブ(5Y6/2) 内 灰オリーブ(5Y5/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
301	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (16.3) 器高 (6.6)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
302	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 (16.1) 器高 (17.6)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 黄灰(2.5Y5/1)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
303	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.9 器高 (19.7)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 黄灰(2.5Y5/1)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
304	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.6 器高 20.6	外 明赤灰(2.5YR7/1) 内 明褐灰(5YR7/1)	粗	生駒西麓産 焼成堅緻
305	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.4 器高 22.1	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰(10Y5/1)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
306	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.8 器高 23.3	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 黄灰(2.5Y6/1)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
307	531井戸	B3-c2	土師器 庄内式甕	口径 19.0 器高 (14.3)	外 灰(7.5Y6/1) 内 灰(7.5Y6/1)	良	生駒西麓産 焼成堅緻
308	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 14.9 器高 (14.2)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい橙(7.5YR7/3)	良	非生駒西麓産 焼成堅緻
309	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 14.6 器高 20.3	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	生駒西麓産 焼成後穿孔
310	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 13.2 器高 14.2	外 黒(N2/0) 内 暗灰(N3/0)	粗	
311	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 11.0 器高 13.2	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	
312	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 12.6 器高 (12.4)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
313	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 (12.2) 器高 17.8	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	
314	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 16.3 器高 15.8	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)	良	焼成堅緻
315	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 14.2 器高 (17.5)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	非生駒西麓産
316	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 10.4 器高 17.5	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 灰(5Y5/1)	良	
317	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 12.2 器高 13.9	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 黄灰(2.5Y5/1)	良	
318	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 14.5 器高 18.3	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	庄内式模倣
319	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 14.9 器高 (17.3)	外 にぶい橙(5YR6/4) 内 灰黄(2.5Y6/2)	粗	庄内式模倣
320	531井戸	B3-c2	土師器 異形甕	口径 (16.8) 器高 24.9	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)	粗	庄内式模倣 生駒西麓産

土器観察表（9）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
321	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 16.8 器高 20.0	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)	良	庄内式模倣
322	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 16.2 器高 21.9	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	庄内式模倣
323	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 15.8 器高 21.9	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	庄内式模倣
324	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 (13.9) 器高 (19.5)	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/4)	良	
325	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 16.0 器高 (19.0)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/4)	良	
326	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 13.0 器高 22.9	外 黒(N2/0) 内 暗灰(N3/0)	良	
327	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 15.7 器高 20.6	外 黒(7.5YR2/1) 内 灰黄(2.5Y7/2)	粗	
328	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 － 器高 (24.7)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい橙(7.5YR7/3)	粗	
329	531井戸	B3-c2	土師器 異形壺	口径 16.1 器高 27.8	外 にぶい黄橙(10YR7/4) 内 灰白(2.5Y7/1)	粗	
330	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 20.6 器高 (13.6)	外 明赤灰(2.5YR7/2) 内 浅黄橙(10YR8/3)	良	4 方透孔
331	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 18.8 器高 (10.9)	外 明褐灰(5YR7/2) 内 灰白(2.5Y8/1)	粗	4 方透孔
332	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 (21.6) 器高 (6.0)	外 淡黄(2.5Y8/3) 内 灰白(2.5Y8/2)	精良	
333	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 19.8 器高 (11.6)	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	良	4 方透孔
334	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 (21.1) 器高 (12.8)	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	良	
335	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 － 器高 (10.8)	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	4 方透孔
336	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 21.3 器高 (13.6)	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	粗	4 方透孔
337	531井戸	B3-c2	土師器 有稜高杯	口径 (27.2) 器高 (6.5)	外 明赤褐(2.5YR5/6) 内 橙(2.5YR6/6)	良	
338	531井戸	B3-c2	土師器 庄内系高杯	口径 23.2 器高 (8.9)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	精良	
339	531井戸	B3-c2	土師器 庄内系高杯	口径 18.2 器高 13.2	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 灰白(2.5Y8/1)	良	4 方透孔
340	531井戸	B3-c2	土師器 庄内系高杯	口径 (22.5) 器高 16.3	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 黄灰(2.5Y6/1)	精良	4 方透孔

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
341	531井戸	B3-c2	土師器 有段高杯	口径 20.2 器高 (7.2)	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	粗	
342	531井戸	B3-c2	土師器 椀形高杯	口径 10.9 器高 (6.3)	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 にぶい橙(7.5YR6/4)	精良	
343	531井戸	B3-c2	土師器 椀形高杯	口径 10.1 器高 (8.7)	外 灰白(2.5Y7/1) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	4 方透孔
344	531井戸	B3-c2	土師器 椀形高杯	口径 10.9 器高 10.0	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	精良	3 方透孔、杯部内面赤色顔料、外面煤化
345	531井戸	B3-c2	土師器 高杯	口径 20.9 器高 14.9	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	粗	4 方透孔 東海系
346	531井戸	B3-c2	土師器 高杯	口径 (17.5) 器高 12.2	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 橙(5YR6/6)	精良	吉備系
347	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 11.5 器高 7.1	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	
348	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 13.5 器高 7.1	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 灰白(2.5Y8/1)	粗	
349	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 (16.0) 器高 (6.2)	外 灰黄(2.5Y7/3) 内 灰黄(2.5Y7/2)	粗	
350	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 12.1 器高 6.7	外 灰白(10YR8/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/4)	粗	
351	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 14.5 器高 8.2	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	粗	
352	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 9.9 器高 9.8	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰白(2.5Y7/1)	良	
353	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 18.9 器高 10.0	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)	粗	
354	531井戸	B3-c2	土師器 小形鉢	口径 (21.2) 器高 10.9	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	粗	
355	531井戸	B3-c2	土師器 中形鉢	口径 25.8 器高 18.7	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰オリーブ(5Y6/2)	良	片口
356	531井戸	B3-c2	土師器 中形鉢	口径 30.0 器高 20.9	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 浅黄(2.5Y7/3)	良	
357	531井戸	B3-c2	土師器 大形鉢	口径 (37.2) 器高 (14.1)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
358	531井戸	B3-c2	土師器 大形鉢	口径 (46.8) 器高 (17.0)	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 灰(N4/0)	良	片口
359	531井戸	B3-c2	土師器 中形鉢	口径 13.6 器高 7.7	外 淡赤橙(2.5YR7/3) 内 浅黄(2.5Y7/3)	粗	
360	531井戸	B3-c2	土師器 中形鉢	口径 15.6 器高 9.6	外 灰白(2.5Y7/1) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	

土器観察表（10）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
361	531井戸	B3-c2	土師器	口径	−	外	黄褐(10YR5/6)	粗	4方透孔
			小形器台	器高	(7.8)	内	にぶい黄橙(10YR6/4)		
362	531井戸	B3-c2	土師器	口径	8.2	外	にぶい褐(7.5YR5/4)	精良	3方透孔
			小形器台	器高	9.0	内	橙(5YR6/6)		
363	531井戸	B3-c2	土師器	口径	−	外	灰黄(2.5Y7/2)	粗	
			製塩土器	器高	(6.0)	内	灰黄(2.5Y7/2)		
364	531井戸	B3-c2	土師器	口径	−	外	にぶい黄(2.5Y6/3)	精良	
			ミニチュア壺	器高	(7.1)	内	灰黄(2.5Y6/2)		
365	531井戸	B3-c2	土師器	口径	−	外	灰黄褐(10YR6/2)	精良	外来系
			手焙	器高	(7.1)	内	褐灰(10YR6/1)		
366	583井戸	B2-c10	土師器	口径	−	外	淡黄(7.5Y8/3)	粗	
			壺	器高	(19.6)	内	淡黄(7.5Y8/3)		
367	583井戸	B2-c10	土師器	口径	7.6	外	にぶい赤褐(5YR4/4)	精良	ミニチュア
			複合口縁壺	器高	9.5	内	にぶい赤褐(5YR4/4)		畿内由型
368	580河川	B3-c5	土師器	口径	(12.6)	外	灰黄(2.5Y6/2)	良	
			広口直口壺	器高	(5.5)	内	灰黄(2.5Y6/2)		
369	580河川	B3-c5	土師器	口径	(15.5)	外	灰黄(2.5Y6/2)	良	
			複合口縁壺	器高	(3.9)	内	灰黄(2.5Y6/2)		
370	580河川	B3-c5	土師器	口径	(13.9)	外	にぶい黄橙(10YR5/3)	良	
			庄内式甕	器高	(3.5)	内	暗灰黄(2.5Y4/2)		
371	580河川	B3-c5	弥生土器	口径	(17.6)	外	にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	弥生前期
			壺	器高	(7.8)	内	にぶい黄橙(10YR6/3)		
372	601井戸	B5-e2	土師器	口径	12.0	外	にぶい黄橙(10YR7/4)	精良	底部外面墨書
			杯	器高	3.5	内	にぶい黄橙(10YR7/3)		
373	601井戸	B5-e2	須恵器	口径	12.6	外	暗灰(N3/0)	精良	
			杯身	器高	(2.6)	内	灰(N5/0)		
374	601井戸	B5-e2	土師器	口径	13.4	外	淡黄橙(7.5YR8/4)	粗	
			甕	器高	(4.5)	内	淡黄橙(10YR8/3)		
375	601井戸	B5-e2	須恵器	口径	−	外	にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
			高杯	器高	(11.7)	内	灰黄褐(10YR5/2)		
376	601井戸	B5-e2	須恵器	口径	14.7	外	にぶい黄橙(10YR7/2)	精良	
			壺	器高	(2.1)	内	灰褐(7.5YR6/2)		
377	601井戸	B5-e2	須恵器	口径	24.2	外	黄灰(2.5Y6/1)	精良	
			甕	器高	(6.6)	内	黄灰(2.5Y6/1)		
378	601井戸	B5-e2	土師器	口径	17.9	外	黒褐(7.5YR3/1)	精良	
			甕	器高	14.7	内	黒褐(7.5YR3/1)		
379	602土坑	B5-e2	瓦器	口径	14.6	外	暗灰(N3/0)	精良	和泉型
			椀	器高	(3.4)	内	灰(N5/0)		
380	602土坑	B5-e2	土師器	口径	10.2	外	にぶい橙(5YR6/4)	精良	
			皿	器高	(3.0)	内	にぶい橙(5YR6/4)		

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
381	第1層	B5-e4	土師器	口径	9.8	外	にぶい黄橙(10YR6/4)	粗	
			皿	器高	1.6	内	にぶい黄橙(10YR6/3)		
382	第1層	B5-e4	灰釉陶器	口径	13.2	外	灰オリーブ(10Y4/2)	精良	
			椀	器高	(4.1)	内	灰白(5Y8/1)		
383	第1層	B5-e1	瓦器	口径	−	外	灰(N5/0)	精良	
			椀	器高	(1.0)	内	暗灰(N3/0)		
384	第1層	B5-e1	瓦器	口径	15.2	外	オリーブ黒(7.5Y3/1)	精良	和泉型
			椀	器高	3.2	内	灰(N5/0)		
385	第1層	B5-e3	土師器	口径	16.4	外	淡黄橙(10YR8/3)	粗	
			甕	器高	(7.3)	内	灰黄(2.5Y6/2)		
386	第1層	B5-e3	土師器	口径	15.4	外	にぶい黄橙(10YR7/4)	良	
			甕	器高	(19.1)	内	灰黄(2.5Y6/2)		
387	604土坑	B5-d2	土師器	口径	15.2	外	にぶい橙(5YR6/4)	良	
			甕	器高	(13.7)	内	にぶい橙(7.5YR7/4)		
388	604土坑	B5-d2	土師器	口径	10.9	外	にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
			小型丸底壺	器高	7.3	内	浅黄橙(10YR8/3)		
389	604土坑	B5-d2	土師器	口径	10.0	外	にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
			小型器台	器高	8.0	内	灰白(10YR7/1)		
390	第1層 除去面	B5-e1	土師器	口径	16.4	外	にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
			甕	器高	(4.0)	内	にぶい黄橙(10YR6/3)		
391	第1層 除去面	B5-d2	土師器	口径	14.4	外	黒(2.5GY2/1)	粗	
			甕	器高	(3.4)	内	にぶい黄橙(10YR7/2)		
392	第1層 除去面	B5-e2	土師器	口径	17.4	外	にぶい黄橙(10YR7/3)	精良	
			鉢	器高	5.9	内	にぶい黄橙(10YR6/3)		
393	第1層 除去面	B5-e2	土師器	口径	−	外	にぶい橙(7.5YR7/4)	良	
			鉢	器高	(8.8)	内	にぶい橙(7.5YR7/4)		
394									鉄鏃
395	605溝	B5-e3	土師器	口径	11.5	外	浅黄橙(10YR8/3)	良	
			鉢	器高	7.7	内	浅黄(2.5Y7/3)		
396	605溝	B5-e3	土師器	口径	(18.8)	外	にぶい黄橙(10YR7/4)	良	
			高杯	器高	(3.4)	内	にぶい黄橙(10YR7/3)		
397	605溝	B5-e3	土師器	口径	(15.4)	外	灰黄(2.5Y6/2)	良	
			甕	器高	(5.2)	内	灰黄(2.5Y6/2)		
398	605溝	B5-e3	土師器	口径	14.4	外	灰黄褐(10YR6/2)	精良	
			甕	器高	(4.2)	内	灰黄(2.5Y6/2)		
399	605溝	B5-e3	土師器	口径	13.4	外	にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
			甕	器高	(8.5)	内	にぶい黄橙(10YR7/2)		
400	605溝	B5-e3	土師器	口径	19.0	外	にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
			高杯	器高	13.2	内	浅黄橙(10YR8/3)		

土器観察表（11）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
401	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 (14.0) 器高 (4.2)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	
402	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 12.6 器高 (7.5)	外 明褐灰(7.5YR7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	
403	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 12.3 器高 10.0	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	
404	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 11.5 器高 12.0	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	良	
405	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 12.5 器高 13.9	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
406	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 12.6 器高 13.9	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
407	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 12.4 器高 13.3	外 黄灰(2.5Y5/1) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	粗	
408	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 13.5 器高 13.9	外 オリーブ黄色(5Y6/4) 内 にぶい褐(7.5YR5/3)	良	
409	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 13.9 器高 (16.5)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
410	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 － 器高 (10.9)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
411	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 － 器高 (6.5)	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
412	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 13.6 器高 20.1	外 灰白(10YR7/1) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
413	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 14.8 器高 21.5	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 浅黄橙(10YR8/4)	良	
414	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 15.4 器高 24.4	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/4)	良	
415	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 14.4 器高 22.7	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
416	605溝	B5-e3	土師器 壺	口径 14.5 器高 (16.8)	外 黄灰(2.5Y5/1) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
417	605溝	B5-e3	土師器 壺	口径 － 器高 (16.5)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 灰白(10YR8/2)	精良	
418	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 14.2 器高 20.3	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 灰白(10YR8/2)	良	
419	605溝	B5-e3	土師器 甕	口径 15.2 器高 19.6	外 灰赤(2.5YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/4)	良	
420	606溝	B5-e3	土師器 鉢	口径 12.4 器高 7.6	外 黄褐(2.5Y5/3) 内 にぶい黄(2.5Y6/4)	粗	
421	606溝	B5-e3	土師器 台付鉢	口径 － 器高 (9.6)	外 にぶい黄橙(10YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	精良	
422	606溝	B5-e3	土師器 甕	口径 15.0 器高 (15.3)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
423	607土坑	B4-e10	土師器 小型台	口径 － 器高 (5.9)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 浅黄橙(10YR8/4)	精良	
424	607土坑	B4-e10	土師器 甕	口径 (16.4) 器高 (6.2)	外 にぶい黄橙(10YR6/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	良	
425	608溝	B5-e3	土師器 高杯	口径 14.4 器高 (7.5)	外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)	良	
426	608溝	B5-e3	土師器 甕	口径 (9.8) 器高 (14.9)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
427	608溝	B5-e3	土師器 壺	口径 (19.2) 器高 (5.8)	外 浅黄橙(7.5YR8/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	粗	
428	609溝	B5-e3	土師器 台付鉢	口径 － 器高 (12.0)	外 浅黄(2.5Y7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
429	610溝	B5-e2	土師器 台付鉢	口径 11.4 器高 (6.0)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
430	611溝	B5-d3	土師器 壺	口径 15.0 器高 (9.3)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 浅黄橙(10YR8/3)	粗	
431	612溝	B5-e3	土師器 壺	口径 (12.0) 器高 (7.1)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	生駒西麓産
432	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 鉢	口径 12.6 器高 (4.8)	外 にぶい橙(5YR6/4) 内 橙(5YR6/6)	精良	
433	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 甕	口径 13.0 器高 (1.9)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
434	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 甕	口径 (12.5) 器高 (1.6)	外 橙(2.5YR6/6) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
435	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 甕	口径 17.2 器高 (2.4)	外 暗灰黄(2.5Y4/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
436	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 甕	口径 17.0 器高 (2.4)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	
437	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 甕	口径 18.8 器高 (2.3)	外 黒褐(2.5Y3/1) 内 灰黄(2.5Y6/2)	精良	
438	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 甕	口径 19.0 器高 (2.4)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	
439	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 鉢	口径 12.0 器高 (3.6)	外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)	精良	
440	613 竪穴住居	B5-e1	土師器 甕	口径 12.2 器高 (2.7)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 褐灰(10YR6/1)	良	

土器観察表（12）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
441	613 竪穴住居	B5e1	土師器 甕	口径 (14.7) 器高 (2.8)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 黄灰(2.5Y6/1)	良		
442	613 竪穴住居	B5e1	土師器 甕	口径 17.2 器高 (1.7)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 褐灰(10YR6/1)	良		
443	613 竪穴住居	B5e1	土師器 甕	口径 (10.4) 器高 (3.4)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/4) にぶい褐(7.5YR6/3)	粗		
444	613 竪穴住居	B5e1	土師器 高杯	口径 13.8 器高 (7.0)	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰黄(2.5Y6/2)	精良		
445	613 竪穴住居	B5e1	土師器 高杯	口径 － 器高 (3.0)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/3) にぶい黄橙(10YR6/3)	精良		
446	613 竪穴住居	B5e1	土師器 高杯	口径 － 器高 (2.8)	外 内	淡赤橙(2.5YR7/4) にぶい橙(7.5YR7/4)	精良		
447	613 竪穴住居	B5e1	土師器 鉢	口径 11.0 器高 (3.0)	外 内	橙(7.5YR6/6) にぶい橙(7.5YR6/4)	精良		
448	613 竪穴住居	B5e1	土師器 鉢	口径 10.4 器高 (7.1)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) 灰黄褐(10YR6/2)	精良		
449	613 竪穴住居	B5e1	土師器 甕	口径 (20.4) 器高 (3.4)	外 内	暗灰黄(2.5Y5/2) 灰黄褐(10YR6/2)	粗		
450	613 竪穴住居	B5e1	土師器 甕	口径 15.0 器高 (2.7)	外 内	黒(2.5Y2/1) にぶい黄橙(10YR6/3)	精良		
451	613 竪穴住居	B5e1	土師器 甕	口径 25.2 器高 (2.5)	外 内	にぶい褐(7.5YR6/3) にぶい褐(7.5YR6/3)	精良		
452	614土坑	B5e1	土師器 甕	口径 35.0 器高 (15.5)	外 内	黄灰(2.5Y5/1) 褐灰(10YR5/1)	精良	生駒西麓産	
453	615 竪穴住居	B5e2	土師器 高杯	口径 － 器高 (3.3)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) にぶい黄橙(10YR7/2)	精良		
454	616土坑	B5e3	土師器 小形器台	口径 － 器高 (7.7)	外 内	橙(5YR6/6) にぶい橙(5YR6/4)	精良	3方透孔	
455	616土坑	B5e3	土師器 高杯	口径 21.2 器高 (5.9)	外 内	にぶい黄橙(10YR6/4) 橙(7.5YR6/6)	精良		
456	616土坑	B5e3	土師器 甕	口径 16.6 器高 (17.0)	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) 黄灰(2.5Y6/1)	良		
457	616土坑	B5e3	土師器 甕	口径 18.3 器高 25.8	外 内	にぶい黄橙(10YR6/4) 灰黄褐(10YR4/2)	精良		
458	616土坑	B5e3	土師器 壺	口径 (18.4) 器高 32.4	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 灰黄褐(10YR6/2)	粗	生駒西麓産	
459	616土坑	B5e3	土師器 甕	口径 － 器高 (23.2)	外 内	にぶい黄褐(10YR5/3) にぶい橙(7.5YR7/4)	良		
460	617溝	B4e10	土師器 高杯	口径 － 器高 (2.4)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) にぶい黄橙(10YR7/3)	精良		
461	617溝	B4e10	土師器 高杯	口径 22.0 器高 (7.5)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) にぶい黄橙(10YR6/3)	精良		
462	617溝	B4e10	土師器 甕	口径 14.0 器高 (5.0)	外 内	灰黄褐(10YR6/2) にぶい黄橙(10YR7/4)	良		
463	617溝	B4e10	土師器 壺	口径 (20.0) 器高 (5.4)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/4) にぶい黄橙(10YR7/3)	良		
464	617溝	B4e10	土師器 甕	口径 － 器高 (16.0)	外 内	明赤褐(2.5YR7/2) 灰赤(2.5YR6/2)	良		
465	617溝	B4e10	土師器 甕	口径 14.0 器高 24.4	外 内	浅黄橙(10YR8/3) にぶい黄橙(10YR7/3)	良		
466	619 竪穴住居	B5e3	土師器 甕	口径 13.5 器高 (2.8)	外 内	浅黄橙(10YR8/3) にぶい黄橙(10YR7/3)	良		
467	619 竪穴住居	B5e3	土師器 壺	口径 － 器高 (11.6)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) 浅黄橙(10YR8/3)	粗		
468	620溝	B5e2	土師器 壺	口径 12.0 器高 (15.5)	外 内	灰白(10YR8/2) 灰白(10YR7/1)	良		
469	703土坑	B4e3	土師器 小皿	口径 (8.4) 器高 (1.7)	外 内	灰白(10YR8/2) 浅黄橙(10YR8/3)	粗		
470	703土坑	B4e3	土師器 小皿	口径 9.1 器高 1.3	外 内	灰白(10YR8/1) 灰白(10YR8/2)	良		
471	703土坑	B4e3	土師器 小皿	口径 9.2 器高 (1.4)	外 内	浅黄橙(7.5YR8/4) 浅黄橙(7.5YR8/6)	良		
472	703土坑	B4e3	土師器 小皿	口径 9.2 器高 (1.3)	外 内	灰白(10YR8/2) 浅黄橙(10YR8/3)	良		
473	703土坑	B4e3	土師器 小皿	口径 (9.5) 器高 (1.8)	外 内	灰白(2.5Y8/1) 灰白(2.5Y8/2)	良		
474	703土坑	B4e3	土師器 小皿	口径 9.3 器高 2.1	外 内	浅黄橙(10YR8/3) 浅黄橙(10YR8/3)	良		
475	703土坑	B4e3	土師器 小皿	口径 (10.0) 器高 (2.0)	外 内	浅黄橙(7.5YR8/3) 灰白(7.5YR8/2)	良		
476	703土坑	B4e3	土師器 台付皿	口径 － 器高 (2.8)	外 内	浅黄橙(10YR8/3) 灰白(10YR8/2)	粗		
477	703土坑	B4e3	土師器 台付皿	口径 － 器高 (3.9)	外 内	灰白(2.5Y8/2) 灰白(2.5Y8/2)	粗		
478	703土坑	B4e3	瓦器 椀	口径 (16.0) 器高 5.8	外 内	暗灰(N3/0) 暗灰(N3/0)	良	和泉型	
479	703土坑	B4e3	瓦器 椀	口径 15.8 器高 6.0	外 内	暗灰(N3/0) 黒(N2/0)	良	和泉型Ⅰ-2	
480	703土坑	B4e3	瓦質 皿	口径 15.2 器高 (3.2)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) 灰白(2.5Y7/1)	粗		

土器観察表（13）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
481	703土坑	B4-c3	瓦質 甕	口径 (20.4) 器高 (6.0)	外 灰黄褐(10YR4/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	粗	
482	703土坑	B4-c3	土師質 鍋	口径 (30.4) 器高 (6.0)	外 灰褐(7.5YR4/2) 内 にぶい褐(7.5YR5/3)	粗	
483	707土坑	B4-c2	土師器 小皿	口径 (9.6) 器高 (1.3)	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 黄灰(2.5Y6/1)	精良	
484	707土坑	B4-c2	土師器 小皿	口径 9.3 器高 1.6	外 灰白(10YR8/2) 内 褐灰(10YR6/1)	精良	
485	707土坑	B4-c2	土師器 小皿	口径 9.6 器高 1.9	外 灰白(2.5Y8/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
486	707土坑	B4-c2	土師器 小皿	口径 (9.6) 器高 (1.8)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい橙(7.5YR7/3)	良	
487	707土坑	B4-c2	土師器 小皿	口径 (10.6) 器高 (1.7)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
488	707土坑	B4-c2	瓦質 皿	口径 (15.3) 器高 2.1	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 黄灰(2.5Y4/1)	良	
489	707土坑	B4-c2	土師器 台付皿	口径 − 器高 (2.8)	外 にぶい橙(7.5YR7/3) 内 にぶい橙(7.5YR7/3)	良	
490	732ピット	B4-d5	土師器 椀	口径 12.4 器高 4.5	外 橙(5YR6/6) 内 にぶい橙(5YR6/4)	粗	
491	706土坑	B4-c2	瓦器 椀	口径 (16.8) 器高 (4.5)	外 灰白(10YR8/1) 内 灰白(10YR8/2)	精良	和泉型
492	702土坑	B4-c3	瓦器 椀	口径 (13.8) 器高 (5.0)	外 暗灰(N3/0) 内 灰(N4/0)	精良	和泉型Ⅰ-2
493	704土坑	B4-c3	黒色土器 椀	口径 − 器高 (3.0)	外 暗灰(N3/0) 内 暗灰(N3/0)	精良	
494	705井戸	B4-c2	土師器 小皿	口径 (8.8) 器高 (1.3)	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 浅黄橙(10YR8/3)	精良	
495	705井戸	B4-c2	土師器 皿	口径 (15.3) 器高 (3.4)	外 灰白(10YR8/1) 内 灰白(10YR8/1)	良	
496	705井戸	B4-c2	土師器 皿	口径 (15.6) 器高 (3.3)	外 橙(5YR7/6) 内 淡赤橙(2.5YR7/4)	良	
497	705井戸	B4-c2	土師器 台付皿	口径 − 器高 (3.3)	外 灰白(7.5YR8/2) 内 褐灰(7.5YR5/1)	粗	
498	705井戸	B4-c2	瓦器 椀	口径 (15.0) 器高 (4.8)	外 灰(N4/0) 内 灰(N4/0)	精良	和泉型Ⅰ-3
499	705井戸	B4-c2	瓦器 椀	口径 (14.3) 器高 6.3	外 暗灰(N3/0) 内 暗灰(N3/0)	精良	和泉型Ⅰ-2
500	705井戸	B4-c2	瓦器 椀	口径 15.0 器高 6.0	外 黒(N2/0) 内 暗灰(N3/0)	精良	和泉型Ⅰ-2
501	705井戸	B4-c2	瓦 平瓦	口径 (11.4) 器高 2.3	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 灰黄褐(10YR5/2)	粗	
502	708井戸	B4-c2	土師器 小皿	口径 (8.2) 器高 (1.5)	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 浅黄橙(10YR8/4)	精良	
503	708井戸	B4-c2	土師器 皿	口径 13.7 器高 2.6	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	精良	
504	712溝	B4-e4	土師器 杯	口径 (10.4) 器高 (3.0)	外 橙(5YR7/6) 内 橙(5YR7/6)	精良	
505	712溝	B4-d4	須恵器 杯身	口径 (11.2) 器高 3.4	外 灰白(10Y7/1) 内 灰白(10Y7/1)	精良	
506	712溝	B4-d4	須恵器 杯身	口径 (11.4) 器高 (3.1)	外 青灰(5B6/1) 内 灰(N6/0)	精良	
507	712溝	B4-e4	須恵器 杯蓋	口径 14.7 器高 4.8	外 灰(5Y6/1) 内 灰オリーブ(5Y6/2)	良	
508	718溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 (14.3) 器高 (3.0)	外 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	精良	
509	721 竪穴住居	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 (15.0) 器高 (3.8)	外 灰(5Y5/1) 内 灰(N6/0)	良	
510	721 竪穴住居	B4-d5	須恵器 杯身	口径 (12.0) 器高 (3.2)	外 青灰(5B6/1) 内 青灰(5B6/1)	精良	
511	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 15.0 器高 4.6	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰白(5Y7/2)	良	
512	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 14.7 器高 4.3	外 灰(7.5Y5/1) 内 灰(N6/0)	良	
513	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 14.6 器高 4.0	外 灰(10Y6/1) 内 灰(N6/0)	精良	
514	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 13.6 器高 4.4	外 灰(N5/0) 内 灰(N6/0)	精良	
515	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 14.5 器高 4.3	外 オリーブ灰(2.5GY6/1) 内 オリーブ灰(5GY5/1)	精良	
516	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 14.4 器高 4.1	外 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	精良	
517	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 14.7 器高 4.2	外 灰(N5/0) 内 灰(N6/0)	良	
518	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 14.0 器高 4.7	外 灰(N6/0) 内 灰(N5/0)	良	
519	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 (14.3) 器高 (4.7)	外 灰白(7.5Y7/1) 内 灰(5Y6/1)	良	
520	719溝	B4-d5	須恵器 杯蓋	口径 13.9 器高 (3.7)	外 灰(N4/0) 内 灰(N6/0)	精良	

土器観察表（14）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
521	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.5)	外	灰(N6/0)	精良	
			杯蓋	器高	4.7	内	灰(N6/0)		
522	719溝	B4-d5	須恵器	口径	13.5	外	オリーブ灰(2.5GY6/1)	精良	
			杯蓋	器高	4.2	内	灰(N6/0)		
523	719溝	B4-d5	須恵器	口径	14.3	外	灰(N6/0)	良	
			杯蓋	器高	3.9	内	灰(N5/0)		
524	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.7)	外	灰(7.5Y5/1)	精良	
			杯蓋	器高	4.5	内	灰黄褐(10YR5/2)		
525	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.7)	外	灰(5Y6/1)	良	
			杯蓋	器高	(4.1)	内	灰(N6/0)		
526	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.1)	外	灰(N6/0)	精良	
			杯蓋	器高	4.9	内	灰(N6/0)		
527	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(15.3)	外	灰(5Y6/1)	良	
			杯蓋	器高	(4.3)	内	灰(7.5Y6/1)		
528	719溝	B4-d5	須恵器	口径	13.5	外	灰(N5/0)	良	
			杯蓋	器高	3.9	内	灰(N6/0)		
529	719溝	B4-d5	須恵器	口径	13.8	外	緑灰(5G5/1)	精良	
			杯蓋	器高	4.8	内	灰(N5/0)		
530	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.0)	外	灰(7.5Y6/1)	良	
			杯蓋	器高	4.9	内	灰白(7.5Y7/1)		
531	719溝	B4-d5	須恵器	口径	14.8	外	灰(10Y6/1)	精良	
			杯蓋	器高	4.6	内	灰(N5/0)		
532	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.7)	外	灰(10Y6/1)	精良	
			杯蓋	器高	4.1	内	灰(5Y6/1)		
533	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(13.5)	外	灰白(5Y7/1)	精良	
			杯蓋	器高	4.8	内	灰(7.5Y6/1)		
534	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.7)	外	灰(7.5Y6/1)	良	
			杯蓋	器高	4.5	内	灰(5Y6/1)		
535	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(14.2)	外	灰(N5/0)	精良	ヘラ記号
			杯蓋	器高	5.0	内	灰(N6/0)		
536	719溝	B4-d5	須恵器	口径	14.1	外	灰(10Y6/1)	精良	ヘラ記号
			杯蓋	器高	4.2	内	灰(N6/0)		
537	719溝	B4-d5	須恵器	口径	15.9	外	黄灰(2.5Y5/1)	良	
			有蓋高杯蓋	器高	(5.5)	内	灰(N5/0)		
538	719溝	B4-d5	須恵器	口径	14.5	外	灰(10Y6/1)	良	
			有蓋高杯蓋	器高	5.5	内	オリーブ灰(2.5GY6/1)		
539	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(12.4)	外	灰(N6/0)	良	方形5方透孔
			有蓋高杯	器高	10.0	内	灰白(5Y7/1)		
540	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.3	外	灰(N4/0)	良	円形3方透孔
			有蓋高杯	器高	9.1	内	灰(N6/0)		
541	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.9	外	灰(7.5Y6/1)	精良	
			杯身	器高	5.2	内	灰(7.5Y5/1)		
542	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(13.4)	外	灰白(5Y7/1)	精良	
			杯身	器高	4.9	内	灰黄(2.5Y7/2)		
543	719溝	B4-d5	須恵器	口径	13.1	外	灰(7.5Y6/1)	精良	
			杯身	器高	5.1	内	灰(10Y6/1)		
544	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(12.7)	外	黄灰(2.5Y6/1)	精良	
			杯身	器高	5.1	内	黄灰(2.5Y6/1)		
545	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.6	外	灰(7.5Y6/1)	精良	
			杯身	器高	5.0	内	灰(10Y5/1)		
546	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.6	外	灰(10Y6/1)	良	
			杯身	器高	4.6	内	灰(7.5Y6/1)		
547	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(12.6)	外	灰(5Y6/1)	良	
			杯身	器高	4.8	内	灰白(5Y7/1)		
548	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(13.7)	外	灰白(5Y7/1)	精良	
			杯身	器高	(4.7)	内	灰白(5Y7/1)		
549	719溝	B4-d5	須恵器	口径	(12.3)	外	灰(N5/0)	精良	
			杯身	器高	5.2	内	灰(N6/0)		
550	719溝	B4-d5	須恵器	口径	13.0	外	灰(10Y6/1)	精良	
			杯身	器高	4.5	内	灰(10Y6/1)		
551	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.8	外	灰(7.5Y5/1)	精良	
			杯身	器高	4.6	内	灰(N6/0)		
552	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.5	外	灰(10Y5/1)	精良	
			杯身	器高	4.7	内	灰(N5/0)		
553	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.1	外	灰(5Y6/1)	良	
			杯身	器高	4.5	内	灰(N6/0)		
554	719溝	B4-d5	須恵器	口径	13.0	外	灰(7.5Y6/1)	良	
			杯身	器高	4.5	内	灰(10Y6/1)		
555	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.8	外	灰(10Y6/1)	良	
			杯身	器高	4.4	内	灰(N6/0)		
556	719溝	B4-d5	須恵器	口径	11.7	外	灰(N6/0)	精良	
			杯身	器高	4.8	内	灰(N5/0)		
557	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.2	外	灰(10Y5/1)	精良	
			杯身	器高	4.5	内	灰(N4/0)		
558	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.8	外	灰(5Y5/1)	良	
			杯身	器高	4.5	内	灰(7.5Y6/1)		
559	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.7	外	灰(N5/0)	精良	
			杯身	器高	4.2	内	灰(N5/0)		
560	719溝	B4-d5	須恵器	口径	12.3	外	青灰(5B5/1)	良	
			杯身	器高	4.6	内	灰(N6/0)		

土器観察表（15）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
561	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 11.6 器高 4.9	外 灰(N6/0) 内 灰(N5/0)	精良	
562	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 (12.3) 器高 4.4	外 灰(N5/0) 内 灰(N6/0)	精良	
563	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 (12.9) 器高 4.2	外 灰オリーブ(7.5Y6/2) 内 灰(10Y6/1)	良	
564	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 11.8 器高 4.4	外 灰(10Y6/1) 内 灰(10Y6/1)	精良	
565	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 12.2 器高 4.6	外 灰(N6/0) 内 灰(10Y6/1)	良	
566	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 12.6 器高 4.2	外 灰(N5/0) 内 灰(N6/0)	精良	
567	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 12.6 器高 (4.5)	外 灰(10Y6/1) 内 灰(N6/0)	精良	
568	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 12.6 器高 4.5	外 灰(7.5Y6/1) 内 灰(5Y6/1)	良	ヘラ記号
569	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 14.0 器高 4.6	外 灰(N5/0) 内 灰(N6/0)	精良	ヘラ記号
570	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 12.5 器高 4.9	外 灰(N6/0) 内 灰(N5/0)	精良	ヘラ記号
571	719溝	B4-d5	須恵器 壺	口径 11.0 器高 (5.9)	外 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	精良	
572	719溝	B4-d5	須恵器 短頸壺	口径 (9.0) 器高 11.8	外 にぶい橙(5YR6/3) 内 褐灰(5YR5/1)	精良	
573	719溝	B4-d5	須恵器 台付鉢	口径 10.1 器高 7.2	外 灰(N5/0) 内 灰(N6/0)	良	円形3方透孔
574	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 10.3 器高 3.5	外 灰(7.5Y6/1) 内 灰(N6/0)	精良	TK217古相 混入
575	719溝	B4-d5	須恵器 杯身	口径 10.4 器高 3.6	外 灰(7.5Y6/1) 内 灰(N6/0)	良	TK217古相 混入
576	719溝	B4-d5	土師器 甕	口径 (12.5) 器高 (10.2)	外 橙(5YR7/6) 内 にぶい黄橙(10YR6/4)	粗	
577	719溝	B4-d5	土師器 甕	口径 (12.4) 器高 (5.3)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	粗	
578	724堤	B4-c2	土師器 直口壺	口径 13.7 器高 (16.7)	外 橙(2.5YR6/6) 内 橙(5YR7/6)	精良	
579	724堤	B4-c3	土師器 直口壺	口径 (14.0) 器高 (15.1)	外 橙(5YR7/6) 内 淡橙(5YR8/4)	良	
580	724堤	B4-c3	土師器 直口壺	口径 15.9 器高 23.8	外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)	粗	
581	724堤	B4-c2	土師器 直口壺	口径 19.9 器高 34.8	外 灰白(2.5Y8/2) 内 明青灰(5B7/1)	良	
582	724堤	B4-c3	土師器 直口壺	口径 13.6 器高 (7.7)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 橙(5YR7/6)	良	
583	724堤	B4-c3	土師器 直口壺	口径 15.3 器高 (32.2)	外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)	粗	
584	724堤	B4-c2	土師器 複合口縁壺	口径 – 器高 (6.8)	外 灰白(10YR8/2) 内 浅黄橙(10YR8/3)	粗	
585	724堤	B4-c2	土師器 庄内式甕	口径 (14.2) 器高 16.6	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR5/3)	粗	生駒西麓産
586	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 13.6 器高 15.3	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	生駒西麓産
587	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 (12.9) 器高 14.6	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰白(10YR7/1)	良	生駒西麓産
588	724堤	B4-c2	土師器 庄内式甕	口径 12.6 器高 14.8	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)	良	生駒西麓産
589	724堤	B4-c2	土師器 庄内式甕	口径 12.9 器高 16.4	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 黄褐(2.5Y5/3)	粗	生駒西麓産
590	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 13.8 器高 15.9	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	生駒西麓産
591	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 13.6 器高 17.5	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産
592	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 13.1 器高 17.9	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	生駒西麓産
593	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 14.8 器高 18.5	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)	良	生駒西麓産
594	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 (14.0) 器高 (17.4)	外 にぶい黄橙(10YR5/3) 内 黄褐(2.5Y5/3)	良	生駒西麓産
595	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 13.7 器高 (9.6)	外 灰黄褐(10YR5/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	粗	生駒西麓産
596	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 (14.4) 器高 (18.7)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 灰黄(2.5Y6/2)	良	生駒西麓産
597	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 (15.6) 器高 (17.3)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)	良	生駒西麓産
598	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 15.3 器高 20.0	外 にぶい黄褐(10YR5/3) 内 灰赤(2.5YR5/2)	良	生駒西麓産
599	724堤	B4-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.9 器高 20.8	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 暗灰黄(2.5Y4/2)	良	生駒西麓産
600	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 15.2 器高 21.6	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 暗灰黄(2.5Y4/2)	良	生駒西麓産

土器観察表（16）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
601	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 18.4 器高 29.7	外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰白(10YR8/2)		粗	生駒西麓産
602	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 (13.4) 器高 (4.2)	外 内	にぶい黄(2.5Y6/4) にぶい黄(2.5Y6/4)		良	生駒西麓産
603	724堤	B4-c2	土師器 庄内式甕	口径 14.8 器高 (6.2)	外 内	黄褐(2.5Y5/4) 黄褐(2.5Y5/3)		良	生駒西麓産
604	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 14.6 器高 (14.2)	外 内	黄灰(2.5Y6/1) 黄灰(2.5Y5/1)		良	生駒西麓産
605	724堤	B4-c3	土師器 庄内式甕	口径 14.3 器高 (17.2)	外 内	灰黄(2.5Y6/2) 暗灰黄(2.5Y5/2)		良	生駒西麓産
606	724堤	B4-c2	土師器 庄内式甕	口径 15.4 器高 (18.2)	外 内	にぶい黄褐(10YR5/3) にぶい黄橙(10YR6/3)		粗	河内型・非生駒西麓産
607	724堤	B4-c2	土師器 庄内式甕	口径 (18.2) 器高 (11.3)	外 内	にぶい黄褐(10YR5/3) 橙(5YR6/6)		良	河内型・非生駒西麓産
608	724堤	B4-c3	土師器 庄内小甕	口径 12.5 器高 15.4	外 内	にぶい黄橙(10YR7/4) 浅黄(5Y8/3)		良	非生駒西麓産
609	724堤	B4-c3	土師器 庄内小甕	口径 13.2 器高 18.5	外 内	灰白(10YR8/2) 浅黄橙(10YR8/3)		粗	非生駒西麓産
610	724堤	B4-c3	土師器 庄内小甕	口径 13.8 器高 (17.0)	外 内	灰白(10YR8/2) にぶい橙(7.5YR7/3)		良	非生駒西麓産
611	724堤	B4-c3	土師器 庄内系甕	口径 (15.0) 器高 (19.6)	外 内	浅黄橙(10YR8/3) 浅黄橙(10YR8/3)		良	非生駒西麓産
612	724堤	B4-c3	土師器 庄内系甕	口径 14.0 器高 19.6	外 内	灰白(5Y8/1) 灰白(5Y8/1)		良	非生駒西麓産
613	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 (12.2) 器高 (7.7)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/4) 橙(2.5YR6/6)		良	
614	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 (14.2) 器高 (6.0)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/4) にぶい橙(7.5YR7/4)		良	
615	724堤	B4-c2	土師器 布留式甕	口径 (13.2) 器高 (7.4)	外 内	浅黄橙(10YR8/4) 浅黄橙(10YR8/3)		良	
616	724堤	B4-c2	土師器 布留式甕	口径 14.9 器高 (3.7)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/4) 浅黄橙(10YR8/3)		良	
617	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 (13.1) 器高 (8.7)	外 内	橙(7.5YR7/6) にぶい橙(5YR7/4)		良	
618	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 13.2 器高 (15.2)	外 内	橙(5YR7/6) 灰黄(2.5Y7/2)		粗	
619	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 14.6 器高 (14.7)	外 内	にぶい橙(7.5YR7/4) にぶい橙(7.5YR7/3)		粗	
620	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 14.0 器高 (17.6)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/3) にぶい黄橙(10YR7/3)		粗	

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
621	724堤	B4-c2	土師器 布留式甕	口径 13.4 器高 19.0	外 内	灰白(2.5Y8/2) 灰白(2.5Y8/2)		粗	
622	724堤	B4-c2	土師器 布留式甕	口径 15.2 器高 21.7	外 内	にぶい黄橙(10YR6/3) 灰白(10YR8/2)		良	体部焼成後穿孔
623	724堤	B4-c2	土師器 布留式甕	口径 14.1 器高 16.1	外 内	浅黄橙(7.5YR8/4) にぶい黄橙(10YR7/2)		良	
624	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 12.3 器高 (14.6)	外 内	浅黄橙(7.5YR8/4) にぶい橙(7.5YR7/4)		良	
625	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 13.4 器高 18.6	外 内	灰白(2.5Y8/1) 灰白(10Y8/2)		良	
626	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 14.4 器高 19.0	外 内	橙(5YR7/6) にぶい橙(7.5YR7/4)		良	
627	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 16.0 器高 (13.9)	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) にぶい黄橙(10YR7/3)		粗	
628	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 16.1 器高 26.0	外 内	浅黄橙(7.5YR8/3) 灰白(10YR8/2)		粗	
629	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 15.6 器高 26.5	外 内	灰白(7.5YR8/2) 灰白(2.5Y8/2)		良	
630	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 13.6 器高 16.5	外 内	にぶい黄橙(10YR7/2) にぶい褐(7.5YR5/4)		粗	
631	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 13.4 器高 18.5	外 内	にぶい橙(7.5YR6/4) にぶい橙(7.5YR6/4)		良	
632	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 (12.6) 器高 (13.8)	外 内	浅黄橙(7.5YR8/4) 浅黄橙(7.5YR8/4)		良	
633	724堤	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 (10.4) 器高 11.2	外 内	橙(2.5YR6/6) 明赤褐(2.5YR5/6)		良	
634	724堤	B4-c2	土師器 布留式甕	口径 11.5 器高 12.6	外 内	橙(2.5YR7/8) 橙(2.5YR6/8)		粗	
635	724堤	B4-c3	土師器 布留系甕	口径 11.2 器高 12.0	外 内	橙(5YR7/6) にぶい橙(5YR7/4)		良	
636	724堤	B4-c2	土師器 布留系甕	口径 (11.8) 器高 13.0	外 内	赤橙(10R6/6) 浅黄橙(7.5YR8/3)		良	
637	724堤	B4-c3	土師器 ハケ甕	口径 12.8 器高 11.5	外 内	橙(5YR6/8) 赤褐(2.5YR4/6)		粗	
638	724堤	B4-c3	土師器 ハケ甕	口径 14.0 器高 22.2	外 内	灰黄(2.5Y7/2) にぶい黄橙(10YR7/2)		粗	
639	724堤	B4-c3	土師器 ハケ甕	口径 13.1 器高 20.4	外 内	にぶい橙(7.5YR7/4) にぶい橙(7.5YR7/4)		粗	
640	724堤	B4-c3	土師器 台付甕	口径 13.0 器高 (6.0)	外 内	淡黄(2.5Y8/3) 灰黄(2.5Y7/2)		粗	東海系

土器観察表（17）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
641	724堤	B4-c3	土師器 台付甕	口径 11.4 器高 (7.0)	外 灰白(10YR8/2) 内 灰白(10YR8/2)	良	東海系
642	724堤	B4-c3	土師器 庄内系高杯	口径 21.0 器高 (6.4)	外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)	精良	
643	724堤	B4-c3	土師器 庄内系高杯	口径 22.9 器高 (6.7)	外 橙(5YR7/6) 内 浅黄橙(7.5YR8/4)	良	
644	724堤	B4-c3	土師器 庄内系高杯	口径 21.0 器高 13.3	外 橙(5YR7/6) 内 浅黄橙(7.5YR8/3)	精良	3方透孔
645	724堤	B4-c2	土師器 庄内系高杯	口径 (21.0) 器高 (4.5)	外 橙(2.5YR6/8) 内 橙(2.5YR7/6)	良	
646	724堤	B4-c3	土師器 有稜高杯	口径 16.4 器高 (5.1)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 灰白(10YR8/2)	良	
647	724堤	B4-c2	土師器 有稜高杯	口径 (15.6) 器高 (8.4)	外 橙(5YR7/6) 内 橙(5YR6/8)	精良	
648	724堤	B4-c2	土師器 椀形高杯	口径 － 器高 (7.3)	外 橙(5YR6/6) 内 橙(7.5YR7/6)	精良	4方透孔
649	724堤	B4-c3	土師器 高杯	口径 － 器高 (6.1)	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	良	3方透孔
650	724堤	B4-c3	土師器 高杯	口径 － 器高 (2.4)	外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)	精良	3方透孔
651	724堤	B4-c2	土師器 高杯	口径 － 器高 (9.7)	外 橙(5YR7/6) 内 にぶい橙(5YR7/4)	精良	4方透孔
652	724堤	B4-c2	土師器 小形鉢	口径 10.8 器高 6.9	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
653	724堤	B4-c2	土師器 鉢	口径 15.2 器高 6.8	外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)	粗	
654	724堤	B4-c3	土師器 鉢	口径 18.2 器高 6.5	外 浅黄橙(10YR8/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	粗	
655	724堤	B4-c3	土師器 鉢	口径 17.6 器高 6.8	外 灰白(10YR8/1) 内 灰白(7.5YR8/2)	良	
656	724堤	B4-c3	土師器 鉢	口径 4.3 器高 7.8	外 橙(2.5YR7/8) 内 橙(2.5YR7/8)	良	
657	724堤	B4-c3	土師器 鉢	口径 17.2 器高 6.8	外 橙(5YR7/6) 内 浅黄橙(7.5YR8/6)	粗	
658	724堤	B4-c3	土師器 鉢	口径 18.4 器高 (7.0)	外 にぶい橙(5YR7/4) 内 橙(5YR6/6)	良	
659	724堤	B4-c2	土師器 鉢	口径 (14.6) 器高 8.5	外 橙(5YR7/8) 内 橙(5YR6/8)	粗	
660	724堤	B4-c3	土師器 台付鉢	口径 16.6 器高 8.6	外 橙(5YR7/8) 内 橙(5YR6/8)	良	
661	724堤	B4-c3	土師器 台付鉢	口径 17.1 器高 9.6	外 橙(5YR7/6) 内 橙(5YR7/6)	良	
662	724堤	B4-c3	土師器 台付鉢	口径 18.8 器高 10.1	外 橙(5YR7/6) 内 橙(5YR6/6)	粗	
663	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 8.5 器高 7.7	外 明赤褐(5YR5/6) 内 橙(5YR6/6)	良	
664	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 12.2 器高 9.7	外 浅黄橙(7.5YR8/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	精良	
665	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 11.3 器高 9.8	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)	精良	
666	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 12.7 器高 9.7	外 橙(5YR6/6) 内 明赤褐(5YR5/6)	精良	
667	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 10.2 器高 8.9	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	精良	
668	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 12.3 器高 9.1	外 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(10YR8/2)	良	
669	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 11.9 器高 9.5	外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 にぶい橙(7.5YR6/4)	精良	
670	724堤	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 (10.4) 器高 (9.0)	外 橙(5YR6/6) 内 にぶい橙(5YR6/4)	良	
671	724堤	B4-c2	土師器 小形丸底土器	口径 (11.6) 器高 8.7	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	
672	724堤	B4-c3	土師器 有段口縁鉢	口径 16.0 器高 7.1	外 橙(7.5YR7/6) 内 浅黄橙(7.5YR8/4)	粗	
673	724堤	B4-c3	土師器 有段口縁鉢	口径 (14.8) 器高 (5.3)	外 橙(5YR7/6) 内 橙(5YR7/6)	精良	
674	724堤	B4-c3	土師器 有段口縁鉢	口径 13.1 器高 5.6	外 橙(5YR6/6) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
675	724堤	B4-c3	土師器 有段口縁鉢	口径 16.4 器高 7.3	外 浅黄橙(7.5YR8/6) 内 浅黄橙(7.5YR8/6)	良	
676	724堤	B4-c3	土師器 有段口縁鉢	口径 (15.4) 器高 5.8	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	口縁打欠き
677	724堤	B4-c3	土師器 有段口縁鉢	口径 17.0 器高 (7.1)	外 浅黄橙(7.5YR8/6) 内 浅黄橙(7.5YR8/4)	良	
678	724堤	B4-c3	土師器 有段口縁鉢	口径 15.5 器高 7.7	外 浅黄橙(7.5YR8/4) 内 橙(7.5YR7/6)	良	
679	724堤	B4-c2	土師器 有段口縁鉢	口径 (19.2) 器高 (5.1)	外 橙(5YR7/6) 内 橙(5YR7/6)	精良	
680	724堤	B4-c3	土師器 小形器台	口径 9.4 器高 7.6	外 灰白(7.5YR8/2) 内 橙(5YR7/6)	良	3方透孔

土器観察表（18）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量		色調		胎土	備考
681	724堤	B4-c3	土師器 小形器台	口径 (9.2) 器高 8.2		外 橙(5YR7/6) 内 橙(2.5YR6/8)		良	透孔数不明
682	724堤	B4-c3	土師器 小形器台	口径 － 器高 (4.1)		外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)		良	4方透孔
683	724堤	B4-c3	土師器 大形鉢	口径 33.0 器高 (12.9)		外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)		良	片口
684	739河川	B4-c5	土師器 弥生形甕	口径 (13.2) 器高 (5.2)		外 にぶい橙(7.5YR6/4) 内 灰黄褐(10YR6/2)		粗	
685	739河川	B4-c5	土師器 庄内式甕	口径 (16.8) 器高 (4.4)		外 灰黄褐(10YR4/2) 内 にぶい黄橙(10YR5/3)		粗	
686	739河川	B4-c4	土師器 布留式甕	口径 (14.8) 器高 (4.7)		外 浅黄橙(10YR8/3) 内 浅黄橙(10YR8/3)		良	
687	739河川	B4-c3	土師器 布留式甕	口径 (14.0) 器高 (7.5)		外 橙(5YR6/6) 内 橙(5YR7/6)		良	
688	739河川	B4-c4	土師器 布留式甕	口径 14.2 器高 19.3		外 灰白(2.5YR8/1) 内 灰白(2.5YR8/2)		良	
689	739河川	B4-c3	土師器 小形丸底土器	口径 (10.5) 器高 (7.3)		外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)		精良	
690	739河川	B4-c2	土師器 小形鉢	口径 12.0 器高 7.3		外 明赤褐(5YR5/6) 内 褐灰(10YR4/1)		粗	
691	739河川	B4-c2	土師器 小形器台	口径 10.6 器高 8.5		外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)		精良	3方透孔
692	739河川	B4-c3	土師器 有段口縁甕	口径 (25.6) 器高 (8.3)		外 暗灰黄(2.5Y5/2) 内 灰(5Y5/1)		粗	生駒西麓産
693	748 竪穴住居	B4-d4	土師器 壺	口径 － 器高 (3.7)		外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰白(2.5Y8/2)		粗	
694	748 竪穴住居	B4-d4	土師器 壺	口径 － 器高 (2.8)		外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 黄灰(2.5Y6/1)		粗	
695	748 竪穴住居	B4-d4	土師器 壺	口径 － 器高 (4.5)		外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)		粗	
696	748 竪穴住居	B4-d4	土師器 弥生形甕	口径 (13.5) 器高 (5.3)		外 明赤褐(2.5YR5/6) 内 灰黄(2.5Y7/2)		粗	
697	748 竪穴住居	B4-d4	土師器 小形鉢	口径 － 器高 (3.1)		外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)		粗	
698	748 竪穴住居	B4-d4	土師器 小形鉢	口径 － 器高 (4.4)		外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 灰白(10YR8/2)		粗	
699	748 竪穴住居	B4-d4	土師器 小形鉢	口径 － 器高 (4.4)		外 灰黄褐(10YR6/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)		粗	
700	749 竪穴住居	B4-d4	土師器 壺	口径 － 器高 (24.4)		外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)		粗	
701	749 竪穴住居	B4-d4	土師器 庄内式甕	口径 (17.3) 器高 (5.0)		外 灰黄褐(10YR4/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)		良	生駒西麓産
702	749 竪穴住居	B4-d4	土師器 有段高杯	口径 24.0 器高 (15.4)		外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)		精良	
703	749 竪穴住居	B4-d4	土師器 高杯	口径 － 器高 (8.8)		外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)		良	3方透孔
704	749 竪穴住居	B4-d4	土師器 中形鉢	口径 (23.0) 器高 (5.5)		外 黄灰(2.5Y4/1) 内 暗灰(N3/0)		粗	
705	749 竪穴住居	B4-d4	土師器 蛸壺	口径 － 器高 (3.9)		外 灰白(2.5Y8/1) 内 灰黄(2.5Y7/2)		良	
706	750 竪穴住居	B4-d4	土師器 広口壺	口径 (15.7) 器高 (2.7)		外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)		良	
707	750 竪穴住居	B4-d4	土師器 広口壺	口径 (13.2) 器高 (12.4)		外 明赤褐(5YR5/6) 内 褐灰(10YR6/1)		粗	
708	750 竪穴住居	B4-d4	土師器 弥生形甕	口径 (13.4) 器高 14.1		外 橙(2.5YR6/6) 内 橙(5YR6/6)		良	
709	750 竪穴住居	B4-d4	土師器 弥生形甕	口径 14.3 器高 20.5		外 明赤褐(2.5YR5/6) 内 明赤褐(2.5YR5/6)		粗	
710	761土坑	B4-d4	土師器 弥生形甕	口径 13.2 器高 (12.8)		外 橙(2.5YR6/6) 内 橙(2.5YR6/6)		粗	
711	761土坑	B4-d4	土師器 弥生形甕	口径 14.3 器高 (15.0)		外 灰白(2.5Y8/1) 内 黒(2.5Y2/1)		良	
712	761土坑	B4-d4	土師器 椀形高杯	口径 10.7 器高 (6.9)		外 灰黄(2.5Y6/2) 内 黄灰(2.5Y6/1)		精良	4方透孔
713	751 竪穴住居	B4-d4	土師器 庄内式甕	口径 (16.5) 器高 (2.1)		外 暗灰黄(2.5Y4/2) 内 暗灰黄(2.5Y5/2)		良	生駒西麓産
714	751 竪穴住居	B4-d4	土師器 有段高杯	口径 － 器高 (3.6)		外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 浅黄橙(10YR8/4)		粗	
715	751 竪穴住居	B4-d4	土師器 有段高杯	口径 (20.3) 器高 (5.0)		外 にぶい褐(7.5YR5/4) 内 にぶい赤褐(5YR5/4)		良	
716	762土坑	B4-e3	土師器 椀形高杯	口径 － 器高 (4.8)		外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい橙(7.5YR7/4)		精良	4方透孔
717	766土坑	B4-d3	土師器 小形鉢	口径 8.4 器高 7.0		外 灰白(10YR8/2) 内 灰黄褐(10YR6/2)		粗	
718	755土坑	B4-d5	土師器 直口壺	口径 (8.2) 器高 (4.6)		外 褐灰(10YR5/1) 内 黄灰(2.5Y4/1)		粗	
719	755土坑	B4-d5	土師器 広口直口壺	口径 (11.5) 器高 (4.9)		外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)		粗	
720	755土坑	B4-d5	土師器 壺	口径 － 器高 (3.3)		外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)		良	

土器観察表（19）

番号	遺構・層位	地区	種類・器種	法量	色調	胎土	備考
721	755土坑	B4-d5	土師器 弥生形壺	口径 (15.1) 器高 (7.8)	外 にぶい橙(7.5YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	
722	755土坑	B4-d5	土師器 有稜高杯	口径 19.2 器高 (7.6)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	粗	
723	755土坑	B4-d5	土師器 椀形高杯	口径 (11.8) 器高 (4.4)	外 にぶい褐(7.5YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
724	755土坑	B4-d5	土師器 小形器台	口径 － 器高 (7.9)	外 にぶい黄橙(10YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	粗	3方透孔
725	755土坑	B4-d5	土師器 台付鉢	口径 (15.0) 器高 11.5	外 にぶい黄褐(10YR5/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
726	755土坑	B4-d5	土師器 台付鉢	口径 － 器高 (5.9)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	粗	3方透孔
727	755土坑	B4-d5	土師器 鉢	口径 － 器高 (3.2)	外 褐灰(10YR5/1) 内 にぶい赤褐(5YR5/4)	粗	
728	740土坑	B3-d9	土師器 小形丸底土器	口径 (11.8) 器高 (7.2)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	精良	
729	745土坑	B4-e3	土師器 中形鉢	口径 20.0 器高 12.0	外 にぶい黄橙(10YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	粗	
730	747土坑	B4-d3	土師器 有孔鉢	口径 － 器高 (6.0)	外 黄灰(2.5Y6/1) 内 赤黒(2.5YR2/1)	良	
731	747土坑	B4-d3	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 (17.6) 器高 (6.8)	外 灰白(10YR8/2) 内 浅黄橙(10YR8/3)	粗	
732	河川	B4-d2	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 (14.3) 器高 (3.6)	外 にぶい黄橙(10YR7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	良	
733	河川	B4-d3	土師器 広口壺	口径 (15.4) 器高 (5.4)	外 にぶい黄橙(10YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	良	口縁部に加飾容（ハケ状工具）
734	河川	B4-	土師器 直口壺	口径 (15.2) 器高 (6.9)	外 にぶい橙(7.5YR7/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/2)	良	
735	河川	B4-	土師器 広口壺	口径 13.9 器高 (11.9)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰オリーブ(5Y6/2)	粗	
736	河川	B4-	土師器 加飾性複合口縁壺	口径 (20.6) 器高 (6.9)	外 にぶい黄橙(10YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	粗	
737	河川	B4-d5	土師器 弥生形壺	口径 14.5 器高 12.6	外 にぶい橙(5YR7/4) 内 橙(7.5YR7/6)	良	
738	河川	B4-	土師器 異形壺	口径 13.2 器高 14.3	外 灰黄褐(10YR6/2) 内 灰白(2.5Y7/1)	良	
739	河川	B4-	土師器 弥生形壺	口径 14.7 器高 (19.2)	外 浅黄橙(10YR8/4) 内 浅黄橙(7.5YR8/6)	良	
740	河川	B4-d5	土師器 弥生形壺	口径 (14.6) 器高 (7.8)	外 褐灰(7.5YR5/1) 内 にぶい黄橙(10YR6/3)	良	
741	河川	B4-	弥生土器 甕	口径 (16.2) 器高 28.0	外 明赤褐(7.5YR5/6) 内 明赤褐(7.5YR5/6)	粗	
742	河川	B4-	土師器 有稜高杯	口径 (21.5) 器高 (13.2)	外 浅黄橙(7.5YR8/3) 内 浅黄橙(7.5YR8/4)	良	透孔推定4方向
743	河川	B4-	土師器 椀形高杯	口径 (13.4) 器高 8.5	外 にぶい橙(7.5YR7/4) 内 にぶい黄橙(10YR7/4)	良	6方透孔
744	河川	B4-	土師器 中形鉢	口径 (24.5) 器高 (15.0)	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 褐灰(10YR5/1)	良	
745	783溝	B4-d4	弥生土器 高杯	口径 － 器高 (12.6)	外 灰黄(2.5Y6/2) 内 にぶい黄橙(10YR6/4)	良	5方透孔

木製品観察表

※単位cm

番号	遺構・層位	地区	種類	長軸	短軸	最大厚	樹種	備考
W 1	101堤	B1-i5	杭	39.9	5.1	4.4		
W 2	101堤	B1-h5	杭	27.0	4.4	4.3		
W 3	101堤	B1-h5	敷葉工法材	74.8	4.5	1.6		
W 4	101堤	B1-i5	敷葉工法材	32.4	5.2	2.1		
W 5	1区田面	B1-	竪杵	30.5	9.1	8.5		
W 6	405大溝	B2-d6	刳物槌	20.3	19.3	2.5		
W 7	405大溝	B2-d6	容器？	10.8	9.6	1.1		
W 8	405大溝	B2-d6	農具？	25.5	6.2	0.7		
W 9	405大溝	B2-d6	用途不明	23.7	3.3	1.1		
W10	405大溝	B2-e7	農具	11.8	7.2	2.1		
W11	405大溝	B2-e6	建築部材	59.6	13.7	2.3		
W12	405大溝	B2-d6	建築部材	57.3	6.6	1.9		
W13	405大溝	B2-f7	建築部材	53.8	3.6	3.1		
W14	405大溝	B2-d6	木錘	24.4	8.8	9.0		
W15	405大溝	B2-d6	木錘	18.5	10.1	9.7		
W16	405大溝	B2-f7	建築部材	47.4	17.4	2.7		
W17	405大溝	B2-d6	建築部材	60.1	17.9	2.3		
W18	582竪穴住居	B2-d10	礎板	46.8	21.8	10.6	ヒノキ	569ピット
W19	582竪穴住居	B2-c10	礎板	47.5	20.5	7.5	コナラ亜属	568ピット
W20	582竪穴住居	B3-d1	礎板	47.7	17.6	8.2	コナラ亜属	567ピット
W21	582竪穴住居	B2-d10	礎板	27.0	16.3	7.4	コナラ亜属	566ピット
W22	315井戸	B2-g2	舟形木製品	16.9	5.2	2.1	ヒノキ	
W23	315井戸	B2-g2	刳物槌	高63.6	径46.5	2.8～7.2	サクラ属	井筒に転用
W24	531井戸	B3-d2	平鍬	46.5	13.8	1.3		
W25	531井戸	B3-d2	平鍬	51.8	13.3	1.7	カシ	
W26	531井戸	B3-d2	木錘	17.2	7.8	7.6		
W27	531井戸	B3-d2	木錘	14.6	7.7	7.1		
W28	601井戸	B5-e2	井戸枠	87.6	15.3	2.9	スギ	墨書
W29	601井戸	B5-e2	井戸枠	80.6	15.8	3.2	スギ	墨書
W30	601井戸	B5-e2	井戸枠	90.2	16.5	3.0	スギ	墨書
W31	601井戸	B5-e2	櫃側板	53.2	43.2	1.3	ヒノキ科サワラ	井戸枠に転用
W32	601井戸	B5-e2	櫃側板	54.7	43.1	1.3	ヒノキ科サワラ	井戸枠に転用
W33	601井戸	B5-e2	櫃側板	38.1	42.6	1.4	ヒノキ科サワラ	井戸枠に転用
W34	601井戸	B5-e2	櫃側板	41.8	38.3	1.4	ヒノキ科サワラ	井戸枠に転用
W35	601井戸	B5-e2	蓋？	10.8	4.4	0.6	スギ	
W36	601井戸	B5-e2	斎串	15.7	2.5	0.2	スギ	
W37	601井戸	B5-e2	斎串	21.2	2.2	0.1	スギ	

石器・石製品観察表

※単位cm

番号	遺構・層位	地区	種類	長軸	短軸	最大厚	材質	備考
S 1	304大溝	B2-e4	砥石	8.6	6.7	6.4		
S 2	304大溝	B2-f4	叩石？	13.9	10.4	8.7		
S 3	405大溝	B2-d6	線刻石製品	8.6	7.3	7.6	火山岩	
S 4	582竪穴住居	B2-d10	石臼	32.4	18.3	12.3	砂岩	
S 5	531井戸	B3-d2	石臼	40.6	31.2	13.6	砂岩	赤色顔料付着
S 6	721竪穴住居	B4-d5	臼玉	径0.9	高0.5	穿孔径0.2	滑石	
S 7	721竪穴住居	B4-d5	臼玉	径0.8	高0.4	穿孔径0.2	滑石	
S 8	721竪穴住居	B4-d5	臼玉	径0.8	高0.4	穿孔径0.2	滑石	
S 9	721竪穴住居	B4-d5	臼玉	径0.9	高0.5	穿孔径0.2	滑石	
S10	721竪穴住居	B4-d5	臼玉	径0.8	高0.3	穿孔径0.2	滑石	
S11	721竪穴住居	B4-d5	臼玉	径0.8	高0.4	穿孔径0.2	滑石	
S12	751竪穴住居	B4-d3	砥石	9.0	4.3	2.8		
S13	7 － 2 層	B4-c5	石製毬摘具	12.9	5.3	0.7	緑色片岩	
S14	7 － 2 層	B4-c5	石製毬摘具	16.9	5.7	0.7	緑色片岩	
S15	7 － 2 層	B4-c5	石製毬摘具	16.7	8.8	0.7	緑色片岩	未製品
S16	7 － 2 層	B4-c5	石製毬摘具	19.0	9.7	0.8	緑色片岩	

金属製品観察表

※単位cm

番号	遺構・層位	地区	種類	長軸	短軸	最大厚	材質	備考
394	第 1 層除去面	B5-e3	鉄鏃	2.6	1.1	0.4	鉄	
M 1	751竪穴住居	B4-d3	銅鏃	4.0	1.4	0.4	銅	